

1995年度

英語学科シラバス

獨協大学

英語学科講義概要（シラバス）について

英語学科長

佐藤 勉

獨協大学の全学部学科にわたって新カリキュラムが施行され、授業内容も大きく様変わりしてきたが、英語学科においては特にその感が強い。そもそも学問は時代と共に変わらなければならない部分と古代ギリシャから滔々と変わらずにその基礎を保ち続けている部分とがある。このような学問の世界は今尚時代と共に幾多の矛盾をはらみつつ、弁証法的止揚によって発展していることは言うまでもないことであろう。現代の国際社会の民族的複雑さを知るとき、果たして大学の学問がその時代のニーズに対応しきれぬものだろうかとふと心配になることがある。しかしわれわれ大学で教鞭を取っている者は高感度のアンテナを張り巡らせながら国際社会のニーズを見極めていかなければならない。したがって新カリキュラムもこれからさらに幾多の新陳代謝を繰り返すことになるだろうが、今われわれの出来ることに積極的に取り組む姿勢がさらに新たな世紀に向かって始動する上で最も必要なことではないかと思う。

このシラバスは新しい授業科目といままでの授業科目との合併重複があるが、おおむね新しいカリキュラムに則った新しい授業科目を主体としている。「基礎科目」、「共通科目」、「専門科目」という3科目群と「文学文化」、「言語情報」、「国際コミュニケーション」という3専門分野を横軸にすえ、その専門分野をコース制にして縦軸とし、相互に系統的に関連を持たせて組み合わせることによって、より幅広い履修ができると共に、専門性をも一層高めつつ、文字通り縦横に選択をしながら、目標とする学問を極める道を発見することができるように工夫されている。したがって学生は自ら希望する専門を中心に自主的にカリキュラムを編成していくことになる。この自主的なカリキュラムの編成に当たってこのシラバスが大切な役割を果たしてくれることは言うまでもないことであろう。

さてこのシラバスの作成にはその他に三つの目的がある。その一つは教員が自らの授業に関して週単位の授業内容を公表することによって授業の進み具合をチェックし、その質的向上を計り、自己評価に資することができること、二つ目は学生がこのシラバスによって自分の興味を確認し、講義の内容を事前に適確に把握し、予習をして授業に主体的に参加することができること、そして三つ目は獨協大学がどんな授業をしているのか、どんな責任ある教育を行っているのかということを知ってもらい、それによって一層獨協大学を理解してもらえる機会にして戴けるのではないかという期待である。学生諸君がわれわれ教員の授業に対してもっと深い理解と関心を持ってあくまでも主体的に参加し、貪欲に学んでくれるように、この有意義な冊子を効果的に利用してくれることを強く期待したいと思う。

目次の見方

- ① この冊子では、目次が1994年度以降入学者用（新カリキュラム）と、1993年度入学者用（旧カリキュラム）および、1992年度以前入学者用（旧旧カリキュラム）とに分かれています。
- ② 目次では、部門ごとに科目名、指導教員名、掲載ページが記載されています。
- ③ 本文の科目名の記載のしかた

1994年度以降入学者対象の科目	目次に記された科目名
1993年度入学者対象の科目	目次に記された科目名の末尾に（旧）の表示がついた科目名で掲載
1992年度以前入学者対象の科目	目次に記された科目名の末尾に（旧旧）の表示がついた科目名で掲載

合併でおこなわれる授業では、対象カリキュラムの科目名が併記されています。

目 次

1994 年度以降入学者対象 (新カリキュラム)

学科基礎科目

「英語」部門

英語 I (Reading) -----	各担当教員 -----	1
英語 III		
(Basic Conversation) -----	各担当教員 -----	2
(Intermediate Conversation) -----	各担当教員 -----	3
(Advanced Conversation) -----	各担当教員 -----	4
英語 IV		
(文法・作文) 1 -----	川崎 潔 -----	5
(文法・作文) 2 -----	近藤 ヒカル -----	6
(文法・作文) 3 -----	須賀川 誠 三 -----	7
(文法・作文) 4 -----	園部 明彦 -----	8
(文法・作文) 5 -----	中村 繁 -----	9
(文法・作文) 6 -----	野本 浩智 -----	10
(文法・作文) 7 -----	三好 健 -----	11
(文法・作文) 8, 9 -----	渡邊 美代子 -----	12
(文法・作文) 10 -----	C. B. 池口 -----	13
(パラグラフ・ライティング) 11 -----	阿部 一 -----	14
(パラグラフ・ライティング) 12 -----	井川 美代子 -----	15
(パラグラフ・ライティング) 13 -----	小川 直樹 -----	16
(パラグラフ・ライティング) 14 -----	篠田 愛理 -----	17
(パラグラフ・ライティング) 15 -----	福田 有美 -----	18
(パラグラフ・ライティング) 16 -----	吉成 雄一郎 -----	19
(パラグラフ・ライティング) 17 -----	T. Hill -----	20
(パラグラフ・ライティング) 18 -----	C. J. Poel -----	21
英語学概論		
1 -----	神尾 昭雄 -----	23
2 -----	児玉 仁士 -----	25

3	-----	清 水 由理子	-----	2 7
4	-----	長谷川 欣 佑	-----	2 9

英米文学概論

1	-----	(前期) 島 田 啓 一	-----	3 1
		(後期) 北 澤 滋 久		
2	-----	(前期) 林 節 雄	-----	3 3
		(後期) 原 成 吉		
3	-----	(前期) 原 成 吉	-----	3 5
		(後期) 林 節 雄		
4	-----	(前期) 富士川 和 男	-----	3 7
		(後期) 島 田 啓 一		

国際コミュニケーション概論

1	-----	(前期) 阿 部 純 一	-----	3 9
		(後期) 石 井 敏		
2	-----	(前期) 町 田 喜 義	-----	4 1
		(後期) 阿 部 純 一		

英語音声学

1, 2, 4	→-----	(半期完結) 大 西 雅 行	-----	4 3
3, 5	-----	(半期完結) 清 水 由理子	-----	4 5

スピーチ・クリニック

1, 2, 4, 5	-----	(半期完結) 津 田 望	-----	4 7
3	-----	(半期完結) 大 西 雅 行	-----	4 9

学科共通科目

「英語」部門

専門講読

(英語学)	1	-----	阿 部 一	-----	5 1
(英語学)	2	-----	大 竹 孝 司	-----	5 2
(英語学)	3	-----	大 西 雅 行	-----	5 3
(英語学)	4	-----	川 崎 潔	-----	5 4
(英語学)	5	-----	児 玉 仁 士	-----	5 5
(英語学)	6	-----	清 水 由理子	-----	5 6
(英語学)	7	-----	須賀川 誠 三	-----	5 7

(英語学)	8	-----	長谷川 欣 佑	-----	5 8
(英語学)	9	-----	福 田 有 美	-----	5 9
(英語学)	10	-----	鷺 尾 龍 一	-----	6 0
(英語学)	11	-----	T. Hill	-----	6 1
(イギリス文学)	12	-----	北 澤 滋 久	-----	6 2
(イギリス文学)	13	-----	児 嶋 一 男	-----	6 3
(イギリス文学)	14	-----	近 藤 ヒカル	-----	6 4
(イギリス文学)	15	-----	白 鳥 正 孝	-----	6 5
(イギリス文学)	16	-----	珍 田 弥一郎	-----	6 6
(イギリス文学)	17	-----	長谷部 加寿子	-----	6 7
(イギリス文学)	18	-----	林 俊 一	-----	6 8
(イギリス文学)	19	-----	林 節 雄	-----	6 9
(イギリス文学)	20	-----	藤 田 永 祐	-----	7 0
(イギリス文学)	21	-----	三 好 健	-----	7 1
(イギリス文学)	22	-----	山 田 修	-----	7 2
(イギリス文学)	23	-----	山 田 修	-----	7 3
(イギリス文学)	24	-----	山 田 玲 子	-----	7 4
(イギリス文学)	25	-----	山 田 玲 子	-----	7 5
(英・米文学)	26	-----	園 部 明 彦	-----	7 6
(英・米文学)	27	-----	(前期) 富士川 和 男	-----	7 7
		-----	(後期) 秋 山 武 夫	-----	
(英・米文学)	28	-----	E. Carney	-----	7 8
(アメリカ文学)	29	-----	岡 田 誠 一	-----	7 9
(アメリカ文学)	30	-----	香 取 豊	-----	8 0
(アメリカ文学)	31	-----	佐 藤 勉	-----	8 1
(アメリカ文学)	32	-----	島 田 啓 一	-----	8 2
(アメリカ文学)	33	-----	原 成 吉	-----	8 3
(アメリカ文学)	34	-----	升 水 一 三	-----	8 4
(アメリカ文学)	35	-----	吉 元 清 彦	-----	8 5
(アメリカ文学)	36	-----	吉 元 清 彦	-----	8 6
(英米文化)	37	-----	阿 部 純 一	-----	8 7
(英米文化)	38	-----	佐々木 輝 美	-----	8 8
(英米文化)	39	-----	佐 藤 唯 行	-----	8 9
(英米文化)	40	-----	四 宮 満	-----	9 0
(英米文化)	41	-----	杉 山 晴 信	-----	9 1
(英米文化)	42	-----	中 村 粲	-----	9 2
(英米文化)	43	-----	鍋 倉 健 悦	-----	9 3
(英米文化)	44	-----	長谷川 倫 子	-----	9 4
(英米文化)	45	-----	福 井 嘉 彦	-----	9 5

(英米文化)	46	-----	宮川 淑	-----	96
(英米文化)	47	-----	森永 京一	-----	97
(英米文化)	48	-----	吉原 欽一	-----	98
(英米文化)	49	-----	J. J. Duggan	-----	99
(英米文化)	50	-----	M. A. Schible	-----	100
(英作文)	1	-----	青柳 明	-----	101
(英作文)	2	-----	青柳 明	-----	103
(英作文)	3	-----	市河 千代子	-----	105
(英作文)	4	-----	四宮 満	-----	107
(英作文)	5, 6	-----	中村 粲	-----	109
(英作文)	7	-----	野本 浩智	-----	111
(英作文)	8	-----	野本 浩智	-----	113
(英作文)	9	-----	野本 浩智	-----	115
(英作文)	10	-----	藤田 永祐	-----	117

エッセイ・ライティング

1	-----	阿部 一	-----	119
2	-----	井川 美代子	-----	121
3, 4	-----	E. Carney	-----	123
5	-----	G. S. Gorman	-----	125
6	-----	C. J. Poel	-----	127

翻訳 I

1	-----	園部 明彦	-----	129
2	-----	林 節雄	-----	131

Conversation I

1	-----	K. R. Bayne	-----	133
2	-----	P. Beland	-----	135
3	-----	W. J. Benfield	-----	137
4	-----	D. Bradley	-----	139
5	-----	R. J. Burrows	-----	141
6	-----	E. Carney	-----	143
7	-----	J. J. Duggan	-----	145
8	-----	A. R. Falvo	-----	147
9	-----	R. M. Homan	-----	*
10	-----	G. S. Gorman	-----	149
11	-----	K. Harris	-----	151

*最初の授業で指示する

12	-----	T. Hill	-----	153
13	-----	C. B. 池口	-----	155
14	-----	N. H. Jost	-----	157
15	-----	D. R. Kogge	-----	159
16	-----	D. M. Meyers	-----	161
17	-----	R. M. Payne	-----	163
18	-----	C. J. Poel	-----	165
19	-----	M. A. Schible	-----	167
20	-----	J. J. Waldman	-----	169

Conversation II

1	-----	W. J. Benfield	-----	171
2	-----	D. Bradley	-----	173
3	-----	J. J. Duggan	-----	175
4	-----	A. R. Falvo	-----	177
5	-----	R. M. Homan	-----	*
6	-----	T. Hill	-----	179
7	-----	C. B. 池口	-----	181
8	-----	N. H. Jost	-----	183
9	-----	D. R. Kogge	-----	185
10	-----	J. M. Thurlow	-----	187

*最初の授業で指示する

Discussion

1	-----	W. J. Benfield	-----	189
2	-----	T. Hill	-----	191
3	-----	N. H. Jost	-----	193

スピーチ

1	-----	大川道代	-----	195
2	-----	J. J. Duggan	-----	197

ディベート

1	-----	阿部	-----	199
2	-----	T. Hill	-----	201

通訳 I	-----	鍋倉健悦	-----	203
------	-------	------	-------	-----

英文法

1	-----	児玉仁士	-----	-205
2, 3	-----	近藤ヒカル	-----	-207
4	-----	四宮満	-----	-209
5	-----	須賀川誠三	-----	-211
6	-----	三好健	-----	-213
7	-----	三好健	-----	-215

ビジネス英語 I

1	-----	海老沢達郎	-----	-217
2	-----	海老沢達郎	-----	-219
3	-----	杉山晴信	-----	-221
4	-----	杉山晴信	-----	-223
5	-----	山本孝夫	-----	-225
6, 7	-----	横井正利	-----	-227

時事英語 I

1, 2	-----	新井妥門	-----	-229
3	-----	金子節也	-----	-231
4	-----	工藤政司	-----	-233
5	-----	篠田愛理	-----	-235
6	-----	長谷川倫子	-----	-237
7	-----	森永京一	-----	-239
8	-----	W. J. Benfield	-----	-241

学科専門科目

「言語情報」部門

言語情報処理 I a, b	-----	高柳敏子	-----	-243
言語情報処理 II a, b	-----	前田功雄	-----	-245
統語論 a, b	-----	鷲尾龍一	-----	-247
意味論 a, b	-----	神尾昭雄	-----	-249
音声・音韻論 a, b	-----	大竹孝司	-----	-251
英語史 a, b	-----	須賀川誠三	-----	-253

「文学文化」部門

英米文学史 a-1, b-1	-----	佐藤勉	-----	-255
----------------	-------	-----	-------	------

英米文学史 a-2	鈴木重吉	257
b-2	秋山武夫	257
英米の小説 a, b	北澤滋久	259
英米の詩 a	原成吉	261
b	白鳥正孝	261
英米の演劇 a, b	長谷部加寿子	263
英米の社会と思想 a, b	荻間寅男	265
英米の政治と経済 a, b	宮川淑	267
英米の歴史 a, b	佐藤唯行	269
英米事情 a	E. Carney	271
b	J.J. Duggan	271

「国際コミュニケーション」部門

国際政治論 a-1, b-2	有賀貞	273
国際政治論 b-1, a-2	竹田いさみ	275
国際関係史 a, b	有賀貞	277
国際開発協力論 a, b	竹田いさみ	279
異文化間コミュニケーション論 a-1, b-1	石井敏	281
異文化間コミュニケーション論 a-2, b-2	町田喜義	283
マス・コミュニケーション論 a, b	佐々木輝美	285
スピーチ・コミュニケーション論 a, b	石井敏	287

目 次

1993 年度入学者対象 (旧カリキュラム)

「英語」部門

専門講読

(英語学)	1	阿 部 一	5 1
	2	大 竹 孝 司	5 2
	3	大 西 雅 行	5 3
	4	川 崎 潔	5 4
	5	児 玉 仁 士	5 5
	6	清 水 由理子	5 6
	7	須賀川 誠 三	5 7
	8	長谷川 欣 佑	5 8
	9	福 田 有 美	5 9
	10	鷺 尾 龍 一	6 0
	11	T. Hill	6 1
(イギリス文学)	12	北 澤 滋 久	6 2
	13	児 嶋 一 男	6 3
	14	近 藤 ヒカル	6 4
	15	白 鳥 正 孝	6 5
	16	珍 田 弥一郎	6 6
	17	長谷部 加寿子	6 7
	18	林 俊 一	6 8
	19	林 節 雄	6 9
	20	藤 田 永 祐	7 0
	21	三 好 健	7 1
	22	山 田 修	7 2
	23	山 田 修	7 3
	24	山 田 玲 子	7 4
	25	山 田 玲 子	7 5
(英・米文学)	26	園 部 明 彦	7 6
	27	(前期) 富士川 和 男	7 7
		(後期) 秋 山 武 夫	
	28	E. Carney	7 8

(アメリカ文学) 29	岡田誠一	79
30	香取豊	80
31	佐藤勉	81
32	島田啓一	82
33	原成吉	83
34	升水一三	84
35	吉元清彦	85
36	吉元清彦	86
(英米文化) 37	阿部純一	87
38	佐々木輝美	88
39	佐藤唯行	89
40	四宮満	90
41	杉山晴信	91
42	中村粲	92
43	鍋倉健悦	93
44	長谷川倫子	94
45	福井嘉彦	95
46	宮川淑	96
47	森永京一	97
48	吉原欽一	98
49	J. J. Duggan	99
50	M. A. Schible	100

英作文

1	青柳明	101
2	青柳明	103
3	市河千代子	105
4	四宮満	107
5, 6	中村粲	109
7	野本浩智	111
8	野本浩智	113
9	野本浩智	115
10	藤田永祐	117

エッセイ・ライティング

1	阿部一	119
2	井川美代子	121
3, 4	E. Carney	123
5	G. S. Gorman	125
6	C. J. Poel	127

翻訳 I

1	園部明彦	1 2 9
2	林節雄	1 3 1

翻訳 II

.....	林節雄	2 8 9
-------	-------	-----	-------	-------

Conversation I

1	K. R. Bayne	1 3 3
2	P. Beland	1 3 5
3	W. J. Benfield	1 3 7
4	D. Bradley	1 3 9
5	R. J. Burrows	1 4 1
6	E. Carney	1 4 3
7	J. J. Duggan	1 4 5
8	A. R. Falvo	1 4 7
9	R. M. Homan	*
10	G. S. Gorman	1 4 9
11	K. Harris	1 5 1
12	T. Hill	1 5 3
13	C. B. 池口	1 5 5
14	N. H. Jost	1 5 7
15	D. R. Kogge	1 5 9
16	D. M. Meyers	1 6 1
17	R. M. Payne	1 6 3
18	C. J. Poel	1 6 5
19	M. A. Schible	1 6 7
20	J. J. Waldman	1 6 9

*最初の授業で指示する

Conversation II

1	W. J. Benfield	1 7 1
2	D. Bradley	1 7 3
3	J. J. Duggan	1 7 5
4	A. R. Falvo	1 7 7
5	R. M. Homan	*
6	T. Hill	1 7 9
7	C. B. 池口	1 8 1
8	N. H. Jost	1 8 3
9	D. R. Kogge	1 8 5
10	J. M. Thurlow	1 8 7

*最初の授業で指示する

Discussion			
1	W. J. Benfield 1 8 9
2	T. Hill 1 9 1
3	N. H. Jost 1 9 3
スピーチ			
1	大川道代 1 9 5
2	J. J. Duggan 1 9 7
ディベート			
1	阿部 一 1 9 9
2	T. Hill 2 0 1
通訳 I	鍋倉健悦 2 0 3
通訳 II	鍋倉健悦 2 9 1
英文法			
1	児玉仁士 2 0 5
2, 3	近藤ヒカル 2 0 7
4	四宮 満 2 0 9
5	須賀川 誠三 2 1 1
6	三好 健 2 1 3
7	三好 健 2 1 5
ビジネス英語 I			
1	海老沢 達郎 2 1 7
2	海老沢 達郎 2 1 9
3	杉山晴信 2 2 1
4	杉山晴信 2 2 3
5	山本孝夫 2 2 5
6, 7	横井正利 2 2 7
時事英語 I			
1, 2	新井妥門 2 2 9
3	金子節也 2 3 1
4	工藤政司 2 3 3
5	篠田愛理 2 3 5
6	長谷川倫子 2 3 7
7	森永京一 2 3 9
8	W. J. Benfield 2 4 1
ビジネス英語 II			
1	杉山晴信 2 9 3
2	横井正利 2 9 5
時事英語 II			
1	新井妥門 2 9 7

2	長谷川 倫 子	299
3	森 永 京 一	301

「英語学」部門

英語学概論

1	神 尾 昭 雄	23
2	児 玉 仁 士	25
3	清 水 由 理 子	27
4	長 谷 川 欣 佑	29

言語情報処理

1	高 柳 敏 子	243
2	前 田 功 雄	245

英語音声学

.....	大 西 雅 行	303
統語論	鷺 尾 龍 一	247
意味論	神 尾 昭 雄	249
音声・音韻論	大 竹 孝 司	251
英語史	須 賀 川 誠 三	253
英語学特殊講義	井 川 美 代 子	305

「英米文学」部門

英米文学概論

1	(前期) 島 田 啓 一	31
		(後期) 北 澤 滋 久		
2	(前期) 林 節 雄	33
		(後期) 原 成 吉		
3	(前期) 原 成 吉	35
		(後期) 林 節 雄		
4	(前期) 富 士 川 和 男	37
		(後期) 島 田 啓 一		

英米文学史

1	佐 藤 勉	255
2	(前期) 鈴 木 重 吉	257
		(後期) 秋 山 武 夫		

英米の小説	北 澤 滋 久	259
-------	-------	---------	-------	-----

英米の詩	(前期) 原 成 吉	261
		(後期) 白 鳥 正 孝		

英米の戯曲	長 谷 部 加 寿 子	263
-------	-------	-------------	-------	-----

英語圏文学特殊講義	園 部 明 彦	3 0 7
-----------------	---------------	-------

「英米文化」部門

英米の社会と思想	荻 間 寅 男	2 6 5
英米の歴史	佐 藤 唯 行	2 6 9
英米の地誌	山 本 正 三	3 0 9
英米の政治と経済	宮 川 淑	2 6 7
英米の法律	早 坂 禔 子	3 1 1
英米事情	(前期) E. Carney	2 7 1
	(後期) J. J. Duggan	
英語圏文化特殊講義	福 井 嘉 彦	3 1 3
国際政治論		
1	(前期) 有 賀 貞	2 7 3
	(後期) 竹 田 いさみ	2 7 5
2	(前期) 竹 田 いさみ	2 7 5
	(後期) 有 賀 貞	2 7 3
国際関係史	有 賀 貞	2 7 7
国際開発協力論	竹 田 いさみ	2 7 9
国際関係論特殊講義	吉 原 欽 一	3 1 5
国際コミュニケーション概論		
1	(前期) 阿 部 純 一	3 9
	(後期) 石 井 敏	
2	(前期) 町 田 喜 義	4 1
	(後期) 阿 部 純 一	
異文化間コミュニケーション論		
1	石 井 敏	2 8 1
2	町 田 喜 義	2 8 3
マス・コミュニケーション論	佐々木 輝 美	2 8 5
スピーチ・コミュニケーション論	石 井 敏	2 8 7

「第二外国語」部門

ドイツ語Ⅲ	山 路 朝 彦	3 1 7
フランス語Ⅲ		
1	鈴 木 隆	3 1 8
2	山 内 宏 之	3 1 9
スペイン語Ⅲ		
1	假名垣 宏	3 2 0

2	清水 透	3 2 1
ドイツ語会話 I				
1	M. 鮎貝	3 2 2
2	K. O. Beißwenger	3 2 3
3	B. Ebert	3 2 4
4	C. Jobst	3 2 5
5	N. Meisemann	3 2 6
6	H. J. Troll	3 2 7
フランス語会話 I				
1	H. Derieppe	3 2 8
2	J. F. Doppia	3 2 9
3	R. Floirac	3 3 0
4	S. Giunta	3 3 1
5	Ch. Pelissero	3 3 2
スペイン語会話 I				
1	霞 洋子	3 3 3
2	J. L. Velasco	3 3 3
スペイン語会話 II (L)				
	霞 洋子	3 3 4

目 次

1992 年度以前入学者対象 (旧旧カリキュラム)

「英 語」部門

英語講読

(英語学)

1	阿 部 一	5 1
2	大 竹 孝 司	5 2
3	大 西 雅 行	5 3
4	川 崎 潔	5 4
5	児 玉 仁 士	5 5
6	清 水 由理子	5 6
7	須賀川 誠 三	5 7
8	長谷川 欣 佑	5 8
9	福 田 有 美	5 9
10	鷲 尾 龍 一	6 0
11	T.Hill	6 1
(イギリス文学) 12	北 澤 滋 久	6 2
13	児 嶋 一 男	6 3
14	近 藤 ヒカル	6 4
15	白 鳥 正 孝	6 5
16	珍 田 弥一郎	6 6
17	長谷部 加寿子	6 7
18	林 俊 一	6 8
19	林 節 雄	6 9
20	藤 田 永 祐	7 0
21	三 好 健	7 1
22	山 田 修	7 2
23	山 田 修	7 3
24	山 田 玲 子	7 4
25	山 田 玲 子	7 5
(英・米文学) 26	園 部 明 彦	7 6
27	(前期) 富士川 和 男	7 7
	(後期) 秋 山 武 夫	

英語講読

(英・米文学)	28	-----	E. Carney	-----	78
(アメリカ文学)	29	-----	岡田 誠 一	-----	79
	30	-----	香取 豊	-----	80
	31	-----	佐藤 勉	-----	81
	32	-----	島田 啓 一	-----	82
	33	-----	原 成 吉	-----	83
	34	-----	升水 一 三	-----	84
	35	-----	吉元 清 彦	-----	85
	36	-----	吉元 清 彦	-----	86
(英米文化)	37	-----	阿部 純 一	-----	87
	38	-----	佐々木 輝 美	-----	88
	39	-----	佐藤 唯 行	-----	89
	40	-----	四宮 満	-----	90
	41	-----	杉山 晴 信	-----	91
	42	-----	中村 粲	-----	92
	43	-----	鍋倉 健 悦	-----	93
	44	-----	長谷川 倫 子	-----	94
	45	-----	福井 嘉 彦	-----	95
	46	-----	宮川 淑	-----	96
	47	-----	森永 京 一	-----	97
	48	-----	吉原 欽 一	-----	98
	49	-----	J. J. Duggan	-----	99
	50	-----	M. A. Schible	-----	100

英作文

	1	-----	青柳 明	-----	101
	2	-----	青柳 明	-----	103
	3	-----	市河 千代子	-----	105
	4	-----	四宮 満	-----	107
	5, 6	-----	中村 粲	-----	109
	7	-----	野本 浩 智	-----	111
	8	-----	野本 浩 智	-----	113
	9	-----	野本 浩 智	-----	115
	10	-----	藤田 永 祐	-----	117
(エッセイ・ライティング)	11	-----	阿部 一	-----	119
(エッセイ・ライティング)	12	-----	井川 美代子	-----	121
(エッセイ・ライティング)	13, 14	-----	E. Carney	-----	123
(エッセイ・ライティング)	15	-----	G. S. Gormam	-----	125
(エッセイ・ライティング)	16	-----	C. J. Poel	-----	127

英作文

(翻訳 I)	17	園部明彦	129
(翻訳 I)	18	林節雄	131
(翻訳 II)	19	林節雄	289

英会話

(Highly Advanced : Discussion)	1	W. J. Benfield	189
(Highly Advanced : Discussion)	2	T. Hill	191
(Highly Advanced : Discussion)	3	N. H. Jost	193
(Highly Advanced : ディベート)	4	阿部 一	199
(Highly Advanced : ディベート)	5	T. Hill	201
(Highly Advanced : スピーチ)	6	大川道代	195
(Highly Advanced : スピーチ)	7	J. J. Duggan	197
(Highly Advanced : 通訳)	8	鍋倉健悦	203
(Highly Advanced : 通訳)	9	鍋倉健悦	291
(Advanced)	10	W. J. Benfield	171
(Advanced)	11	D. Bradley	173
(Advanced)	12	J. J. Duggan	175
(Advanced)	13	A. R. Falvo	177
(Advanced)	14	R. M. Homan	*
(Advanced)	15	T. Hill	179
(Advanced)	16	C. B. 池口	181
(Advanced)	17	N. H. Jost	183
(Advanced)	18	D. R. Kogge	185
(Advanced)	19	J. M. Thurlow	187
(Intermediate)	20	K. R. Bayne	133
(Intermediate)	21	P. Beland	135
(Intermediate)	22	W. J. Benfield	137
(Intermediate)	23	D. Bradley	139
(Intermediate)	24	R. J. Burrows	141
(Intermediate)	25	E. Carney	143
(Intermediate)	26	J. J. Duggan	145
(Intermediate)	27	A. R. Falvo	147
(Intermediate)	28	R. M. Homan	*
(Intermediate)	29	G. S. Gorman	149
(Intermediate)	30	K. Harris	151
(Intermediate)	31	T. Hill	153
(Intermediate)	32	C. B. 池口	155
(Intermediate)	33	N. H. Jost	157

*最初の授業で指示する

(Intermediate)	34	D. R. Kogge	1 5 9
(Intermediate)	35	D. M. Meyers	1 6 1
(Intermediate)	36	R. M. Payne	1 6 3
(Intermediate)	37	C. J. Poel	1 6 5
(Intermediate)	38	M. A. Schible	1 6 7
(Intermediate)	39	J. J. Waldman	1 6 9
英文法			
1		児 玉 仁 士	2 0 5
2, 3		近 藤 ヒカル	2 0 7
4		四 宮 満	2 0 9
5		須賀川 誠 三	2 1 1
6		三 好 健	2 1 3
7		三 好 健	2 1 5
時事英語 I			
1, 2		新 井 妥 門	2 2 9
3		金 子 節 也	2 3 1
4		工 藤 政 司	2 3 3
5		篠 田 愛 理	2 3 5
6		長谷川 倫 子	2 3 7
7		森 永 京 一	2 3 9
8		W. J. Benfield	2 4 1
商業英語 I			
1		海老沢 達 郎	2 1 7
2		海老沢 達 郎	2 1 9
3		杉 山 晴 信	2 2 1
4		杉 山 晴 信	2 2 3
5		山 本 孝 夫	2 2 5
6, 7		横 井 正 利	2 2 7
時事英語 II			
1		新 井 妥 門	2 9 7
2		長谷川 倫 子	2 9 9
3		森 永 京 一	3 0 1
商業英語 II			
1		杉 山 晴 信	2 9 3
2		横 井 正 利	2 9 5

「英語学」部門

英語学概論

1	-----	神尾昭雄	-----	23
2	-----	児玉仁士	-----	25
3	-----	清水由理子	-----	27
4	-----	長谷川欣佑	-----	29
英語史概説	-----	須賀川誠三	-----	253
英語音声学	-----	大西雅行	-----	303
英語文法論	-----	鷺尾龍一	-----	247
英語学特殊講義				
(統語論) 1	-----	井川美代子	-----	305
(音声・音韻論) 2	-----	大竹孝司	-----	251
(意味論) 3	-----	神尾昭雄	-----	249

「英米文学」部門

イギリス文学概論	-----	佐藤勉	-----	255
アメリカ文学概論	-----	(前期) 鈴木重吉	-----	257
		(後期) 秋山武夫	-----	257
イギリス文学各論				
(小説) 1	-----	北澤滋久	-----	259
(戯曲) 2	-----	長谷部加寿子	-----	263
英米文学特殊講義 (イギリスの詩論) 1	-----	園部明彦	-----	307
英米文学特殊講義 (英米の詩) 2	-----	(前期) 原成吉	-----	261
		(後期) 白鳥正孝	-----	261

「英米文化」部門

英米の哲学	-----	萩間寅男	-----	265
英米の歴史	-----	佐藤唯行	-----	269
英米の地誌	-----	山本正三	-----	309
英米の事情	-----	(前期) E. Carney	-----	271
		(後期) J. J. Duggan	-----	271
英米の経済	-----	宮川淑	-----	267
英米の法律	-----	早坂禧子	-----	311
英米文化特殊講義	-----	福井嘉彦	-----	313

コミュニケーション論特殊講義

(異文化間コミュニケーション論)	1	-----	石井 敏	-----	281
(スピーチ・コミュニケーション論)	2	-----	石井 敏	-----	287
(マス・コミュニケーション論)	3	-----	佐々木 輝美	-----	285
(異文化間コミュニケーション論)	4	-----	町田 喜義	-----	283

国際関係論特殊講義

(国際関係史)	1	-----	有賀 貞	-----	277
(国際政治論)	2	-----	(前期)有賀 貞	-----	273
			(後期)竹田 いさみ	-----	275
(国際政治論)	3	-----	(前期)竹田 いさみ	-----	275
			(後期)有賀 貞	-----	273
(国際開発協力論)	4	-----	竹田 いさみ	-----	279
(日米関係論)	5	-----	吉原 欽一	-----	315

第二外国語

ドイツ語Ⅲ	-----	山路 朝彦	-----	317
-------	-------	-------	-------	-----

ドイツ語会話Ⅰ

1	-----	M. 鮎貝	-----	322
2	-----	K. O. Beißwenger	-----	323
3	-----	B. Ebert	-----	324
4	-----	C. Jobst	-----	325
5	-----	N. Meisemann	-----	326
6	-----	H. J. Troll	-----	327

フランス語Ⅲ

1	-----	鈴木 隆	-----	318
2	-----	山内 宏之	-----	319

フランス語会話Ⅰ

1	-----	H. Derieppe	-----	328
2	-----	J. F. Doppia	-----	329
3	-----	R. Floirac	-----	330
4	-----	S. Giunta	-----	331
5	-----	Ch. Pelissero	-----	332

スペイン語Ⅲ

1	-----	假名垣 宏	-----	320
2	-----	清水 透	-----	321

スペイン語会話Ⅰ

1	-----	霞 洋子	-----	333
2	-----	J. L. Velasco	-----	333

ドイツ語会話Ⅱ	-----	R. Sandrock	-----	335
フランス語会話Ⅱ	-----	Ch. Kessler	-----	336
スペイン語Ⅳ	-----	清水 透	-----	337
スペイン語会話Ⅱ				
(会) 1	-----	霞 洋子	-----	338
(L) 2	-----	霞 洋子	-----	334

科目名	英語 I (Reading)	担当者名	各担当教員
-----	----------------	------	-------

講義の目標	Objectives of this program : 1) to develop good reading skills, i. e. inferring, guessing the meaning of a word from context, getting into the habit of using an English-English dictionary 2) to build the level of passive vocabulary, including introducing some slang and "culture-bound" vocabulary 3) to develop extensive, as well as intensive, reading skills 4) to be encouraged to think deeply enough about a selection to give one's own opinion or comments 5) to introduce students to taking responsibility for their own reading (outside readers) 6) to give students the chance to see that English reading can also be an enjoyable and interesting, as well as informative, experience
講義概要	Teaching Program : Texts: The texts will form the core of the course. They are divided into two "types": the "in-class text" and the "outside readers." The in-class text will be the main text of the class. The outside readers will be two: one for the first term, and one for the second. How each instructor handles the actual week to week classroom instruction is up to the discretion of that instructor. This may include, but is not limited to, student reading, explanation of lexical or content point, supplementary reading, lectures, or materials, relevant activities or video, homework and in-class assignments, quizzes, etc. It is suggested that two class periods are spent on each main text selection, one class to cover the basics, such as reading, vocabulary, and comprehension, and the other on the reading skills related to the selection.
使用教材	テ <i>Reading for Real</i> (Japan edition). T. J. Swinscoe. (1992). Newbury House/Heinle + Heinle キ <i>Concepts for Today</i> (Japan edition). L. C. Smith + N. N. Mare. (1994) Newbury House/Heinle + Heinle. ス <i>Tess of the d'Urbervilles</i> . T. Hardy. (1989). OUP. ト <i>Night Without End</i> . A. MacLean. (1959). OUP.
評価方法	Scoring & Grading System : As this core of this program is based not just on picking up vocabulary and comprehension, but also on developing good reading skills, the following guidelines are recommended in determining grades: committee-prepared midyear and final tests (40%); reading skills tests (40%); attendance & participation (20%).
受講者に対する要望など	

科目名	英語Ⅲ (Basic Conversation)	担当者名	各担当教員
-----	--------------------------	------	-------

講義の目標	<p>Overall Goals of the Program :</p> <p>To bring students up to a level of communicative competence in accordance with the overall goals of the four-year English language program. Specifically for this one-year course, this would entail achieving a level of competence sufficient enough to competently pursue and take part in the more advanced English conversation courses offered in the following years.</p>	
講義概要	<p>Students will make use of a listening program complemented by production (conversation) relevant to the material at hand.</p>	
使用教材	テキスト	<p><i>Listen for It</i> (new edition). J. C. Richards et. al. (1995). Oxford University Press.</p>
	参考文献	
評価方法	<p>The following guidelines are recommended in determining grades: examinations (40%); quizzes and assignments (20%); attendance and participation (40%).</p>	
受講者に対する要望など		

科目名	英語Ⅲ (Intermediate Conversation)	担当者名	各担当教員
-----	---------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>Overall Goals of the Program :</p> <p>To bring students up to a level of communicative competence in accordance with the overall goals of the four-year English language program. Specifically for this one-year course, this would entail achieving a level of competence sufficient enough to competently pursue and take part in the more advanced English conversation courses offered in the following years.</p>	
講義概要	<p>Two course syllabi have been approved for use with this program. They are the <i>Mystery Tour</i> course and the <i>Jericho Conspiracy</i> course. Instructors may use one of these, or "do their own thing" (make your own syllabus, again with respect to the course goals and guidelines). The two approved syllabi work around a three-part system that consists of <i>text</i>, <i>activity</i> and <i>topic</i>. The text consists of a video and student activity book of eight to ten episodes. The activity refers to those complementary exercises or activities relating to a linguistic or topical point being covered in a certain episode of the text. The topic is a weekly pre-lesson (homework) writing exercise related to a linguistic or topical point being covered in the lesson. It emphasizes the building of communication skills (speaking & listening), as well as cultural and affective targets (getting to know your classmates better and taking into account the opinions of others).</p>	
使用教材	テキスト	<p>Mystery Tour Activity Book. P. Viney & K. Viney. (1988). OUP.</p> <p>The Jericho Conspiracy Activity Book. V. Hollett & R. Baldwin. (1992). OUP.</p>
	参考文献	
評価方法	<p>Scoring & Grading System (esp. for Mystery Tour & Jericho Conspiracy syllabi): attendance & participation (40%); tests & quizzes (40%); topics (20%).</p>	
受講者に対する要望など		

科目名	英語Ⅲ (Advanced Conversation)	担当者名	各担当教員
-----	-----------------------------	------	-------

講義の目標	<p>Overall Goals of the Program :</p> <p>To bring students up to a level of communicative competence in accordance with the overall goals of the four-year English language program. Specifically for this one-year course, this would entail achieving a level of competence sufficient enough to competently pursue and take part in the more advanced English conversation courses offered in the following years.</p>	
講義概要	<p>Based on the results of a placement test, freshmen students will be placed in the most appropriate course for their competence level. Students who score above average on the placement test would find themselves in the Advanced Conversation course. The great majority of students in this course would most likely be made up of "returnees," and as such being already competent in listening skills, would immediately spend more time on advanced oral production using video and reading materials through discussion, debate, etc.</p> <p>As the native English-speaking staff teaching here are considered to be professional and have expertise in teaching, particularly in the area of English conversation, it has been decided to give the instructors in this program the leeway to teach as they see best, but with regard to the course goals.</p>	
使用教材	テキスト	Up to the discretion of each individual instructor
	参考文献	
評価方法	Up to the discretion of each individual instructor	
受講者に対する要望など		

科目名	英語Ⅳ（文法・作文）1	担当者名	川崎 潔
-----	-------------	------	------

講義の目標	我々の誤りやすい文法事項を復習し、それを和文英語を通じて体得する。また英米文化の諸相を知り、それを英語で的確に表現できるようにする。	
講義概要	基本文例によって、重要な文法事項を復習し、それを和文英訳に応用することによって定着をはかる。その際に口語・文語の文体的差異、日英両語の表現・発想の対比にも注意する。また英米文化の諸相（ことば、祭り・行事、スポーツ、映画・演劇、美術・工芸、経済・産業など）をとり上げる。	
使用教材	テキスト	須賀川誠三ほか著『異文化への旅』（簡明英語表現）英宝社
	参考文献	
評価方法	前期と後期の2回の期末テストと平常点で評価する。	
受講者に対する要望など	予習と復習を実行するように要望したい。	

科目名	英語Ⅳ（文法・作文）2	担当者名	近藤 ヒカル
-----	-------------	------	--------

講義の目標	<p>高校でのグラ・コンのように、文法事項の練習のための作文にだけはしたくない。まず英文法の学習は生きた英語の文章を理解するためにあるし、英作文は文章を作ることによって生きた英語をものにするためにあるはずである。したがってこの授業の目標は実際の英語の文章（特に文学作品）に接して自分の豊かな文法知識の活用をし、その上で本学の学生の最も苦手な英作文を主に日本文学の作品の英訳によって身につけさせることにある。更に英語の運用には不可欠な書式について扱う積りである。</p>	
講義概要	<p>目標にあるとおり、まず英文法の知識を実際の英語の文章によって試す。さらに英作文として日本の文学作品を英訳する。またいわゆる英作文の世界とは全く異なる諸書式（レポート・論文、商業通信文、実用文書、手紙・届出書類等）の書き方について指導する。</p>	
使用教材	テキスト	（プリント）
	参考文献	<p>（英作文関係）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石田貞夫、桜庭一郎『貿易英語入門』実教出版 ・研究社新和英大辞典 ・<i>Webster's Secretarial Handbook</i> ・<i>A Manual for Writing</i>, Kate L. Turabian, Univ. of Chicago Press
評価方法	<p>成績評価は前・後期の定期試験、およびレポートによる。出席は絶対条件とする。</p>	
受講者に対する要望など		

科目名	英語Ⅳ（文法・作文）3	担当者名	須賀川 誠 三
-----	-------------	------	---------

講義の目標	<p>基礎的な英文法・英文構成法などの力を養い、簡潔で正確な良い英文が書けるようになることを目標とする。また、同時に、異文化圏における、言語・風物・習慣・思考・生活様式・食品・料理・経済・歴史などに関する知識を自然に身につけられるようにする。特に、日本（語）と英米（語）との発想の差異にも触れる予定。</p>		
講義概要	<p>講義内容は、大別して、英文法の基礎的な面と提案・要求・依頼・勧誘・条件・願望などの表現法から成る。これらの事項を徹底するために、練習問題を毎時間課し、また随時クイズ（小テスト）を行う予定。</p> <p>イディオム・成句・名言などについてもできる限り取上げ、日英語の差異を指摘する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>須賀川・川崎共編著『異文化への旅—簡明英語表現』 英宝社 〈副読本〉 M. Iwagaki: <i>Basic English Grammar Check</i>. NCI.</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・安藤貞雄著『英米語用法小事典』 大修館書店 ・新島通弘編『英語表現活用辞典』 開拓社 	
評価方法	<p>評価は、前期・後期試験および平常点による。出席は重視する。出席が著しく不良の場合は、試験の成績にかかわらず不可となるので注意。</p>		
受講者に対する要望など	<p>☆教科書は、正副教材をセットで購入する。受講希望者は第1回目の授業に出席し、必ず受講許可を得ること。</p>		

科目名	英語Ⅳ（文法・作文）4	担当者名	園部明彦
-----	-------------	------	------

講義の目標	高校までの通じるか、通じないかといった英作文から、できるだけ簡潔で良い英文を作成しようということを目指していく。		
講義概要	テキストの他に、新聞、雑誌など、可能な限り幅広く話題を求め、適宜取り上げていく予定。		
使用教材	テキスト	<i>Exercises in English Composition</i> (英作文演習) 南雲堂	
	参考文献		
評価方法	受講者全員に、作成した英文を提出してもらい、その評価の年間の合計で成績をだすので、欠席は非常に不利になる。		
受講者に対する要望など	各自、辞書だけは用意しておくこと。遅刻は認めない。		

科目名	英語Ⅳ（文法・作文）5	担当者名	中村 稔
-----	-------------	------	------

講義の目標	既習文法事項の作文への応用力を養ふと共に、和文英訳のコツを会得してもらふ。	
講義概要	文法応用の和文英訳実作練習。問題は基本的なものの中級のものの両方から構成されている。	
使用教材	テキスト	プリント。
	参考文献	
評価方法	平素の勤怠・意欲と定期試験。	
受講者に対する要望など	初回授業出席者の中、最前列から50名に限り受講を認める。	

科目名	英語Ⅳ（文法・作文）6	担当者名	野本浩智
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>与えられた和文の内容を、文法的に正確な英文で表現できる力を養うことが目標である。そのために、既習の文法知識を、整理確認し、英作文に活用する練習を行う。</p>		
講義概要	<p>英作文は、その性質上、講義だけでは成立しない。受講者は積極的に、自分で英文を書く気持ちを持たなくてはならない。教科書に従って、最初に文法事項の説明を行い、終わったところで練習問題にとりかかる。人数の関係で、指名された学生が黒板に解答を書き、それを添削する形になると思われるが、個人的にも添削をする機会があるはずなので、必ず予習して、練習問題の解答を試みておくことが必要である。第一週の授業で、進め方を説明するので、それによって予習して出席することを期待する。</p>		
使用教材	テキスト	山本家道『大学基本英作文法』（松柏社）	
	参考文献		
評価方法	<p>試験も行うが、科目の性質から、平常点を主体として成績を評価する。したがって、積極的に授業に参加することが絶対に必要である。</p>		
受講者に対する要望など	予習。		

科目名	英語Ⅳ（文法・作文）Ⅶ	担当者名	三好 健
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>英作文とは、ふつう英語を書くことを意味しますが、英語を書くことは当然英語を話すこととも密接な関係があるわけで、英語が話せれば書くこともできるはずですし、書く能力は話す場合にも大いに役立つはずで、そのためには英語の発想法に慣れて、それを身につけることが大切です。文法は理窟とか理論としてとらえずに、英語の発想法を理解するための便利な道具ぐらいに考えて、必要最少限のものでよいのです。</p> <p>この授業は、そういった意味で、基本的な英語の発想法の訓練をすることを目標とします。</p>	
講義概要	<p>テキストを読みながら、短い例文を材料として、主として書く（話す）能力を身につける練習をします。とくに主語と動詞の関係と基本動詞の使い方に関心をあてて、例文の英語を研究した後、練習問題をやります。授業では学生諸君の一人一人に発言してもらって、毎回活気のある実用文法・作文の訓練の場としたいと考えていますので、ヘコタレずについて来てほしい。その代りマジメにやれば必ず力がつくことは、請けあいます。</p>	
使用教材	テキスト	<p><i>A New Way to Writing</i>（基本動詞活用英作文）〔金星堂〕 （後期には別のテキストを使う予定）</p>
	参考文献	<p>授業時に指示します。</p>
評価方法	<p>平常の成績と前後期二回のテストによる。</p>	
受講者に対する要望など	<p>毎回の授業で全員に発言を求めないので、必ず下調べをしてくること。 遅刻・欠席を趣味とする学生はご遠慮ねがいたい。 受講希望者は一回目の授業に必ず出席して名前を届けること。</p>	

科目名	英語Ⅳ（文法・作文）8, 9	担当者名	渡 邇 美代子
-----	----------------	------	---------

講義の目標	英文法の知識をより正確なものとし、英作文の基礎的な能力を養うのが目的である。日本人が犯しやすい誤りを認識することにより、英語らしい英語を書く技能を身につけていく。	
講義概要	日本人の英語によく見られる文法上の誤りや日・英語の発想の違いによる誤りを認識しながら、正確な文法知識と表現法を習得していく。名詞、冠詞、動詞、時制、準動詞、形容詞、副詞、比較、関係詞、接続詞、前置詞、態、否定、カタカナ語、イディオムといった領域において、日本人学習者が犯しやすい誤りを具体例で学習し、同時に自然な、通じる英語を書く演習を行なう。	
使用教材	テキスト	<i>Common Errors in English Writing</i> 〈英作文の盲点200〉 木塚晴夫・Roger Northridge Macmillan LanguageHouse
	参考文献	<i>Using English: Your Second Language</i> D. Danielson & R. Hayden (1973) Prentice-Hall, Inc. 『英語の感覚（上・下）』 大津栄一郎（1993）岩波新書
評価方法	前・後期試験の結果と平常点を考慮して評価する。	
受講者に対する要望など	予習して授業に臨むことが原則である。	

科目名	英語Ⅳ（文法・作文）10	担当者名	C. B. 池口
-----	--------------	------	----------

講義の目標	<p>The course aims to provide students with maximum opportunity to develop skills in getting the main ideas of different types of paragraphs, and reading for information. These exercises will finally aid students in writing their own articles based on model paragraphs.</p>		
講義概要	<p>Classes in the first term will concentrate on reading sentences to detect errors in English writing and reading model paragraphs for information. Classes in the second term will focus on pattern writing.</p>		
使用教材	テキスト	<p>・山口、Minton ; <i>The Road from Speaking to Writing</i>, Seibido.</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>Students marks will be based on cumulative scores from weekly exercises, and a mid-term and Final written exam, as well as on attendance.</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	英語Ⅳ（パラグラフ・ライティング）11	担当者名	阿部 一
-----	---------------------	------	------

講義の目標	<p>本講義は、単文レベルの英作文を復習しつつその次のレベルである段落レベルの英語が書けるように指導するものである。扱かう題材は主としてアメリカで使われているハイスクールの教科書（国語、社会、理科）から抜粋されているもので、そのレベルの英文をモデルとする。</p>		
講義概要	<p>前期は主として「生の英語」を題材に英語の講造の特徴、論理性そしてテキスト性などに関して幅広く研究し、かつ日本語との対照を行ないながら英作する場合の要領や注意点を考えてみる。後期は前期で学習したポイントを基に実際に「簡単明瞭な」英語を書く実践を試みる。</p>		
使用教材	テキスト	Cushman & Sato; <i>Wright It Right!</i> (練習問題), 開文社。<予定>他	
	参考文献	未定（第1回目の授業時にリーディング・リスト配布）	
評価方法	<p>授業課題として①授業内発表（ハンドアウトを作成し形式に従って行なう）②学年末に規定のテーマに基づいたレポートの提出③前・後期の定期試験④発表重視型の授業につき出席を重視。</p>		
受講者に対する要望など	<p>ワープロかパソコンが使えることが望ましい。</p>		

科目名	英語Ⅳ（パラグラフ・ライティング）12	担当者名	井川 美代子
-----	---------------------	------	--------

講義の目標	<p>基本的な英文法のミスを犯さずに200語程度のまとまったパラグラフが書けるようになることを目指す。英文の内容は小説や手紙などではなく、大学の授業で課されるレポートのようなものに限定し、基礎的な技術を学んでいく。内容は大きく2つに分れ、パラグラフの展開の仕方と英文を書く上で特に重要な文法事項の復習を平行して扱っていく。</p>	
講義概要	<p>テキストの最初の6章が文法事項の復習、残りの4章がパラグラフを書くための基礎学習になっている。1、2章を学んだ後3章以降の文法事項と7章以降のパラグラフの書き方を同時に学んでいく。第一回目の授業では現在の実力を知るために200語程度のパラグラフを書いてみる。また他にも授業中、特に後期にかなりの英文を書いてもらうことになる。rewrite（書き直し）も必ず行なう。1～6章は基本的には宿題とし、授業では答え合わせと補足説明のみ行なう。</p>	
使用教材	テキスト	<p><i>Writing: An Intermediate Textbook for Classroom Use</i> (MacMILLAN)</p>
	参考文献	<p>・H. Price and T. Hasegawa ; <i>Common Mistakes in Written English</i> (英作文の盲点), 金星堂</p>
評価方法	<p>前後期末に1～6章の文法事項に関連した試験を行なう（それぞれ25%配点）。授業中に課す英作文、及び年度末に書いてもらう200語程度のパラグラフが残り50%の評価対象となる。</p>	
受講者に対する要望など	<p>毎授業必ず用例の多い英和中辞典（和英ではない）か英英辞典を自参のこと。和英に関しては各自の必要度により自参してもしなくても良い。</p>	

科目名	英語Ⅳ（パラグラフ・ライティング）13	担当者名	小川直樹
-----	---------------------	------	------

講義の目標	<p>日本式の英語から脱却し、国際的に通じる英文を書くことを目標とする。最終的には、きちんとしたパラグラフを書けるようにするが、その基礎となる短文レベル（句読法も含む）も扱う。</p>				
講義概要	<p>前期は、パラグラフ・ライティングの基礎となる、短文レベルでの英語の書き方に重点を置く。ここでは句読法も扱う。本来なら、いきなりパラグラフ・レベルの作文指導を行なうべきではあるが、そもいかないのが現実だからである。受講者の受験英語に染まった不自然な英語を、語法、文法、発想などの点から洗い直す。</p> <p>後期は、前期で培った英語力をもとに、パラグラフの実作を行なう。ここでは、パラグラフの構成法、つまり論理的な文章の展開法に重点を置く。その目的は、「ただダラダラ書けばよい」といった小学生の作文スタイルから脱却し、国際的に通用する文章を書けるようになることである。</p> <p>また表現力を付けてもらうため、例文暗記の小テストを年間を通じて毎週行なう。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>①『起きてから寝るまで口慣らし練習帳』（小テスト用）、②『キミの英語じゃ通じない』（前期用）、③『パラグラフ英作文』（後期用）。また随時、プリントを配布する。</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>・篠田義明『成功する文章術』（1994）ごま書房。</td> </tr> </table>	テキスト	①『起きてから寝るまで口慣らし練習帳』（小テスト用）、②『キミの英語じゃ通じない』（前期用）、③『パラグラフ英作文』（後期用）。また随時、プリントを配布する。	参考文献	・篠田義明『成功する文章術』（1994）ごま書房。
テキスト	①『起きてから寝るまで口慣らし練習帳』（小テスト用）、②『キミの英語じゃ通じない』（前期用）、③『パラグラフ英作文』（後期用）。また随時、プリントを配布する。				
参考文献	・篠田義明『成功する文章術』（1994）ごま書房。				
評価方法	<p>毎時の出席及び小テストの結果（平常点）、前後期末試験、提出作文（年間約10本）を総合して評価する。なお、欠席7回で失格とする。また遅刻1回は、欠席1/2回分とみなす。欠席4～5回で成績評価は1ランク下がる。</p>				
受講者に対する要望など	<p>後期開始までに、作文をタイプ、またはワープロ打ちで提出できる者。後期提出の作文は、手書きを認めない。</p> <p>自分の英語が果たして通用するのかを疑問に思うような、問題意識のある者の受講が望ましい。</p>				

科目名	英語Ⅳ（パラグラフ・ライティング）14	担当者名	篠田愛理
-----	---------------------	------	------

講義の目標	<p>学習者が、文法的に正確な単文から始め、重文や複文をつなぎ合わせて『一つのまとまった中心的な考え』（one central idea）を展開させ、paragraph（パラグラフ、段階）にまとめあげることができるように、基本的な英語の書き方を段階的に指導。下記の教科書以外に、学生にとって興味ある最近の出来事を適宜に活用する。それによって自分の考え方、物の見方を意欲的に、十分に意味の通る英語で説明、説得できるよう指導する。</p>		
講義概要	<p>先ず、パラグラフの構造に関する基本的な事実の説明の後、パラグラフの構造の理解と認識。トピックセンテンスの理解と認識。次に、記述、物語、意見表明、説明、分類、原因と結果、比較対象、問題解決等、各種のパラグラフを取り上げて紹介。最後に、文章の最小単位のパラグラフをつないで、訂正、構成、編集作業を経て、本格的なエッセイの英作文を指導する。パラグラフを書くにあたり、基本的な常識——基礎文法、基礎的語彙、イディオム、英語的な関連表現、syllabification, punctuation, capitalization の強化、習得にも力を入れる。</p>		
使用教材	テキスト	『パラグラフ英作文 (Writing English Paragraphs)』 北尾 S. キャスリーン、北尾 謙治著（英潮社、1988/94年）	
	参考文献	教室で指示。Handouts も配布	
評価方法	<p>前期、後期の二つの期末試験、夏期休暇中のレポート、平生の授業での貢献度、及び出席状況によって決定。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業は予め十分に予習してあることを前提にして講義を進行。遅刻せぬこと。</p>		

科目名	英語Ⅳ（パラグラフ・ライティング）15	担当者名	福田有美
-----	---------------------	------	------

講義の目標	アカデミック・ライティングへの入門として、よい英語のパラグラフの構造の基礎を学び、実際にその構造で英文パラグラフが書けるように訓練する。文の論理的展開についてもスポットを当てたい。	
講義概要	段階的練習問題をこなしていく中で、パラグラフの基本構造を学ぶ。描写、叙述、主張、分類、比較対照、原因結果、問題解決など、パラグラフの諸典型を扱う中で、文章展開の実際を練習する。パラグラフ・ライティングに際しては、学習者同士の交換添削を行い、互いのパラグラフについて批評しあって、ともに上達の道を探りたい。講師への提出は、タイプしたものとするので、早急にタイプの習得も義務となる。文レベルの文法と句読法については、各自課題を学習し、毎授業小テストのみを実施する。	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Paragraph Patterns</i> ・ <i>Longman Dictionary of Common Errors</i>
	参考文献	
評価方法	評価の際、重視する順に挙げておく。 各典型についての課題パラグラフ、前後期試験、小テスト、その他課題	
受講者に対する要望など		

科目名	英語Ⅳ (パラグラフ・ライティング) 16	担当者名	吉成 雄一郎
-----	-----------------------	------	--------

講義の目標	<p>日本語の論理で英語の文章を書けば、不自然なものになったり、思わぬ誤解を招くことになる。この授業では、英語のパラグラフはどのような構成になっているのかを、実例を読みながら研究することにした。そして、実際にライティングの実習を通してパラグラフ・ライティングの基本を習得していくことを目標とする。また、エッセイ・ライティングへの橋渡しになるような講義、実習も盛り込みたい。</p>	
講義概要	<p>まず、基本的なパラグラフの仕組みとして、topic sentence, main idea, supporting details について学ぶ。次に、パラグラフの展開方法としての、description, illustration, classification, definition, cause & effect, comparison, contrast, problem-solving などについて詳しく学び、実際にいくつかのパラグラフを書いていく。また、paraphrasing の方法や unity, cohesion, coherence などにも触れたい。さらに、パラグラフとエッセイの仕組みを比較しながら、パラグラフからエッセイに発展させる方法についても紹介したい。また時間があれば、コンピュータを利用して書く練習も行いたい。</p>	
使用教材	テキスト	<p>Blass, L. & M. Pike-Baky: <i>Mosaic I—A Content-Based Writing Book</i>. McGraw-Hill.</p>
	参考文献	<p>W. Michael; <i>Study Skills in English</i>, Cambridge University Press. S. Kathleen Kitao; <i>From Paragraphs to Essays</i>, Eichosha.</p>
評価方法	<p>前期と後期のレポート作成と、宿題や授業中に随時書いてもらう文章によって評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>自分の文章の欠点は自分ではなかなか気がつきにくい。そこで、受講者相互に作文を読み合うことにしたい。積極的に批評し、受け入れられる姿勢が求められる。</p>	

科目名	英語Ⅳ (パラグラフ・ライティング) 17	担当者名	T. Hill
-----	-----------------------	------	---------

講義の目標	<p>To develop the expository writing skills that students need to express their ideas clearly and concisely. Through highly illustrative examples and carefully structured questions and directions, students complete activities that enable them to understand and fully participate in the writing process.</p>		
講義概要	<p>The course will adopt a four-step approach to paragraph and composition writing.</p> <p>Exposure: the initial step, in which students read a model paragraph or composition.</p> <p>Analysis: the second step, in which students gain greater understanding of the structure of the model through directed questions and guided activities.</p> <p>Planning: the third step, in which students outline original paragraphs or compositions based on their understanding of the models.</p> <p>Writing: the final step, in which students write original full paragraphs or compositions.</p>		
使用教材	テキスト	Express Yourself in Written English Frederick O'Connor Macmillan Publishers.	
	参考文献		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Attendance 2. Participation in class 3. Assignments 		
受講者に対する要望など			

科目名	英語Ⅳ (パラグラフ・ライティング) 18	担当者名	C. J. Poel
-----	-----------------------	------	------------

講義の目標	The goal of this course is to make you familiar with writing short passages in English by building on the grammatical knowledge and vocabulary you already possess.	
講義概要	In this course you will learn how to write a variety of English paragraphs for the purpose of communicating your ideas rather than for learning and practicing grammar. Different writing styles will be examined, such as business letters, creative story telling, and personal opinions. In addition, the course will have a strong spoken emphasis with all class discussions done in English. You will be expected to keep a diary outside of class and do homework in preparation for the class discussions each week.	
使用教材	テキスト	<i>Writing English Paragraphs</i> by S. Kathleen Kitao and Kenji Kitao (Eichosha) — tentative.
	参考文献	All students will be expected to have an English-English dictionary.
評価方法	The final grade will be determined by (1) participation in class activities, (2) homework, and (3) writing projects (2 each semester). Each will account for 1/3 of the final score.	
受講者に対する要望など		

科目名	英語学概論 1 英語学概論 1 (旧) 英語学概論 1 (旧旧)	担当者名	神尾昭雄
-----	--	------	------

講義の目標	現代の英語学とはどのようなものを学生に理解させ、特に言語学的な英語の分析がどのようにして行なわれるか、またその基礎がどのようなものであるかを詳しく教える。		
講義概要	現代の英語学についての言語学的入門。言語について、特に英語についての基礎知識を与え、言語学的に言語を分析する態度を養う。		
使用教材	テキスト	V. Fromkin and R. Rodman; <i>An Introduction to Language</i> (Fifth edition) Harcourt, Brace and Jovanovich	
	参考文献	・中島平三・外池滋生編『言語学への招待』大修館書店 なおテキストは第1回目の授業時に販売するので、各自¥2500程度を忘れずに持参すること。	
評価方法	前・後期各1回の定期試験および1年間に4回行なう平常試験の計6回の試験結果を総合して評価する。		
受講者に対する要望など	英語の教科書をかなり早い進度で用いるので、英語を読みこなして予習・復習のできる語学力と熱意を必要とする。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	教科書の販売。授業のすすめ方。教科書の使い方。成績評価について。
2	教科書第1章の概説。言語とは何か。ある言語を身につけるとはどのようなことか。文法とはどのようなものか。
3	教科書第2章の概説。単語とはどのようなものか。形態素とは何か。語形成の規則。文法的形態素とは何か。
4	教科書第3章前半の概説。統語論とは何か。文の構造。句構造規則について。
5	教科書第3章後半の概説。語い目録とは何か。変形規則について。文の構造再考。言語のタイプについて。
6	復習のためのテスト第1回。
7	教科書第4章前半について。単語の意味。同義性と言い替え。反意語について。
8	教科書第4章後半について。単語の意味と句および文の意味。意味論と統語論の関係。意義と指示。イディオム。
9	教科書第5章前半について。音声学とはどのようなものか。単音とその性質について。調音音声学の基礎。
10	教科書第5章前半について(続き)。調音音声学概説。
11	教科書第5章後半について。韻律とは何か。英語の母音体系のまとめ。
12	復習のためのテスト第2回。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	教科書第6章前半について。音韻論とは何か。音素について。音韻素性について。
2	教科書第6章前半について(続き)。音韻論の規則。自然類について。
3	教科書第6章後半について。音節の構造。イントネーションと強勢。超分節的特性について。
4	復習のためのテスト第3回。
5	教科書第7章について。社会言語学とはどのようなものか。英語の方言について。黒人英語について。スラングについて。
6	教科書第8章はじめについて。英語の歴史的变化。大母音推移について。
7	教科書第8章中頃～終り。言語変化について。比較言語学について。言語の系統分類。
8	教科書第8章終り。世界の諸言語と英語および日本語について。
9	復習のためのテスト第4回
10	教科書第9章の概説。書字言語について。アルファベットの発達。
11	まとめ
12	予備日(学会出張などに備えて)
備考	

科目名	英語学概論 2 英語学概論 2 (旧) 英語学概論 2 (旧旧)	担当者名	児玉仁士
-----	--	------	------

講義の目標	まず、英語自体についての理解を深める前に、われわれが日常用いている言語そのものの実態をある程度明らかにしておく必要がある。この言語学的な理解・知識を基礎にして、英語がもっている言語的特性を概説するのがこの講義の目標である。	
講義概要	英語学が1つの独立した学問体系をなすかどうかはともかくとして、英語を専攻する者が基本的・必須的知識として、当然修めなければならない英語全般に関する学問領域である筈である。それには、英語が1つの言語として有する言語的諸相とそれに関する学問的業績すべてが包括される。ただし、この領域はあまりにも広範にわたり、限られた年間の授業数でそれをカバーすることは到底不可能である。したがって、この講義では、その中で最も中心となる課題に焦点を絞って解説することになろう。言語行為、音声学・音韻論、意味論、文法論、英語史が主なトピックである。	
使用教材	テキスト	E. M. Heatherington ; <i>How Language Works</i> (英語学入門)、金星堂
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・石黒昭博他著『現代の英語学』 金星堂 ・島岡丘・他著『最新の音声学・音韻論』 研究社 ・今井邦彦 編『英語変形文法』 大修館 ・ジノ・ソング著『言語学への招待』 南雲堂
評価方法	評価は、基本的には、前期・後期の定期試験の成績に基づく。なお、随時、出席をとるの(提出課題、試験等)で、それも総合評価に加味したい。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論：言語の実態：言語が人・社会・文化という構図の中でどのような機能をもっているのかを、概観したい。
2	第1章：言語および言語行為 1)伝達手段：言語・非言語、動物・人間の伝達手段 2)言語の特性
3	3)言語記号の2面性・恣意性・線状性 4)言語研究の分野・方法
4	第2章：英語の音声 1)言語音声 2)言語音声の記述：音声学・音韻論
5	3)音声表記・音素表記：万国表音文字、精密表記・簡略表記 4)発音器官：どのような器官を用いて言語音は発せられるのか 5)音声の分類：母音と子音、有声音・無声音
6	6)母音の分類と種類 7)子音の分類と種類
7	8)音節・強勢／弱勢・アクセント・音調 9)音連続における音声変化：推移音・音連結・同化・異化
8	10)リズム：散文・韻文のリズム、頭韻・脚韻、詩型
9	第3章：英語の意味 1)「意味」とは？ 2)意味論：一般意味論・哲学的意味論・言語学の意味論
10	3)言語学の意味論：指示的・辞書的・形式的・構造的・文脈の意味 4)意味の分析：Osgoodの「意味微分法」とKatz/Forderの「意義素性分析」
11	5)意味の同一性：外延的・内包の意味 6)意味の多義性：辞書の語義
12	7)意味の具象性と抽象性：Hayakawaの「抽象の過程」 8)意味と文化・意味の変化：縮小・拡大・墮落・向上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第4章：英語の文法 1)「文法」の概念・その変遷 2)文法の研究の方法・その種類
2	3)文法の記述の対象：形態論・統語論 4)規範文法：規範性・単語・品詞分類・文、文の正用・誤用の基準
3	5)科学文法：科学性・形態・機能・文法範疇：Sweet/Jespersenの文法
4	6)構造主義文法：構造的・音素・形態素・語類・統語分析
5	7)変形生成文法：Chomskyの理論とその変遷
6	第5章：英語の歴史 1)インド・ヨーロッパ語族・ゲルマン語派の位置：Grimmの音韻法則
7	2)英語史の時代区分とイギリスの歴史（特に、アングロ・サクソン期および中期）
8	3)西ゲルマン諸語（フリジア語・オランダ語・ドイツ語）と英語との比較：第2次子音推移 4)英語とフリジア語の類似性
9	5)英語の階級方言・社会方言 6)古期英語：文字・綴り・発音・文法（形態・統語）
10	7)中期英語：文字・綴り・発音・文法（形態・統語）：Chaucerの英語、大母音推移
11	8)近代英語：綴り・発音・文法；聖書の英語、Shakespeareの英語
12	9)アメリカ英語 10)英語の辞書：編纂とその歴史
備考	

科目名	英語学概論 3 英語学概論 3 (旧) 英語学概論 3 (旧旧)	担当者名	清水 由理子
-----	--	------	--------

講義の目標	一口に英語といっても、そこに含まれる分野は広い。どのような研究分野があるのか、その概要を紹介する。現代英語を視点に置いた見方と、古い時代の英語から現代英語への変化の過程をたどる歴史的な見方から、現代英語の特徴とことばを変化させる原因について考える。		
講義概要	英語という言語についてさまざまな研究分野を概観する。取り上げるテーマについては年間講義予定表を参照のこと。		
使用教材	テキスト	安藤貞雄・小野捷『英語学概論』 英潮社	
	参考文献	参考文献については、授業中にテーマごとに紹介する。	
評価方法	評価は、前期・後期の定期試験結果を中心に出すが、各学期に Quiz を何回か行い、その結果は最終評価を出す際に参考とする。		
受講者に対する要望など	大きなテーマについて短い時間で話をすることになるので、必ずテキストの関連した章を予め読んでおいてほしい。 研究室：〔636〕		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	言語学とその関連分野。英語学とは何か。 (テキストの第1章参照)
2	「ことば」とは何か。人間のことばの特徴。 (第2章)
3	音声学 (1) 音声学とは何か。英語音の特徴① (第4章A)
4	音声学 (2) 英語音の特徴② (第4章A)
5	音韻論 (1) 音素とは何か。 (第4章B)
6	音韻論 (2) 生成音韻論について。 (第4章B)
7	形態論 (1) 形態素とは何か。 (第5章)
8	形態論 (2) 語の形成。 (第5章)
9	統語論 (1) 伝統文法での考え方。 (第6章)
10	統語論 (2) 構造主義文法での考え方。 (第6章)
11	統語論 (3) 生成文法での考え方。 (第6章)
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	意味論 (1) 語の意味とは何か。 (第7章A)
2	意味論 (2) 意味におけるさまざまな関係。 (第7章A)
3	語用論 語用論とは何か。 (第7章B)
4	英語史 (1) ブリテン島の歴史と言語
5	(2) 古期英語の文字と発音
6	(3) 古期英語の語彙と文法
7	(4) 中期英語の時代的背景
8	(5) 中期英語の綴りと発音
9	(6) 中期英語の語彙と文法
10	(7) 近代英語の特徴
11	(8) アメリカ英語の特徴
12	まとめ
備考	英語史については第8章～第10章を参照。

科目名	英語学概論 4 英語学概論 4 (旧) 英語学概論 4 (旧旧)	担当者名	長谷川 欣 佑
-----	--	------	---------

講義の目標	思考・感情の自由な表現の背後にあり、それを成り立たせている「ことばの仕組」を解明することを目標とする（生成）文法理論の入門と、それにもとづく英語の構文分析の概要。		
講義概要	生成文法理論は多様な展開をみせているが、すべての基礎になるのは、データに基いて仮説を立て、それを検証していくなかで統語構造や一般的原理を発見していく統語分析の方法を身につけることである。この興味ある発見の過程を理解してもらうために、具体的な構文分析を通して、できるだけわかりやすく文法解析の方法・考え方について述べる。		
使用教材	テキスト	特に指定しないが下記の参考書を読んでおくことが望ましい。 講義の主要な内容はプリントして配布する。	
	参考文献	Akmajian-Heny(1975), <i>An Introduction to the Principles of Transformational Syntax</i> (MIT Press)	
評価方法	前・後期一回ずつのテストと授業への参加度		
受講者に対する要望など	連続した体系をなすので毎回出席すること		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期は「序論」と「第1部：文の組み立て方についての一般原理」について述べる。まず序論として人間の言語の基本的性質である、言語使用の創造性をデータに基いて例証し、文法研究の目標を設定する。ここで英語の代名詞や再帰代名詞の用法について簡単な原則を提示する。
2	
3	
4	「文の組み立て方」に関する第1の原理としての「句構造規制」の必要性とその説明。文法上の単位（文法カテゴリー）を立てる根拠について「動詞句」などを例にとりやや詳しく解説。
5	
6	「文の組み立て方」に関する第2の原理としての「変形」の概念を導入。典型的な例に基いてこの仕組の必要性をわかりやすく解説。さらに英語のいくつかの構文を取り挙げ、それらの説明のために変形が必要であることを示し、同時にこれらの構文自体の構文分析によって文法解析の方法を理解してもらう。取り挙げる事象は、wh-句移動変形、外置変形、Tough 構文移動変形、繰り上げ変形 (Raising)、助動詞成分の分析、など
7	
8	
9	
10	まとめとして文法の枠組の全体像を提示し、統語構造と意味解釈の関係について触れる。
11	
12	試験
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期「第2部：英語統語構造の概要」 前期の講義に立脚し、主要な文法単位（カテゴリー）の内部構造と、それらに関連する構文分析の典型例について述べる。
2	「動詞句」の内部構造。補語（Complement）と副詞的要素（Adjunct）の区別の根拠・重要性について do so テストなどを用いて解説。
3	
4	「動詞+小辞」、「動詞+前置詞」などの複合動詞の分析。小辞（Particle）移動変形、間接目的語・直接目的語構文の構造と意味。 VNP to VP 形の構造分析、表層フィルターの必要性など。
5	
6	
7	受動構文の分析。文法分析の一典型例として、古典的分析から比較的妥当な分析へ至る過程をデータに基いて解説し、受動文の構造と意味を明らかにする。
8	
9	名詞句の内部構造
10	Wh-句移動変形などへの「一般的制約」
11	
12	試験
備考	

科目名	英米文学概論 1 英米文学概論 1 (旧)	担当者名	島田啓一(前期) 北澤滋久(後期)
-----	--------------------------	------	----------------------

前期

講義の目標	アメリカ文学の概略を知り、「主要な」作家、詩人たちの作品にできるだけ直接触れる(小説、短編小説、詩などの抜粋を実際に読んでもらう)ことで学生諸君にアメリカ文学の魅力を発見してもらう。		
講義概要	米文学史の概略をなぞるが、19世紀のホーソンやメルヴィルの時代の小説と詩、米小説のリアリズムからモダニズムへの発展、60年代以降顕著になってきたマルチカルチャリズム(文化多元主義)に焦点をあて、プリントなどで作品の一部を読み、鑑賞してもらう。但し、通常とは逆に現在から過去に向かって、講義を進める予定。		
使用教材	テキスト	板橋好枝・高田賢一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』	
	参考文献	福田陸太郎・岩本巖・酒本雅之編『アメリカ文学研究必携』(増補版)(中京出版, 1985)	
評価方法	定期試験70%、不定期に課す小レポートと小テスト30%の予定。		
受講者に対する要望など			

後期

講義の目標			
講義概要	パンのみに生きるにあらざる人間に、文学、とりわけ英文学はいかなる意義をもち、いかなるたのしさを与えてくれるのか。この観点からイギリス文学の特色を概説する。		
使用教材	テキスト	特に定めない。	
	参考文献	随時紹介する。	
評価方法	期末試験において評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	マルチカルチャリズム(1): 概説。〈以下、() 内は授業で読む予定の作品名〉
2	マルチカルチャリズム(2): African American Writers と Jewish Writers (Bernard Malamud, "The First Seven Years")
3	マルチカルチャリズム(3): Jewish Writers ("The First Seven Years")
4	モダニズム(1): Post Modernism の作家たちと William Faulkner (<i>The Sound and the Fury</i>)
5	モダニズム(2): William Faulkner (<i>The Sound and the Fury</i> と "That Evening Sun")
6	モダニズム(3): Anderson, Hemmingway, Gertrude Stein, Faulkner ("That Evening Sun")
7	"Gender/Class/Race": Mark Twain の場合 (<i>The Adventures of Huckleberry Finn</i>)
8	19世紀の詩: E. A. Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson (詩を数編)
9	ホーソンとメルヴィルの時代(1): Nathaniel Hawthorne と Herman Melville (作品は未定)
10	ホーソンとメルヴィルの時代(2): Nathaniel Hawthorne と Herman Melville (作品は未定)
11	ホーソンとメルヴィルの時代(3): Nathaniel Hawthorne と Herman Melville (作品は未定)
12	創世期のアメリカ文学: Benjamin Franklin, Charles Brockden Brown, Washington Irving, James Fenimore Cooper, etc.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	はじめに: イギリスおよびアイルランドの風土と気質
2	世界文学のなかの英文学の特質; 戯曲・詩・小説・伝記・随筆・紀行
3	Shakespeare の人間模様
4	Comedy of Manners
5	Classicism と Romanticism
6	20世紀以前のイギリス小説の諸相
7	<i>Wuthering Heights</i> 論
8	Aestheticism
9	modernism と20世紀のイギリス小説の変転
10	James Joyce の文学
11	D. H. Lawrence の文学
12	まとめ: 質疑・応答
備考	

科目名	英米文学概論 2 英米文学概論 2 (旧)	担当者名	林 節雄 (前期) 原 成吉 (後期)
-----	--------------------------	------	------------------------

前 期

講義の目標	文学は言葉によって人間と人間が生きる世界を研究し、表現するアートである。イギリス文学の場合、その言葉が英語になる。イギリス史とイギリス文学史の常識を講義することにより、その実態を明らかにし、現代英語についての理解を深めることを目標とする。		
講義概要	アメリカとともに英語文化圏の大きな中心である、イングランドを主としたイギリスの歴史の分かりやすいイメージを提供する。ついでこれを背景に多くの作品を生産してきたイギリス文学の歴史について、同じくなるべく分かりやすいイメージを提供する。		
使用教材	テキスト	特に使用しない。講義ノートによる。	
	参考文献	授業中、必要に応じて紹介する。	
評価方法	毎回の小クイズ (出席カードの裏に解答) と、前後期の定期試験による。		
受講者に対する要望など			

後 期

講義の目標	アメリカ文学とは何か、文学を学ぶとはどういうことか、という問題をテーマごとに論じながら、アメリカ文学の魅力を伝える。		
講義概要	このクラスでは現在アメリカが抱えているさまざまな問題 (Native American, Feminism, Multiculturalism...etc.) を文学を通して考えてゆく。教室では、具体的な作品を読みながら、「ここそしていま」の視点からアメリカの (異) 文化を紹介する。		
使用教材	テキスト	板橋好枝/高田賢一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』ミネルヴァ書房	
	参考文献	各テーマごとに紹介する。	
評価方法	定期試験と授業中の課題で決める。		
受講者に対する要望など	教室へ来る前に、翻訳でもよいから Mark Twain, Adventures of Huckleberry Finn—『ハックルベリー・フィンの冒険』(講談社文庫) と Jack Kerouac, On the Road—『路上』(河出文庫) を読んでおくことが望ましい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義概要の説明と、イギリスの始まりから清教徒革命までの歴史の復習をする。
2	イギリスの歴史のうち、王政復古から20世紀初めまでの復習をおこなう。
3	イギリス文学史の始まりから、18世紀の小説家 Henry Fielding までを説明する。
4	イギリス文学史のうち、18世紀の詩人・批評家 Samuel Johnson から20世紀初めまでを説明する。
5	20世紀初めの作家たちが主にどんなことを考えていたかを説明し、具体的な作品例として H. G. Wells の古典的 SF である <i>The Time Machine</i> を解説する。
6	同じく H. G. Wells の SF である <i>The Island of Doctor Morean</i> を解説する。
7	ポーランド生まれでイギリスに帰化した重要な作家 Joseph Conrad の小説 <i>Lord Jim</i> の内容と考え方を説明する。
8	同じく <i>Lord Jim</i> の続きを説明する。
9	同じく J. Conrad の小説 “Heart of Darkness” を解説する。
10	イギリスの劇作家・ベストセラー作家 W. Somerset Maugham の自伝的小説 <i>Of Human Bondage</i> につき説明する。
11	同じく <i>Of Human Bondage</i> の説明。
12	同じく <i>Of Human Bondage</i> の説明。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	アメリカ文学の特徴について (序論)
2	ネイティブ・アメリカンの文学
3	土地が作る文学
4	デモクラシーと文学
5	戦争と文学
6	マルチ・カルチャリズムと文学(1)
7	マルチ・カルチャリズムと文学(2)
8	マルチ・カルチャリズムと文学(3)
9	カウンター・カルチャと文学
10	フェミニズムと文学
11	音楽と文学
12	作品研究の方法
備考	

科目名	英米文学概論 3 英米文学概論 3 (旧)	担当者名	原 成吉 (前期) 林 節雄 (後期)
-----	--------------------------	------	------------------------

前期

講義の目標	アメリカ文学とは何か、文学を学ぶとはどういうことか、という問題をテーマごとに論じながら、アメリカ文学の魅力を伝える。		
講義概要	このクラスでは、現在アメリカが抱えているさまざまな問題 (Native American, Feminism, Multiculturalism...etc.) を文学を通して考えてゆく。教室では、具体的な作品を読みながら、「ここそしていま」の視点からアメリカの (異) 文化を紹介する。		
使用教材	テキスト	板橋好枝/高田賢一 編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』ミネルヴァ書房	
	参考文献	各テーマごとに紹介する。	
評価方法	定期試験と授業中の課題で決める。		
受講者に対する要望など	教室へ来る前に、翻訳でもよいから Mark Twain, Adventures of Huckleberry Finn—『ハックルベリー・フィンの冒険』(講談社文庫) と Jack Kerouac, On the Road—『路上』(河出文庫) を読んでおくことが望ましい。		

後期

講義の目標	文学は言葉によって人間と人間が生きる世界を研究し、表現するアートである。イギリス文学の場合、その言葉が英語になる。イギリス史とイギリス文学史の常識を講義することにより、その実態を明らかにし、現代英語についての理解を深めることを目標とする。		
講義概要	アメリカとともに英語文化圏の大きな中心である、イングランドを主としたイギリスの歴史の分かりやすいイメージを提供する。ついでこれを背景に多くの作品を生産してきたイギリス文学の歴史について、同じくなるべく分かりやすいイメージを提供する。		
使用教材	テキスト	特に使用しない。講義ノートによる。	
	参考文献	授業中、必要に応じて紹介する。	
評価方法	毎回の小クイズ (出席カードの裏に解答) と、前後期の定期試験による。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	アメリカ文学の特徴について (序論)
2	ネイティブ・アメリカンの文学
3	土地が作る文学
4	デモクラシーと文学
5	戦争と文学
6	マルチ・カルチャリズムと文学(1)
7	マルチ・カルチャリズムと文学(2)
8	マルチ・カルチャリズムと文学(3)
9	カウンター・カルチャと文学
10	フェミニズムと文学
11	音楽と文学
12	作品研究の方法
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義概要の説明と、イギリスの始まりから清教徒革命までの歴史の復習をする。
2	イギリスの歴史のうち、王政復古から20世紀初めまでの復習をおこなう。
3	イギリス文学史の始まりから、18世紀の小説家 Henry Fielding までを説明する。
4	イギリス文学史のうち、18世紀の詩人・批評家 Samuel Johnson から20世紀初めまでを説明する。
5	20世紀初めの作家たちが主にどんなことを考えていたかを説明し、具体的な作品例として H. G. Wells の古典的 SF である <i>The Time Machine</i> を解説する。
6	同じく H. G. Wells の SF である <i>The Island of Doctor Morean</i> を解説する。
7	ポーランド生まれでイギリスに帰化した重要な作家 Joseph Conrad の小説 <i>Lord Jim</i> の内容と考え方を説明する。
8	同じく <i>Lord Jim</i> の続きを説明する。
9	同じく J. Conrad の小説 “Heart of Darkness” を解説する。
10	イギリスの劇作家・ベストセラー作家 W. Somerset Maugham の自伝的小説 <i>Of Human Bondage</i> の説明。
11	同じく <i>Of Human Bondage</i> の説明。
12	同じく <i>Of Human Bondage</i> の説明。
備考	

科目名	英米文学概論 4 英米文学概論 4 (旧)	担当者名	富士川和男 (前期) 島田 啓一 (後期)
-----	--------------------------	------	--------------------------

前期

講義の目標	イギリス文学を歴史的視点から概観することで、その特性を探ぐる。		
講義概要	講義形式で行なう。各テーマのもとに、課題について論述するが、「文学との接し方」を総合的テーマとする。		
使用教材	テキスト	特定のテキストは使用しない。	
	参考文献		
評価方法	期末テスト1回		
受講者に対する要望など	各課題についての興味を、自主的に考えること。		

後期

講義の目標	アメリカ文学の概略を知り、「主要な」作家、詩人たちの作品にできるだけ直接触れる（小説、短編小説、詩などの抜粋を実際に読んでもらう）ことで学生諸君にアメリカ文学の魅力を発見してもらう。		
講義概要	米文学史の概略をなぞるが、19世紀のホーソンやメルヴィルの時代の小説と詩、米小説のリアリズムからモダニズムへの発展、60年代以降顕著になってきたマルチカルチャリズム（文化多元主義）に焦点をあて、プリントなどで作品の一部を読み、鑑賞してもらう。担し、通常とは逆に現在から過去に向かって、講義を進める予定。		
使用教材	テキスト	板橋好枝・高田賢一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』	
	参考文献	福田陸太郎・岩本巖・酒本雅之編『アメリカ文学研究必携』〈増補版〉(中京出版,1985)	
評価方法	定期試験70%、不定期に課す小レポートと小テスト30%の予定。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イギリス文学の複合的性格。 アングロ・サクソンの渡来からノルマン王朝の成立。 近代英語の成立まで。
2	イギリス・ルネッサンス、Ⅰ 中世文学とその崩壊 エリザベス朝文学総論
3	イギリス・ルネッサンス、Ⅱ シェイクスピアの喜劇と史劇。
4	イギリス・ルネッサンス、Ⅲ シェイクスピアの悲劇とロマンス劇 ミルトンの失楽園。
5	18世紀文学の諷刺性 ドライデンとボウブ サムエル・ジョンソン
6	ロマン主義と T.S. エリオット ワーズワースとロマン派詩人たち 現代詩の展望
7	イギリス小説Ⅰ リアリズム
8	イギリス小説Ⅱ 社会的背景
9	イギリス小説Ⅲ 伝統と革進
10	18世紀以後のイギリス演劇Ⅰ 風俗喜劇 近代劇
11	18世紀以後のイギリス演劇Ⅱ 第2次大戦後
12	総括 イギリス文学の倫理性
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	マルチカルチャリズム(1)：概説。〈以下、() 内は授業で読む予定の作品名〉
2	マルチカルチャリズム(2)：African American WritersとJewish Writers (Bernard Malamud, "The First Seven Years")
3	マルチカルチャリズム(3)：Jewish Writers ("The First Seven Years")
4	モダニズム(1)：Post Modernism の作家たちと William Faulkner (<i>The Sound and the Fury</i>)
5	モダニズム(2)：William Faulkner (<i>The Sound and the Fury</i> と "That Evening Sun")
6	モダニズム(3)：Anderson, Hemmingway, Gertrude Stein, Faulkner ("That Evening Sun")
7	"Gender/Class/Race" : Mark Twain の場合 (<i>The Adventures of Huckleberry Finn</i>)
8	19世紀の詩：E. A. Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson (詩を数編)
9	ホーソンとメルヴィルの時代(1)：Nathaniel Hawthorne と Herman Melville (作品は未定)
10	ホーソンとメルヴィルの時代(2)：Nathaniel Hawthorne と Herman Melville (作品は未定)
11	ホーソンとメルヴィルの時代(3)：Nathaniel Hawthorne と Herman Melville (作品は未定)
12	創世期のアメリカ文学： Benjamin Franklin, Charles Brockden Brown, Washington Irving, James Fenimore Cooper, etc.
備考	

科目名	国際コミュニケーション概論1 国際コミュニケーション概論1 (旧)	担当者名	阿部純一 (前期) 石井 敏 (後期)
-----	--------------------------------------	------	------------------------

前期

講義の目標	現代国際関係の形成過程、構造、問題点の分析を通じて、国際社会の動態を理解するための基礎知識を習得する。		
講義概要	国際関係論は国際政治、国際経済、外交史、社会学、軍事研究など多岐にわたる学問領域を総合するものである。そのなかでも、とくに初めて国際関係論に接する者にとって必要なのは第2次大戦後の世界の構造的変化への理解であろう。本講義では、そうした点に重点を置いて現代国際関係の概観を提示することをこころがける。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	必要に応じて紹介する。	
評価方法	論述筆記試験 (試験の実施方法については講義でガイダンスを行う)		
受講者に対する要望など			

後期

講義の目標	本講義は、急速に進展する諸国家の相互依存化と国際社会における日本にとって不可欠な国際コミュニケーションの諸問題に関する理解を深めることを目標とする。同時に、国際間の相互理解や英語の学習・教育の目標と方法等に関する正しい態度を育てることを目指す。		
講義概要	最初に、「異文化コミュニケーション」との比較の視点から「国際コミュニケーション」の概念を明らかにする。次に、国際コミュニケーション活動の中心となるマス・メディア、情報の量と流れ、プロパガンダ等の問題を扱う。続いて、国際コミュニケーションに使用される言語の諸問題について考察する。		
使用教材	テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	
	参考文献	大前研一『世界が見える、日本が見える』(講談社)	
評価方法	多数の受講者が予想される講義科目なので、期末試験の成績による。		
受講者に対する要望など	定期的に出席し、復習を励行することによって理解を深める。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	学問としての国際関係論と、その研究対象・アプローチ
2	国際関係論の成立契機と問題意識
3	現代国際関係の展開（Ⅰ）第二次大戦の終結～米ソ冷戦の開始
4	現代国際関係の展開（Ⅱ）米ソ平和共存の時代
5	現代国際関係の展開（Ⅲ）冷戦終結への軌跡
6	システムとしての国際関係
7	国際関係における戦争と平和（Ⅰ）核時代の安全保障
8	国際関係における戦争と平和（Ⅱ）現代の国際紛争
9	国際関係の経済学（Ⅰ）ブレトンウッズ体制の成立～南北問題の発生
10	国際関係の経済学（Ⅱ）資源ナショナリズム～地域統合・経済摩擦
11	現代国際関係の直面する諸問題：人口、環境問題から核拡散まで
12	（予備日）
備考	講義内容および順序は必要に応じて変更する。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	現代日本社会における国際コミュニケーション研究及び教育の意義と必要性。「国際コミュニケーション」の定義と概念。「国際コミュニケーション」と「異文化間コミュニケーション」の共通点と相違点。
2	個人レベルから大衆及び国際レベルに至るコミュニケーション活動のレベル上の分類とそれぞれの主な特徴。古代から現代までのコミュニケーション活動の歴史の変遷。
3	国際コミュニケーションにおけるマス・メディアの目的と役割。国家・社会の実情と新聞、雑誌、ラジオ、テレビ等の主要メディアとの関係。
4	国際コミュニケーションにおける情報の量と流れ。国際的な主要報道機関と通信社の役割。
5	国際コミュニケーションにおける言論の自由と言論統制。報道の自由と報道管制の問題。
6	国際コミュニケーションにおけるイデオロギーの問題。プロパガンダないし政治思想宣伝の問題。
7	国連における国際コミュニケーション活動の主な特徴。使用言語と意思決定の問題。
8	国際コミュニケーションと世界語ないし国際語の使用状況。主要言語の使用分布と社会的背景。
9	国際コミュニケーションにおける世界語ないし国際語と政治・経済力の関係。使用言語の背景にあるイデオロギーの問題。
10	世界語ないし国際語としての英語、外国語としての英語、そして第2言語としての英語の区分とそれぞれの特徴。日本社会における英語学習・教育の目的と方法の正しい認識。
11	国際コミュニケーションにおける欧米先進国中心の情報の内容と提供方法の問題。日本が今後果たすべき役割。
12	第1回から前回までの講義の総復習とまとめ。国際コミュニケーション研究の今後の課題。
備考	

科目名	国際コミュニケーション概論2 国際コミュニケーション概論2(旧)	担当者名	町田喜義(前期) 阿部純一(後期)
-----	-------------------------------------	------	----------------------

前期

講義の目標	人々がいかにして相互間のコミュニケーションを行うかという点を明らかにする。		
講義概要	本講義の焦点は、コミュニケーションの領域と目的、コミュニケーション・プロセスに含まれる要因、人間行動における言語の役割を明らかにする。内容は講義計画の通りである。		
使用教材	テキスト	印刷物、ビデオ、その他を使用する。	
	参考文献	開講時に別紙配付する。	
評価方法	出席点15% マイナー・ペーパー(1):15% マイナーペーパー(2):20% 定期試験:50%		
受講者に対する要望など	遅刻は認めない(担当者の入室と同時にドアの鍵をかける)		

後期

講義の目標	現代国際関係の形成過程、構造、問題点の分析を通じて、国際社会の動態を理解するための基礎知識を習得する。		
講義概要	国際関係論は国際政治、国際経済、外交史、社会学、軍事研究など多岐にわたる学問領域を総合するものである。そのなかでも、とくに初めて国際関係論に接する者にとって必要なのは第2次大戦後の世界の構造的変化への理解であろう。本講義では、そうした点に重点を置いて現代国際関係の概観を提示することをこころがける。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	必要に応じて紹介する。	
評価方法	論述筆記試験(試験の実施方法については講義ガイダンスを行う)		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義概要の説明（「シラバス」参照、「国際コミュニケーション」の概念について）
2	コミュニケーション：その領域と目的 送り手と受け手について
3	コミュニケーション・プロセスのモデル：プロセスの概念やコミュニケーションの構成要素について
4	コミュニケーションの精度：効果の決定要因
5	学習：個人的状況におけるコミュニケーション
6	相互作用：対人コミュニケーションの目標
7	社会システム：コミュニケーションのマトリックス
8	意味とコミュニケーション：言語と意味
9	意味の次元：いろいろな種類の意味
10	観察と判断：知覚と構造化
11	推論：構造的蔽密性の適用
12	定義：意味を明確にする試み
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	学問としての国際関係論と、その研究対象・アプローチ
2	国際関係論の成立契機と問題意識
3	現代国際関係の展開（Ⅰ）第二次大戦の終結～米ソ冷戦の開始
4	現代国際関係の展開（Ⅱ）米ソ平和共存の時代
5	現代国際関係の展開（Ⅲ）冷戦終結への軌跡
6	システムとしての国際関係
7	国際関係における戦争と平和（Ⅰ）核時代の安全文障
8	国際関係における戦争と平和（Ⅱ）現代の国際紛争
9	国際関係の経済学（Ⅰ）ブレトンウッズ体制の成立～南北問題の発生
10	国際関係の経済学（Ⅱ）資源ナショナリズム～地域統合・経済摩擦
11	現代国際関係の直面する諸問題：人口、環境問題から核拡散まで
12	（予備日）
備考	講義内容および順序は必要に応じて変更する。

科目名	英語音声学 3、5	担当者名	清水 由理子
-----	-----------	------	--------

講義の目標	英語の音声についての基礎を学ぶ。英語を聞いて理解したり、話したりする時や将来、教職等で英語の発音指導をする上で助けとなるよう、米音・英音の特徴を日本語とも比較しながら講義する。また、頭で理解していても実際に発音できることとは必ずしも結びつかないので、実践を含めて身につけていくようにする。	
講義概要	予定表に掲げた項目を中心に進める。	
使用教材	テキスト	堀口俊一監修『現代英語音声学』 英潮社
	参考文献	
評価方法	半期完結科目であるので、学期末の試験結果により評価する。ただし、授業中に行うquizの結果を評価の際、参考にする。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	音声学とはどのようなことを研究する分野か。
2	音声表記について。(テキスト: Chapter I を参照) 発声の仕組み。(Chapter I, Exercises)
3	母音の特徴と分類。基本母音とは何か。英語の前母音について。(Chapter II)
4	英語の中央母音と後母音について。(Chapter II, Exercises)
5	英語の二重母音について。(Chapter III, Exercises) 子音の特徴と分類。(Chapter IV)
6	英語の閉鎖音、摩擦音、破擦音について。(Chapter IV)
7	英語の鼻音、側音、半母音について。(Chapter IV, Exercises)
8	子音群とは何か。英語における子音群の特徴。(Chapter V)
9	音の変化について。(音の連結、音の脱落、音の同化、強形と弱形) (Chapter VI, Exercises)
10	強勢とリズムについて。(Chapter VI, Exercises)
11	接続と抑揚について。特に、感情と抑揚の関係。(Chapter VII, Exercises)
12	まとめ
備考	

科目名	スピーチ・クリニック 1, 2, 4, 5	担当者名	津田 望
-----	-----------------------	------	------

講義の目標	英語音を発するためのメカニズムや練習法を説明し、また実際の音を個別的にチェックしていくことにより、発音と hearing の両面の改善をめざす。	
講義概要	本講義は LL を使用し、視覚的また聴覚的フィードバックを繰り返し使用しながら学習する。この授業では、英語音のほぼ全ての子音と主な母音をとりあげる。ここでは、音声学の理論的な説明はほとんどしない。そのため、前期この授業をとる学生は、英語音声学の概要を知っておくことを勧める。授業の流れとしては、①pre-recording で、自分のこれまでの英語音を録音しておく。②そのターゲット音を発する時の、構音器官連動のメカニズムを説明・練習した後、実際音を個別にチェックしていく。③post-recording で、改善後の音を録音する。④練習前後の音を比較し、その改善のようすを確認する。また学期の最後には、パソコンによる音声分析を行ない、native 音との比較を行なう。	
使用教材	テキスト	未定
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ English pronunciation exercises for Japanese Students, Harriette Gordon Grate (1974) ・ Sounds and Rhythm-A Pronunciation course W. D. Sheeler et al. (1991)
評価方法	毎回の授業時のチェックと、授業中に行なう数回の quiz を基準にする。その他、授業への参加/貢献度と、欠席/遅刻を考慮に入れる	
受講者に対する要望など	授業は、授業開始チャイムの終了と同時に始める。遅刻は10分まで。それ以後は、欠席とする。	

年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	英語音を発音するために。breathing, intonation, pitch などについて。
2	破裂音 / p b t k g /
3	母音 / I i /
4	摩擦音 / f v θ ð /, quiz
5	母音 / e e' /
6	摩擦音 / s z ʃ ʒ /
7	母音 / æ a ʌ /, quiz æ, ʌ
8	流音 / r l /
9	流音の続きと母音 / ʃ ə ə /
10	母音 / u U /
11	鼻音 / n ŋ /, まとめの quiz
12	コンピュータシステム使用の音声分析
備考	

科目名	スピーチ・クリニック 3	担当者名	大西 雅行
-----	--------------	------	-------

講義の目標	英語の標準的な発音と普通の速さの英語音が聴取できる能力を目指す。	
講義概要	アメリカ英語の母音、子音、ストレス、リズム、イントネーションの理論を基に聴取訓練と発音矯正を行い、自然の米音が発音できるようにする。formal situation での phrases、dialogues、reading passages、oral presentations など数々の練習を reductions や simplifications などの音現象を取り入れて行う。音訓練のためLL教室を使うので、テープは毎授業、必携。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	
評価方法	期末のテストと平常点。	
受講者に対する要望など	欠席しないこと。	

年 間 講 義 予 定

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	母音——(1)
2	母音——(2)
3	二重母音
4	強音節と弱音節、音節の消滅
5	母音の弱化
6	ストレス
7	リズムグループ、ポーズと連結
8	子音——(1)
9	子音——(2)
10	語尾の無声音 帯気音
11	母音の長さ、語尾の子音
12	イントネーション
備考	

科目名	専門講読 (英語学) 1 専門講読 (英語学) 1 (旧) 英語講読 (英語学) 1 (旧旧)	担当者名	阿部 一
-----	---	------	------

講義の目標	本講義はいくつかのアメリカ映画を「会話分析」(conversational analysis)の観点から研究するものである。合わせて、総合的な英語力のレベルアップを図る。		
講義概要	前期は昨年度その前半を使用したBIGの後半部分を材料に、「会話分析」の基本的な考え方や枠組あるいは分析方法などについて解説を加える。と同時に、発表形式による映画研究を行なう。後期は他のアメリカ映画を取り上げて実際に会話分析を行なってみる。なお、フレームに基づく発表も引き続いて行なう。		
使用教材	テキスト	Drew & Heritage (eds.); <i>Talk at Work</i> (CUP) *部分使用 Tannen; <i>Talking Voices</i> (CUP) *部分使用 Corpus プリント配布	
	参考文献	未定 (第1回目の授業時にリーディング・リスト配布)	
評価方法	授業課題として①授業内発表のグループ及び個人発表 (含ハンドアウト) ②学年末に規定のテーマに基づいたレポートの提出③発表重視型の授業につき出席はキチンとする。評価は総合評価とし割合の目安は①グループ40%/個人30%②20%③10%である		
受講者に対する要望など	ワープロかパソコンが使えることが望ましい。		

科目名	専門講読 (英語学) 2 専門講読 (英語学) 2 (旧) 英語講読 (英語学) 2 (旧旧)	担当者名	大竹 孝 司
-----	---	------	--------

講義の目標	<p>本講義は、英語音韻論の最近の考え方の基本になる知識を紹介することを目標とする。音韻論は統語論と比べると我が国では余りなじみがないようであるが、言語学の基本分野の一つである。統語論が単語間の文法を扱うものとすれば、音韻論は音声の文法に相当するものである。音声についての学問には音声学と音韻論があるが、前者が音声自体の記述を目指すのに対して、後者は意味を担う音声の機能と構造を明らかにするものである。</p>	
講義概要	<p>本講義の教科書は英語音声の生成に関わる基本知識、英語の子音や母音の特徴、分類などから始まり、音韻分析に必要な概念や知識などを初めて音韻論を学ぶ人にも無理なく理解できるように平易に書かれたものである。よって、2年生にも十分理解できるものである。</p> <p>この講義では、一人当たり数頁の内容を理解した後、ワープロで作成したハンドアウトで発表してもらうもので、1年次の講読とは全く異なる形式をとる(英文を正しく理解するには、一つの節或いは章全体の内容理解の訓練が大切である)。発表の後で内容について質疑応答の形式で議論を行なう。準備に要する時間はかなりになるが、英文の読み方、資料に基づく発表の仕方など学ぶものは多いはずである。</p>	
使用教材	テキスト	H. Giegerich ; <i>English Phonology : an Introduction</i> , Cambridge University Press.
	参考文献	第一回目の授業で紹介する。
評価方法	<p>授業での(1)発表の質、(2)質疑応答への貢献度、(3)前期と後期のレポートによって評価をする。前期の提出日は後期の第1週目の授業とし、後期は1月28日とする。提出先は教務課。</p>	
受講者に対する要望など	<p>本講義は初めて音韻論を学ぶ人にも十分理解できるものであるが、音声・音韻論の講義を併せて受講すれば、より理解が深まるであろう。</p>	

科目名	専門講読 (英語学) 3 専門講読 (英語学) 3 (旧) 英語講読 (英語学) 3 (旧)	担当者名	大西雅行
-----	--	------	------

講義の目標	英語の調音音声学に関する論文をいくつか読み、実際音習得に有効な理論形成を行う。	
講義概要	輪読で進め、討論しつつ解説を加えていく。	
使用教材	テキスト	プリント
	参考文献	
評価方法	年2回のテストによる。	
受講者に対する要望など	出席は重視する。	

科目名	専門講読（英語学） 4 専門講読（英語学） 4（旧） 英語講読（英語学） 4（旧旧）	担当者名	川崎 潔
-----	--	------	------

講義の目標	<p>英語英文学を学ぶ者にとって、英訳聖書、殊に The Authorized Version (1611年出版) は W. Shakespeare の戯曲と共に必読の書であると言えよう。AV は先行する英訳聖書の粹を集めて集大成したものであり、それ以後信仰の書として読み続けられ、英米の文化と文学にも広く深い影響を与えてきたのであり、英語史家達からは、「英語散文の金字塔」であり、「近代英語の性格を決定した」と言われるに至ったからである。Book of Job のヘブル語原典は text の乱れがあるので、原典解釈上の進歩による改訂版 Revised Version で Book of Job を読むことにしたい。</p>	
講義概要	<p>Book of Job は、正しい人が苦難に襲われることがあるのは何故かという mystery of suffering の問題を中心として、神の絶対性と人間の浅はかさを教える偉大な宗教文学である。授業ではテキストを語学的に精読することに重点をおきたいと思う。Revised Version (1885年出版) は用語や文体がほぼ AV に似ているが、これを他の現代英語訳聖書、例えば Revised Standard Version (新旧両訳1952) や New English Bible (新旧両訳・外典1970) と読み比べることによって、両者の英語の違いを具体的に知ることができよう。</p>	
使用教材	テキスト	齋藤 勇注釈； <i>The Book of Job (in the Revised Version)</i> , 研究社
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・浅野順一『ヨブ記の研究』創文社 ・浅野順一『ヨブ記注解』Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 創文社 ・浅野順一『ヨブ記——その今日への意義』(岩波新書)
評価方法	前期と後期の2回の期末テストと平常点によって評価する。	
受講者に対する要望など	予習と復習を行なうことを要望したい。	

科目名	専門講読（英語学） 5 専門講読（英語学） 5（旧） 英語講読（英語学） 5（旧旧）	担当者名	児玉仁士
-----	--	------	------

講義の目標	英語の速読による読解力を涵養すること、英語の歴史的変遷の過程についての理解を深めること、この2つがこの講義の目標である。	
講義概要	<p>新学期の最初の1週間は、英語の持つ言語的・歴史的特性について解説し、それ以降は以下の項目について、通読することになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 古期英語：発音・綴り・文法・原文 2. 中期英語：発音・綴り・文法・原文 3. 近代英語：発音・綴り・文法・原文 4. イギリス英語・アメリカ英語 5. 語と意味 	
使用教材	テキスト	T. Pyles & J. Algeo; <i>The Origins and Development of the English Language</i>
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ Tom McArthur; <i>The Oxford Companion to the English Language</i> ・ 松浪有編『英語史』大修館 ・ H. コツイオル著『英語史入門』南雲堂
評価方法	<p>前期・後期の定期試験の成績と年2回のレポートの評価に、出席状況を加味して、総合評価する。</p> <p>第11章; New Words from Old (前期のレポート)</p> <p>第12章; Foreign Elements in the English Word Stock (後期のレポート)</p>	
受講者に対する要望など		

科目名	専門講読 (英語学) 6 専門講読 (英語学) 6 (旧) 英語講読 (英語学) 6 (旧旧)	担当者名	清水 由理子
-----	---	------	--------

講義の目標	効果的な読み方を身につけることを目標とする。		
講義概要	<p>いろいろなタイプの英文を多く読みながら文章の構成法を学んだり、読書の楽しさを味わってほしいと思っている。多く読むためには、速く読むことも必要になるので、そのための基本的な訓練を前期に含める。</p> <p>以下のことについての実践を中心に進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 速読のための訓練 2) 文章構成について学ぶ 3) 読んだことの要旨を書くこと 		
使用教材	テキスト	Mary C. Fjeldstad: <i>The Thoughtful Reader—A Whole Language Approach to College Reading</i> , Harcourt Brace & Company.	
	参考文献	上記の他に速読用のテキストを使用する予定。テキストについては開講後に指示する。また、課外にも何冊かの本を読む。	
評価方法	前期・後期の期末試験と平常点 (出席状況とレポート) で最終評価を出す。		
受講者に対する要望など	<p>★書籍代がかかると思って下さい。</p> <p>★詳しい説明を第一回目の授業で行いますので、これに必ず出席した上で登録してください。無断登録は認めません。</p>		

科 目 名	専門講読 (英語学) 7 専門講読 (英語学) 7 (旧) 英語講読 (英語学) 7 (旧旧)	担当者名	須賀川 誠 三
-------	---	------	---------

講義の目標	英語学・言語に関する評論文を読み、読解力・読書力を養うと共に、英語学・英文法などの基本的知識を身につけることを主要な目標とする。また、各種英語辞典・英語学事典類を随時紹介し、これらの特色・使用法などに触れたい。	
講義概要	<p>本講義では、原著から、今日の英語の運用に役立つ数章を選び読んでいく予定。</p> <p>第1章 Our ever-changing language 第3章 The power and complexity of words 第5章 Where usage is a problem</p> <p>第1章は、変容する現代英語の諸相を描いたもの。第2章は、豊かな時代とことば、若者の影響、米語の影響を扱ったもの。第3章は、英語の慣用法の問題を論じたもの。</p> <p>これらの章を精読し、問題点を指摘していきたい。</p>	
使用教材	テキスト	R. Quirk & G. Stein: <i>English in Use (An Introduction to Standard English)</i> (桐原書店版使用)
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 『言語学・英語学小辞典』 安藤貞雄他共編 北星堂 『英米語用法小辞典』 安藤貞雄著 大修館書店
評価方法	評価は、前期・後期の試験と平常点による。出席は重視する。	
受講者に対する要望など	<p>順次発表していただくが、当たった人は責任を持って自分の分担を果たすこと。辞書・事典類をよく引くこと。受講希望者は、第1回目の授業に出席し必ず受講の承認を受けること。</p>	

科目名	専門講読 (英語学) 8 専門講読 (英語学) 8 (旧) 英語講読 (英語学) 8 (旧旧)	担当者名	長谷川 欣 佑
-----	---	------	---------

講義の目標	自由な言語表現、創造的な言語使用を可能にしている「ことばの仕組」を解明することを目標とする、生成文法理論の入門。		
講義概要	Radford (1981), <i>Transformational Syntax</i> の中から適当な数章を読んでテキストとする。時間があれば他の平易な論文も使用する。錯綜した言語データの中から規則性を見出し、仮説を立て、それを検証しながら次第に文法構造や一般的な原理を発見していくプロセスを学ぶ。同時に、論述調の英文の内容を的確に理解し、批判的に摂取し、自主的に考える訓練もかねる。		
使用教材	テキスト	上記テキストをプリントして配布	
	参考文献	Baker (1978), <i>Introduction to Generative-Transformational Syntax</i> (Prentice-Hall)/Haegeman (1994 ²), <i>Introduction to Government and Binding Theory</i> (Blackwell)	
評価方法	前・後期各一回のテストと授業への参加度		
受講者に対する要望など	毎回出席すること		

科目名	専門講読 (英語学) 9 専門講読 (英語学) 9 (旧) 英語講読 (英語学) 9 (旧旧)	担当者名	福田有美
-----	---	------	------

講義の目標	意味論・語用論・語法に関する題材を通して、英語という言語を、科学的に観察・分析するとはどういうことかを学んでゆく。言語学の考え方や態度を身につける入門者向きであろう。	
講義概要	テキストの英文を読むことを出発点に、自ら観察を行い、言語学で問題になりうる言語資料を集め、実際に分析を試みることも課す。授業の進行状況により随時、課題とメ切りを発表することになるので、出席も重要である。	
使用教材	テキスト	Th. R. Hofmann、影山太郎共著; <i>10 Voyages in the Realms of Meaning</i> (10日間意味旅行), くろしお出版
	参考文献	
評価方法	普段の授業活動・定期試験・レポート等課題を総合的に評価する。	
受講者に対する要望など	開講初日に、詳しい授業計画を説明するので、登録希望者は必ず出席し、登録許可を得ること。	

科目名	専門講読（英語学）10 専門講読（英語学）10（旧） 英語講読（英語学）10（旧旧）	担当者名	鷺尾龍一
-----	--	------	------

講義の目標	言語学の文献を正確に読み、内容を批判的に検討する能力を身につけることを目標とする。	
講義概要	統語論と意味論の接点に関わる比較的最近の文献を読み、文の形式と意味について考える。	
使用教材	テキスト	未定
	参考文献	
評価方法	前後期各1回の試験とクラスへの参加状況によって評価する。	
受講者に対する要望など	初回に出席しない学生の受講は認めない。	

科目名	専門講読 (英語学) 11 専門講読 (英語学) 11 (旧) 英語講読 (英語学) 11 (旧旧)	担当者名	T. Hill
-----	--	------	---------

講義の目標	To study the rules and principles of language and behavior that goern conversation.	
講義概要	The text outlines structure of conversation describing what happens when people talk to each other and explaining why they say what they say in a wide variety of circumstances. The author explores many aspects of conversation, asking how conversations start, how we decide who will speak next, how we change the subject and how we know when a conversation is finished.	
使用教材	テキスト	How Conversation Works Ronald Wardhaugh Basil Blackwell
	参考文献	
評価方法	The course will be assessed on attendance, class participation, the writing of a number of papers and mid-term and final examinations.	
受講者に対する要望など		

科目名	専門講読（イギリス文学）12 専門講読（イギリス文学）12（旧） 英語講読（イギリス文学）12（旧旧）	担当者名	北澤 滋 久
-----	---	------	--------

講義の目標	D.H. Lawrence の “The Ladybird” を精読して、その芸術的表現の妙を味わい、また更に象徴的意味を把握して、作者がそこに注ぎこんだテーマを解明することに目標を置く。従って単に英語を日本語に訳して事足りるとはしない。文学作品を吟味し、思考するのである。		
講義概要	テキストは、今世紀最大の作家のひとり、D.H. Lawrence（1885-1930）の円熟期中編小説である。エジプト・ギリシャ神話を巧みに根底に置きながら病める現代物質文明を批判し、人類の新たな生きざまを模索する作者の心情がよく描かれた傑作で、晩年の長編、 <i>Lady Chatterley's Lover</i> にも繋がる内容を胎んでいる。随時解説を施しながら読を進んでゆくが、自らヨーロッパ文明の基盤を心得、現代の様相を鑑みるに積極的な態度をもってこの講読を受講して欲しいものである。		
使用教材	テキスト	D. H. Lawrence ; <i>The Ladybird</i> , 開文社	
	参考文献	北沢滋久著『D. H. ロレンス：その文学と人生』墨水書房刊	
評価方法	前・後期、計2回の試験、夏休み課題のレポート、および平常の勉学態度・成績によって評価する。		
受講者に対する要望など	それ相応の英語読解力の備わっている者の弛まぬ予習を前提とした上の、文字通りの「講読」の授業である。単位稼ぎのための用には不向きと思われるので、予め注意されたい。最初の授業に出席せずしての登録は、絶対に認めない。		

科目名	専門講読 (イギリス文学) 13 専門講読 (イギリス文学) 13 (旧) 英語講読 (イギリス文学) 13 (旧旧)	担当者名	児嶋 一男
-----	---	------	-------

講義の目標	<p>A. バージェスの「読書とは reread する創作行為である」という考えを実践しながら、現代文学について考えたいと思います。</p> <p>その基本として、わかったような気になってごまかしてしまうことなく、丹念に辞書をひらいて、1回に40-50行の英文を読み続けます。</p> <p>また、意識の流れの手法を分析しながら、書かれていることの真偽を議論したいと思います。</p>	
講義概要	<p>午前1時45分から2時20分。眠りつく前の女性の夢の意識を探訪します。この女性メリオン・ブルームは、現代文学の超有名人です。</p> <p>昼の間に抑圧されていた潜在意識めいたものが、どのように描きだされているのか？ はたしてどんな昼の世界があったのか？</p> <p>夢だから前後の脈絡はあまりありません。句読点のない文章に、自分で意味を想像して、読んでいくことになります。</p> <p>全部で1611行の英文です。今年度は800-1611行を読みます。1-800行の内容に関しては、前年度の受講者でまとめた概略を利用します。</p> <p>辞書をひく労をいとわないしつこさを持った者同士が、皆で自分の想像を話し合いながら、読み進めていきたいと思います。</p>	
使用教材	テキスト	James Joyce ; <i>Ulysses</i> (Garland 版)
	参考文献	<i>Ulysses</i> の注釈書やフランス語訳・ドイツ語訳など。
評価方法	<p>評価は、主として前期のレポート (9月下旬提出) と後期の試験・レポート (1月上旬提出) によります。</p> <p>これに授業中の発表内容や小レポートが加味されます。</p>	
受講者に対する要望など		

科目名	専門講読 (イギリス文学) 14 専門講読 (イギリス文学) 14 (旧) 英語講読 (イギリス文学) 14 (旧旧)	担当者名	近藤 ヒカル
-----	---	------	--------

講義の目標	<p>世界文学の最高傑作であり古典であるシェイクスピアの諸作品は、英語を専攻する者の必読書といえよう。言語が初期近代英語ということで一般には古い英語で書かれているとして敬遠され勝ちであるのに、現代でも生き続けている古典なのである。この授業ではシェイクスピアの劇作品をまず原文を理解し、その上で実際の舞台をビデオで鑑賞しようとしている。シェイクスピアを抜きにして英文学は語れないし、英語圏文化は語れない。その古典の素養を養うことを目的としている。</p>	
講義概要	<p>まず原文を精読する。そこには現代では廃れてしまった語義、しかもルネサンス期までの英国文化の一杯詰まった語義がある。何しろシェイクスピアの戯曲は「言葉が生命」だからである。さらに現代英語の文法の基礎的な事項がすべて出てくるので文法的に詳述する。その上で英国文化そのもののような背景—時代的・社会的・演劇的—を調べ、かくしてシェイクスピアの表現したかったものに近づくことができる。シェイクスピアの作品は単なる古典としての知識ばかりでなく、人間としての生き方まで教えてくれるのである。</p>	
使用教材	テキスト	William Shakespeare: <i>As You Like It</i> (Arden 版) (プリント)
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ <i>A Shakespearean Grammar</i>, E. A. Abbott ・ <i>Shakespeare-Lexion</i>, Alexander Schmidt ・ <i>The Oxford English Dictionary</i> ・ その他註釈書が多数出版されているので、注釈書がシェイクスピア研究の最良の手引書である。
評価方法	<p>前、後期の定期試験により評価する。出席は絶対条件とする。</p>	
受講者に対する要望など		

科目名	専門講読 (イギリス文学) 15 専門講読 (イギリス文学) 15 (旧) 英語講読 (イギリス文学) 15 (旧旧)	担当者名	白鳥正孝
-----	---	------	------

講義の目標	「習うより慣れよ」(Use makes perfect.) の観点から、面白くて、易しい英語を多読することを目標とする。昨年の実績は、夏の課題 (53頁) も入れると、547頁ほどであった。	
講義概要	引き読み『色分昔話集』を読む。全12巻の内、本年は8冊目。易しい内容のものをやや古風な英語で読む。Lang (Andrew 1844-1912) は多作家で60巻以上の著作があるが、本書は英語圏の児童文学の古典として必読のもの。さし絵も内容に適わしく幻想的であり、時に最もみじめなものがさまざまな冒険を経て報われたりするので、大人が読んで楽しみ、ある種の欲求不満の解消ともなろう。アンデルセンが一つ入っている他は、ローデシア、スコットランド (西ハイランド)、ジンバブウェー・モザンビーク (ショナ族)、ラプランドなど広く世界の周縁の民話が多い。進め方は、一回20頁程度を2人の共同責任でやってもらう。夏の課題に同類のものを40頁余り読んでもらう。	
使用教材	テキスト	Andrew Lang ed. <i>The Orange Fairy Book</i> . Dover 1968 (但し、初めはプリントで読む。登録後海外発注するため)
	参考文献	教室でそのつど指示する。
評価方法	夏の課題を含め、前後期のペーパーテストを総合して決める。	
受講者に対する要望など	ブロードウェイの芝居などにも案外、昔話に材をとっているものが多い。易しいなどといって馬鹿にする勿れ。	

科目名	専門講読 (イギリス文学) 16 専門講読 (イギリス文学) 16 (旧) 英語講読 (イギリス文学) 16 (旧旧)	担当者名	珍田 弥一郎
-----	---	------	--------

講義の目標	詩をどう読むか。まず詩をどう読んでいないか、からはじめる。その時の「詩」はどんなものであり、「読者」はどんな存在なのか。つぎに「読む」という行為のなかで、いったいなにが起っているのか。ことばを読むのか、ことばが読むのか、について。ことばが詩となり、詩人となり、「ことば」になる可能性について。	
講義概要	<p>前期：エセックス邸で行われたウスター伯の長女エリザベスと次女キャサリンの婚約式を祝う詩 <i>Prothalamion</i> を読む。10スタンザ180行よりなる。</p> <p>後期： <i>The Shepheades Calender</i> (1579) より 'November Eclogue' を読む。</p>	
使用教材	テキスト	EDMUND SPENSER: <i>SELECTED POEMS</i> , Edited by Shohachi Fukuda and Alexander Lyle (大修館書店)
	参考文献	
評価方法	評価は、授業中の発表と前後期の試験により総合的に決定する。	
受講者に対する要望など		

科目名	専門講読 (イギリス文学) 17 専門講読 (イギリス文学) 17 (旧) 英語講読 (イギリス文学) 17 (旧)	担当者名	長谷部 加寿子
-----	--	------	---------

講義の目標	シェイクスピアの劇作品を、立体的に劇として研究する。		
講義概要	<p>「マクベス」は、4大悲劇の最後の作品である。1606年シェイクスピア42才の時の作品である。現代にも通じる野望と殺人の果に、マクベスは一体何を得たのか。魔女達の呪縛の中で、マクベスとマクベス夫人の姿は暗示的である。</p> <p>授業の進め方は、グループ毎に短いシーンを演じて、原文の解釈、演技、演出について研究発表し、クラス討論する。</p>		
使用教材	テキスト	W. Shakespeare: <i>Macbeth</i> (The New Cambridge Shakespeare)	
	参考文献	授業で話す。	
評価方法	年二回原文での演技を行い、その演出論と、他の班の批評論の提出、及び年一回の「マクベス」論発表と提出を評価の対象とする。		
受講者に対する要望など			

科目名	専門講読 (イギリス文学) 18 専門講読 (イギリス文学) 18 (旧) 英語講読 (イギリス文学) 18 (旧旧)	担当者名	林 俊 一
-----	---	------	-------

講義の目標	<p>英国詩の最高、19世紀前半のRomantic Revivalの時に現れたロマン派の詩人の作品を中心に読みながら、その粋をさぐろうというものである。</p> <p>人生を真剣に考えた深刻な大人の詩が多いので、ごく軽い小さな詩や童謡のようなものを想像するのは大きな誤りである。詩心のない人にはきついかもしれない。昨年受講してかなり理解できたという人は、また来るのもよいかと思う。</p>	
講義概要	<p>教科書は前年度と同じ。イギリス・ロマン派の詩人というのは、この本でいえば、ワーズワース、コウルリヂ、シュリー、キーツが相当するが、今回はその前後の詩人も含めて簡単な解説を加えながら進めて行きたいので、ノートも用意のこと。作品は特に昨年扱わなかったものを主にするつもりである。前半はやややさしく、後半はややむずかしくなると思われる。全体的にはなるべくわかりやすい短い詩を選びたいので、昨年よりはいくぶん楽かと思われるが、時にはかなり難解なものもあるので詩の好きな人に来てもらいたい。</p>	
使用教材	テキスト	鳥海久義・千輪絹子・Selected. Poems (イギリス名詩選) Revised Edition 開文社
	参考文献	教科書が選集なので、特にこの教材用にまとめたものはない。その時時にその作者に関する参考書を見つけて来るしかないと思う。ただ岩波文庫などにはワーズワース、コウルリヂぐらいい訳がある。その他、訳本は作者別に図書館で根気よくさがせば大体あるはず(ただし、中には文語体でわかりにくいものもあり、私と解釈を別にするものもある。また、違った版の原詩から訳したもの、原詩に忠実でないものもあるから注意)。
評価方法	<p>成績評価は年2回の定期試験による。勝手なレポートは一切受け付けない。出席は絶対条件。欠席の多い者は単位取得不可能。出席は毎回とり、遅刻は認めない。</p>	
受講者に対する要望など	<p>第1回目には必ず出席のこと。(筆記用具持参で)</p> <p>詩に関心のない人は無理して出ると後悔するであろう。</p>	

科目名	専門講読 (イギリス文学) 19 専門講読 (イギリス文学) 19 (旧) 英語講読 (イギリス文学) 19 (旧旧)	担当者名	林 節 雄
-----	---	------	-------

講義の目標	劇作家・ベストセラー作家 Maugham 1928年初演の劇を用いてマナーの良いイギリス英語の話し言葉を研究し、われわれ自身が英語表現力を豊かにするのに役立てることを目標とする。		
講義概要	毎回5～6頁を読むこととし、前もって指名された学生数名が発音、意味、表現の問題点を指摘し、質問を受け、私が解説を加える。特に夫婦の間、親子の間の感情の表現の仕方に注意したいと思う。		
使用教材	テキスト	W. Somerset Maugham : <i>The Sacred Flame</i> . 北星堂	
	参考文献	必要に応じて授業中に紹介する。	
評価方法	前後期の定期試験と授業への参加度により評価する。		
受講者に対する要望など			

科目名	専門講読（イギリス文学）20 専門講読（イギリス文学）20（旧） 英語講読（イギリス文学）20（旧旧）	担当者名	藤田永祐
-----	---	------	------

講義の目標	<p>イギリスの代表的なエッセイストの古典的であると同時に現代性をもつ内容と文体のものを、細かく鑑賞しつつ読解力を養うことに目標をおく。土曜の夜に「チューボー（厨房）ですよ」というテレビ番組があります。視てると、素材の鮮度、複雑な組み合わせ、味つけの加減やタイミング、段階段階でのこつや要領、隠し味、等々、やはり巨匠の料理は一般人のとは違うわけだと感心させられる。料理でもそうなのだから、名エッセイストの文章においておやである。その内容や文体のこく（酷）や工夫を味わい、単なる読解力や分析を越えたものにしていきたいと思う。</p>		
講義概要	<p>形式は普通の講読。単語や語句の把握の深さを要求する点が異なると思います。つまり、英語を駆使する能力を伸ばす、という視点を常にもって読解をすすめます。単語、語句、文章の他の英語の表現による言い換え、文章の技巧の分析、等々常時とり入れて授業をすすめます。</p>		
使用教材	テキスト	; <i>Essays by Modern Writers</i> , (現代随筆選集) 成美堂	
	参考文献		
評価方法	二回のテストと平常点		
受講者に対する要望など	必ず予習をしておくこと。授業の個性を認識し、それに適応して欲しい。		

科目名	専門講読 (イギリス文学) 21 専門講読 (イギリス文学) 21 (旧) 英語講読 (イギリス文学) 21 (旧旧)	担当者名	三好 健
-----	---	------	------

講義の目標	T. ハーディ (1840~1928) の小説を楽しみながら、息の長い19世紀風の英文を読む練習をしたい。作者独特の人生観や人間感を考察し、英語を正確に読むこと、さらには文章を味わうことを目標としたい。そして出来ることなら、表現力養成にも役立てられればと考えている。		
講義概要	<p>“Alicia's Diary” から始めて、ハーディの短編を2~3冊精読する。主として英語の表現に注意しつつ読み進み、途中味わうべき点や表現力養成に役立ちそうな個所を指示する。</p> <p>1回に8ページぐらいのスピードで進が、随時学生諸君に発言を求めるので、下調べが必須となる。</p>		
使用教材	テキスト	Thomas Hardy; <i>Alicia's Diary</i> , 英宝社 (後期は “ <i>Life's Little Ironies</i> ” を読む予定)	
	参考文献		
評価方法	平常の成績と年2回の試験による。		
受講者に対する要望など	<p>遅刻・欠席の好きな学生はおことわり。</p> <p>受講希望者は1回目の授業に必ず出席して名前を届けること。</p>		

科 目 名	専門講読 (イギリス文学) 22 専門講読 (イギリス文学) 22 (旧) 英語講読 (イギリス文学) 22 (旧旧)	担当者名	山 田 修
-------	---	------	-------

講 義 の 目 標	イギリスの現代作家の生きた英語に触れながら、その内容をエンジョイする。	
講 義 概 要	イギリスの作家 John Wain (1925～) の短篇を 3 篇読む。前期は精神年齢は高いが肉体年齢は幼児の社会的風刺モノローグ 'Master Richard', 後期は男女の色恋のかけひきにまつわる会話 'Rafferty' とある男の演説 'An Address to the Literary, Philosophical and Debating Society' を読む。	
使 用 教 材	テキスト	John Wain ; <i>MASTER RICHARD AND OTHER STORIES</i> , 北星堂
	参 考 文 献	
評 価 方 法	前・後期の試験及び平常点にて行なう。	
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	受講希望者は最初の時間に出席して、受講許可を必ずとること。	

科目名	専門講読 (イギリス文学) 23 専門講読 (イギリス文学) 23 (旧) 英語講読 (イギリス文学) 23 (旧旧)	担当者名	山田 修
-----	---	------	------

講義の目標	普段読んだことのないスコットランド作家の作品を読み、何気なく手にした作品に思わずひきこまれてつい終りまで読んでしまうような読書をエンジョイしてもらえればよい。	
講義概要	現代スコットランド作家の短篇を数篇読む。	
使用教材	テキスト	プリント
	参考文献	
評価方法	前・後期の試験及び平常点にて行なう。	
受講者に対する要望など	受講希望者は最初の時間に出席して、受講許可を必ずとること。プリントはその時配布する。	

科目名	専門講読 (イギリス文学) 24 専門講読 (イギリス文学) 24 (旧) 英語講読 (イギリス文学) 24 (旧旧)	担当者名	山田 玲子
-----	---	------	-------

講義の目標	<p>シェイクスピアの喜劇の代表作を読みながら、シェイクスピア劇がもっている特質を、学生達が感取できるようになればよいと考える。もっとも、それは大変難しいことであるけれど……。</p> <p>エリザベス朝に独特な語義、文の構成などに慣れ、正確に内容を把握しながら、作品鑑賞することを目標とする。</p>	
講義概要	<p>テープを聞き、学生各自がパートを採って訳読するが、台本というものをテキストにしている事を常に忘れず、そこに書かれていない側面にまで気付き得るような目を育てられれば、それは戯曲を読むという事の意味が、半ば達成された事になると考えてよいだろう。</p> <p>すべてを一瞬の夢と見、それ故にこそ、その一瞬の夢のいのちを大切にしたい、そんな気持ちを起こさせるのが、シェイクスピア喜劇の真髄かもしれない。そんな事に年度末に気付いていただければ幸せだと考えながら授業をする。</p> <p>シェイクスピアが35才の頃に書かれた戯曲である。</p>	
使用教材	テキスト	<p>William Shakespeare: <i>As You Like It</i> (研究社詳注シェイクスピア双書)</p>
	参考文献	<p>テキストの注は詳しい。しかし語、或は、文法にこだわる時には、</p> <p>語に関して、 1. A. Schmidt, <i>Shakespeare-Lexicon</i>, 2 vols., Reimer, rep. Maruzen 2. C.T. Onions, <i>A Shakespeare Glossary</i>, Oxford U.P., rep. Kinokuniya</p> <p>文法に関して、 1. E.A. Abbott, <i>A Shakespearian Grammar</i>, Macmillan, rep. Senjo 2. 大塚高信『シェイクスピアの文法』研究社</p> <p>他に参考図書については教室で述べる。</p>
評価方法	<p>評価は年に二度の試験と、一度の観劇レポートの提出、及び、平常の授業への参加の態度の重視による。</p>	
受講者に対する要望など	<p>精読に耐え得る根気と、努力を惜しまぬ根性をもつてのぞまれない。</p>	

科目名	専門講読 (イギリス文学) 25 専門講読 (イギリス文学) 25 (旧) 英語講読 (イギリス文学) 25 (旧旧)	担当者名	山田 玲子
-----	---	------	-------

講義の目標	<p>ノエル・カワード (1899~1973) の喜劇としてのみならず、英国の風習喜劇の流れを汲む、20世紀の代表的な作品の一つであるこの喜劇『陽気な幽霊』を、いわばノンセンス劇としての戯曲の特質に、学生が気付き得るところまで読みこめれば望外の幸いである。</p> <p>戯曲は語られることばで書かれている。語られる英語の流れの秀れた感触を味わうことも目標としたい。</p>	
講義概要	<p>受講者各自がパートを採って訳読するが、台本というものをテキストにしている事を忘れずに、そこに書かれていない側面にまで気付き得るような目を育てられれば、それは戯曲を読むという事の意味が、半ば達成されたことになると思う。だがト書が多く書きこまれているこの戯曲の場合、不思議にそれは却って難しい。</p> <p>内容は小説家夫妻の家庭に招かれた霊媒が、先妻の幽霊を呼び出したために、この家庭に三角関係の大混乱が起こる「荒唐無稽な三幕の笑劇」で、英国演劇史にユニークな地位を占める作品である。理性に訴えるというよりは、むしろ情緒に語りかけることの多い作品で、作者の円熟期、1941年に書かれている。</p>	
使用教材	テキスト	Noël Coward ; <i>Blythe Spirit</i> , 北星堂
	参考文献	
評価方法	<p>評価は年に二度の試験と、一度の観劇レポートの提出、及び、平常の授業への参加の態度による。</p>	
受講者に対する要望など	<p>まじめに、楽しくノンセンスを味わう、ゆったりとした、しかし、ひたむきな、そんな態度でのぞまれない。</p>	

科 目 名	専門講読 (英・米文学) 26 専門講読 (英・米文学) 26 (旧) 英語講読 (英・米文学) 26 (旧旧)	担当者名	園 部 明 彦
-------	--	------	---------

講 義 の 目 標	<p>17世紀を代表する作家 John Dryden (1631-1700) は、詩人、劇作家としてばかりでなく批評家としても著名であった。本年度も昨年度に引き続き彼の代表的評論 <i>A Parallel of Poetry and Painting</i> (1695) を読み進めていく。晩年の作のためか、中期の <i>An Essay of Dramatic Poesy</i> (1668) に比して、文体は簡潔で、まさに laconism の粋を極めた感がある。受講者にとっては、非常に難解とは思いますが、一年を通してこの文体を味わっていきたい。スクール・グラマーの復習にもなるはずである。</p>	
講 義 概 要	<p>難解な文であるので、一語一語疎かにせず、厳密に読んでいく。特に分かりにくい箇所は、毎時間、受講者全員に訳出してもらうことにする。いわば、一種の演習と考えていただきたい。</p>	
使 用 教 材	テ キ ス ト	J. Dryden ; <i>A Parallel of Poetry and Painting</i> (プリント)
	参 考 文 献	
評 価 方 法	<p>毎時間、受講者全員が訳出した答案を10点満点で採点し、その年間の合計点で評価する。従って、欠席は非常に不利になることは言うまでもない。</p>	
受 講 者 対 する 要 望 等	<p>遅刻は認めないのも例年通りである。</p>	

科目名	専門講読 (英・米文学) 27 専門講読 (英・米文学) 27 (旧) 英語講読 (英・米文学) 27 (旧旧)	担当者名	富士川和男 (前期) 秋山 武夫 (後期)
-----	--	------	--------------------------

前期

講義の目標	現代イギリス短編小説選集をテキストとし、精読に心掛ける。 知編小説の鑑賞		
講義概要	テキストを出来るかぎり正確に読み取ることによって、一見さりげない表現や、ごく日常的な情景描写に、作者の精妙な意図が秘められていることに留意する。		
使用教材	テキスト	Best Selection of Modern English Short Stories (桐原書店)	
	参考文献		
評価方法	授業参加と期末テストによる。		
受講者に対する要望など	上記の目標に加えて、適切な翻訳に心掛けて学習すること。		

後期

講義の目標	アメリカ文学、アメリカ文化の基本的な事項を概観してみたい。		
講義概要	短編小説、エッセイを読み、移民の国アメリカのかかえている葛藤を考え、論じあいたい。 かつての南部社会の黒人問題と現状、現在の政治の状況、移民してきた一世と二世の問題、 日系アメリカ人の太平洋戦争時の苦難等を読んでみたい。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	プリント使用	
評価方法	出席と提出レポート、及びテスト。		
受講者に対する要望など			

科目名	専門講読 (英・米文学) 28 専門講読 (英・米文学) 28 (旧) 英語講読 (英・米文学) 28 (旧旧)	担当者名	E. Carney
-----	--	------	-----------

講義の目標	This course aims to encourage students to read good short stories for study, for vocabulary learning, and for sheer pleasure.	
講義概要	The stories are chosen for their active ingredients; thought-provoking, stimulating, and educational. Students will be invited to discuss the material and should be able to meet a challenge quiz on each story. We are also concerned with the writer's style, technique, and reader appeal. What the writer says between the lines must be given important consideration, too.	
使用教材	テキスト	Short story prints of : Roald Dahl, Stephen King, Ray Bradbury, and others.
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ Dahl's "The Visitor", "Bitch", "The Great Grammatizator", etc. ・ King's "Quitters", "Mrs. Todd's Shortcut", "The Ledge", etc. ・ Excerpts from Bradbury's "The Martian Chronicles", etc.
評価方法	Grading will be in the form of quizzes for each story. Students can gain supplementary bonuses by writing 'intelligent comments' and doing some supplementary research.	
受講者に対する要望など		

科目名	専門講読（アメリカ文学）29 専門講読（アメリカ文学）29（旧） 英語講読（アメリカ文学）29（旧旧）	担当者名	岡田 誠一
-----	---	------	-------

講義の目標	アメリカの代表的な黒人作家の作品を読むことにより、黒人文学のみならず広くアメリカ文学全般についての理解と鑑賞が可能となるような演習を目指すつもりである。また、テキストを精読することで、英語を専門とする学生が必要と思われる英語力を、十分培えるような授業を行おうと考えている。	
講義概要	アメリカ黒人文学を代表する作家、リチャード・ライトの代表作 <i>Native Son</i> 『アメリカの息子』は、アメリカ黒人による抗議小説の最高傑作とされているが、あまりにも強烈な抗議のため、それに抗議する黒人作家の出現を招くこととなった。ラルフ・エリソンはその最初の長編小説、 <i>Invisible Man</i> 『見えない人間』によって、抗議小説を目指す流派と袂を分かつことになった作家である。この1952年度最高のアメリカ小説として全国図書賞を受けた作品、アメリカ黒人のアイデンティティの喪失とその再発見をテーマとしている極めてユニークな作品、を精読していこうと考えている。なお、アメリカ文学を知るための一助として、年間数本の米文学に関係する映画を鑑賞する予定である。	
使用教材	テキスト	<i>Invisible Man</i> 『見えない人間』 英潮社ペンギンボックス
	参考文献	教室にて適宜指示する。
評価方法	評価は前後期の試験と出席状況、及び、どの程度予習して授業に臨んだか、などにより決定する。	
受講者に対する要望など	毎回当たるものと考え予習は必ずしてくること。	

科目名	専門講読（アメリカ文学）30 専門講読（アメリカ文学）30（旧） 英語講読（アメリカ文学）30（旧旧）	担当者名	香 取 豊
-----	---	------	-------

講義の目標	アメリカの文学作品を、語学・文学の両面から分析してゆく。		
講義概要	授業に於ては、基本的には訳読の形式を用い、学生を指名しこれを課す。従って出席を重視する。		
使用教材	テキスト	未定であるが、20世紀アメリカ小説の予定。	
	参考文献	なし	
評価方法	筆記試験を行うが、範囲は量的に仲々大変である。 出席状況を考慮した上で評価を定める。		
受講者に対する要望など			

科目名	専門講読 (アメリカ文学) 31 専門講読 (アメリカ文学) 31 (旧) 英語講読 (アメリカ文学) 31 (旧旧)	担当者名	佐藤 勉
-----	---	------	------

講義の目標	<p>本年度の専門講読は現代アメリカ文学の中でも、1900年代の作家たちの短編を扱う。その時代のアメリカの短編の特質を具体的に精読しながら把握し、その面白さを味わうことを目標とする。短編の内容の持つ虚構と現実の狭間をどのように解釈していくかが大切な問題となる。</p> <p>作者と物語の語り手との関係の捕え方、その歴史のおよびイデオロギー的な意味など、その短編の中でのいろいろな文学的特質を議論することもこの授業の楽しみとしたいと思う。</p>	
講義概要	<p>テキストに収録されている短編は年代順である。Washington Irving (1783-1858) から John Updike (b.1932) までアメリカ文学のなかで最もよく知られ、また最もよく読まれているものである。したがって常識としてのアメリカ文学の講読ということになるだろう。いわばアメリカ文学の短編における歴史的通読とも言えるものだから、アメリカ文学史の簡単な通読をしておくことが望ましい。受講者はアメリカ文学に興味を持ち積極的に授業に参加する意欲がないとついてこれないであろう。</p> <p>授業時間は限られているので収録されている全作品を読破することはできない。したがってこれらの中から主として一般的に Lost Generation に属する作家たちの作品を中心に読むことになるだろう。</p>	
使用教材	テキスト	James Cochrane: <i>The Penguin Book of American Short Stories</i> (Penguin Bks., 1994).
	参考文献	参考文献については授業時間に随時指示することになるだろうが、始めに簡単にまとめられたアメリカ文学史を読んでほしい。だいたいどんなものもすぐに入手できると思われるのであえて列挙することはしない。気に入ったものを自分で選んで読んでもらいたい。
評価方法	<p>評価は毎週の出席状況と前期と後期の定期試験によって行う。さらに毎回の授業で輪読するさいの出来不出来を採点に加味して総合的に行う。まじめに出席して与えられた仕事をきちんとこなすことが求められる。</p>	
受講者に対する要望など	<p>アメリカ文学に興味があり、物語をこよなく愛する学生の受講をのぞむ。割り当てられた仕事も出来ないようでは授業に参加していけないだろう。言われたことを何事にたいしても主体的に取り組めることである。</p>	

科目名	専門講読 (アメリカ文学) 32 専門講読 (アメリカ文学) 32 (旧) 英語講読 (アメリカ文学) 32 (旧旧)	担当者名	島田啓一
-----	---	------	------

講義の目標	ユダヤ系アメリカ作家バーナード・マラマッド (1914-1986) の短編集を読む。訳読はほとんどしないで、授業での質疑応答・討論により、作品解釈、作家理解、ユダヤ系アメリカ人文化に対する理解を深めたい。また、出来る限り多くの作品を読むことによって、英語の読解力、速読力を高めたい。	
講義概要	この短編集にはマラマッドの初期から晩年までの短編小説が25編収録されているが、授業で半数以上は読みたいと思っている。2週間に最低1編のペースで読んでいきたい。授業の前の週までに配布する作品の内容に関する質問表をもとに進めていく。授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習することが義務づけられる。授業では質問表をもとに質疑応答・討論を進めていくが、積極的に討論に参加することが望まれる。作品に関するミニ (マイクロ?) ・レポートを数回提出してもらう予定。	
使用教材	テキスト	Bernard Malamud, <i>The Stories of Bernard Malamud</i> (Farrar Straus Giroux, 1983)
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ Robert Solotaroff, <i>Bernard Malamud: A Study of the Short Fiction</i> (Twayne, 1989) ・ 岩本巖『マラマッド：芸術と生活を求めて』(冬樹社、1979)
評価方法	前期・後期の定期試験 (70%)、レポートと討論への貢献度 (30%) の予定。	
受講者に対する要望など	受講者には毎日3ページでいいから、このテキストを読んでもらいたい。	

科目名	専門講読（アメリカ文学）33 専門講読（アメリカ文学）33（旧） 英語講読（アメリカ文学）33（旧旧）	担当者名	原 成 吉
-----	---	------	-------

講義の目標	1950年代の後半に起こった「ビート・ムーブメント」を代表する作品を読みながら、60年代～70年代のカウンター・カルチャを再検討する。		
講義概要	「物質的豊かさからドロップ・アウトすることを目指したビートの運動は、国家という巨大になりすぎたモンスターに対する批判であり、同時にエコロジーへの無理解から自己崩壊の危機を招いてしまった産業主義的文明に向けられた批判でもあった」……このことを念頭におき、今のわたしたちの状況と考え合わせながら授業をすすめたい。具体的な作品は次のとおり——Jack Kerouac, <i>On the Road</i> (excerpt), <i>The Dharma Bums</i> (excerpt), <i>Mexico City Blues</i> (excerpt), Allen Ginsberg, "Howl," "Footnote to Howl", William Burroughs <i>Naked Lunch</i> (excerpt), Gregory Corso, "Variations on a Generation". なお、Gary Snyder, Lawrence Ferlinghetti, Michael McClure, Lew Welch, Bob Kaufman, Diane Di Prima, Bob Dylan などの詩作品も読む予定。ポエトリ・リーディングやパフォーマンスの様子もAVを使って紹介したい。		
使用教材	テキスト	Ann Charters, Ed.; <i>The Portable Beat Reader</i> , (Penguin Books, 1992)	
	参考文献	<i>Dictionary of Literary Biography : The Beats Literary Bohemians in Postwar America</i> Vol. I-II	
評価方法	前期・後期各1回のレポートと授業への参加によって決める。		
受講者に対する要望など	受講を希望する人へ：『大英和』のほかに <i>Webster's Third New International Dictionary</i> はあたってくこと。		

科目名	専門講読（アメリカ文学）34 専門講読（アメリカ文学）34（旧） 英語講読（アメリカ文学）34（旧旧）	担当者名	升水 一三
-----	---	------	-------

講義の目標	「日はまた昇る」「武器よさらば」「誰がために鐘は鳴る」「老人と海」など数々の名作をのこした Ernest Hemingway を学ぶ。		
講義概要	20世紀前半のアメリカ文学に聳える山系のひとつ「失われた世代」の作家たちに触れながら、中でも傑出しているE・ヘミングウェイの作品を訳読鑑賞する。 授業で主に扱う作品は「フランシス・マコーマーの短い幸福な生涯」「キリマンジャロの雪」になる予定。		
使用教材	テキスト	Ernest Hemingway の中篇・短篇集（年度頭初に指示）	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・「HEMINGWAY」高村勝治 研究社 ・「E. HEMINGWAY」佐伯彰一編 研究社 	
評価方法	出席・学習態度など授業参加への積極性。小テスト、前・後期末のテストなどによる。		
受講者に対する要望など	授講希望者が多過ぎるときは選考する場合もある。		

科目名	専門講読 (アメリカ文学) 35 専門講読 (アメリカ文学) 35 (旧) 英語講読 (アメリカ文学) 35 (旧旧)	担当者名	吉元清彦
-----	---	------	------

講義の目標および概要	<p>今日、われわれは「人工的」「戦略的」につくりだされるさまざまな音声や映像によるいわゆる「文化現象的風俗」の只なかにあつて、昼夜を問わず絶えずもろもろの情報伝達メディアを通して送り出されてくるおびただしい数・量の有益・無益・無害・有害なメッセージ群の洪水と明るく暗い、楽しく苦しい悪戦苦闘を強いられながら「屈しない」一日一日を「生きている」(?)のであろうか? そして一方で、たとえば、あいかわらずこの地球上から「戦争」という陰惨な愚行もなくなるということではなく、あいかわらずわれわれはいつでもどこでも殺しあい傷つけあう。(——なぜ?) (なぜって?)</p> <p>そういった苛酷な現代の状況からけっしてひとりまぬがれた例外的な存在として許されるはずのない「大学」というシステムの時間・空間の中で、われわれは人間の言葉による表現芸術としての「文学」作品に対する。文学テクストを読む(読み解く)のである。</p> <p>だが、「読む」とはどういうことなのか? 「作品」と、メッセージとしてのその作品の発し手たる作者と、そしてそれを受けとる側の読者であるわれわれの関係とは、それははたしてどのようなものであるのか。そしてまたどのような関係であるべきなのだろうか。</p> <p>文学テクストから何を読みとり、何を感じとり、そしてそれらをどのように受けとめるのか。そしてそれらの考察・検証の過程や結果を、発見や感動(喜怒哀楽)を、もしくは疑問なり問題なり反論なりを、言葉で表現(討論・論文)し、つまり「批評」行為というある域にまで高めていくことが当然のごとく求められてくるだろう。</p> <p>けっきょく、読み手の「読む」という行為がいかに意志的・主体的なものであり、どれだけの切実性を内包しているのかが問われるのであろう。</p> <p>すなわち、読む(もしくは、書く)ということの意味と「生きる」ということのそれとの関係性(表裏一体性)がきびしく問われることになる。したがって、ここまでの到達(認識)過程において、もしなんらかの不一致・欠落部分があるとすれば、そのときはお互いにただちに出発点に立ちもどり、いま一度最初から出なおすほかに方法はないのである。</p>		
使用教材	テキスト	<p>PHILIP ROTH: <i>GOODBYE, COLUMBUS</i> (1959)</p> <p>(どのeditionでも可)</p>	
参考文献	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ PHILIP ROTH: "THE CONVERSION OF THE JEWS"; "DEFENDER OF THE FAITH"; <i>PORTNOY'S COMPLAINT</i>, etc. ・ <i>READING PHILIP ROTH</i>, Ed. by A. Z. MILBAUER and D. G. WATSON, MACMILLAN PRESS, 1988 ・ MARCUS CUNLIFFE: <i>THE LITERATURE OF THE UNITED STATES</i>, Fourth Edition, PENGUIN BOOKS, 1954, 1991. etc. 	
評価方法	<p>平常点(授業時間内の発表および前・後期各1、2回のテスト)と、前期はレポート提出(締切日夏休み明け)、後期は筆記試験、による総合評価方式。</p>		
受講者に対する要望など	<p>1回目の授業でいろいろ説明したいとおもっています。また授業は毎回どんでん誰でも手を挙げてやってもらいます。(尚、毎時間冒頭にいろいろな名作のテープを聴く予定でいます。)</p>		

科目名	専門講読 (アメリカ文学) 36 専門講読 (アメリカ文学) 36 (旧) 英語講読 (アメリカ文学) 36 (旧旧)	担当者名	吉元清彦
-----	---	------	------

講義の目標および概要	<p>今日、われわれは「人工的」「戦略的」につくりだされるさまざまな音声や映像によるいわゆる「文化現象的風俗」の只なかにあつて、昼夜を問わず絶えずもろもろの情報伝達メディアを通して送り出されてくるおびただしい数・量の有益・無益・無害・有害なメッセージ群の洪水と明るく暗い、楽しく苦しい悪戦苦闘を強いられながら「退屈しない」一日一日を「生きている」(?) のであろうか? そして一方で、たとえば、あいかわらずこの地球上から「戦争」という陰惨な愚行もなくなるということはなく、あいかわらずわれわれはいつでもどこでも殺しあい傷つけあふ。(——なぜ?) (ナゼって?)</p> <p>そういった苛酷な現代の状況からけってひとりまぬがれた例外的な存在として許されるはずのない「大学」というシステムの時間・空間の中で、われわれは人間の言葉による表現芸術としての「文学」作品に対する。文学テクストを読む(読み解く)のである。</p> <p>だが、「読む」とはどういうことなのか? 「作品」と、メッセージとしてのその作品の発し手たる作者と、そしてそれを受けとる側の読者であるわれわれの関係とは、それははたしてどのようなものであるのか。そしてまたどのような関係であるべきなのだろうか。</p> <p>文学テクストから何を読みとり、何を感じとり、そしてそれらをどのように受けとめるのか。そしてそれらの考察・検証の過程や結果を、発見や感動(喜怒哀楽)を、もしくは疑問なり問題なり反論なりを、言葉で表現(討論・論文)し、つまり「批評」行為というある域にまで高めていくことが当然のごとく求められてくるだろう。</p> <p>けっきょく、読み手の「読む」という行為がいかに意志的・主体的なものであり、どれだけの切実性を内包しているのかが問われるのであろう。</p> <p>すなわち、読む(もしくは、書く)ということの意味と「生きる」ということのそれとの関係性(表裏一体性)がきびしく問われることになる。したがって、ここまでの到達(認識)過程において、もしなんらかの不一致・欠落部分があるとすれば、そのときはお互いにただちに出発点に立ちもどり、もう一度最初から出なおすほかに方法はないのである。</p>		
使用教材	テキスト	JOHN UPDIKE: <i>RABBIT AT REST</i> (1990) (どのeditionでも可)	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ JOHN UPDIKE: <i>RABBIT, RUN</i> (1960) ・ JOHN UPDIKE: <i>RABBIT REDUX</i> (1971) ・ JOHN UPDIKE: <i>RABBIT IS RICH</i> (1981) ・ DONALD J. GREINER: <i>JOHN UPDIKE'S NOVELS</i>, OHIO UNIVERSITY PRESS, ATHENS, OHIO LONDON, 1984. ・ MARCUS CUNLIFFE: <i>THE LITELATURE OF THE UNITED STATES</i>, Fourth Edition, PENGUIN BOOKS, 1954, 1991. etc. 	
評価方法	平常点(授業時間内の発表および前・後期各1、2回のテスト)と、前期はレポート提出(締切日夏休み明け)、後期は筆記試験、による総合評価方式。		
受講者に対する要望など	1回目の授業でいろいろ説明したいとおもっています。また授業は毎回どんどん誰でも手を挙げてやってもらいます。(尚、毎時間冒頭にいろいろな名作のテープを聴く予定でいます。)		

科目名	専門講読（英米文化）37 専門講読（英米文化）37（旧） 英語講読（英米文化）37（旧旧）	担当者名	阿部純一
-----	---	------	------

講義の目標	現代アメリカの対アジア外交の動向を分析する。	
講義概要	1980年代後半以来、アメリカの対アジア貿易は対欧州貿易を凌駕し、その差は確実に拡大しつつあり、それと軌道と同じくしてアメリカ外交におけるアジアの比重も高まっている。同様に、アジアもまた著しい成長による自信から、アメリカのリーダーシップをこれまでのようには受容しない状況も生じてきている。アメリカと日本、中国、朝鮮半島、ASEAN諸国とのかかわりを分析することによって、アメリカの対アジア政策の概要を知るとともに、世界で最もダイナミックな地域の国際関係の動態の把握に努める。	
使用教材	テキスト	アメリカの外交問題専門誌を中心に文献を選択し、プリントを配付する。
	参考文献	
評価方法	成績は授業時の学生の発表（レジメを必ず用意すること）と討議参加、すなわち「授業への貢献」が評価の基準となる。	
受講者に対する要望など	国際関係とくにアジアの最近の情勢について基礎的な知識を持っていることが履習の最低条件。	

科目名	専門講読 (英米文化) 38 専門講読 (英米文化) 38 (旧) 英語講読 (英米文化) 38 (旧旧)	担当者名	佐々木 輝 美
-----	---	------	---------

講義の目標	<p>マス・コミュニケーションからパーソナルコミュニケーションまで、さまざまなコミュニケーション状況の基礎となるコミュニケーションのプロセスを学んでいく。その意味では、コミュニケーション論の導入的な授業となり得る。コミュニケーションに関する基本用語、概念などを説明することができ、かつ、それらの用語を使って具体的なコミュニケーション現象を説明できるようになる事を目標とする。</p>	
講義概要	<p>以下の順でコミュニケーションについて学んで行く予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーション研究におけるプロセスの概念について 2) コミュニケーションの効果を高める要因について 3) コミュニケーションと学習について 4) コミュニケーションにおける感情移入の役割について 5) コミュニケーションと社会システムについて 6) コミュニケーションと意味の問題について 	
使用教材	テキスト	<p>下記のテキストからプリントを配布予定</p> <p>Berlo, D. K. (1960) <i>The Process of Communication</i>. Holt, Rinehart & Winston.</p>
	参考文献	
評価方法	<p>定期試験、レポート又はグループ発表、平常点の総合評価を行う。</p>	
受講者に対する要望など	<p>毎回、授業参加をモットーにクラスを進めていく。1回の授業で10ページ位進むので、必ず予習をしてくること。少なくとも2～3時間の予習が必要であろう。</p>	

科目名	専門講読（英米文化）39 専門講読（英米文化）39（旧） 英語講読（英米文化）39（旧旧）	担当者名	佐藤唯行
-----	---	------	------

講義の目標	<p>平均的な大学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解出来ていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎、各章毎の内容要約能力が常に求められます。そのため、本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を、授業の目標といたします。</p>		
講義概要	<p>使用するテキストは合衆国ユダヤ史の研究者フェインゴールドがアメリカ人の大学生向きに執筆した教科書です。そこにかかれた文章は比較的平易で、平均的な大学生でも辞書をひきながら読む事ができるでしょう。唯、時おり「特殊な単語」が登場することがありますので、そういう時には、労を惜しまず図書館へゆき「大きな辞書」で調べてください。合衆国ユダヤ人史の通史である本書の中で、この授業では第3章「植民地時代と独立革命期の経済におけるユダヤ人」、第4章「旧南部期の経済におけるユダヤ人」、第5章「ドイツ系ユダヤ人の経済的成功」を中心に訳読を行ないます。正確な和訳作業を各センテンス毎に行なうと同時に、パラグラフ毎の要旨をまとめる事が授業では要求されます。</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>Zion in America</i>, H. L. Feingold (1974) テキストはコピーを配布いたします。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>評価は試験結果60%、平常点40%、欠席が授業回数の1/3を超えた場合、試験結果が合格点に達していても単位を与えません。遅刻は3回で欠席1回分に換算します。</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	専門講読（英米文化）40 専門講読（英米文化）40（旧） 英語講読（英米文化）40（旧旧）	担当者名	四 宮 満
-----	---	------	-------

講義の目標	文化の現象の底を流れる基本的なコンセプトを理解し、その観点から、日米の社会文化、言語のいくつかの問題を考察する。	
講義概要	主として Edward T. Hall の著作を読み、問題点の理解を深める。また、学生自身の調査と討論も行う。	
使用教材	テキスト	<i>Dance of Life</i>
	参考文献	
評価方法	定期の試験と授業期間中のレポートによる	
受講者に対する要望など		

科目名	専門講読（英米文化）41 専門講読（英米文化）41（旧） 英語講読（英米文化）41（旧旧）	担当者名	杉山晴信
-----	---	------	------

講義の目標	<p>商業通信文（Commercial Correspondence）のみを扱う狭義のビジネス英語から脱却し、他の領域の英文ビジネス文書をも広く守備範囲として、国際取引に従事する者にとって不可欠な実務能力とリーガルマインドの早期涵養を目指します。具体的には、法律文書（契約書、定款等）と英文決算書の「実物」をテキストとして読み、当該分野に用いられる英語の特徴を理解することを縦軸に、専門用語に習熟し当該文書の内容を理解することを横軸にして、言語的知識と実務的知識の同時修得を目標とします。</p>	
講義概要	<p>前期は英文契約書と英文の会社定款を扱います。法律英語の文体や語法、英文契約書の構造、定款の記載事項などについて若干の説明を行った後、履修者に担当箇所を順次発表していただく予定です。</p> <p>後期は英文決算書を扱います。貸借対照表と損益計算書の意義、表示区分と読み方、各種の分析指標などについて十分な講義を行ってから、実在の企業の直近の決算書を読み、履修者に業績の検討を行わせませす。</p> <p>年間を通じ、上記のように、法律や簿記会計に関わる内容の学習が大きなウエイトを占めますので、予備知識のない学生は教室外でも積極的に知識を獲得するべく努力しなければなりません。</p>	
使用教材	テキスト	<p>プリントを当方で用意します。また、必要な資料（和英対照勘定科目表など）も無料配布いたします。</p>
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・長谷川俊明編『ローダス法律英語辞典』（東京布井出版） ・長谷川俊明『法律英語のカギ』（東京布井出版、1985） ・浅田福一『国際取引契約』（東京布井出版、1987） ・山城昌己『国際関係の法律相談』（学陽書房、1983） ・渡辺正直・寺坪修『英文簿記会計』（中央経済社、1984） ・渋谷道夫・飯田信夫『英文決算書入門』（日本経済新聞社、1991） <p>その他随時紹介します。</p>
評価方法	<p>出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、前期と後期の定期試験の結果を加味して決定します。</p>	
受講者に対する要望など	<p>コンスタントな出席と十分な予習・復習を強く要望します。特に、就職活動に時間をとられる4年生は注意して下さい。</p>	

科目名	専門講読（英米文化）42 専門講読（英米文化）42（旧） 英語講読（英米文化）42（旧旧）	担当者名	中村 粂
-----	---	------	------

講義の目標	英文を明確に音読し、正しく内容を把握する練習。 英米人の日本観及び日本人観を通して祖国日本の姿を見つめ直す。	
講義概要	予め数名を指名して音読・訳読させる。内容に沿って私の日本観や時局論を述べる。	
使用教材	テキスト	Edwin O. Reischauer: Japan and the World（世界の中の日本） 朝日出版社（予定）
	参考文献	
評価方法	平素の勤怠・意欲と定期試験。	
受講者に対する要望など	初回授業出席者の中、最前列から60名に限り授講を認める。それ以外は受講不可。	

科目名	専門講読（英米文化）43 専門講読（英米文化）43（旧） 英語講読（英米文化）43（旧旧）	担当者名	鍋倉健悦
-----	---	------	------

講義の目標	文化とは何か、コミュニケーションとは何かを学習しながら、異文化間コミュニケーションの上で起こる人間行動の違いを学ぶ。		
講義概要	文化はコミュニケーションであり、コミュニケーションは文化であるという立場から、人間の行動および思考様式というものを、文化と云う概念の中でとらえ、価値観、生活規範、言語、非言語行動が、コミュニケーションの中でいかなる役割を果たしているのかを学習する。		
使用教材	テキスト	UNDERSTANDING INTERCULTURAL COMMUNICATION（研究社出版）	
	参考文献	（日本人の異文化コミュニケーション）（北樹出版）	
評価方法	通常の授業とレポート。出欠は厳しくとる。また英語を専攻とする学生を対象としているので、リーディングも評価の基準となる。		
受講者に対する要望など	欠席しない学生。かならず予習して来る学生。文化やコミュニケーションに関心のある学生。		

科目名	専門講読 (英米文化) 44 専門講読 (英米文化) 44 (旧) 英語講読 (英米文化) 44 (旧旧)	担当者名	長谷川 倫 子
-----	---	------	---------

講義の目標	コミュニケーション研究の代表的な著作にふれることにより、コミュニケーションに関する問題領域の全体像をつかむ。		
講義概要	コミュニケーション研究における代表的な著作の抜粋を読む。要約を行なう部分と、精読する部分とを区別してゆく。必要に応じて詳しい解説も加え、討論も行なってゆく。		
使用教材	テキスト	Communication Studies : An Introductory Reader. eds. J. Corner and J. Hpwton	
	参考文献	講義にて紹介	
評価方法	評価は、前後1回のレポートと授業への参加度による。		
受講者に対する要望など			

科目名	専門講読（英米文化）45 専門講読（英米文化）45（旧） 英語講読（英米文化）45（旧旧）	担当者名	福井嘉彦
-----	---	------	------

講義の目標	一定水準の英文を読んで理解することができるようにする。		
講義概要	著者のチェスタンは英国エドワード朝時代の人。日本では『ブラウン神父物語』の作者としてある程度は知られているが、その時代最高度の知識人であり、文筆家であることはほとんど知られていない。その著作の基本は、キリスト教の伝統遺産に基づいており、この作品『正統論』はその中心をなすものである。テキストはその内の三・四・五の3章を抜粋してできている。題して、「おとぎの国の倫理学」・「世界の旗」・「キリスト教の逆説」。英国人知識人を読者として書かれたものであるため、学生諸君にはかなり困難な文章であると思われる。なお、テキスト変更の場合もある。		
使用教材	テキスト	Orthodoxy: G. H. Chesterton（北星堂）	
	参考文献		
評価方法	授業中での発表と、試験による。一定以上の欠席は不可の成績とする。最初の授業には必ず出席し、その際しめされたレポートを提出することで履修を認める。		
受講者に対する要望など	出席し、幾度も、要求された時は訳読発表をすること。		

科目名	専門講読（英米文化）46 専門講読（英米文化）46（旧） 英語講読（英米文化）46（旧旧）	担当者名	宮川 淑
-----	---	------	------

講義の目標	17世紀の王制復古（the Restoration）から現代までのイギリス史の概説書を読む。 但しテキストは1960年代で終わっているため、それ以後の時代については他の著作で補う。		
講義概要	第1章 From Restoration to Revolution 1660～1688から第11章 The Second World War and After 1939～1966までの政治・社会史が軸となっている。		
使用教材	テキスト	F. E. Halliday, <i>A Concise History of England, vol 2 (From Restoration to the Atomic Age)</i>	
	参考文献		
評価方法	前・後期2度の定期試験の成績に日常の授業における発表を加味して評価する。		
受講者に対する要望など			

科 目 名	専門講読 (英米文化) 47 専門講読 (英米文化) 47 (旧) 英語講読 (英米文化) 47 (旧旧)	担当者名	森 永 京 一
-------	---	------	---------

講 義 の 目 標	米国ジャーナリズムが抱える諸問題に対する理解を通じて、マスコミや米国事情などについての研究を進めること。		
講 義 概 要	受講学生の輪番制による発表および全員参加の討論を軸として講義を進行させます。		
使 用 教 材	テキスト	Howard Kurtz: Media Circus —— The Trouble with America's Newspapers 1993, Random House	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	平常点およびテスト		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	テキストは435ページあり、読破にはかなりのエネルギーを要するので、脱落の可能性ある諸君にはお勧めできません。		

科目名	専門講読 (英米文化) 48 専門講読 (英米文化) 48 (旧) 英語講読 (英米文化) 48 (旧旧)	担当者名	吉原 欽一
-----	---	------	-------

講義の目標	英文雑誌・新聞を通じて、現代のアメリカ政治・外交の動向を考察する。受講者に対して望むことは、単に英文を理解することにとどまらず、内容をしっかりと把握し、それに基づいて議論できるようになることである。		
講義概要	<p>昨年の米国の中間選挙は、共和党の地滑り的大勝利に終わった。選挙結果が示すところの「反クリントン」、「反ワシントン政治」そして「保守回帰」という現象は、恐らく一過性のものではなく、米国の政治システムそのものを根底から大きく突き崩す嚆矢となる可能性がある。そしていずれ共和党、民主党に変わる第三の政党が出現したり、無所属の大統領が登場するなど、米国の政治システムそのものが大変革するという事態にまで及んでいくかもしれない。そこで本稿では、まず第一に、両院において40年ぶりに過半数を制した共和党議会の動向に着目する。その上で米国における「保守回帰」現象がどういった意味を持つのか、そしてそれによって何が変わろうとしているのかを考察していきたい。</p>		
使用教材	テキスト	テキストはコピー配布する。	
	参考文献		
評価方法	授業での発言を重視する。		
受講者に対する要望など			

科目名	専門講読 (英米文化) 49 専門講読 (英米文化) 49 (旧) 英語講読 (英米文化) 49 (旧旧)	担当者名	J. J. Duggan
-----	---	------	--------------

講義の目標	The purpose of this course is to develop students' reading skills through the use of authentic reading materials, as well as introduce them to the reading of newsmagazines for information and pleasure and to build up their knowledge world events.		
講義概要	In this course, we will work on one or two readings from Time magazine per class. Students will be required to do the assigned reading and associated exercises as homework, and be ready to ask any questions they may have in class. In class, the material will be initially be covered for vocabulary and content comprehension, and then we will move on to discussion. Students will be expected to take part. Written reports on the readings will occasionally be assigned. As class participation is part of the grade, attendance is a must.		
使用 用 教 材	テキスト	TIME: We the People. L. Schinke-Llano(1989). Macmillan Language House.	
	参考文献		
評価方法	Grade assessment will be based on attendance and participation, homework assignments and reports, and a midyear and final exam,		
受講者に対する要望など			

科目名	専門講読 (英米文化) 50 専門講読 (英米文化) 50 (旧) 英語講読 (英米文化) 50 (旧旧)	担当者名	M. A. Schible
-----	---	------	---------------

講義の目標	The course is intended for students beginning a serious study of fiction. It's goal is to help them improve their reading skills and gain a deeper insight into American culture and values.	
講義概要	Weekly student lead discussions of the text which is one of the best satires from the postwar period.	
使用教材	テキスト	Kurt Vonnegut, <i>Cat's Cradle</i> (New York : Dell, 1963).
	参考文献	A glossary and discussion questions will be prepared by the instructor as a study guide.
評価方法	Grades will be based on active participation, attendance and at least two extended reports.	
受講者に対する要望など		

科目名	英作文1 英作文1 (旧) 英作文1 (旧旧)	担当者名	青柳 明
-----	-------------------------------	------	------

講義の目標	我々の身近な生活に関係のあるトピックに関して英作文を行う。日米両語の発想上の違い及び表現の相違点を認識し、日本人がよく犯す間違いに触れていく。	
講義概要		
使用教材	テキスト	『自然な英語表現演習』
	参考文献	授業時に指示する。
評価方法	評価は前・後期試験及び平常点を総合的に判断して行う。特にクラスでの参加を重要視するので、積極的に参加すること。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では講義概要の説明を行い、与えられたタイトルで簡単な英作文を書く。
2	第2回目の授業では「旅行」に関する内容の英作文を行う。(教科書：第1章 pp. 10-11)
3	第3回目の授業では第2回目に続き「旅行」に関する英作文を行う。(教科書：第1章 pp. 12-13)
4	第4回目の授業では「言語」に関する内容の英作文を行う。(教科書：第2章 pp. 17-18)
5	第5回目の授業では第4回目に続き「言語」に関する英作文を行う。(教科書：第2章 pp. 19-21)
6	第6回目の授業では「産業・公害」に関する内容の英作文を行う。(教科書：第3章 pp. 24-25)
7	第7回目の授業では第6回目に続き「産業・公害」に関する英作文を行う。(教科書：第3章 pp. 26-27)
8	第8回目の授業では「科学」に関する内容の英作文を行う。(教科書：第4章 pp. 32-33)
9	第9回目の授業では第8回目に続き「科学」に関する英作文を行う。(教科書：第4章 pp. 33-36)
10	第10回目の授業では「読書」に関する内容の英作文を行う。(教科書：第5章 pp. 40-42)
11	第11回目の授業では第10回目に続き「読書」に関する英作文を行う。(教科書：第5章 pp. 42-44)
12	第12回目の授業では「日常生活」に関する内容英作文を行う。(教科書：第6章 pp. 48-49)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では前期第12回目に続き「日常生活」に関する英作文を行う。(教科書：第6章 pp. 50-52)
2	第2回目の授業では「社会」に関する内容の英作文を行う。(教科書：第7章 pp. 56-58)
3	第3回目の授業では第2回目に続き「社会」に関する英作文を行う。(教科書：第7章 pp. 58-60)
4	第4回目の授業では「健康・病気」に関する内容の英作文を行う。(教科書：第8章 pp. 64-65)
5	第5回目の授業では第4回目に続き「健康・病気」に関する英作文を行う。(教科書：第8章 pp. 65-69)
6	第6回目の授業では「風景・自然」に関する内容の英作文を行う。(教科書：第9章 pp. 70-71)
7	第7回目の授業では第6回目に続き「風景・自然」に関する英作文を行う。(教科書：第9章 pp. 72-74)
8	第8回目の授業では「文化・文明」に関する内容の英作文を行う。(教科書：第10章 pp. 78-80)
9	第9回目の授業では第8回目に続き「文化・文明」に関する英作文を行う。(教科書：第10章 pp. 80-82)
10	第10回目の授業では paragraph recognition の練習を通して、英文 paragraph の特徴を学ぶ (プリント教材)。
11	第11回目の授業では第10回目に続き英文 paragraph の特徴を学び、簡単な paragraph writing を行う (プリント教材)。
12	第12回目の授業では第11回目の授業で行った paragraph writing へのコメントを行う。
備考	

科目名	英作文2 英作文2 (旧) 英作文2 (旧旧)	担当者名	青柳 明
-----	-------------------------------	------	------

講義の目標	日・英語の共通点と相違点を知り、できるだけ自然な英語らしい表現を学ぶ。また日本人がよく犯す間違いにも触れ、その原因を知る。		
講義概要			
使用教材	テキスト	『日・英語の比較による英作文』	
	参考文献	授業時に指示する。	
評価方法	評価は前・後期試験及び平常点を総合的に判断して行う。特にクラスでの参加を重要視するので、積極的に参加すること。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	主語の選び方
2	英語特有の主語構文
3	名詞と冠詞の生かし方
4	表現を豊かにする形容詞
5	動詞の文型(1)
6	動詞の文型(2)
7	自動詞か他動詞か
8	使役動詞の使い方
9	日本語・英語の態のちがい
10	助動詞による英語の発想
11	和文英訳と英語の時制
12	仮定法の生かし方
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	他人のことばを伝える話法
2	前置詞（副詞）と慣用句
3	副詞の位置
4	比較・程度の示し方
5	否定の構文
6	語句や文を結ぶ接続詞
7	考えをまとめる関係詞
8	口語表現の訳し方
9	応用問題
10	応用問題
11	応用問題
12	応用問題
備考	

科目名	英作文3 英作文3 (旧) 英作文3 (旧旧)	担当者名	市河千代子
-----	-------------------------------	------	-------

講義の目標	内容のよい随筆をよい英語（文法的に正しく、英語として認められる文章のことであるが）で表現する力を養うことが目的である。そのためには今まで蓄積した広い知識を活用出来るということ、文法に自信があるということが前提になつているのは当然である。	
講義概要	まづ随筆を書くということが、第一目的である。授業に全員が積極的に参加するため、各自が書いた essay を、クラス全員で批評をすることになる。その間に日本人としてよく間違える弱点を文法的に考えていくために、テキストを使用する。	
使用教材	テキスト	木塚晴夫、Roger Northridge; <i>Common Errors in English Writing</i> , Macmillan Language House
	参考文献	
評価方法	各自が書いた essay を中心に評価するが、テキストとして使用する <i>Common Errors in English Writing</i> を基礎にした文法的テストを加える。出欠の状況も最終評価の一部として加える。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業の内容を説明し、質問があれば答える。
2	essay を書くにあたり、心得ておく必要のある基礎知識を学ぶ。
3	与えられた題で essay を書く。
4	前の週に書いた essay の中より一、二篇を選んでコピーをし、クラス全員で批評をする。
5	テキスト Units 1,2,3をマスターする。
6	essay を書く。
7	前の週に書いた essay を全員で批評。
8	テキスト Units 4,5,6をマスターする。
9	essay を書く。
10	前の週に書いた essay を批評。
11	テキスト Units 7,8,10をマスターする。
12	テキスト Units 1より10までのテスト。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	essay を書く。
2	essay の批評。
3	テキスト Units 11,12,13をマスターする。
4	essay を書く。
5	essay の批評。
6	テキスト Units 14,15,16。
7	essay を書く。
8	essay の批評。
9	テキスト Units 17,18,19,20。
10	essay を書く。
11	essay の批評。
12	テキスト Units 11より20までのテスト。
備考	

科目名	英作文4 英作文4 (旧) 英作文4 (旧旧)	担当者名	四 宮 満
-----	-------------------------------	------	-------

講義の目標	自分の考えていることを正しく、説得性をもって表現できる能力をたかめる。	
講義概要	英文(テクト)をモデルとして分析し、発想のしかたや構造の理解を深め、そのあとテーマによるエッセイを書く。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	<i>The Practical Stylist</i>
評価方法	レポートによる	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業の進め方の説明、エッセイの構造についての理論的説明
2	資料(1)の分析、コメント テーマによる作文、課題の決定
3	資料(2)の分析、コメント 課題の作文の検討、テーマによる作文、課題の決定
4	資料(3) "
5	資料(4) "
6	資料(5) "
7	資料(6) "
8	資料(7) "
9	資料(8) "
10	資料(9) "
11	資料(10) "
12	理論的なまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	資料(11)の分析、コメント テーマによる作文、課題の決定
2	資料(12)の分析、コメント 課題作文の検討、テーマによる作文、課題の決定
3	資料(13) "
4	資料(14) "
5	資料(15) "
6	資料(16) "
7	資料(17) "
8	資料(18) "
9	資料(19) "
10	資料(20) "
11	資料(21) "
12	全体のまとめ
備考	

科目名	英作文 5, 6 英作文 5, 6 (旧) 英作文 5, 6 (旧旧)	担当者名	中 村 榮
-----	---	------	--------

講義の目標	既習文法事項の作文への応用力を養ふと共に、和文英訳のコツを会得してもらふ。	
講義概要	文法応用の和文英訳実作練習。問題は基本的なものの中程度のものの両方から構成されてゐる。	
使用教材	テキスト	プリント。
	参考文献	
評価方法	平素の勤怠・意欲と試験成績。	
受講者に対する要望など	初回授業出席者の中、最前列から 50 名に限り受講を認める。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業概要説明。教材配布。
2	文・基本時制(1)。
3	文・基本時制(2)。
4	It の用法(1)。
5	It の用法(2)。
6	否定の用法(1)。
7	否定の用法(2)。
8	完了。
9	不定詞(1)。
10	不定詞(2)。
11	動名詞。
12	分詞。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	比較。
2	仮定法。
3	物主構文。
4	和文英訳実作演習(1)。
5	和文英訳実作演習(2)。
6	和文英訳実作演習(3)。
7	Precis Writing(1)。
8	Precis Writing(2)。
9	Precis Writing(3)。
10	自分の意見を英語で書く練習(1)。
11	自分の意見を英語で書く練習(2)。
12	自分の意見を英語で書く練習(3)。
備考	

科目名	英作文7 英作文7(旧) 英作文7(旧旧)	担当者名	野本浩智
-----	-----------------------------	------	------

講義の目標	日本語の現代文の内容を、少なくとも文法的誤りのない、読んでわかる英文で表現する能力の養成が目標である。英作文は、与えられた日本文の解釈から始まるものであるから、この点にも留意しながら授業を進めることとする。		
講義概要	英作文は、その性質から、講義を聞いているだけでは上達するものではない。実際に英文を書く練習をすることが、どうしても必要である。したがって、受講者は、毎週、英語を書くことを当然として出席しなければならない。授業の最初に、年間予定にあげている事項を説明し、知識が整理されたところで、練習問題にとりかかる。人数の関係で、指名された学生だけが黒板に解答を書き、それを添削する形になるであろうが、できるだけ個人的にも添削を行うことを考えている。年間予定を見て、十分に予習をしておくことが望ましい。		
使用教材	テキスト	長谷川 潔, Jeffrey B. Jones, Timothy J. Wright 『活きた英語の表現演習』成美堂	
	参考文献		
評価方法	試験も行うが、科目の性質から、平常点を主体として成績を評価する。 したがって、積極的に授業に参加することが絶対に必要である。		
受講者に対する要望など	予習。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間の予定と授業の進め方の説明
2	英作文の考え方 (教科書pp. 1-6)
3	主語の決定 (教科書pp. 7-12)
4	英語的発想に基づく主語 (教科書pp. 13-17)
5	冠詞の意味 (教科書pp. 18-22)
6	名詞と名詞構文 (教科書pp. 23-27)
7	形容詞の用法 (教科書pp. 28-32)
8	動詞の選択 (教科書pp. 33-37)
9	動詞の用法 (教科書pp. 38-43)
10	助動詞の機能 (教科書pp. 44-48)
11	時制の意味 (教科書pp. 49-53)
12	使役動詞と態の用法 (教科書pp. 54-58)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	仮定法の用法 (教科書pp. 59-63)
2	話法の機能 (教科書pp. 64-69)
3	副詞の用法 (教科書pp. 70-75)
4	否定の表現法 (教科書pp. 76-80)
5	比較の表現法 (教科書pp. 81-85)
6	準動詞の用法 (教科書pp. 86-91)
7	接続詞の用法 (教科書pp. 92-96)
8	関係詞の用法 (教科書pp. 97-101)
9	クリエイティブ・ライティング(1) (教科書pp. 102-108)
10	クリエイティブ・ライティング(2) (教科書pp. 109-111)
11	随筆文(1) (教科書pp. 112-116)
12	随筆文(2) (教科書pp. 117-120)
備考	

科目名	英作文 8 英作文 8 (旧) 英作文 8 (旧旧)	担当者名	野本浩智
-----	----------------------------------	------	------

講義の目標	現代国語で書かれた文章の内容を、文法的に正しく、英語として通用する文で表現できる能力を養うことが目標である。したがって、現代国語を読みこなす力がどうしても必要である。授業はこのことにも注意しながら進める。		
講義概要	講義を聞くだけでは、英作文の上達はあり得ない。実際に作文を書いてみるのが上達の秘訣である。授業は、年間予定に示している事項の説明から始める。終わったところで練習問題にとりかかる。人数の関係から、指名された学生が黒板に解答を書き、それを添削する方式になるものと思われるが、できるだけ個人的にも添削を試みることを考えているので、受講者は、年間予定に従って、十分に予習をし、自分で練習問題の解答を準備しておくことが必要である。		
使用教材	テキスト	須賀川 誠三, 川崎 潔 『異文化への旅—簡明英語表現—』 英宝社	
	参考文献		
評価方法	試験も行うが、科目の性質から、平常点を主体として成績を評価する。したがって、積極的に授業に参加することが絶対に必要である。		
受講者に対する要望など	予習。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間予定と授業の進め方の説明
2	文型の選択 (教科書pp. 7-12)
3	文の種類と用法 (教科書pp. 13-18)
4	主語の選択 (教科書pp. 19-24)
5	時制の選択(1)—単純時制 (教科書p. 25-30)
6	時制の選択(2)—複合時制 (教科書pp. 31-36)
7	自動詞と他動詞の用法 (教科書pp. 37-42)
8	不定詞と動名詞の用法 (pp. 43-47)
9	助動詞の用法 (教科書pp. 48-53)
10	態の用法 (教科書pp. 54-59)
11	形容詞と副詞の用法 (教科書pp. 60-65)
12	教科書 1—10の範囲でプリントによる和文英訳の練習
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	関係詞の用法 (教科書pp. 66-72)
2	接続詞の用法 (教科書pp. 73-79)
3	比較の表現法 (教科書pp. 80-85)
4	提案・要求の表現法 (教科書pp. 86-90)
5	依頼・勧誘の表現法 (教科書pp. 91-95)
6	条件・願望の表現法 (教科書pp. 96-101)
7	強度構文の用法 (教科書pp. 102-107)
8	否定構文の用法 (教科書pp. 108-113)
9	省略・代用の用法 (教科書pp. 114-119)
10	比喩表現の用法 (教科書pp. 120-125)
11	教科書11—20の範囲内でプリントによる和文英訳の練習
12	教科書の1—20の範囲内でプリントによる和文英訳の練習
備考	

科目名	英作文9 英作文9 (旧) 英作文9 (旧旧)	担当者名	野本浩智
-----	-------------------------------	------	------

講義の目標	与えられた和文の内容を、英文で正しく表現する能力を身につけることが目標である。そのためには、文法と語彙の知識の整理確認を確実に行うことが必要である。同時に、現代国語の読解力がなくてはならないものであることに注意しながら、授業を進める予定である。	
講義概要	一方的に講義を聞いてみるものが絶対的に必要である。受講者は毎週、英文を書くことを当然として出席しなければならない。授業は、年間予定に掲げてある事項の説明から始め、終わったところで練習問題に移る。人数の関係で、指名された学生が、黒板に解答を書きそれを添作する方式をとることになるであろうが、個人的に添削も可能な限り試みる予定である。受講者は年間予定である。受講者は年間予定に従って、十分予習をしておくことが望ましい。	
使用教材	テキスト	長谷川 潔, Christopher Tate『自然な日本語から自然な英語へ』成美堂
	参考文献	
評価方法	試験も行うが、科目の性質から、平常点を主体として成績を評価する。 したがって、積極的に授業に参加することが絶対に必要である。	
受講者に対する要望など	予習。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間予定と授業の進め方の説明
2	英作文の考え方 (教科書pp. 1-5)
3	名詞の複数形の用法 (教科書pp. 6-11)
4	冠詞の用法 (教科書pp. 12-17)
5	形容詞の用法 (教科書pp. 18-22)
6	自動詞と他動詞の区別 (教科書pp. 23-28)
7	時制の用法 (教科書pp. 29-34)
8	態の用法 (教科書pp. 35-38)
9	話法の区別 (教科書pp. 39-43)
10	動詞の意味と用法 (教科書pp. 44-49)
11	副詞句の用法 (教科書pp. 50-55)
12	副詞の用法 (教科書pp. 56-60)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	教科書の I ~ XI の範囲内でプリントによる和文英訳練習
2	接続詞の用法 (教科書pp. 61-66)
3	関係副詞と関係代名詞の用法 (教科書pp. 67-72)
4	名詞の用法 (教科書pp. 73-78)
5	名詞と冠詞の関係 (教科書pp. 79-84)
6	数詞の用法 (教科書pp. 85-89)
7	形容詞の意味と用法 (教科書pp. 96-101)
8	助動詞の用法 (教科書pp. 102-107)
9	前置詞・副詞の用法 (教科書pp. 108-112)
10	随筆文の訳し方 (教科書pp. 113-117)
11	自叙伝の訳し方 (教科書pp. 117-120)
12	
備考	

科目名	英作文10 英作文10 (旧) 英作文10 (旧旧)	担当者名	藤田永祐
-----	----------------------------------	------	------

講義の目標	英作文は結局のところ、総合的な能力が必要だと思います。文章や語句もある場合は、これこれベストと決まっているし、文法の知識も、基本的なところは確かに習得してする必要があります。そうした前提の上で文章は日本文でもそうであるように、なるべく工夫創意を常にこらす方が面白くまた実力も伸びると思います。自分の長所と弱点を自覚し、こつこつ努力する習慣を身につけることが大切。	
講義概要	テキストにそった実習が中心。時折テキストと無関係の親しみやすいエッセイに取りくんでもらい、生の自分の能力を別の角度からためすという形をとって進める。	
使用教材	テキスト	数多くの中から応用性と実用性の点から慎重に検討中。
	参考文献	
評価方法	年二回の試験と平常点。	
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	テキストとは独立した和文のエッセイを辞書を使用して英訳する。
2	テキストの実習。名詞構文が英文で多く用いられる理由についての解説
3	先々週のエッセイの英訳についてのコメント。テキストの実習。
4	テキストの実習。
5	テキストの実習。
6	テキストの実習。日本文の柔軟性と英文の柔軟性についての解説
7	テキストの実習
8	テキストの実習
9	和文のエッセイを辞書を使用して英訳する。
10	テキストの実習
11	先々週の実習についてのコメント。テキストの実習
12	テキストの実習。休み中の宿題について
備考	

後期

週	主要テーマ
1	テキストの実習
2	テキストの実習
3	ネイティブ・スピーカーの英文と日本人の英文に見うけがちな、一般的な違いについての解説。テキストの実習。
4	和文のエッセイを辞書を使用して英訳する。
5	テキストの実習
6	先々週の実習についてのコメント。テキストの実習
7	テキストの実習
8	テキストの実習
9	テキストの実習
10	テキストの実習
11	テキストの実習
12	テキストの実習
備考	今までの総括

科目名	エッセイ・ライティング1 エッセイ・ライティング1 (旧) 英作文 (エッセイ・ライティング) 11 (旧旧)	担当者名	阿部 一
-----	---	------	------

講義の目標	本講座は、基本的な英文が書ける人を対象に、いかにしてパラグラフからよりまとまりのあるエッセイに仕上げればよいかを体系的に解説・実践するものである。扱かう題材は簡単な随筆・評論文、小説、それに演説などとする。	
講義概要	前期は主として「生の英語」を題材に英語の構造の特徴、論理性そしてテキスト性などに関して幅広く研究し、かつ日本語との対照を行いかながら英作する場合の要領や注意点を考えている。後期は前期で学習したポイントを基に実際に「簡単明瞭な」英語を試みる。そしてその上で流れをいかに自然なものにしていくか、スタイル上の練習・解説も合わせて行なう。	
使用教材	テキスト	Meyer and Meyer, <i>How to Write</i> (Storm King) 〈予定〉 他
	参考文献	O'Connor, <i>Express Yourself in Written English</i> (NTC) 〈予定〉 他
評価方法	授業課題として①授業内発表 (ハンドアウトを作成し形式に従って行なう) ②学年末に規定のテーマに基づいたレポートの提出③前・後期の定期試験④発表重視型の授業につき出席を重視。	
受講者に対する要望など	ワープロかパソコンが使えることが望ましい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：日本人の英作文——体何が問題か？また、どうすればよいのか？ 総論及び実例についての解説
2	日本人の英作文——事例研究を通して文法上、機能上、意味上の問題点を考えてみる。
3	パラグラフについて考える——文からパラグラフへどう橋渡しするか。(その1) *優れた英文から学ぶ——絵本篇
4	パラグラフについて考える——文からパラグラフへどう橋渡しするか。(その2) *優れた英文から学ぶ——絵本篇
5	パラグラフについて考える——文からパラグラフへどう橋渡しするか。(その3) *優れた英文から学ぶ——絵本篇
6	パラグラフを発展させてみる——実例を研究して「論理性」を学び取ろう。(その1) *優れた英文から学ぶ——アメリカ教科書篇
7	パラグラフを発展させてみる——実例を研究して「論理性」を学び取ろう。(その2) *優れた英文から学ぶ——アメリカ教科書篇
8	パラグラフを発展させてみる——実例を研究して「論理性」を学び取ろう。(その3) *優れた英文から学ぶ——アメリカ教科書篇
9	パラグラフ展開法の技術と要領——時間や空間の流れを応用する法。 *優れた英文から学ぶ——評論文他篇
10	パラグラフ展開法の技術と要領——例証の仕方、比較・対照の仕方など。 *優れた英文から学ぶ——評論文他篇
11	パラグラフ展開法の技術と要領——理由づけ、定義づけなど。 *優れた英文から学ぶ——評論文他篇
12	前期の総まとめとビデオによる英文作法テクニック *ビデオ <i>How To Write Right</i> (King Wason)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	英作文サンプルの発表と検討——受講生のサンプルを具体的にチェックしてみる。(その1) *優れた英文から学ぶ——小説篇
2	英作文サンプルの発表と検討——受講生のサンプルを具体的にチェックしてみる。(その2) *優れた英文から学ぶ——小説篇
3	英作文サンプルの発表と検討——受講生のサンプルを具体的にチェックしてみる。(その3) *優れた英文から学ぶ——小説篇
4	パラグラフからエッセイへ——グループ学習によるテーマ・ライティングの実習(その1)
5	パラグラフからエッセイへ——グループ学習によるテーマ・ライティングの実習(その2)
6	パラグラフからエッセイへ——グループ学習によるテーマ・ライティングの実習(その3)
7	応用(その1)——書いたエッセイを人の前で発表してみる。 *ビデオにみるオーラル・プレゼンテーションの実際 ビデオ <i>Listen to Me</i> (MGM) など。
8	応用(その1)——書いたエッセイを人の前で発表してみる。 *ビデオにみるオーラル・プレゼンテーションの実際 ビデオ <i>Listening and Speaking</i> (Nelson) など。
9	応用(その1)——書いたエッセイを人の前で発表してみる。 *ビデオにみるオーラル・プレゼンテーションの実際 ビデオ <i>School</i> (HBO) など。
10	課外実習(その1)——パソコン通信でエッセイの交換をしてみる。 *ビデオによる「パソコン通信による英文添削」の研究
11	課外実習(その2)——パソコン通信でエッセイの交換をしてみる。 *モデルエッセイの実際と添削例
12	後期の総まとめと今後の課題について
備考	

科目名	エッセイ・ライティング2 エッセイ・ライティング2 (旧) 英作文 (エッセイ・ライティング) 12 (旧旧)	担当者名	井川 美代子
-----	---	------	--------

講義の目標	<p>卒論や学期末のレポートのような expository writing の基礎を学ぶ。年度末に脚注・参考文献のついた10段落程度の小論文を書いて提出してもらう。従って受講者は基本的な英文法のミスを犯さずにまとまった内容の段落を書くことができる人が対象となる。</p>	
講義概要	<p>授業内容は大きく2つに分かれる。1つは言うまでもなく小論文の書き方の基礎を学び、実践していく。適切なトピックの選び方、トピックを展開していく様々な方法、トピックにあった展開方法の選択、脚注や参考文献の書き方などを学んでいく。授業中、特に後期にまとまった文章を多く書いてもらうことになる。</p> <p>もう1つは英文を書いていく上で特に重要な文法事項の復習である。プリント約3ページずつを宿題として自習してもらう。毎授業の初めに、宿題になっている部分に関して小テストを行なう。</p>	
使用教材	テキスト	・ Joy M. Reid ; <i>The process of Composition</i> 及び、プリント, <i>Prentice-Hall</i>
	参考文献	
評価方法	<p>前後期にはプリントの文法事項に関連した期末テストを行なう (それぞれ15%配点)。また講義の目標で述べた小論文を年度末にレポートとして提出してもらう (35%配点)。授業中に書いてもらう英文 (20%配点) と毎回の文法に関する小テスト (15%配点) も評価の対象とする。</p>	
受講者に対する要望など	<p>用例の多い英和中辞典 (和英ではない) か英英辞典を毎回自参のこと。和英は各自の判断に任せる。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	自分の現在の實力を知るために200語程度の段落を書いてみる。 One: The Fundamentals of Writing (テキストに沿って解説。以下同様)
2	Two: The Paragraph 小テスト1 (プリント p 211~ p 214 Ex I)
3	Two: The Paragraph 小テスト2 (p 214~ p 217)
4	Three: Techniques of Support-Facts 小テスト3 (p 218~ p 220)
5	Three: Techniques of Support-Physical Description 小テスト4 (p 218 Ex II~ p 224 Ex VI)
6	Three: Techniques of Support-Example 小テスト5 (p 224~ p 226)
7	Three: Techniques of Support-Personal Experience 小テスト6 (p 227~ p 230 Ex XI)
8	Four: Methods of Development-Process 小テスト7 (p 230~ p 232)
9	Four: Methods of Development-Extended Definition 小テスト8 (p 233~ p 236 Ex III)
10	Four: Methods of Development-Comparison-Contrast 小テスト9 (p 236~ p 238 Ex VI)
11	Four: Methods of Development-Classification 小テスト10 (p 238~ p 242)
12	第一週に書いた英文の rewrite 小テスト11 (p 242 Writing Activity~ p 245)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Five: Introduction to the Expository Essay
2	Five: Introduction to the Expository Essay (Continued) 小テスト13 (p 246~ p 249 Ex II)
3	Six: Organizing the Essay 小テスト14 (p 249~ p 252 Ex VI)
4	Six: Organizing the Essay (Continued) 小テスト15 (p 252~ p 254 Ex K)
5	Six: Organizing the Essay (Continued) 小テスト16 (p 254~ p 257 Ex XI)
6	Seven: Writing the Essay 小テスト17 (p 257~ p 259)
7	Seven: Writing the Essay (Continued) 小テスト17 (p 260~ p 262)
8	Seven: Writing the Essay (Continued) 小テスト18 (p 263~ p 265 Ex II)
9	Eight: Summary and Analysis 小テスト19 (p 265~ p 269 Ex VI)
10	Ten: Research Paper 小テスト20 (p 269~ p 272)
11	Twelve: The Process of Research (p 148~ p 166)
12	年度末小論文に関する個別指導
備考	

科目名	エッセイ・ライティング 3, 4 エッセイ・ライティング 3, 4 (旧) 英作文 (エッセイ・ライティング) 13, 14 (旧旧)	担当者名	E. Carney
-----	---	------	-----------

講義の目標	<p>This programme is aimed primarily at having the students produce good, clear, error-free English. Also, we want to find better ways to organize and to express well. Coherence and balance are target items in all writing work.</p>	
講義概要	<p>Classes will give time for the appreciation of the subjects about which the students will write, And this will include some discussion. Advice will be given on simple construction and the importance of clarity in communicating ideas. Set pieces will be used as sample work and students will be asked to match their own ideas with these and express themselves accordingly.</p> <p>Punctuation, good expression, and awareness of the reader's needs will all be covered. There will be at least one writing task per week to give students the chance to show that they have grasped the explanations in class.</p>	
使用教材	テキスト	Prints and videos.
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ Brit-think, Ameri-think. Jane Walmsley ・ Creative Writing ・ Mind the Stop G. V. Carey
評価方法	<p>All Papers are graded (weekly assignments).</p> <p>Where necessary, students will be asked to write a final report.</p> <p>1st Term report : July 7.</p> <p>2nd Term report : December 12.</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	a. introduction of methods and class practice b. written piece for evaluation ('think' item selection)
2	Basic errors in construction... adjective and noun control in relation to article use.
3	Punctuation... good comma use and bad use of similar stops.. the comma stressed as a communication tool.
4	Direct and indirect speech and the necessary punctuation. A survey on individual tendencies in pieces written so far.
5	Ambiguity. writing with awareness of meaning intended and meaning received.
6	Paragraph effectiveness to suit all needs. Writing as a reader of one's own work.
7	1. the relative pronoun and the related pitfalls 2. some absurdities in singular and plural use.
8	Continuation of the 'plural' theme....difficulties with 'each' and the use of 'everyone' and 'his or hers'.
9	Descriptive writing. Some established works compared. How to make adjectives do the work in descriptive pieces.
10	Introductions and endingssummaries and conclusions...the open ending.
11	Writing a short story and including all the work we have covered so far.
12	Balanced writing...the sweeping statement and 'narrow-minded' attitudes in producing biased writing.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Comparing what you have actually said in your writing to what you really intended to say.
2	Variations in presenting ideas in documentary and fictional pieces. Some prime examples studied.
3	Letter writing. a) person to person, b) business, c) other letters, notes, job applications, forms, etc..
4	Conciseness in documentary writing. A look at the range of meaning of the word, 'academic'.
5	The short story. Bringing the ideas into line and checking on sequence in time and action.
6	Implied nuance and ambiguity revisited. Ambiguity as a starter for the awareness of humour in writing.
7	Economy of expression. reducing length and avoiding verbosity and superfluous expression. A look at repetition and padding.
8	criticism. analysis of subject with a view to writing a criticism. The value of discussion of your topic prior to writing.
9	The anecdote as a good short form of interesting expression. Producing some written anecdotes.
10	E. B. white and his power of humorous understatement. Writing with a view to being taken seriously, and then not so seriously.
11	Creative expression...ranges and limitations. Creative writing and the modern video.
12	Recapitulation, recrimination, and pooled suggestions.
備考	

科目名	エッセイ・ライティング5 エッセイ・ライティング5 (旧) 英作文 (エッセイ・ライティング) 15 (旧)	担当者名	G. S. Gorman
-----	--	------	--------------

講義の目標	This course is designed to develop and/or enhance the writing ability of the university student at all levels. It is offered in an attempt to fill the current void in the requirements for English language writing, especially at the second and third year levels.	
講義概要	The course will begin by identifying (as refresher training) the basic parts of speech and the basic elements of a sentence. Then there will be discussion concerning sentences, paragraphs and compositions. Different types of clauses to include participial, noon, infinitive, subordinate, relative and others will be covered. The students will be required to endure many drills in sentence combining exercises and similar practice in grammar, punctuation and spelling. The students will be exposed to a wide variety of the transition words in English and will be required to outline and finally write many different kinds of paragraphs.	
使用教材	テキスト	Writing for Fluency in English, a paragraph writing course.
	参考文献	Significant Scribbles, C. Kelly and I, Shortread, 1985, Lingual house
評価方法	Students will be graded on in-class written compositions at mid-term and end-term as well as the quality and quantity of other compositions. Only those students sincerely desiring to improve their writing skills should attend.	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Course introduction and outline, discussion of student journals and what is expected of the student.
2	Sentence structures and building blocks.
3	Embedded sentences : how to use participial, noun and infinitive clauses.
4	How to use subordinate and relative clauses.
5	Descriptive writing and the use of modifiers.
6	Sentence combining exercises, practice in correct grammar and punctuation (intermittently hereafter).
7	The use of metaphor and simile in writing.
8	Direct and indirect speech in writing.
9	Paragraph editing - yours and someone else's.
10	How to outline and formulate the 'main idea sentence'.
11	Review of weeks 2-10.
12	In-class written composition test.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Review and writing one paragraph essays.
2	Additional outline practice and writing compositions.
3	Writing Point Paragraphs.
4	Writing on How to Give Instructions.
5	Objective Reporting Writing.
6	Cause and Effect Writing.
7	Comparing and Contrasting Writing
8	Writing about Classifying.
9	Describing a Process Writing.
10	Business Letter Writing.
11	Personal Letter Writing and Review.
12	In-class Written Composition Test.
備考	

科目名	エッセイ・ライティング 6 エッセイ・ライティング 6 (旧) 英作文 (エッセイ・ライティング) 16 (旧旧)	担当者名	C. J. Poel
-----	---	------	------------

講義の目標	The goal of this course is to make you relaxed when writing in English as well as to develop a communicative view of writing.	
講義概要	Writing is an important way of communicating in any language. However, students writing in a foreign language often forget that they are writing to communicate. Instead they focus excessively on the technical details—spelling, punctuation, grammar, etc. As a result they often fail in expressing their ideas clearly and precisely. This course will teach students to go beyond the technical details and learn how to communicate on paper. There will also be a strong spoken element to the course.	
使用教材	テキスト	<i>College Writing Skills</i> , by John Langan (McGraw-Hill)
	参考文献	All students will be expected to have an English-English dictionary.
評価方法	The final grade will be determined by (1) participation in class activities, (2) homework, and (3) written essays (2 each semester). Each will account for 1/3 of the final score.	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introductions and organization
2	The 1st Step in Essay Writing : The Thesis Statement
3	Thesis Statements, part 2
4	Free discussion and writing
5	The 2nd Step in Essay Writing : The Supporting Paragraph
6	Supporting Paragraphs, part 2
7	Thesis Statements Revisited
8	Free discussion and writing
9	The 3rd Step in Essay Writing : Organizing and Connecting Paragraphs
10	Organizing and Connecting Paragraphs, part 2
11	Putting it all Together
12	Final Report : Two Essays
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Free discussion and writing
2	Types of Essays : Comparison & Contrast, Division & Classification, Description, and Classification
3	Comparison & Contrast Essays, part 1
4	Comparison & Contrast Essays, part 2
5	Division & Classification, part 1
6	Division & Classification, part 2
7	Free discussion and writing
8	Description, part 1
9	Description, part 2
10	Classification, part 1
11	Classification, part 2
12	Final Report : Two Essays
備考	

科目名	翻訳Ⅰ－Ⅰ 翻訳Ⅰ－Ⅰ（旧） 英作文（翻訳Ⅰ）17（旧旧）	担当者名	園部明彦
-----	-------------------------------------	------	------

講義の目標	前期は推敲に推敲を重ねた簡潔で明快な英文を味わい、後期は、それを手本に受講者自らが英文作成を試みていく。なんとか通じる英文から良い文章作成を目標とする。	
講義概要	テキストの <i>Theory of Translation</i> は、逍遙のシェイクスピア翻訳の際の指針となった書といわれているが、決して翻訳上のテクニックを細かく示したものではない。仮にそのようなことを求めるとするなら、その期待は残念ながら裏切られることになるだろう。ここではむしろ、このドライデンの文章をわれわれが目指す英文のひとつの手本にしていくべきである。その意味で、前期は、一語一語疎かにすることなく、厳密に本テキストを読み進めていく。後期は、新聞などから、広く話題を求め、受講者全員に簡潔な英文の作成を試みてもらう。	
使用教材	テキスト	John Dryden; <i>Theory of Translation</i> , 北星堂
	参考文献	
評価方法	前期、後期とも、毎回受講者全員に課す翻訳の評価の合計で成績を出す。従って、欠席は極めて不利になる。	
受講者に対する要望など	遅刻は認めないのも例年通り。各自、辞書だけは用意しておくこと。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	<i>Theory of Translation</i> から。直訳、意識、翻案について。
2	詩歌の直訳は不可能である。
3	翻案について。
4	翻訳者に不可決の優れた言語能力とは。
5	最良の翻訳方法とは。
6	翻訳において原文の美しさを表すには。
7	原作者の特質を把握するには。
8	翻訳者に要求される幅広い知的素養とは。
9	原文の特質をそのまま移植するには。
10	(補) 1. Ben Jonson の翻訳法について
11	(補) 2. Ben Jonson の翻訳法について
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	和文の英訳演習。新聞のコラムから。〈日本人の季節感について〉
2	〈大学教育について〉
3	〈車内のエチケットについて〉
4	〈日本の政治家〉
5	〈情けない風流心〉
6	〈車内のデモクラシー〉
7	〈大学のありかた〉
8	〈日本人論〉
9	〈犯罪について〉
10	〈女性と結婚後の改姓について〉
11	文学作品の英訳
12	まとめ
備考	

科目名	翻訳 I-2 翻訳 I-2 (旧) 英作文 (翻訳 I) 18 (旧旧)	担当者名	林 節 雄
-----	--	------	-------

講義の目標	英語の原文を日本語に翻訳する仕事、および日本語の原文を英語に翻訳する仕事に興味がある学生を対象に、この仕事の性質について考え、同時に実習を行うことによって、言葉の技術とセンスを磨くことを目標とする。		
講義概要	参考文献の最初にあげたものが論じているいくつかのトピックについて内容を紹介し、翻訳経験者としての私の考えを述べる。実習の部では主に <i>Time, Newsweek</i> 、英語の新聞などの比較的やさしく興味ある記事を使って日本語を実習する。日本語原文の英訳については主として主要新聞雑誌が掲載する広告文を材料に実習する。		
使用教材	テキスト	特に使用しない。講義ノートによる。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・加島祥造、志村正雄『翻訳再入門』(1992) 南雲堂 ・中野道雄『翻訳を考える』(1994) 三省堂 	
評価方法	実習のたびに提出する各自の翻訳文の添削結果を総合して評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「翻訳という仕事をどう考えたらいいか」というトピックについて話し、手始めにごく短い原文（英語・日本語）の翻訳実習をする。
2	「後戻りしない文章」というトピックについて話し、実習を行う。
3	「後戻りしない文章」(続)の話と、実習。
4	「後戻りしない文章」(続)についてと、実習。
5	「後戻りしない文章」(続)についてと、実習。
6	「直喩の訳し方」についての話と、実習。
7	「直喩の訳し方」(続)についてと、実習。
8	「直喩の訳し方」(続)についてと、実習。
9	「直喩の訳し方」(続)についてと、実習。
10	「意味のストレス」についての話と、実習。
11	「意味のストレス」(続)についてと、実習。
12	「意味のストレス」(続)についてと、実習。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「意味のストレス」(続)についてと、実習。
2	「辞書と翻訳」について話し、実習。
3	「辞書と翻訳」(続)についてと、実習。
4	「辞書と翻訳」(続)についてと、実習。
5	「辞書と翻訳」(続)についてと、実習。
6	「リズム、ひびき、そして辞書」について話し、実習。
7	「リズム、ひびき、そして辞書」(続)についてと、実習。
8	「リズム、ひびき、そして辞書」(続)についてと、実習。
9	「リズム・ひびき、そして辞書」(続)についてと、実習。
10	英文記事と日本文広告の翻訳実習。
11	実習。
12	実習。
備考	

科目名	Conversation I-1 Conversation I-1 (旧) 英会話 (Intermediate) 20 (旧旧)	担当者名	K. R. Bayne
-----	--	------	-------------

講義の目標	<p><i>Students enter college with a fairly developed English vocabulary and level of writing. They are lacking in the ability to apply this verbally and in listening to English. This class aims to encourage students to develop this side of their English and see English as a tool for communication.</i></p>		
講義概要	<p><i>Through use of a text students will be able to communicate in a number of functional and communicative capacities based on their needs as EFL/ESL learners. This will be established in the first class of the year.</i></p> <p><i>Supplementary activities/materials designed to develop fluency and confidence in English will also be used. Students will concentrate on production rather than accuracy, though this will also be stressed. Participation to the best of their abilities is the key.</i></p>		
使用教材	テキスト	<p>Richards, Bycina & Aldcorn; <i>New Person To Person (Student Book 1)</i>, Oxford University Press, 1995</p>	
	参考文献	<p><i>Additional materials will be used depending on need.</i></p>	
評価方法	<p><i>Grades will be based on classroom performance and participation on a week-to-week basis, homework assignments, oral testing and group assignments. Good attendance is paramount.</i></p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

主 要 テ ー マ

Course Introduction. This will include of class grading policies, establishing of key chapters for study over the year & setting up of on-going activities.

The remainder of the year will be divided up into 8 to 10 chapters from the text based on the learners language needs/desires. In addition to text work, classes will consist of set warm-up/fluency activities and activities related to the particular textbook chapter. This will allow maximum attention to the intrinsic interest of the learners while attending to language needs. Over the year, classes will be set aside for oral testing and group presentations.

科目名	Conversation 1-2 Conversation 1-2 (旧) 英会話 (Intermediate) 21 (旧旧)	担当者名	P. Beland
-----	--	------	-----------

講義の目標			
講義概要	<p>講義では60%は日常会話のための勉強をします。あと40%では様々な話題を取りあげ、もうすこし専門的な会話の勉強をします。政治、経済、地理、宗教などを話題として、基本的な語彙を身につけるようにします。生徒の皆さんに望むことは、どのような話題についても興味をもち、心を開いて勉強して欲しいと思います。</p>		
使用教材	テキスト	; <i>LIVELY ENGLISH CONVERSATION</i> , (Beland Associates 発行)	
	参考文献	その他、私が用意する資料	
評価方法			
受講者に対する要望など			

科目名	Conversation I-3 Conversation I-3 (旧) 英会話 (Intermediate) 22 (旧旧)	担当者名	W. J. Benfield
-----	--	------	----------------

講義の目標	The aim of course is to develop general fluency through discussion and student presentation of a variety of topics. We will also focus particularly on vocabulary development.	
講義概要	Each topic will cover two classes. In the first class we will use texts and/or video to outline the main points. Students will do further research for homework and in the second class, the topic will be discussed at greater length or will form the subject for group or individual presentations. Topics listed may change or be extended depending on the interests of the class.	
使用教材	テキスト	There will be no set text. Photocopies of newspaper or magazine extracts, or video clips will provide the basis for discussion.
	参考文献	
評価方法	Assessment will be based on attendance, participation and performance in class. There will also be an examination at the end of each semester in the form of an assessed discussion or presentation.	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Ineroduction to the course. Student selection on the basis of a short test.
2	Topic : Changing Japan.
3	Topic 1 contd.
4	Topic 2 : The environmental crisis.
5	Topic 2 contd.
6	Topic 3: The internationalization of communication.
7	Topic 3 contd.
8	Topic 4 : The rise of nationalism.
9	Topic 4 contd.
10	Topic 5 : The problem of AIDS.
11	Topic 5 contd.
12	Mid-term examination.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Review of first term and mid-term examination.
2	Topic 6 : Work—are any jobs permanent?
3	Topic 6 contd.
4	Topic 7 : Crime and punishment.
5	Topic 7 contd.
6	Topic 8 : Japan's role in the world
7	Topic 8 contd.
8	Topic 9 : The drug problem.
9	Topic 9 contd.
10	Topic 10 : Popular music, fashion
11	Topic 10 contd.
12	Final examination.
備考	

科目名	Conversation I-4 Conversation I-4 (旧) 英会話 (Intermediate) 23 (旧旧)	担当者名	D. Bradley
-----	--	------	------------

講義の目標	<p>1) To improve students' listening ability by listening to examples of authentic English that people listen to, including discussions, talks and commentaries.</p> <p>2) To use the listenings as a starting point for various speaking activities and discussions.</p>	
講義概要	<p>It is likely that at some point in the future you will want to or need to listen to the news in English, or listen to announcements at the airport in English, or listen to a documentary or interview in English; the situations included here are therefore realistic for you as a listener. Having listened to the text we will then use it as a basis for speaking activities. These will require the active participation of the students.</p>	
使用教材	テキスト	<i>Reasons for Listening</i> , David Scarbrough. CUP.
	参考文献	
評価方法	<p>Grades will be based on attendance, class participation and short tests.</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction to the course.
2	Giving opinions; some guidelines and example dialogues.
3	Announcements.
4	News summary 1
5	News summary 2
6	Talks - Starting a new life
7	" - A weekend in London
8	" - Voices in my head
9	Commentaries - Show jumping
10	" - Football
11	" - Horse race
12	Test
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Interviews - David Attenborough
2	" - Mrs Victor Bruce
3	" - Renee Wyndham
4	" - Michael Parkinson
5	Documentaries - The mind's eye
6	" - May Day
7	" - A visit to a sausage factory
8	Discussions - Violence in sport
9	" - Class in Britain and America
10	" - Sex Discrimination
11	Review
12	Test
備考	

科目名	Conversation I -5 Conversation I -5 (旧) 英会話 (Intermediate) 24 (旧旧)	担当者名	R. J. Burrows
-----	--	------	---------------

講義の目標	To advance listening and conversation skills, and breadth of vocabulary through 6 thematically linked study modules.	
講義概要	Each unit will be organised as follows. Week 1: Overall preview of unit. Required vocabulary and listening (tape) practice. Week 2: Study of video: listening + discussion exercises. Week 3: Review: consolidation through further roleplays and /or written work.	
使用教材	テキスト	
	参考文献	"ON TRACK" by Susan Parks, Gerard Bates Anne Thi beault + Mary Lee Wholey. SELECTED LISTENING EXERCISES + ROLEPLAYS in the form of photocopied handouts:
評価方法	30%: Attendance / Punctuality 40%: Classroom Performance: (Involvement / English practice etc) 40%: 2 WRITTEN TESTS IN JULY + JANUARY	
受講者に対する要望など	BE PREPARED TO STUDY AND WORK HARD IN ORDER TO IMPROVE ORAL AND AURAL SKILLS ON THIS COURSE.	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	INTRODUCTORY LESSON An introduction of the course contents, aims and methods of evaluation for the course.
2	SHOPPING + MONEY : UNIT 1 Vocabulary check and video preview introduction to the language of shopping.
3	ON TRACK VIDEO 1 "THE CUSTOMER IS ALWAYS RIGHT" Listening practices. P42-7
4	Video follow-up exercises. Related Roleplays. Consolidation.
5	HEALTH + SICKNESS: UNIT 2 REVIEW OF RELATED vocabulary. Selected Listening Practice.
6	ON TRACK VIDEO 2 "DOCTOR KNOWS BEST" Pages 11-16
7	Follow up exercises and roleplays.
8	FOOD + DRINK : UNIT 3 Review of Countable and Uncountable Nouns . Practice of giving instructions.
9	ON TRACK VIDEO 3 "COOKING WITH ARLENE" Pages 20-26
10	Restaurant Role-plays. Work about recipes and food in general. Cultural differences concerning Cuisine.
11	END OF TERM REVIEW/PARTY
12	EVALUATION I
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	HOLIDAYS + TRAVEL : UNIT 4 Review of Summer vacation. Video Preview-resorts and holiday geography.
2	ON TRACK VIDEO 4 "VACATION FOR TWO" Pages 30-35
3	Follow-up roleplays. Talking about a holiday. Sending a postcard/letter.
4	Planning A vacation, Roleplays : students plan and book a holiday.
5	CRIME + MYSTERY : UNIT 5 Language review. New Vocabulary. Famous crimes in history.
6	ON TRACK VIDEO 5 "MAXIE'S REVENGE" Pages 39-45
7	Follow up roleplays. Being a Witness, identifying characteristics.
8	SPORTS + HOBBIES : UNIT 6 Talking about sports. Sports Survey.
9	ON TRACK VIDEO 6 "GETTING IN SHAPE" Pages 49-54
10	Role-plays + Review.
11	CHRISTMAS REVIEW/PARTY.
12	EVALUATION II
備考	

科目名	Conversation I -6 Conversation I -6 (旧) 英会話 (Intermediate) 25 (旧旧)	担当者名	E. Carney
-----	--	------	-----------

講義の目標	This intermediate class aims to give students the opportunity to work with other students in making good communicable dialogue.	
講義概要	Classwork will involve the introduction of various forms and usages that are to be utilized in conversation. Students will be invited to practice these items and to demonstrate that they can use them. Work will be done on both comprehension and expression. Idiomatic forms will be considered for understanding rather than for use. Some techniques that avoid the need for "grammatical" thinking will be studied. Pair work, group work, and some individual work will be included.	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> • Text to be announced. • Some supplementary prints.
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> • Prints for description work, conditional, and polite dialogue. • Print maps and real-city outlays for direction work.
評価方法	<p>Grading will be done on a class participation basis in the first assessment, so not only attendance but, also, classwork will be considered.</p> <p>In the second assessment there will be a final conversation test for each term.</p> <p>1st term test : last class before summer.</p> <p>2nd term test : last class of the school year.</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction of class and classroom methods. Some examples of practice routines and some general advice.
2	Groups and pairs check. What are individual student's problems in simple communication?
3	Reaction conversation. Short form dialogue with both known and unknown focus point. Introduction of pressure practice.
4	Negative question and some simple ways of mastering its use and surviving its pressures.
5	A practice session on negative question through a wide range of formulas. Advice on practice methods at home.
6	Useful practices for improvement including hearing and expressing. Some vocabulary lists for idiomatic work.
7	One-minute and two-minute speeches. A check on speeches to locate particular difficulties in expression.
8	Fives. A practice of linked questions that focus on one subject. Time limits in practices.
9	Pronunciation difficulties for Japanese. Exercises and advice. Some telephone practice to emphasize these problems.
10	Hearing practices : emphasize repeated hearings, reinforcing learned material
11	Anecdotes : recounting, questioning, explaining.
12	Survey of Spring programme. Casual conversation vs specific. Outline of Autumn schedule.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Established dialogues. Famous scenes from movies. Acting and mimicking. Speaking to or for an audience.
2	Write and act out a conversation. Group and pair work.
3	Politeness and situation, and telephoning various people of different status, talking 'up' and 'across'.
4	Interview practice. coverage of main items. pairs and groups.
5	Continuation of interviews using prepared resume. Handling direct questions and keeping up with your interviewer.
6	Conditional. A guide for use in conversation that tends to avoid grammar consciousness. Abbreviated forms and a success formula.
7	Small description in conversation. How to describe simple actions. A vocabulary for describing action.
8	Presenting a teaching piece. Teach the class your favourite thing using some prop or gimmick.
9	Discussion. establishing a useful vocabulary and communicating contrary ideas safely.
10	Practice in balancing ideas and stating one's opinion. Group and class practice.
11	Four minute speeches open to questions. Handling questions and making your point.
12	Summary of years work, reinforcements. Some advice. Testing.
備考	

科目名	Conversation I-7 Conversation I-7 (旧) 英会話 (Intermediate) 26 (旧旧)	担当者名	J. J. Duggan
-----	--	------	--------------

講義の目標	In this class, students will be given ample chances to improve their oral communicative skills by making use of the English which they have studied for years, but perhaps have had limited chances to use.	
講義概要	As the point of this class is to give students the chance to improve their communication skills by maximizing the time. Students will essentially work in groups and pairs, working on controlled discussion, interview work, reports and presentation, based around a bi-weekly central theme.	
使用教材	テキスト	P. Gilbert ; Super Talk, MacMillan Language House
	参考文献	
評価方法	Grades will be based on class attendance and participation (including group discussions, group presentation, and topics) and on a midyear and final test.	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Course description and explanation (text pp.iii-viii).
2	Theme #1 (Weddings, pp.1-4): Introduction, Comprehension Questions, Interview Your Partner, Lecture.
3	Theme #1: Topic, Group Discussion.
4	Theme #1: Final Report, Group Presentation. Theme #2 (Planning for Cheap Food, pp.5-10): Intro., Comp. Q's., Interview, Lecture.
5	Theme #2: Topic, Group Discussion.
6	Theme #2: Final Report, Gr. Pres. Theme #3 (Planning How to Spend Your Money, pp.11-17): Intro., comp. Q's., Interview, Lecture.
7	Theme #3: Topic, Group Discussion.
8	Theme #3: Final Report, Group Presentation. Theme #5 (Advertising this School, pp.25-32): Intro., Comp. Q's., Interview, Lecture.
9	Theme #5: Topic, Group Discussion.
10	Theme #5: Final Report, Group Presentation.
11	Review and make-up.
12	Midyear Examination.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Review of first term material.
2	Theme #6 (An Advertising Campaign, pp.33-39):Intro., Comp. Q's., Interview, Lecture.
3	Theme #6: Topic, Group Discussion.
4	Theme #6: Commercial Production Setup.
5	Theme #6: Commercial Production.
6	Theme #6: Comm. Prod. Analysis, Pres. Theme #8 (Helping People to Travel in Japan): Intro., Comp. Q's., Interv., Lecture.
7	Theme #8: Topic, Group Discussion.
8	Theme #8: Final Report, Group Pres. Theme #9 (Around the World in 80 Days, pp.55-61):Intro., Comp. Q's., Interv., Lecture.
9	Theme #9: Topic, Group Discussion.
10	Theme #9: Final Report, Group Presentation.
11	Review and Make-up.
12	Final Examination.
備考	

科目名	Conversation I -8 Conversation I -8 (旧) 英会話 (Intermediate) 27 (旧旧)	担当者名	A. R. Falvo
-----	--	------	-------------

講義の目標	TO HELP STUDENTS SEE COMMUNICATION IN THE TOTAL CONTEXT AND PERCEIVE MANY FACTORS		
講義概要			
使用教材	テキスト	VIDEO TEACHING MATERIALS-GHOST AND SISTER ACT	
	参考文献	SCRIPT OF BOTH VIDEOS	
評価方法	CLASS ATTENDANCE, PARTICIPATION RESULT OF TWO EXAMS -50 QUESTIONS ON NATURAL REJOINDERS, DESCRIPTION AND CONTENT COMPREHENSION		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	COURSE INTRODUCTION TEACHER EXPECTATIONS GRADING CRITERIA ATTENDANCE (GHOST)
2	GUIDED SELECTION-COMPREHENSION WITH VIEWING GUIDE
3	COLLECTION/PERCEPTION OF VERBAL CLUES I. E. DOUBT, ANGER, HAPPINESS, ETC
4	COLLECTION OF VISUAL CLUES-EXPLOIT CULTURAL INFORMATION-CONTRASTIVELY
5	NOTE TAKING TECHNIQUES-CATEGORIZE, PRIORITIZE AND ANALYZE INFORMATION
6	SIMPLE REPETITION OF BASIC PHRASES AND ESSENTIAL STRUCTURES
7	VOCABULARY COMPREHENSION IN CONTEXT USING NON VERBAL CLUES
8	PRACTICE IN CONTEXT OF COMMUNICATIVE FUNCTIONS IN EXPRESSING EMOTIONS
9	FOCUS ON COPYING GESTURES-GUESSING WHAT IS BEING TALKED ABOUT-NO SOUND
10	SUPRASEGMENTAL FEATURES-INTONATION PATTERNS-VOICE TONE. PAUSE, ETC.
11	REVIEW FOR EXAMINATION OF WEEKS TWO THROUGH TEN TOPICS DISCUSSED
12	TERM END EXAMINATION ON VIDEO WITH 50 QUESTIONS ON RESPONSE, DESCRIPTION, CONTENT
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	SISTER ACT REVIEW OF FIRST TERM EXAMINATION-INTRODUCTION OF SECOND TERM VIDEO
2	GUIDED SELECTION WITH ADVANCED COMPREHENSION TECHNIQUES
3	COLLECTION OF PERCEPTION OF VERBAL CLUES OF VARIOUS EMOTIONS
4	FOCUS ON VISUAL CLUES-EXPLOITATION OF CROSS-CULTURAL DIFFERENCES
5	GUIDED NOTE TAKING OF UNSCRIPTED MATERIAL OF SPECIFIC LANGUAGE FEATURES
6	REPETITION OF MORE ADVANCED COMMUNICATIVE LANGUAGE STRUCTURES
7	FOCUS ON NONVERBAL CLUES FOR LEXICAL COMPREHENSION
8	COMMUNICATIVE LANGUAGE FUNCTIONS PRACTICE WITH VISUAL CLUES
9	GESTURE REPETITION AND PRODUCTION USING NON VERBAL CLUES
10	FOCUS ON INTONATIONAL FEATURES-VOICE
11	REVIEW FOR TERM EXAMINATION OF TOPICS DISCUSSED THROUGH THE TERM
12	TERM END EXAMINATION WITH VIDEO-50 QUESTIONS. CONTENT, DESCRIPTION ETC.
備考	

科目名	Conversation I -10 Conversation I -10 (旧) 英会話 (Intermediate) 29 (旧旧)	担当者名	G. S. Gorman
-----	--	------	--------------

講義の目標	The purpose of this course is to offer the student a wide variety of differing types of English and to expose the student to idiomatic and vernacular language. This is to be accomplished by allowing the student to hear, read and speak "real" English as depicted in a movie screenplay.	
講義概要	After introducing and discussing the historical setting of the film, each week the class will read, discuss and analyze incremental segments of the film before watching the same. As there are many different styles of English in the movie, it should offer the student a broad spectrum of acceptable English. The student should be able to enhance both vocabulary and comprehension of idiomatic English.	
使用教材	テキスト	The Last Emperor, a screenplay for English learning.
	参考文献	Screenplay collection, 'The Last Emperor', Nagoya, Japan.
評価方法	Students will be graded on in-class participation, and on a mid-term and end-term test of vocabulary and content. Class size will be limited.	
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	Course introduction and outline, discussion of what is expected of the student and what the student can expect from the course.
2	Discussion of the historical setting of the film.
3	Incremental 15-minute segments of the film will be read and discussed in class and then viewed.
4	Incremental 15-minute segments of the film will be read and discussed in class and then viewed.
5	Incremental 15-minute segments of the film will be read and discussed in class and then viewed.
6	Additional video/written material will be provided by the instructor to facilitate understanding of the film.
7	Review and discussion of the film to date.
8	Incremental 15-minute segments of the film will be read and discussed in class and then viewed.
9	Incremental 15-minute segments of the film will be read and discussed in class and then viewed.
10	Incremental 15-minute segments of the film will be read and discussed in class and then viewed.
11	Entire film shown to date will be reviewed.
12	Vocabulary and content test of first half of film.
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	Review of first half of course.
2	Incremental 15-minute segments of the film will be read and discussed in class and then viewed.
3	Incremental 15-minute segments of the film will be read and discussed in class and then viewed.
4	Incremental 15-minute segments of the film will be read and discussed in class and then viewed.
5	Incremental 15-minute segments of the film will be read and discussed in class and then viewed.
6	Additional video material will be offered by the instructor.
7	Incremental 15-minute segments of the film will be read and discussed in class and then viewed.
8	Incremental 15-minute segments of the film will be read and discussed in class and then viewed.
9	Incremental 15-minute segments of the film will be read and discussed in class and then viewed.
10	Second half of the film will be viewed en toto.
11	Vocabulary and content test of the second half of film.
12	
備考	

科目名	Conversation I-11 Conversation I-11 (旧) 英会話 (Intermediate) 30 (旧旧)	担当者名	K. Harris
-----	--	------	-----------

講義の目標	This course will serve as an introduction and exploration of American culture. Emphasis will be placed on the search for independence, and individual expression.		
講義概要			
使用教材	テキスト	プリント and (supplementary)- On the Road by Jack Kerouac	
	参考文献		
評価方法	Students will be graded on participation, attendance, projects, and several tests, more than 5 absences will result in failure.		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Course introduction. Begin study of American expression.
2	Film - Film analysis. Test. Give reading assignment.
3	Complete reading assignment, discussion.
4	Listening Test. Discussion of music and culture.
5	Reading assignment - test. Discussion of reading.
6	Personal projects.
7	Listening test. Discussion of music and culture.
8	Film - comprehension test. Discussion.
9	Reading assignment - discussion.
10	Discussion.
11	Listening comprehension test. Discussion.
12	Personal projects.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Discussion.
2	Listening comprehension test Cross-cultural activity
3	Reading assignment Discussion
4	Film - comprehension test Discussion
5	Cross cultural activity
6	Personal Projects
7	Discussion
8	Listening comprehension test Discussion
9	Film - comprehension test Discussion
10	Cross cultural activity
11	Listening comprehension test Discussion
12	Personal Projects
備考	

科目名	Conversation I-12 Conversation I-12 (旧) 英会話 (Intermediate) 31 (旧旧)	担当者名	T. Hill
-----	--	------	---------

講義の目標	To help students develop the ability to formulate ideas and express their opinions on issues of international significance.	
講義概要		
使用教材	テキスト	Articles from Newspapers and Magazines
	参考文献	
評価方法	Students will be graded on participation in class discussion, mid-term and final speech, and attendance.	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Euthanasia : should it be legalized in our modern society?
2	Article 9 : should it be changed?
3	The International Community : what should Japan's role be?
4	University Education : its role in Japan's modern society.
5	Homosexuality : a sickness or an alternative life-style?
6	Aids : how should children be taught about the problem?
7	Mass Media : the good points and the bad points.
8	The Northern Territories : do we need them?
9	Japan : what can we be proud of in our culture?
10	Japan : what should we be ashamed of in our culture?
11	Test—a speech (15 mins)
12	Test—a speech (15 mins)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Japanese women : what should their role be in society?
2	'Japan is boy 12' : Does America misunderstand us?
3	Japanese education : its strengths and weaknesses.
4	God : is religion important in the modern world?
5	Royalty : do we need them?
6	Smoking : should it be banned in all public places?
7	English education in Japan : its strengths and weaknesses.
8	Foreigners : do we want them in Japan?
9	A multicultural society : what is it? do we want it?
10	Sport : its role in modern life.
11	Test—a speech (15 mins)
12	Test—a speech (15 mins)
備考	

科目名	Conversation I-13 Conversation I-13 (旧) 英会話 (Intermediate) 32 (旧旧)	担当者名	C. B. 池口
-----	--	------	----------

講義の目標	<p>This course is designed to assist students in improving oral communicative fluency. Pair-work activities and group discussions will essentially prepare students for individual presentations of speeches suited to their level.</p>	
講義概要	<p>To tap the students' speaking ability, a great deal of guided discussions on a wide range of topics of interest will be conducted in this class. To a certain extent, students will have a hand in choosing articles for exchange of ideas with in their group and in front of the class. Having gradually developed confidence in speaking before a group, students will finally be given a chance for their individual speech presentations before an audience.</p>	
使用教材	テキスト	<i>Speech Communication for International Students</i> , P. Dale and J. Wolf
	参考文献	
評価方法	<p>Student grades will be based on class performance which will include class discussions, individual speeches, a midyear and a final test. Attendance is compulsory.</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Course Orientation : The What and How of public speaking. This will include course description, course objectives, evaluation methods and details of the term's course content and schedule.
2	Chapter 1 : Speaking to develop self-confidence : Self-introduction The lesson will include simple helpful tips and exercises to prepare students for their individual speeches.
3	Handout discussions : an application of the rules. Group discussions followed by group reporting. Graded
4	Mini speeches based on Chapter 1 : individual presentation and video taping (first half of the class)
5	Feedback session : watch the videotaped presentation Teacher and students ask questions to speakers, give comments/ points for improvement, and check for errors made.
6	Chapter 2 : Impromptu Speaking : The lesson will include simplified guidelines and exercises for impromptu speeches.
7	Handouts : articles on varied topics and levels of interests. Group discussions and reporting. Graded
8	Mini speeches based on Chapter 2 : individual presentation (latter half of the class)
9	Feedback session : watch the videotaped presentation Teacher and students ask questions to speakers, give comments/ points for improvement, and check for errors made
10	Students bring an assigned article to class : pair-work exercises and games.
11	Session 10 continued
12	Summary and course evaluation for the 1st term
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Course Re-orientation : The lesson will consist of explaining course objectives and requirements, and content and schedule for the 2nd term. Chapter 5 will be introduced.
2	Chapter 5 : Speaking to inform. The basic principles of informative speeches will be presented and classroom exercises will be conducted.
3	Supplementary Print. Group reading and discussions, followed by group reports in a form of panel discussion. GUIDED
4	Presentation of mini informative speeches. GRADED (first half of the class)
5	Chapter 7 : Speaking to Persuade. Fundamental Principles and guidelines will be presented and exercises will be conducted.
6	Supplementary Print. Group reading and discussions, followed by group reports in a form of panel discussion. GUIDED
7	Presentation of mini speeches. GRADED (latter half of the class)
8	Contemporary Film Viewing (1) (with guide questions)
9	Contemporary Film Viewing (11) Explanation of the mechanics of panel discussion and practice by groups. GUIDED
10	Panel discussions Pros and Cons of the social issues involved in the film. GRADED
11	Summary and course evolution for the 2nd term and for the school-year.
12	
備考	

科目名	Conversation I-14 Conversation I-14 (旧) 英会話 (Intermediate) 33 (旧旧)	担当者名	N. H. Jost
-----	--	------	------------

講義の目標	<p>Aim : To help students build fluency and confidence in spoken english. To help students improve their understanding of rural American culture.</p>	
講義概要	<p>This class will place emphasis on speaking and listening skills. The text will help provide a bases for many of our in-class activities, and will introduce some interesting cultural topics. In addition to that, each class will allow time for free discussions, or free talking, and student generated projects. Final grades will be based on classroom participation and two examinations. Thw first class will be devoted to a more detailed explanation.</p>	
使用教材	テキスト	Stories From Lake Wobegon by Oxford University Press.
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Course introduction : Aims of the course ; requirements ; class procedure ; grading system ; and selection of students.
2	Introduction and lecture : Student introductions ; lecture, "Methods of learning English : Individually and Chorally."
3	<i>The living Flag</i> unit one : Theme patriotic events ; writing task ; guided discussions.
4	Second half of unit one : tasks based on the use of the causative verb.
5	<i>A day at the Circus with Mazumbo</i> , unit two : Theme being a Parent ; news stories.
6	Second half of unit two : tasks based on news headlines. Short review of last two units ; preparations for unit three.
7	<i>Bruno the Fishing Dog</i> unit three : Theme being appreciated ; "would" in the habitual past.
8	Second half of unit three : tasks based on the use of would in the habitual past ; assign preparations for midyear exam.
9	<i>Sylvester Krueger's Desk</i> , unit four : Theme heroes, use of present and perfect participles.
10	Second half of unit four : tasks based on the use of the present and perfect participles.
11	Preparations for midterm examination.
12	midterm examination.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Return examination and lecture : "Importance of Vocabulary Acquisition. "start unit five.
2	<i>The Lake Wobegon Cave</i> , unit five : theme tall tales ; use of reported speech.
3	Second half of unit five : tasks based on the use of reported speech.
4	<i>Thanksgiving : The exiles Return</i> , unit six : Theme going home ; past perfect ; writing tasks.
5	Second half of unit six : tasks based on the use of past perfect.
6	<i>Father Emil's Starry Night</i> , unit seven : Theme finding a vocation ; present perfect
7	Second half of unit seven : tasks based on the use of the present perfect.
8	<i>Storm home</i> , unit eight : theme finding a haven ; present unreal conditions.
9	Second half of unit eight : tasks based on the use of modal ; perfects and past unreal.
10	<i>Starting the Car in Winter</i> : unit nine : theme accepting help ; review for final exam.
11	Final examinations
12	Continue final examinations ; student evaluations.
備考	

科目名	Conversation I-15 Conversation I-15 (旧) 英会話 (Intermediate) 34 (旧旧)	担当者名	D. R. Kogge
-----	--	------	-------------

講義の目標	This course is designed to give students an opportunity to increase their vocabulary, fluency, and above all, confidence in speaking English.	
講義概要	The course is organized around a small-group, student-centered discussion format. A wide range of topics of interest to university-age students will be presented.	
使用教材	テキスト	Printed materials
	参考文献	
評価方法	Participation and attendance : 50% Speech : 25% Mid-term and final exam : 25%	
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	Introduction to course
2	Understanding rapidly-spoken English
3	Becoming bilingual
4	Foreign culture and Japan
5	The roots of racism around the world
6	Religious fundamentalism
7	Extraterrestrial intelligence
8	Lifestyles
9	Article 9
10	Speeches
11	Speeches
12	Mid-term exam
備考	

後期

週	主要テーマ
1	Review of rapidly-spoken English
2	Regimentation in Japanese education
3	Public morality
4	Gun ownership in the U.S.
5	Crime and punishment
6	Royal families
7	Marriage in the 1990s
8	Raising children
9	Music and personality
10	Speeches
11	Speeches
12	Final exam
備考	

科目名	Conversation I-16 Conversation I-16 (旧) 英会話 (Intermediate) 35 (旧旧)	担当者名	D. M. Meyers
-----	--	------	--------------

講義の目標	THIS COURSE WILL PROVIDE A FORUM FOR WEEKLY DISCUSSION OF SELECTED CONTEMPORARY SOCIAL ISSUES WHICH I BELIEVE WILL BE OF INTEREST TO UNIVERSITY STUDENTS. IT WILL FACILITATE THE EMPLOYMENT OF PRACTICAL ENGLISH IN THE ANALYSIS OF REAL PROBLEMS IN TODAY'S WORLD.		
講義概要	A SERIES OF PRINTED READINGS FOCUSED ON CONTEMPORARY ISSUES AND PROBLEMS WILL BE DISTRIBUTED THE WEEK PRIOR TO THE DAY SCHEDULED FOR THEIR DISCUSSION BY THE INSTRUCTOR. THESE WILL PROVIDE THE BASIS FOR WHAT I HOPE WILL BE VIGOROUS CLASS SMALL-GROUP DISCUSSIONS. THE EMPHASIS OF THE COURSE WILL BE UPON ACTIVE, AND AS FAR AS POSSIBLE, UNDIRECTED PARTICIPATION BY THE CLASS MEMBERS.		
使用教材	テキスト	I SHALL DISTRIBUTE A PRINTED READING FOR EACH SCHEDULED DISCUSSION.	
	参考文献		
評価方法	GRADES WILL BE DETERMINED ON THE BASIS OF ATTENDANCE AND THE STUDENT'S PARTICIPATION, AS WELL AS HIS OR HER ENGLISH ABILITY ON AN ABSOLUTE SCALE.		
受講者に対する要望など	STUDENTS ARE EXPECTED TO ATTEND REGULARLY AND TO TAKE AN ACTIVE ROLE IN OUR WEEKLY DISCUSSIONS.		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	THE IMPORTANCE OF SPORTS AND PHYSICAL ACTIVITIES FOR HEALTH AND WELL-BEING
2	THE CHARACTER, DEFECTS, AND PROPOSED REFORM OF ENGLISH-LANGUAGE EDUCATION IN JAPAN
3	THE USE AND ABUSE OF ALCOHOL IN TRADITIONAL AND CONTEMPORARY JAPANESE SOCIETY
4	TO WED OR NOT? AND IF SO, WHEN, AND ON WHAT TERMS?: THE CHANGING INSTITUTION OF MARRIAGE IN JAPAN
5	THE ROLE OF TRAVEL IN BROADENING THE INDIVIDUAL AND FACILITATING CULTURAL EXCHANGE
6	JAPAN'S CHANGING POPULATION: THE PRESENCE OF INCREASING NUMBERS OF FOREIGN WORKERS, LEGAL AND ILLEGAL
7	JAPAN'S CRIMINAL UNDERWORLD: PARAGONS OF TRADITION? OR DANGEROUS PREDATORS?
8	THE ROLE OF THE MEDIA IN EDUCATING AND INFORMING, OR MISINFORMING, THE RESPONSIBLE INDIVIDUAL
9	INTERNATIONAL MARRIAGE: GARDEN OF OPPORTUNITY, OR MINEFIELD OF CULTURAL MISUNDERSTANDING?
10	THE SEMPAI-KOHAI RELATIONSHIP, AND THE SUBORDINATION OF THE INDIVIDUAL TO THE GROUP
11	EAST-WEST CULTURE DIFFERENCES IN THE CONTEXT OF CONTEMPORARY JAPANESE SOCIETY
12	NATURE, SCIENCE, AND ETHICS: THE MORAL DILEMMAS OF EUTHANASIA, GENETIC ENGINEERING, & ABORTION
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	THROUGH THE "TELEVISION WASTELAND": ADVANTAGES AND LIABILITIES OF SPENDING TIME BEFORE THE "TUBE"
2	"WHAT DO WOMEN WANT?": WOMEN'S STATUS AND AMBITIONS IN CONTEMPORARY JAPANESE SOCIETY
3	"ANIMALS ARE PEOPLE, TOO": SEEING THAT MAN'S BEST FRIEND IS TREATED HUMANELY
4	CINEMATOGRAPHY AND IMAGINATION: THE POWER OF FILMS IN FORMING ONE'S WORLD VIEW AND ASPIRATIONS
5	FROM MANGA TO MAUPASSANT: THE LURE OF LITERATURE, AND ITS CONTRIBUTION TO OUR EVERYDAY LIVES
6	"WHAT ARE YOU DOING TO DECREASE TOKYO'S TRASH?": PRACTICAL MEASURES TO PRESERVE THE ENVIRONMENT
7	TAROT CARDS, TEMPLES, TESO, AND UFO'S: THE PERENNIAL APPEAL OF RELIGION, MAGIC, MYSTERY, AND THE OCCULT
8	FROM BEETHOVEN TO THE BEATLES: THE IMPORTANCE OF MUSIC IN OUR LIVES
9	INDIVIDUAL STUDENT SPEECHES
10	INDIVIDUAL STUDENT SPEECHES
11	INDIVIDUAL STUDENT SPEECHES
12	INDIVIDUAL STUDENT SPEECHES
備考	

科目名	Conversation I-17 Conversation I-17 (旧) 英会話 (Intermediate) 36 (旧旧)	担当者名	R. M. Payne
-----	--	------	-------------

講義の目標	Students will learn the language needed for everyday life in the U.S. They will become more comfortable and fluent in spoken English while discussing and learning about American customs and lifestyles.	
講義概要	<i>Unit 1: Faces of America</i> -a look at both urban and rural America <i>Unit 2: Around Town</i> -daily activities such as banking, mailing letters, and shopping for groceries <i>Unit 3: On the Go</i> -travel and transportation in the U.S. <i>Unit 4: Just for Fun</i> -ways Americans spend their leisure time	
使用教材	テキスト	Everyday Situations for Communicating in English
	参考文献	
評価方法	Grades will be based on attendance, participation in activities, home work, and test scores	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	New York City's Battery Park—a look at 1 historic entrance to the U. S.
2	New York City's Battery Park—a look at 1 historic entrance to the U. S.
3	A City Street—a look at a scene from a “typical” large American city.
4	A City Street—a look at a scene from a “typical” large American city.
5	On a Farm—Not all Americans live in big cities, This unit will look at rural American life.
6	On a Farm—Not all Americans live in big cities, This unit will look at rural American life.
7	At the Bank—students will study about the many services provided by American banks
8	At the Bank—students will study about the many services provided by American banks
9	At the Post office—shows how the U. S. Postal Service works and the services it offers.
10	At the Post office—shows how the U. S. Postal Service works and the services it offers.
11	At the Supermarket—focuses on the important topic of buying food.
12	At the Supermarket—focuses on the important topic of buying food.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	At the Bus Station/Airport—focus will be on two ways to travel long distances in America.
2	At the Bus Station/Airport—focus will be on two ways to travel long distances in America.
3	At a motel—a look at where Americans stay when they're away from home.
4	At a motel—a look at where Americans stay when they're away from home.
5	At the Beach—students will discuss a variety of outdoor sports and activities for warm weather
6	At the Beach—students will discuss a variety of outdoor sports and activities for warm weather
7	Winter Sports and Activities—shows what Americans do for fun when the weather is cold and/or snowy.
8	Winter Sports and Activities—shows what Americans do for fun when the weather is cold and/or snowy.
9	A Thanksgiving Day Dinner—some of the customs and traditions of this holiday will be discussed.
10	A Thanksgiving Day Dinner—some of the customs and traditions of this holiday will be discussed.
11	At an Outdoor Concert/Amusement Park—a rock concert and the fun of an amusement park's rides.
12	At an Outdoor Concert/Amusement Park—a rock concert and the fun of an amusement park's rides.
備考	

科目名	Conversation I-18 Conversation I-18 (旧) 英会話 (Intermediate) 37 (旧旧)	担当者名	C. J. Poel
-----	--	------	------------

講義の目標	The goal of Conversation I is to familiarize you with communication strategies and using English as a social tool.	
講義概要	This course will integrate listening, reading, and speaking. You will work in small groups studying and discussing various cultural topics, such as careers, traveling, schools, and AIDS. <i>All discussions will be in English !!</i> You will be expected to do homework every week to prepare for the class discussions.	
使用教材	テキスト	<i>Interchange 3</i> by Jack C. Richards, Jonathan Hull, and Susan Proctor (Cambridge University Press)
	参考文献	All students will be expected to have an English-English dictionary.
評価方法	The final grade for this course will be determined by (1) participation during class activities [50 %], (2) homework [25 %], and (3) tests [25 %].	
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	Unit 1: That's what friends are for
2	Interchange 1: Hidden truths
3	Unit 2: On the job
4	Interchange 2: I'd like that job
5	Unit 3: Destinations
6	Interchange 3: The best and the worst; Test on Units 1-3
7	Unit 4: What a story!
8	Interchange 4: A double ending
9	Unit 5: Could you do me a favor?
10	Interchange 5: You must be kidding!
11	Unit 6: Comparatively speaking
12	Interchange 6: Shopping survey; Test on Units 4-6
備考	

後期

週	主要テーマ
1	Unit 7: Don't drink the water!
2	Interchange 7: Studying abroad
3	Unit 8: Getting things done
4	Interchange 8: Do you have a minute?
5	Unit 9: Is that a fact?
6	Interchange 9: History buff; Test on Units 7-9
7	Unit 10: There's no place like home
8	Interchange 10: You sold me a piece of junk!
9	Unit 11: What a world we live in!
10	Interchange 11: And how about you?
11	Unit 12: How does it work?
12	Interchange 12: Same or different?; Test on Units 10-12
備考	

科目名	Conversation I -19 Conversation I -19 (旧) 英会話 (Intermediate) 38 (旧旧)	担当者名	M. A. Schible
-----	--	------	---------------

講義の目標	The major goals of the course are to help students develop practical language skills—specifically oral comprehension and speaking—necessary for success in the professions and business.		
講義概要	Class time will be spent in improvement of listening comprehension with the aid of audio and video tape from news broadcasts, drama, comedy and documentaries. Students are expected to actively take part in discussions based on the above programs and articles from English language newspapers and magazines.		
使用教材	テキスト	Prints supplied by instructor.	
	参考文献		
評価方法	Grades will be based on active participation, improvement in oral skills, attendance, quizzes and presentations. Students absent over five times will fail the course.		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Orientation covering the goals, methods and standards for course evaluation. Interviews and selection of students; distribution of prints and introduction of first topic for discussion.
2	Discussion: American life style "Here Come the DINKs," <i>Time Magazine</i>
3	Viewing and discussion of segment from news broadcast. "Swing Fever," ABC. Quiz
4	Discussion: Environment. Text: to be announced
5	Viewing and discussion based on U. S. documentary. "Empire of the Air," KCET, Los Angeles, 1994.
6	Viewing and discussion of U. S. documentary. "Empire of the Air" (cont.) Quiz
7	Orientation for student presentations.
8	Student presentations
9	Student presentations
10	Student presentations
11	Student presentations
12	Discussion and evaluation of student reports.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Viewing and discussion Soap: "Dynasty," Super Channel, Tokyo 18 December 1994
2	Viewing and discussion Soap: "Dynasty" (cont.)
3	Discussion: Sports and Entertainment Text: to be announced
4	Discussion: The Economy "Taxpayers Are Angry. Taxpayers Are Expensive, Too.," <i>New York Times</i> 20 November 1994. Quiz
5	Discussion: Science and Technology Text: to be announced
6	Discussion: Education "Big Chill on Campus," <i>Time Magazine</i> . Quiz
7	Orientation for student presentations
8	Student presentations
9	Student presentations
10	Student presentations
11	Student presentations
12	Discussion and evaluation of student reports.
備考	

科目名	Conversation I -20 Conversation I -20 (旧) 英会話 (Intermediate) 39 (旧旧)	担当者名	J. J. Waldman
-----	--	------	---------------

講義の目標	The goal of this class will be to help students raise their level of fluency, improve communicative skills and deepen their understanding of cultural differences.	
講義概要	Class time will be divided between whole class activities from the text and small group discussions based on handouts from the teacher.	
使用教材	テキスト	The text used in this course will be <i>The Electric Elephant</i> , by Carolyn Graham.
	参考文献	
評価方法	Students will be graded on attendance, classroom participation, daily homework and monthly tests.	
受講者に対する要望など	The teacher will expect all students to adhere to the grade requirements, listed above.	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introductions with students and teacher. An explanation of the grading system and student requirements.
2	Unit One will center around the importance of learning a second language.
3	Unit Two will consist of discussions based on differences or similarities between Japanese and American family values.
4	Unit Three is going to evaluate the shopping patterns among young Japanese adults.
5	Unit Four will discuss dating and marriage customs in Japan and United States.
6	A review of the previous four lessons for test preparation.
7	Test on lessons one through four.
8	This unit will focus on travel experiences to broaden cultural understanding.
9	In this lesson discussions will center around endangered animals.
10	The differences and similarities between American and Japanese universities will be the main topic of discussion.
11	A review of previous lessons for test preparation.
12	Test on previous four lessons.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	This unit will focus on leisure activities and attitudes toward work and family life.
2	Topics in this lesson will center on longevity patterns in Japan and the United States.
3	In this unit discussions will be about diets from different countries and holiday meals.
4	Living conditions in Japan and the United States will be the main topic of conversation in this lesson.
5	A review of the four previous lessons for test preparation.
6	Test on previous four lessons.
7	This unit will look at important historical events and famous figures.
8	Communication practice using music to facilitate speaking will be the objective of this lesson.
9	The changing roles of men and women in Japan and the United States will be the main topic in this unit.
10	Review of previous lessons for test preparation.
11	Test on previous three lessons.
12	Course and student evaluation.
備考	

科目名	Conversation II-1 Conversation II-1 (旧) 英会話 (Advanced) 10 (旧旧)	担当者名	W. J. Benfield
-----	--	------	----------------

講義の目標	The aim the course is to develop general fluency through discussion and student presentation of a variety of topics. We will also focus particularly on vocabulary development.	
講義概要	Each topic will cover two classes. In the first class we use texts and/or video to outline the main points. Students will do further research for homework and in the second class, the topic will be discussed at greater length or will form the subject for group or individual presentation. Topics listed may change or be extended depending on the interests of the class.	
使用教材	テキスト	There will be no set text. Photocopies of newspaper or magazine extracts, or video clips will provide the basis for discussion.
	参考文献	
評価方法	Assessment will be based on attendance, participation and performance in class. There will also be an examination at the end of each semester in the form of an assessed discussion or presentation.	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Ineroduction to the course. Student selection on the basis of a short test.
2	Topic : Changing Japan.
3	Topic 1 contd.
4	Topic 2 : The environmental crisis.
5	Topic 2 contd.
6	Topic 3: The internationalization of communication.
7	Topic 3 contd.
8	Topic 4 : The rise of nationalism.
9	Topic 4 contd.
10	Topic 5 : The problem of AIDS.
11	Topic 5 contd.
12	Mid-term examination.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Review of first term and mid-term examination.
2	Topic 6 : Work—are any jobs permanent?
3	Topic 6 contd.
4	Topic 7 : crime and punishment.
5	Topic 7 contd.
6	Topic 8 : Japan's role in the world
7	Topic 8 contd.
8	Topic 9 : The drug problem.
9	Topic 9 contd.
10	Topic 10 : Popular music, fashion
11	Topic 10 contd.
12	Final examination.
備考	

科目名	Conversation II-2 Conversation II-2 (旧) 英会話 (Advanced) 11 (旧旧)	担当者名	D. Bradley
-----	--	------	------------

講義の目標	<p>1. To use the text as a basis for discussion.</p> <p>2. To think about the idea of culture.</p> <p>3. In the simulation games, to create feelings which are similar to those you might encounter when you travel to a different culture.</p>	
講義概要	<p>This is a conversation class. Students will be expected to read a chapter of the textbook before each class so that they can join in the discussion. There will be handouts to supplement the textbook, all with the aim of encouraging speaking.</p>	
使用教材	テキスト	Nancy Sakamoto and Reiko Naotsuka; <i>Polite Fictions</i> , Kinseido
	参考文献	
評価方法	<p>Assessment will be based on attendance, class participation, homework assignments and tests.</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction
2	General Discussion Topics - Giving Opinions
3	"
4	" - Newspaper Articles
5	"
6	Simulation Game on Cultural Clashes
7	Chapter 1 - You and I are Equals: greetings and how they reflect social assumptions.
8	Chapter 2 - You and I are Close Friends: names and being friendly.
9	Chapter 3 - You and I are Relaxed: a look at different styles of entertaining.
10	Chapter 4 - You and I are Independent: social structure and how it is reflected in the way people ask favors.
11	Chapter 5 - People as Individuals: how cultural assumptions affect not only how you speak but what you say.
12	Test
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Film on cross-cultural exchange
2	"
3	Chapter 6 - Being Original: emphasizes the content of what people say and looks at the effect on the movies they enjoy.
4	Chapter 7 - Questions, Questions!: "aisatsu" questions don't need to be answered.
5	Chapter 8 - Answer to the Point!: straight line versus circular logic.
6	Chapter 9 - Conversational Ballgames: conversation as a sport, tennis versus bowling.
7	Chapter 10 - Don't Apologize!: when not to apologize.
8	Chapter 11 - Nobody Told Me! when to apologize.
9	Culture Simulation - Game
10	" - Discussion
11	Review
12	Test
備考	

科目名	Conversation II-3 Conversation II-3 (旧) 英会話 (Advanced) 12 (旧旧)	担当者名	J. J. Duggan
-----	--	------	--------------

講義の目標	The purpose of this course is to give students the chance to use English discussion skills at a higher level. The secondary goal is to introduce the content-based material of American values.	
講義概要	This class will present and explain the values, attitudes, and cultural patterns underlying American behavior patterns and institutions. This will be used as the basis of class discussion.	
使用教材	テキスト	Kearny, M. A., et. al.; The American Way, Prentice-Hall Regents
	参考文献	
評価方法	Grades will be based on attendance, in-class participation, bi-weekly assignments, and a midyear and final exam.	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Course description and explanation (text pp.vii-ix).
2	Chapter 1— Introduction to American Culture (pp.1-17). Vocabulary & comprehension exercises.
3	Class discussion on Chapter 1.
4	Chapter 2— Basic American Values and Beliefs (pp.18-37). Vocabulary & comprehension exercises.
5	Class discussion on Chapter 2.
6	Chapter 3— The Protestant Heritage (pp.38-57). Vocabulary & comprehension exercises.
7	Class discussion on Chapter 3.
8	Chapter 4—The Frontier Heritage (pp.58-77). Vocabulary & comprehension exercises.
9	Class discussion on Chapter 4.
10	Chapter 5—The Heritage of Abundance (pp.78-99). Vocabulary & comprehension exercises.
11	Class discussion on Chapter 5.
12	Midyear Examination.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Review of first term material.
2	Chapter 6— The World of American Business (pp.100-119). Vocabulary & comprehension exercises.
3	Class discussion on Chapter 6.
4	Chapter 7— Government and Politics in the United States (pp.120-139). Vocabulary & comprehension exercises.
5	Class discussion on Chapter 7.
6	Chapter 8— Ethnic and Racial Assimilation in the United States (pp.140-159). Vocabulary & comprehension exercises.
7	Class discussion on Chapter 8.
8	Chapter 9— Education in the United States (pp.160-181). Vocabulary & comprehension exercises.
9	Class discussion on Chapter 9.
10	Chapter 10— Organized Sports and Recreation (pp.182-199). Vocabulary & comprehension exercises.
11	Class discussion on Chapter 10.
12	Final Examination.
備考	

科目名	Conversation II-4 Conversation II-4 (旧) 英会話 (Advanced) 13 (旧旧)	担当者名	A. R. Falvo
-----	--	------	-------------

講義の目標	TO FOCUS ON INFERENCE AND PREDICTION THROUGH THE USE OF VISUAL MATERIAL	
講義概要		
使用教材	テキスト	<i>FIRST TERM DEATH BECOMES HER SECOND TERM GHOST</i>
	参考文献	SCRIPT OF BOTH VIDEOS
評価方法	CLASS ATTENDANCE. PARTICIPATION AND RESULT OF TWO EXAMS-50 QUESTIONS ON NATURAL REJOINDERS, DESCRIPTIONS AND COTEXT AS DETERMINED THROUGH INFERENCE TYPE QUESTIONS	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	COURSE INTRODUCTION-EXPECTATIONS GRADING CRITERIA AND STANDARDS
2	PREDICTION IN CONTROLLED SITUATIONS
3	REACTING TO SITUATIONS WITH VISUAL CLUES
4	ROLE PLAY TECHNIQUES WITH MODELS FROM VIDEO MATERIALS
5	PARALINGUISTIC FEATURES FOR MIME AND GESTURES IN COMMUNICATION
6	DISPLAY AND SORTING VARIOUS LANGUAGE REGISTERS IN DIFFERENT COMMUNICATIVE SITUATIONS
7	FOCUS ON NARRATIVE RECALL-DIRECT AND INDIRECT SPEECH
8	SPECULATION USING VARIOUS ITEMS PRESENTED ON VIDEO
9	PREDICTION OF ACTIVITIES FROM PARALINGUISTIC FEATURES IN VIDEO
10	INFERENCE AS A CONSEQUENCE OF VIEWING THE TOTAL COMMUNICATIVE CONTEXT
11	REVIEW FOR EXAMINATION OF TOPICS DISCUSSED THROUGHOUT TERM
12	VIDEO EXAMINATION OF MATERIAL WITH 50 QUESTIONS CONTENT, INFERENCE
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	VIDEO REVIEW OF FIRST TERM EXAMINATION MATERIAL
2	PREDICTION IN CONTROLLED SITUATION
3	REACTING TO SITUATIONS WITH VISUAL CLUES
4	ROLE PLAY TECHNIQUES WITH MODELS FROM VIDEO MATERIALS
5	PARALINGUISTIC FEATURES FOR MIME AND GESTURES IN COMMUNICATION
6	DISPLAY AND SORTING VARIOUS LANGUAGE REGISTERS IN DIFFERENT SITUATIONS
7	FOCUS ON NARRATIVE RECALL-DIRECT AND INDIRECT SPEECH
8	SPECULATION USING VARIOUS ITEMS PRESENTED ON VIDEO
9	PREDICTION OF ACTIVITIES FROM PARALINGUISTIC FEATURES IN VIDEO
10	INFERENCE AS A CONSEQUENCE OF VIEWING THE TOTAL COMMUNICATIVE CONTEXT
11	REVIEW FOR EXAMINATION OF TOPICS DISCUSSED THROUGHOUT TERM
12	VIDEO EXAMINATION OF MATERIALS WITH 50 QUESTIONS-CONTENT, INFERENCE
備考	

科目名	Conversation II -6 Conversation II -6 (旧) 英会話 (Advanced) 15 (旧旧)	担当者名	T. Hill
-----	--	------	---------

講義の目標	To help students develop the ability to formulate ideas and express their opinions on issues of international significance.	
講義概要		
使用教材	テキスト	Articles from Newspapers and Magazines .
	参考文献	
評価方法	Students will be graded on participation in class discussion, mid-term and final speech, and attendance.	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Euthanasia : should it be legalized in our modern society?
2	Article 9 : should it be changed?
3	The International Community : what should Japan's role be?
4	University Education : its role in Japan's modern society.
5	Homosexuality : a sickness or an alternative life-style?
6	Aids : how should children be taught about the problem?
7	Mass Media : the good points and the bad points.
8	The Northern Territories : do we need them?
9	Japan : what can we be proud of in our culture?
10	Japan : what should we be ashamed of in our culture?
11	Test—a speech (15 mins)
12	Test—a speech (15 mins)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Japanese women : what should their role be in society?
2	'Japan is boy 12' : Does America misunderstand us?
3	Japanese education : its strengths and weaknesses.
4	God : is religion important in the modern world?
5	Royalty : do we need them?
6	Smoking : should it be banned in all public places?
7	English education in Japan : its strengths and weaknesses.
8	Foreigners : do we want them in Japan?
9	A multicultural society : what is it? do we want it?
10	Sport : its role in modern life.
11	Test—a speech (15 mins)
12	Test—a speech (15 mins)
備考	

科目名	Conversation II-7 Conversation II-7 (旧) 英会話 (Advanced) 16 (旧旧)	担当者名	C. B. 池口
-----	--	------	----------

講義の目標	The primary goal of this course is to develop clear and effective oral communication skills as a manifestation of a clear, analytic and critical thinking. It will help students to express their ideas naturally before an audience, guided by model speeches and simplified rules on public speaking.	
講義概要	The basic principles in public speaking will be presented in class, after which students will listen to model speeches. These guidelines will facilitate the students' construction and delivery of their own speeches. Aside from presenting their individual speeches, the students will ask questions and exchange ideas after each speech to help develop active listening. Outstanding speakers will be chosen for the argumentation and debate which will be the culminating activity to help improve analytic and critical thinking.	
使用教材	テキスト	<i>Speech Communication for International Students</i> , P. Dale and J. Wolf
	参考文献	
評価方法	Student evaluation will be based on class performance which will mean participation in discussions, speeches, a mid-year and a final oral test. Attendance is a must.	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Course Orientation. This will include course description, course objectives, evaluation method and details of the term's course content and schedule.
2	Chapter 1 : <i>Speaking to Develop Self-Confidence</i> . The lesson will focus on helpful tips and exercises to prepare students for their individual speeches.
3	<i>World Famous Speeches I</i> : Informal Speeches : Delivery of individual speeches
4	Informal Speeches continued
5	Chapter 2 : <i>Thinking on your feet</i> . The lesson will include guidelines and exercises for the delivery of impromptu speeches.
6	Graded Impromptu Speech Presentation
7	Graded Impromptu Speech Presentation (continued)
8	Chapter 3 : <i>Speaking to inform</i> . The lesson will focus on the fundamentals of informative speeches.
9	CBS News : Viewing and Group discussion of issues involved (Preparation)
10	CBS News : Group presentation of issues involved (Panel discussion form-first of the class)
11	Summary and Course evaluation for the first term
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Course Re-orientation : The day's lesson will consist mainly of reiterating course objectives, requirements and schedule for the 2nd term. It will introduce Chapter 5 of the text.
2	Chapter 5 : <i>Speaking to inform</i> : Graded Informative Speech Presentation (second half of the class)
3	Chapter 7 : <i>Speaking to Persuade</i> . The lesson will focus on the guidelines and basic exercises to help prepare and organize for individual speeches.
4	<i>World Famous Speeches II</i> : Criticism/Exercises
5	Graded Persuasive speeches
6	Chapter 8. <i>Argumentation and debate</i> . The lesson will essentially consist of the fundamental principles of debating.
7	Motion Picture Viewing (1)
8	Motion Picture Viewing (2) Preparation for panel discussion of relevant social issues from the movie
9	Group presentations : Panel discussion (first half of the class)
10	Application of Chapter 8 : Debating on the Issues involved in the movie (second half of the class)
11	Summary and Course Evaluation for the 2nd term/for the school-year.
12	
備考	

科目名	Conversation II-8 Conversation II-8 (旧) 英会話 (Advanced) 17 (旧旧)	担当者名	N. H. Jost
-----	--	------	------------

講義の目標	<p>Aim: To provide students with the opportunity (1) to discuss familiar topics concerning student life, (2) to prepare and conduct group discussions, (3) to develop communicative competence and (4) to consider cultural heritage.</p>		
講義概要	<p>There are two primary aims for this class: one is to provide students with an opportunity to discover and discuss some of the themes that are present in the material chosen for this class; the other is to help students develop effective communication skills. Students considering this class should keep in mind that one, active classroom participation is essential; two, there will be a fair amount of outside classroom work, especially with regards to reading, viewing films and preparation for in-class projects; three, final grades will be based on classroom participation and midterm and final examinations.</p>		
使用教材	テキスト	Materials provided by instructor. Foundations of American Culture by John Tilmant	
	参考文献	The Meaning of Internationalization by Edwin Reischauer	
評価方法			
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Course introduction: Aims; grading policy; course requirements; class attendance; etc.
2	Student introductions; discussion of course particulars.
3	Discussion: Learning English: What is the "best way" to learn English? For what reason do we learn English?
4	A look at last week's discussion: good points; weak points; amount of discussion; etc. Student assignment for following week's discussion topic.
5	First group discussion/presentation with student evaluations.
6	Discussions about outside movie: "Dead Poet Society" (To be viewed by students outside of class.)
7	Second group discussion/presentation with student evaluations.
8	Third group discussion/presentation with evaluations.
9	Discussions about outside movie: "When Harry Met Sally" (To be viewed out of class)
10	Fourth group discussion/presentation with evaluations.
11	Fifth group discussion/presentation with evaluations.
12	Evaluation of first semester student participation.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Second semester introduction; comments on first semester; return of evaluations.
2	The Meaning of Internationalization by Edwin Reischauer—first discussion: "What Can Japan Contribute to the World"
3	The Meaning of Internationalization by Edwin Reischauer—second discussion: "On Being a World Citizen"
4	The Meaning of Internationalization by Edwin Reischauer—third discussion: "On Studying a Foreign Language"
5	Foundations of American Culture by John Tilmant—fourth: discussion: Christianity/Puritanism—Religion in America.
6	Foundations of American Culture by John Tilmant—fifth: discussion: American Ideas or Rights
7	Foundations of American Culture by John Tilmant—sixth: discussion: Education in America
8	Open discussion
9	Hemingway's "The Old Man and the Sea" (To be seen outside of Class)
10	A discussion of American and Japanese literature: Who's your favorite writer/author?
11	Pot pourri
12	Evaluation of second semester student participation.
備考	

科目名	Conversation II-9 Conversation II-9 (旧) 英会話 (Advanced) 18 (旧旧)	担当者名	D. R. Kogge
-----	--	------	-------------

講義の目標	This course is designed to give students an opportunity to increase their vocabulary, fluency, and above all, confidence in speaking English.	
講義概要	The course is organized around a small-group, student-centered format. Discussion will focus on topics of international significance.	
使用教材	テキスト	Printed materials
	参考文献	
評価方法	Participation and attendance : 50% Speech : 25% Mid-term and final exam : 25%	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction to course
2	The quality of American leadership
3	The world's policeman
4	The legacy of the Berlin wall
5	North Korea's cult of personality
6	Palestine and Israel
7	Change in South Africa
8	The "separatist" movement in Taiwan
9	Post-1997 Hong Kong
10	Speeches
11	Speeches
12	Mid-term exam
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	What is freedom?
2	Nationalism and right-wingers
3	Japan-bashing and "kenbei"
4	The collapse of communism
5	The Northern Territories
6	The lessons of Vietnam
7	Does peace have a chance in Ulster?
8	The effects of prosperity in southeast Asia
9	Japan's place in the world community
10	Speeches
11	Speeches
12	Final exam
備考	

科目名	Conversation II-10 Conversation II-10 (旧) 英会話 (Advanced) 19 (旧旧)	担当者名	J. M. Thurlow
-----	--	------	---------------

講義の目標	To develop listening and conversation skills. To find new ways of using the English which students already know.	
講義概要	We will use pair work, group work and role playing to discuss various problems and situations which students might encounter in real life.	
使用教材	テキスト	NO TEXT
	参考文献	
評価方法	Grades will be awarded according to attainment, attendance, effort in class and punctuality. There will be an oral exam as well as continuous assessment.	
受講者に対する要望など	To discuss the world, you need to know something about it. Please read newspapers, magazines (preferably in English!), watch TV, keep your eyes, ears and minds open.	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction and outline of the course.
2	Observation tests.
3	Role playing.
4	Holidays.
5	Role playing.
6	Over population and family planning.
7	Role playing.
8	Health matters.
9	Role playing.
10	Dreams.
11	Test (Part 1).
12	Test (Part 2).
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Summary of first semester. Second thoughts.
2	Role playing.
3	Homes and families.
4	Role playing.
5	Violence on TV and in real life.
6	Role playing.
7	Foreign workers.
8	Role playing.
9	AIDS.
10	Role playing.
11	Fortune telling.
12	Final test.
備考	

科目名	Discussion 1 Discussion 1 (旧) 英会話 (Highly Advanced : Discussion) 1 (旧旧)	担当者名	W. J. Benfield
-----	---	------	----------------

講義の目標	<p>The course will be essentially content-based, with a focus on the theme of cultural comparison. The main aim will be to increase awareness of a variety of cultural factors that determine people's view of themselves and others, and hence have a crucial bearing on communication. On a linguistic level, the aim of the course is to develop fluency in discussing such topics and provide the opportunity for considerable expansion in vocabulary and range of expression.</p>		
講義概要	<p>We will explore a number of thematic areas linked to the subject of culture. The word culture here does not refer only to high culture such as literature and art, etc., but to the broader theme of culture, i. e. the traditions, beliefs and practices by which people define themselves. Some of the themes covered in the course will be language, family and social relationships, popular culture and entertainment, and the mass media. There will be no set text, and material will be drawn from a number of publications. Video clips may also be used where appropriate. Students will undertake research projects in groups and present their results orally to the class in a variety of forms.</p>		
使用教材	テキスト	Print and video	
	参考文献		
評価方法	<p>Assessment will be on the basis of attendance, performance in class and participation. There will also an examination at the end of the first semester based on a presentation given by each group. The final examination will be a written report on any area of the course.</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Outline of course. Student selection on the basis of a short test.
2	Review of test. Group formation. More detailed discussion of procedure. Research questionnaire for homework to prepare for discussion the following week.
3	Review of questionnaire. Discussion: what do we mean by 'culture'?
4	Students present what they think are the main distinguishing features of Japanese culture and explain how these might differ from those of other countries with which they are familiar.
5	A look at basic social units: the family, the company.
6	Continuation of week 6 theme.
7	Group presentations.
8	How a culture transmits its values: education.
9	Continuation of week 8 theme.
10	Group presentations. How a culture transmits its values: the mass media.
11	Continuation of week 10 theme. Exam preparation.
12	Mid-term examination.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Review of first term's work.
2	Language and culture: how social structures are reflected in language.
3	Continuation of week 2 theme.
4	Group presentations.
5	Talking without speaking: non-verbal communication.
6	Continuation of week 4 theme.
7	Group presentations.
8	How a culture transmits its values: popular culture, sport and entertainment.
9	Continuation of week 8.
10	Group presentations.
11	Review of all areas covered. Summing up.
12	Final examination.
備考	

科目名	Discussion 2 Discussion 2 (旧) 英会話 (Highly Advanced : Discussion) 2 (旧旧)	担当者名	T. Hill
-----	---	------	---------

講義の目標	To help students develop the ability to formulate ideas and express their opinions on issues of international significance.	
講義概要		
使用教材	テキスト	Articles from Newspapers and Magazines
	参考文献	
評価方法	Students will be graded on participation in class discussion, mid-term and final speech, and attendance.	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Euthanasia : should it be legalized in our modern society?
2	Article 9 : should it be changed?
3	The International Community : what should Japan's role be?
4	University Education : its role in Japan's modern society.
5	Homosexuality : a sickness or an alternative life-style?
6	Aids : how should children be taught about the problem?
7	Mass Media : the good points and the bad points.
8	The Northern Territories : do we need them?
9	Japan : what can we be proud of in our culture?
10	Japan : what should we be ashamed of in our culture?
11	Test—a speech (15 mins)
12	Test—a speech (15 mins)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Japanese women : what should their role be in society?
2	'Japan is boy 12' : Does America misunderstand us?
3	Japanese education : its strengths and weaknesses.
4	God : is religion important in the modern world?
5	Royalty : do we need them?
6	Smoking : should it be banned in all public places?
7	English education in Japan : its strengths and weaknesses.
8	Foreigners : do we want them in Japan?
9	A multicultural society : what is it? do we want it?
10	Sport : its role in modern life.
11	Test—a speech (15 mins)
12	Test—a speech (15 mins)
備考	

科目名	Discussion 3 Discussion 3 (旧) 英会話 (Highly Advanced : Discussion) 3 (旧旧)	担当者名	N. H. Jost
-----	---	------	------------

講義の目標	<p>Aim : To help students gain an understanding of a new area of language acquisition : To help students gain confidence and control in their speech, and develop a higher understanding of how English "works."</p>	
講義概要	<p>This course is for students whose English is at a highly advanced level. The primary aim of this course is to explore and discuss the techniques rhetoricians use in their speech (speaking habits) and ultimately learn to mimic/ise those techniques in our discussions. To this end, classroom time will be spent investigating some famous speeches and debates (from ancient to modern), and looking at how they are "put" together. Then with this knowledge at hand students will be involved in task that help them (1) develop a sense or understanding of English at a higher level, (2) develop more advanced speaking habits and (3) gain a wider understanding of the topics discussed in this course. Final grades will be solely determined by class participation, including assignment preparations. Students who do not have an interest in discourse analysis—an investigation into speaking habits—should not consider this class as it requires not only speaking ability but also an interest and desire to learn about the topics this class investigates.</p>	
使用教材	テキスト	Various prints and handouts, videos clips and audio tapes..
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Kinds appeal : Logical ; emotional. A look at ancient rhetoricians and their styles and the history. Topical questions and study of style. Classroom discussions based on the above.
2	Kinds appeal : Logical ; emotional. A look at ancient rhetoricians and their styles and the history. Topical questions and study of style. Classroom discussions based on the above.
3	Kinds appeal : Logical ; emotional. A look at ancient rhetoricians and their styles and the history. Topical questions and study of style. Classroom discussions based on the above.
4	Kinds appeal : Logical ; emotional. A look at ancient rhetoricians and their styles and the history. Topical questions and study of style. Classroom discussions based on the above.
5	Kinds appeal : Logical ; emotional. A look at ancient rhetoricians and their styles and the history. Topical questions and study of style. Classroom discussions based on the above.
6	Kinds appeal : Logical ; emotional. A look at ancient rhetoricians and their styles and the history. Topical questions and study of style. Classroom discussions based on the above.
7	In-depth look into style ; discovery of arguments and arrangement of material. Classroom discussions based on the above.
8	In-depth look into style ; discovery of arguments and arrangement of material. Classroom discussions based on the above.
9	In-depth look into style ; discovery of arguments and arrangement of material. Classroom discussions based on the above.
10	In-depth look into style ; discovery of arguments and arrangement of material. Classroom discussions based on the above.
11	In-depth look into style ; discovery of arguments and arrangement of material. Classroom discussions based on the above.
12	In-depth look into style ; discovery of arguments and arrangement of material. Classroom discussions based on the above.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Kinds of appeal in the modern sense. A look at modern rhetoricians and their styles and their influence. Classroom discussions based on the above.
2	Kinds of appeal in the modern sense. A look at modern rhetoricians and their styles and their influence. Classroom discussions based on the above.
3	Kinds of appeal in the modern sense. A look at modern rhetoricians and their styles and their influence. Classroom discussions based on the above.
4	Kinds of appeal in the modern sense. A look at modern rhetoricians and their styles and their influence. Classroom discussions based on the above.
5	Kinds of appeal in the modern sense. A look at modern rhetoricians and their styles and their influence. Classroom discussions based on the above.
6	Kinds of appeal in the modern sense. A look at modern rhetoricians and their styles and their influence. Classroom discussions based on the above.
7	Student projects.
8	Student projects.
9	Student projects.
10	Student projects.
11	Student projects.
12	Student projects.
備考	

科目名	スピーチ 1 スピーチ 1 (旧) 英会話 (Highly Advanced : スピーチ) 6 (旧旧)	担当者名	大川 道代
-----	---	------	-------

講義の目標	1) To introduce fundamental principles of public speaking 2) To develop skills in self expression and presentational speaking 3) To discover your own potentials and capacities as a performer 4) To improve your communication skills through the presentations		
講義概要	本講座では様々なスピーチ活動 (Self-introduction with visual aids, demonstration and informative speeches, impromptu and extemporaneous speeches, oral interpretation, writing as performance) の理論と実践を通して、総合的なプレゼンテーションスキルの向上をはかる。①高等学校でオーラル・コミュニケーションCを指導したい、②英語圏の大学・大学院に長期留学を希望する、③国際社会で英語を駆使したい、④表現力の増強を旨とする、学生の受講が望まれる。英検1級程度の英語力を必要とするが、そのレベルを旨として人の数倍努力する Guts のある学生も歓迎する。初講時に授業内容の説明およびスピーキングテストを実施するので、履修希望者は必ず出席すること。		
使用教材	テキスト	「プリント」	
	参考文献	・ Payne, James, and Diana Prentice; <i>Getting Started in Public Speaking</i> , 2nd Ed., IL : Natinal Textbook Company, 1994.	
評価方法	1) Speech Performance 40% 2) Written Works* 40% 3) Class Participation** 20% * Written works may include any of the following: outline, homework assignment, papers, speech critiques, original manuscripts. All papers must follow the <u>MLA Handbook for Writers of Research Papdrs : Second Edition 1984</u> for format of references. ** Participation in the interpretation festival is required.		
受講者に對する要望など	完全出席を旨として、2・3年次に履修することが望ましい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction to the course. Syllabus. A selective speaking test. Explanation of homework: Self introduction with visual aids.
2	Self introduction with visual aids.
3	Self introduction with visual aids.
4	Demonstration speech.
5	Demonstration speech.
6	Videotaping self introduction with visual aids and demonstration speech in the studio.
7	Explanation of persuasive speech. Impromptu speech.
8	Impromptu speech.
9	Videotaping impromptu speech.
10	Informative speech.
11	Informative speech.
12	Videotaping Informative speech. Term paper due.
備考	前期試験は行なわず、レポートを課す。内容は授業時に指示する。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction to performance studies. Literary selection for solo or group performances.
2	Composing and presenting the introduction.
3	In-class rehearsal.
4	In-class rehearsal.
5	Solo or group performances.
6	Introduction to writing as performance.
7	Topic selection and composing manuscripts orally.
8	In-class rehearsal.
9	In-class rehearsal.
10	Preparation for interpretation festival. Dress rehearsal.
11	Discussion on interpretation festival.
12	Summary of the course. Term paper due.
備考	後期試験は行なわず、レポートを課す。内容は授業時に指示する。

科目名	スピーチ 2 スピーチ 2 (旧) 英会話 (Highly Advanced :スピーチ) 7 (旧旧)	担当者名	J. J. Duggan
-----	--	------	--------------

講義の目標	This is a course that introduces the student step-by-step to speech communication in an informal yet practical way, while at the same time helping the student to develop self-confidence.		
講義概要	In this course students will not only learn the mechanics of speech communication, but also be given ample chances to put these mechanics into use. The styles of speech communication will include impromptu, informative and persuasive.		
使用教材	テキスト	P. Dale & J. C. Wolf; Speech Communication for International Students	
	参考文献		
評価方法	Grades will be based on in-class participation (especially speech presentations), a paper midyear exam, and a final exam oral presentation.		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Course description and explanation (text pp.v-viii).
2	Speaking to develop self-confidence (pp.1-5). Presentation of Confidence Building Speech #1 (Speech to Introduce Yourself).
3	Brainstorming, Suggestions for delivering your speeches (pp.5-4).
4	Preparing the personal experience speech (pp.11-14). Presentation of Confidence Buidings Speech #2 (Speech Describing a Per. Exper.).
5	Presentation of Confidence Building Speech #3 (Speech About Something Meaningful, pp.15-16).
6	Presentation of Confidence Building Speech #4 (Speech to Present a Personal Opinion, pp.17-18).
7	Impromptu speaking (Talking On Your Feet, pp.23-36).
8	Impromptu Speech Presentation #1.
9	Impromptu Speech Presentation #2.
10	Impromptu Speech Presentation #3.
11	How to be a good listener (Listening, pp.39-53).
12	Midyear Examination.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Review of first term material.
2	Organizing your speech (Putting your Speech Together, pp.55-63).
3	Putting your Speech Together, Exercises pp.63-68.
4	Informative speaking (Speaking to Inform, pp.71-82).
5	Organizing your Informative speech, pp.83-91).
6	Informative Speech Presentation #1 (pp.91-95).
7	Informative Speech Presentation #2.
8	Persuasive speaking (Speaking to Persuade, pp.117-132).
9	Organizing your Persuasive Speech (pp.113-144).
10	Persuasive Speech Presentation #1 (pp.145-149).
11	Persuasive Speech Presentation #2.
12	Final Examination.
備考	

科目名	ディベート1 ディベート1 (旧) 英会話 (Highly Advanced: ディベート) 4 (旧旧)	担当者名	阿部 一
-----	---	------	------

講義の目標	本講座は、基本的な英語力がある人を対象にディベートの基礎から実践までを取り扱かうものである。ディベートの予備知識は特に必要としないが、英語の運用能力（聞く力と話す力）はある程度必要とされる。		
講義概要	前期は主として英語による発表能力と議論能力の向上に努めるため色々なテーマに基づいてのプレゼンテーションやディスカッションを行なうと同時に、数多くのディスカッション、スピーチそしてディベートのビデオを研究することによってその仕組みや論理性に馴れることを主眼とする。後期は実際にディベートを行なってみる。その際、教室内の模擬ディベートとスタジオの撮影ディベートのふたつが行なわれる。その上で撮影ビデオの徹底分析と解説が行なわれる。		
使用教材	テキスト	Fryar, Thomas and Goodnight ; <i>Basic Debate</i> (NTC) 他	
	参考文献	未定 (第1回目の授業時にリーディング・リスト及び資料を配布)	
評価方法	授業課題としては①授業内のグループ及び個人による実践発表②学年末に規定のテーマに基づいたレポート提出③発表重視型の授業につき出席重視。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：日本人のコミュニケーションとディベートの特徴
2	ディベートの基礎と基本用語解説（その1）——英語の論理性を考える＋ビデオにみるディベートの実際（在日外国人による日本語のディベート）
3	ディベートの基礎と基本用語解説（その2）——英語の論理性を考える＋ビデオにみるディベートの実際（アメリカの大学にみる英語のディベート）
4	ディベートの基礎と基本用語解説（その3）——英語の説得性・実証性を考える＋ビデオにみるディベートの実際（テレビにみる英語の正式ディベート）
5	ディベートに役立つ表現やテクニックを考える＋問題設定及び分析の仕方を考える（その1）
6	ディベートに役立つ表現やテクニックを考える＋問題設定及び分析の仕方を考える（その2）
7	ビデオによるディベート研究（その1）＋情報収集のやり方
8	ビデオによるディベート研究（その2）＋情報分析及び整理の仕方
9	ディベートを実践してみる（その1）——即興ディベート [日本語篇]
10	ディベートを実践してみる（その2）——即興ディベート [日本語篇]
11	ディベートを実践してみる（その3）——即興ディベート [英語篇] *論題設定について解説
12	ディベートを実践してみる（その4）——即興ディベート [英語篇] *ディベートの評価について解説
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	正式ディベートを考える（その1）——ビデオによるディベートの総合的研究（大学、大統領選、国連など）
2	正式ディベートを考える（その2）——基本ルール、フォーマット、論題設定など
3	正式ディベートを考える（その3）——リサーチ、資料収集、原稿、リハーサルなど
4	正式ディベートを考える（その4）——戦略、論旨の流れ、尋問など
5	正式ディベートを考える（その5）——口頭練習をどうするのか？ノートをどう取るか？*シミュレーション活動
6	正式ディベートの実践（その1）——論題 [] *教室内実践
7	正式ディベートの実践（その2）——論題 [] *教室内実践
8	正式ディベートの実践（その3）——論題 [] *教室内実践
9	正式ディベートの実践（その4）——論題 [] *スタジオ
10	ディベート：さらなる発展のために——撮影ビデオの徹底分析と反省（その1）
11	ディベート：さらなる発展のために——撮影ビデオの徹底分析と反省（その2）
12	まとめ：今後どうやって学習を進めていけばよいか？
備考	

科目名	ディベート2 ディベート2 (旧) 英会話 (Highly Advanced : ディベート) 5 (旧旧)	担当者名	T. Hill
-----	--	------	---------

講義の目標	To help students develop the skills they need to participate in debate and in a democratic society.		
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. Definitions of basic debate terms and concepts. An understanding of how debate works 2. How to analyze propositions, develop arguments, refine evidence and build cases 3. How to research sources and develop strategies 4. Affirmative and negative responsibilities and strategies in debate 		
使用教材	テキスト	Getting Started in Debate Lynn Goodnight NTC	
	参考文献		
評価方法	The course will be assessed on attendance, participation, and the writing of a number of papers.		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	What debate can do for you : critical thinking skills, open-mindedness, thinking on your feet
2	What exactly is debate : the basics
3	How debate works : the players in the game
4	How debate works : the propositions
5	Debate formats : standard format, cross-examination format, Lincoln-Douglas format
6	Speaker strategies : affirmative and negative constructive, negative and affirmative rebuttal
7	Propositions 1 : what is a proposition?
8	Propositions 2 : types of a propositions
9	Developing research skills 1 : searching for evidence, blueprint for research
10	Developing research skills 2 : evaluating evidence, recording evidence
11	Video debate evaluation
12	Mid-term test
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Research sources : periodicals, newspapers, pamphlets, Government documents
2	Writing briefs : affirmative briefs, negative briefs, checklist for briefs
3	Taking notes in debate : flowing the debate, how flowing works, what to flow
4	The Affirmative position : burden of proof, presumption, the prima facie case
5	Basic affirmative concepts : topicality, the contention, proof and reasoning
6	Stock issues : harm, significance, inherency, solvency
7	The Negative position 1 : The negative strategy, refutation of stock issues
8	The Negative position 2 : Denying the problem, refutation of individual arguments
9	Video debate evaluation (1)
10	Video debate evaluation (2)
11	Review of course
12	Final test
備考	

科目名	通訳 I 通訳 I (旧) 英会話 (Highly Advanced: 通訳) 8 (旧旧)	担当者名	鍋倉健悦
-----	--	------	------

講義の目標	日常会話の英語ではなく、国際会議、スピーチ、ニュース等で使われている英語を理解し、それを素早く的確な日本語で表現できるようになる事を目標とする。		
講義概要	通訳は日常会話ではなく、高度な内容の話を別の言語に置き換えていく作業である。先ず如何にしたらそれが出来るようになるかを、基礎的な方法から訓練していく。そこで、シャドウイング、サイト・トランスレーション、音読サイトラ等の練習をしながら、言語の置き換えがいかなるプロセスで行なわれるのかを体験として学習していく。		
使用教材	テキスト	テキストは使用せず、実際の国際会議、著名人のスピーチ、あるいはニュース等のテープを使用する。	
	参考文献	英語の通訳 (サイマル出版)。英語メディアを使いこなす (講談社)。だから英語は面白い (サイマル出版)	
評価方法	平常の授業で決定する。		
受講者に対する要望など	<p>かならず十分の予習が出来る学生。英会話よりも英語で読むことの方に興味を持つ学生。</p> <p>また英語そのものよりも、世の中の出来事に関心を持つ学生。</p> <p>とにかく知的好奇心の強い学生を求む。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	英語で、国際政治、経済、社会問題等のテーマのテープを聞きながら通訳を試み、通訳とは何かを体験してみる。
2	英語で、外国人の国際会議通訳者による通訳訓練法の話聴き、日本語で要点をまとめる。
3	通訳の勉強法・訓練法を、デモンストレーションで示しながら講義。
4	英語による対談（内容未定）のテープを使って、シャドウイングの練習。
5	同内容を使って、サイト、トランスレーションの練習による、ロジカルアナリシスの訓練。
6	同内容を使って音読サイトラによる、リテンションの訓練。
7	ワン・センテンスずつの通訳練習。
8	ノート・テイキング（通訳メモ）の取り方の講義。
9	英語によるスピーチのテープを使い、ノート・テイキングの実習。
10	経済問題をトピックに取り上げ、逐次通訳の実習。（実際の国際会議で収録されたテープを使用）
11	同上
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国際政治をトピックに取り上げ、逐次通訳の練習。（実際の国際会議で収録されたテープを使用）
2	同上
3	同上
4	同上
5	グローバルな問題、または社会問題をトピックに取り上げ、逐次と同時通訳の練習。（著名人の行なったスピーチの生テープを使用）
6	同上
7	同上
8	同上
9	英語によるニュースを使って、放送通訳の練習。（FEN、CNNのニュースを利用する）
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

科目名	英文法 1 英文法 1 (旧) 英文法 1 (旧旧)	担当者名	児玉仁士
-----	----------------------------------	------	------

講義の目標	英語の表現力を涵養するために、英語の基礎的な文法事項を網羅的に解説し、更に文体的側面にも随時触れたいと思う。	
講義概要	テキストの内容は、Section 1 では、主に英語の基礎的な文法事項が網羅的に解説されており、また Section 2 では、前節の既習事項を踏まえて、文章表現上の誤りと文体上の技巧が具体的に述べられている。特に後者の文体的側面に比重が置かれているので、英語の表現力を更にブラッシュ・アップするのに有益であろう。テキストの問題の他に、色々な文例を補充しつつ授業を進めて行くつもりである。	
使用教材	テキスト	A. Waldhorn, A. Zeiger; <i>A Practical English Grammar for College Students</i> , 金星堂
	参考文献	
評価方法	前期・後期の定期試験の成績、夏休みのレポート、出席により総合評価する。(提出課題、試験等)	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	英文法の子備知識として、しの概要を説明する。
2	文の構成 (Section 1- 第1章) : 品詞およびその分類 (第2章) について
3	名詞の形態 (数・性・格) (第3章) について
4	代名詞および用法 (第4章) について
5	動詞および文中におけるその機能 (第5章) について
6	時制・法・態 (第5章) について
7	形容詞とその機能 (第6章) について
8	副詞およびその位置 (第7章) について
9	接続詞 (等位接続詞・従位接続詞) (第8章) について
10	前置詞およびその機能 (第9章) について
11	準動詞 (動名詞・分詞・不定詞) (第10章) について
12	句 (名詞句・形容詞句・副詞句) と節 (名詞節・形容詞節・副詞節) について
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	一致 (agreement) (Section 2- 第1章) : 主語と動詞 (数)、代名詞と先行詞 (数・人称・性) について
2	代名詞の格 (主格・目的格・所有格; 同格) (第2章) について
3	代名詞の照応 (第3章) について
4	時制の一致 (第4章) について
5	助動詞の用法 (特に法助動詞) (第4章) について
6	形容詞・副詞の機能上の相違 (第5章) について
7	副詞の配列 (第5章) について
8	修飾語・句の問題点 (1: 懸垂分子・懸垂不定詞) (第6章) について
9	修飾語・句の問題点 (2: 懸垂動名詞) (第6章) について
10	語・句・節の配列の一貫性 (第7章) について
11	並列に関する問題点 (第8章) について
12	文における省略 (特に文体上) の問題 (第9章) について
備考	

科目名	英文法 2, 3 英文法 2, 3 (旧) 英文法 2, 3 (旧旧)	担当者名	近藤 ヒカル
-----	---	------	--------

講義の目標	この授業の目的は現代英語の文章（特に文学作品）を読む上での、および中学・高校の英語教師になった場合の英語の文法的な素養を養うことにあるので、イギリス英語（英文法 2）とアメリカ英語（英文法 3）で書かれた実際の作品を読みながら、年間スケジュールに従って文法事項を履習するものとする。	
講義概要	本学に入学するほどの学生は受験勉強の過程で英文法の教科書や参考書に詳述されている文法知識は周知しているのだが、実際のすぐれた英文に接してその知識が活用出来ない。したがって授業では学生諸君が辞書を引き文法書を調べ、その事項を更に深く習熟すべく応用例にまで目を通すような習慣を身につけるように指導するのである。しかも文学作品の文章であるから無味乾燥な授業とちがった興味と感動をあわせて味わえると確信している。	
使用教材	テキスト	現代英語（イギリス・アメリカ）で書かれた短篇をプリント配布する。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『高等英文法』、小川芳男、上野伊栄太、有精堂 ・『新英文法辞典』、大塚高信、三省堂 ・ <i>Collins Cobuild English Language Dictionary</i> ・ <i>Longman Dictionary of Contemporary English</i>
評価方法	各文法事項につき受講生に分担を決めてレポート形式で発表してもらう。成績評価は前・後期の定期試験とレポートによる。出席は絶対条件とする。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	文の種類（平叙—疑問、肯定—否定、叙実—叙想、命令—感嘆、5文型、単文—複文—重文）
2	名詞の種類（可算—不可算、集合—群集、物質名詞の個別化、抽象名詞の語形成と助数詞、固有名詞の普通名詞化）
3	名詞の数（規則—不規則複数、複合名詞の複数、動詞との呼応、複数名詞の形容詞用法）
4	名詞の性と格（性の表し方、通性、副詞的属格・与格・対格、性状の対格、所有格の作り方、群属格、所有格の意味、二重所有格）
5	人称代名詞と不定代名詞（特殊用法の we、総称複数、特殊用法の it/any, one, none, each, every, all, both）
6	人称代名詞と関係代名詞（従属節中での役割と文中での役割、関係代名詞の諸用法：限定—継続、反復、二重限定、省略、as, than, but、複合関係代名詞）
7	前週の続き
8	形容詞の種類と用法（限定用法—前位修飾と後位修飾、叙述用法）
9	形容詞の比較変化（語としての規則・不規則変化の諸形式、文としての比較の諸形式）
10	数詞（基数・序数・倍数によるさまざまな単位の表し方）
11	冠詞（定冠詞と固有名詞、冠詞の省略と語順、冠詞と2個以上の名詞）
12	副詞（単純・疑問・関係副詞、副詞の機能と他品詞との関係、動詞修飾副詞の文中での位置—様態・程度・期間・時・場所・助動詞修飾・動詞副詞結合・文修飾）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	動詞の種類と5文型（完全・不完全自動詞、完全・授与・不完全他動詞）
2	動詞の活用と主語・述語の一致
3	能動態と受動態
4	動詞の時制（現在・過去・未来時制の意義、完了時制の諸形式）
5	法（仮定法の諸時制と諸形式、および条件節の省略）
6	助動詞（種類、will, shall の用法）
7	準動詞（不定詞）
8	準動詞（分詞）
9	準動詞（動名詞）
10	接続詞（等位接続詞、従位接続詞と従節の機能）
11	話法（話法の種類、話法の転換）
12	間投詞、句と節
備考	

科目名	英文法 4 英文法 4 (旧) 英文法 4 (旧旧)	担当者名	四 宮 満
-----	----------------------------------	------	-------

講義の目標	英語の表現を文法的に、機能的に分析することにより、英語におけるコミュニケーションに対する理解を深める。	
講義概要	英語の作品 (Agatha Christie のもの) を資料にし、コンテキストにおける表現を分析、考察していく予定である。	
使用教材	テキスト	<i>Murder on the Oriental Express</i>
	参考文献	<i>A University Grammar of English</i>
評価方法	レポートによる	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業の進め方、分析の方法についての説明
2	資料(1) 分析と解釈、学生の発表
3	(2) 分析と解釈
4	(3) "
5	(4) "
6	(5) "
7	(6) "
8	(7) "
9	(8) "
10	(9) "
11	(10) "
12	資料(10)までの分析、解釈のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	資料(11) 分析と解釈
2	資料(12) 分析と解釈、学生の発表
3	(13) "
4	(14) "
5	(15) "
6	(16) "
7	(17) "
8	(18) "
9	(19) "
10	(20) "
11	資料(11)～(20)までの分析と解釈のまとめ
12	全体的の整理
備考	

科目名	英文法 5 英文法 5 (旧) 英文法 5 (旧旧)	担当者名	須賀川 誠 三
-----	----------------------------------	------	---------

講義の目標	<p>本講義では、伝統文法を基調とし、新しい言語理論を取り入れた「新文法」を学ぶことを主眼とする。同時に、従来の学校文法では、盲点となっていた事項を実践的に会得することもねらいとしたい。</p>		
講義概要	<p>授業では、用例と解説、および練習問題を中心に英文法の各項目について習熟するようにする。文法の枠組は、伝統文法のそれを用いているので、基本的問題が主となるが、かなり高度な内容も含まれる。また、この講義で扱うのは、統語論が中心であり、形態論は特に扱わない。</p> <p>なお、毎時間の初め10分位、ワンポイント・レッスンをを行い、盲点となっている事項について理解の徹底を図る。</p>		
使用教材	テキスト	<p>水島・岡田・西村共著『大学英文法入門』 英宝社 須賀川編著 <i>10 Minutes Drills in English Grammar and Usage</i>. ニューカレント</p>	
	参考文献	<p>☆テキストのはしがき (pp. 3-4) 参照のこと。</p>	
評価方法	<p>前期レポート・後期試験、および平常点による。出席は重視する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>受講希望者は、第1回目の授業に出席し、必ず受講の承認を得ること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間の講義概要について説明。また、授業の進め方、学習法などについてのガイダンスをする。
2	1. 文 (Sentence) 1.1 文の種類(1) Exercise 1.2 文の種類(2) 1.3 文の形態と表現内容
3	1.4 文の構成要素と品詞 Exercise
4	2. 動詞と時制 (Verbs & Tenses) 2.2 時と時制 2.3 単純現在形 2.4 単純過去形
5	2.5 完了時制 (現在完了形・過去完了形・その他の用法)
6	2.6 進行形 2.7 動詞の種類と進行形 Exercise
7	3. 法助動詞 (Modal Auxiliaries) 3.1 法助動詞の法性 3.2 許可を表す may, can...など 3.3 可能性を表す may, might, can, could
8	3.4 可能を表す can, could 3.5 能力を表す can, be able to 3.6 may, might, can, could のその他の用法
9	3.7 義務や必要性を表す must, have (got) to, need, be bound to
10	3.8 論理的な必然性を表す must, have (got) to, need, be bound to 3.9 must と have to のその他の用法 3.10 should と ought to
11	3.11 その他の助動詞 Exercise(1)~(3)
12	前期の授業のまとめ、前期課題の発表など。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	4. 未来表現 4.1 単純現在形 4.2 現在進行形 4.3 Be going to 4.4 will/shall+原形不定詞 (1) 1人称主語と共に使用
2	4.4 will/shall+原形不定詞 (2) 2・3人称と共に使用 4.5 will/shall be~ing 4.6 Be+to+不定詞 4.7 未来を表す他の表現 4.8 過去時における未来 Exercise(1)~(2)
3	6. 受動態 (Passive Voice) 6.1 受動文型 6.2 目的語が1つの能動文の受動態 6.3 二重目的語をとる動詞の受動態
4	6.4 過去分詞の形容詞的性質 6.5 能動形で受動の意味を表す場合 6.6 Get の受動形 6.7 経験受動態 Exercise(1)~(2)
5	7. 条件文と仮定法 (The Subjunctive) 7.1 直説法の条件文、 7.2 If 条件節と仮定法
6	7.3 仮定法の用法上の注意点 7.4 前提節がかくされている場合 7.5 As if, as though 節
7	7.6 主語+wish (+that) +仮定法 7.7 祈願文 7.8 Should の仮定法的用法 7.9 その他注意すべき語法 Exercise(1)~(3)
8	9. 関係詞 (Relatives) 9.1 関係代名詞 9.2 関係形容詞
9	9.3 関係副詞 9.4 不定関係詞 9.5 強調構文 Exercise(1)~(3)
10	10. 比較 (Comparison) 10.1 比較の種類 10.2 原級による比較 10.3 比較級による比較
11	10.4 最上級による比較 10.5 絶対比較 10.6 特殊な比較 Exercise(1)~(2)
12	☆学年末試験 (1年間学んだことの総括として行う)。
備考	

科目名	英文法 6 英文法 6 (旧) 英文法 6 (旧旧)	担当者名	三好 健
-----	----------------------------------	------	------

講義の目標	<p>テキストは、平易な英文で書かれた英文法の教科書で、ややクセはあるが、小冊子ながら、現代英語の文法が全般にわたって簡潔にまとめられている。これを読みながら、理論に走りすぎることはない実用文法を研究し、英語を読んだり書いたり話したりする場合の、実地への応用や、教職のための実力養成を目指したい。</p>		
講義概要	<p>受講者の実力養成を目標としているため、毎回の授業は英語・英文法の充実した訓練の場となる。毎回受講生全員に発言を求めると、下調べが必須であることは言うまでもない。意欲のない者には適さないかも知れないが、マジメにやれば力がつくことは受けあいである。</p>		
使用教材	テキスト	M. M. Bryant & C. Momozawa: <i>Modern English Syntax</i> (成美堂)	
	参考文献		
評価方法	平常の成績と年 2 回の試験による。		
受講者に対する要望など	<p>遅刻・欠席が好きで下調べの嫌いな学生は来ないで頂きたい。 受講希望者は第 1 回目の授業に必ず出席して名前を届けること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション。テキストの紹介と、一年間の授業計画及び勉強の仕方の説明。
2	品詞について。(テキスト第1章)
3	文の構造について。(テキスト第2章)
4	文の機能について。(テキスト第3章)
5	節について。(その1. 名詞節)(テキスト第4章)
6	節について。(その2. 形容詞節)(テキスト第5章)
7	節について。(その3. 副詞節)(テキスト第6章)
8	主語について。(テキスト第8章)
9	代名詞の照合について。(テキスト第9章)
10	動詞について。(テキスト第11章)
11	目的語について。(テキスト第12章)
12	補語について。(テキスト第13章)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	動詞句について。(テキスト第14章)
2	助動詞について(その1. shall と will)。(テキスト第15章)
3	助動詞について(その2. shall, will 以外と疑似助動詞)。(テキスト第16章)
4	形容詞的修飾語句。(テキスト第17章)
5	副詞的修飾語句。(テキスト第18章)
6	否定について。(テキスト第19章)
7	比較について。(テキスト第20章)
8	態について。(テキスト第21章)
9	仮定法について。(テキスト第24章)
10	不定詞について。(テキスト第25章)
11	分詞について。(テキスト第26章)
12	話法について。(テキスト第27章)
備考	

科目名	英文法7 英文法7 (旧) 英文法7 (旧旧)	担当者名	三好 健
-----	-------------------------------	------	------

講義の目標	<p>テキストは、中学・高校においてすでに英語の基礎的な知識を得たはずの大学生のために書かれた英文法の教科書で、理論を最少限にとどめて、主として例文によって現代英語の文法事項を説明したものである。これを読みながら、実用的な文法を研究し、英語を読んだり書いたり話したりする場合の実力養成を目標とする。</p>	
講義概要	<p>受講者の学力をつけることを目標としているため、毎回の授業を時間いっぱい実用文法の訓練の場としたいので、のんきな授業に慣れた者にはきびしいかも知れないが、へこたれずについて来てもらいたい。1回にテキスト10ページぐらいのスピードで進み、毎回全員の受講生に発言を求めるから、充分な下調べが必要となるのでそのつもりで。</p>	
使用教材	テキスト	新津米造：A New Advanced English Grammar (北星堂)
	参考文献	
評価方法	<p>平常の成績と年2回の試験による。</p>	
受講者に対する要望など	<p>遅刻・欠席を道楽とし、下調べのニガ手な学生はお引きとりをねがう。 受講希望者は第1回目の授業に必ず出席して名前を届けること。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション。テキストの紹介と、一年間の授業計画及び勉強の仕方についての説明。
2	普通名詞・固有名詞・集合名詞・物質名詞について。(テキスト：「名詞」第1～4節)
3	抽象名詞・名詞の性について。(テキスト：「名詞」第5～6節)
4	名詞の格について。(テキスト：「名詞」第7節)
5	名詞の数について。(テキスト：「名詞」第8節)
6	人称代名詞・指示代名詞について。(テキスト：「代名詞」第1～2節)
7	疑問代名詞・関係代名詞について。(テキスト：「代名詞」第3～4節)
8	不定代名詞・代名詞の性と格について。(テキスト：「代名詞」第5～6節)
9	冠詞について。(テキスト：「冠詞」)
10	数量形容詞・性質形容詞・形容詞の用法・形容詞の名詞化について。(テキスト：「形容詞」第1～4節)
11	副詞の種類・副詞の形態及び用法について。(テキスト：「副詞」第1～3節)
12	比較について。(テキスト：「比較」第1～2節)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	動詞の種類について。(テキスト：「動詞」第1節)
2	動詞の活用・時制について。(テキスト：「動詞」第2～3節)
3	態について。(テキスト：「動詞」第4節)
4	仮定法について。(テキスト：「動詞」第5節)
5	命令法・助動詞について。(テキスト：「動詞」第6～7節)
6	不定詞について。(テキスト：「動詞」第8節)
7	分詞について。(テキスト：「動詞」第9節)
8	動名詞について。(テキスト：「動詞」第10節)
9	前置詞について。(テキスト：「前置詞」)
10	接続詞・感投詞について。(テキスト：「接続詞」「感投詞」)
11	一致について。(テキスト：「一致」)
12	語順について。(テキスト：「語順」)
備考	

科 目 名	ビジネス英語 I-1 ビジネス英語 I-1 (旧) 商業英語 I-1 (旧旧)	担当者名	海老沢 達 郎
-------	---	------	---------

講義の目標	<p>大学を卒業しても簡単な英文レターも書けないのが現状であるので、本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から売買契約の成立、履行、求償、解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。</p>		
講義概要	<p>貿易立国日本にとっては異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から売買契約の成立、履行、求償、解決までを講義し、<u>基本的なビジネスレターの書き方を指導する。</u>また、<u>英字新聞のビジネス欄の読み方を合わせて指導していきたい。</u>英語学科の学生として Business English の基本ぐらいは学んで卒業してもらいたい。受験希望者には、商業検定試験 C クラス、B クラスの受験指導を行う。1 年間の授業計画等については、最初の授業で詳しく説明する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>Tatsuo Ebisawa ; <i>An Introduction to Business Writing</i> 石田貞夫『貿易実務』</p>	
	参考文献	<p>教室で指示する。</p>	
評価方法	<p>評価は前後期の試験と授業への参加度によって決定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業はあらかじめ予習してあることを前提とする。上記の内容等については必要に応じて変更する場合がある。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では1年間の講義概要の説明を行なう。
2	第2回目の授業では「Business English を学ぶにあたっての諸注意とビジネスレターの必要構成要素」について講義する。(教科書：pp. 1-8)
3	第3回目の授業では「ビジネスレターの特殊構成要素、スタイルと句読点、封筒とその書き方」について講義する。(教科書：pp. 8-18)
4	第4回目の授業では練習問題1を第1回レポートとし、「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。(教科書：pp. 19-22)
5	第5回目の授業では練習問題1の解答をし、「効果的なビジネスレターの書き方(後半)と取引の申し込み」について講義する。(教科書：pp. 23-24)
6	第6回目の授業では「取引の申し込み(後半)と取引の申し込みに対する応答」について講義する。(教科書：pp. 25-28)
7	第7回目の授業では「取引の申し込みに対する応答(後半)」について講義する。(教科書：pp. 29-31)
8	第8回目の授業では「引合い」について講義する。(教科書：pp. 32-34)
9	第9回目の授業では「引合い(後半)」について講義する。(教科書：pp. 35-37)
10	第10回目の授業では練習問題2を第2回レポートとし、「引合いに対する応答」について講義する。(教科書：pp. 38-41)
11	第11回目の授業では前期授業のまとめを行なう。
12	第12回目の授業では平常試験を行なう。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では練習問題2の解答と諸注意などを行なう。
2	第2回目の授業では「オファー」について講義する。(教科書：pp. 42-44)
3	第3回目の授業では「オファー(後半)とオファーに対する応答」について講義する。(教科書：pp. 45-48)
4	第4回目の授業では「オファーに対する応答(後半)」を講義し、練習問題3を第3回レポートとする。(教科書：pp. 49-52)
5	第5回目の授業では「海上保険証券」について講義する。(教科書：pp. 53-55)
6	第6回目の授業では「信用状」について講義する。(教科書：pp. 56-59)
7	第7回目の授業では「信用状(後半)」について講義する。(教科書：pp. 60-62)
8	第8回目の授業では練習問題3の解答と諸注意などを行なう。更に「積出しに関する通信」について講義する。(教科書：pp. 63-64)
9	第9回目の授業では「積出しに関する通信(後半)」について講義する。(教科書：pp. 65-71)
10	第10回目の授業では「クレームと問題の解決」について講義する。(教科書：pp. 72-75)
11	第11回目の授業では「クレームと問題の解決(後半)」について講義し(教科書：pp. 76-78)、後期のまとめを行なう。
12	第12回目の授業では平常試験を行なう。
備考	

科目名	ビジネス英語 I-2 ビジネス英語 I-2 (旧) 商業英語 I-2 (旧旧)	担当者名	海老沢 達 郎
-----	---	------	---------

講義の目標	Business Englishとは何も貿易通信文のみを指すものではない。売買契約書、保険証券、船荷証券等の関連文書の書類や貿易実務に現われる英語、さらには法律や経済等も含まれてくる。従って、Business Englishを、国際語である英語を使用してビジネスを促進遂行するためのビジネス・コミュニケーションとしてとらえ、本講義では貿易通信文ではなく実際の国際ビジネスに必要な海外出張のための Business English の習得を目標とする。	
講義概要	通信技術が発達し、経済がボーダレス化している今日において、Business Englishは面談や電話などによる「話す、聞く」という能力も大変重要なものとなってきている。従って、「読む、書く、話す、聞く」の4技能が、Business Englishでも必要である。本講義では、ビデオテープを使用して日本のビジネスマンがアメリカへ出張し、交渉する様子を勉強する。いわゆる Business communication in spoken English を勉強していきたい。 <u>国際的な Business Person を目指す学生諸君にとっては必須の講義科目となるだろう。</u> なお、積極的な学生諸君の受講を希望する。また、ビジネス英語 I-1 をあわせて履習すれば、ビジネス・コミュニケーションを体系的に学習することになる。	
使用教材	テキスト	プリント、その他。
	参考文献	教室で指示
評価方法	評価は前後期の試験と授業への参加度によって決定する。	
受講者に対する要望など	授業はあらかじめ予習してあることを前提とする。上記の内容については必要に応じて変更する場合がある。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では1年間の講義概要の説明を行なう。
2	1. Going Through Immigration 2. Going Through Customs
3	3. At The Airport Information Counter 4. At The Taxi Stand 5. At The Hotel Front Desk
4	6. In The Hotel Room
5	7. Receiving Phone Call 8. Confirming Houston Appointment 9. Arriving for Appointment with Mr. Sanders
6	10. At Miss Hall's Desk 11. Meeting Mr. Sanders
7	12. Discussing The Order For AA
8	13. Making An Overseas Call 14. Confirming Return Flight To Tokyo 15. Finalizing The Deal. (1)
9	16. Finalizing The Deal. (2) 17. Making An Appointment with AEC 18. Arranging A Flight To Houston
10	19. Checking In At The Airport 20. Taking A Taxi 21. in Universal Corporation's Reception Area 22. Solving A Delivery Problem (1)
11	23. Solving A Delivery Problem (2)
12	第12回目の授業では平常試験を行なう。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では、前期試験の解答と諸注意などを行なう。
2	24. Discussing Business Generally
3	25. In AEC's Reception Area 26. In Miss Blake's Office
4	27. Meeting Mr. Smith
5	28. Discussing A joint Venture
6	29. In Mr. Foster's Office 30. Inviting Mr. Ford To Japan (1)
7	31. Inviting Mr. Ford To Japan (2) 32. Asking Directions To The Post Office 33. At The Post Office
8	34. Checking Out Of The Hotel 35. Receiving An Overseas Phone Call 36. Greeting Mr. Ford At The Airport
9	37. Touring The Plant
10	38. Negotiating A Joint Venture (1)
11	39. Negotiating A Joint Venture (2)
12	第12回目の授業では平常試験を行なう。
備考	

科目名	ビジネス英語 I-3 ビジネス英語 I-3 (旧) 商業英語 I-3 (旧旧)	担当者名	杉山晴信
-----	---	------	------

講義の目標	<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における商業通信文 (Commercial Correspondence) を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を修得することがねらいです。日本商工会議所主催の商業英語検定試験Bクラスの英語部門に合格できるレベルの実力を養成することを具体的な目標とします。</p> <p>なお、私の担当する「ビジネス英語 I-4」(「商業英語 I-4」)とは内容が異なりますので、注意して下さい。</p>				
講義概要	<p>下記テキストの单元ごとに、当該单元で扱う貿易取引段階の実務遂行手順および通信文の“Skeleton Plan”について平易に講義します。次いで、履修者を適宜指名し、各单元のモデルレターを商用文としてふさわしい日本語に翻訳させるとともに、練習問題を黒板に書かせて添削するという形で毎回の授業を行います。また、講義4回に1回の割合で、補充問題という形の宿題を課し、より高度な商業通信文を自宅で作成していただきます。その成果はレポートとして提出することを義務づけます。</p> <p>テキスト終了後は、時間の許す限り、現物のビジネスレターを教材に用いて読解力を増強し、アドリブで通信文を作成するという形の演習を行うことによって応用力を高めます。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>小池直己・杉山晴信『ビジネス英語の基本』(北星堂、1988)</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・藤田仁太郎編、羽田三郎改訂『英和貿易産業辞典』(研究社、1955) ・小池直己・杉山晴信『商業英語検定試験にでる英単語』(南雲堂、1987) ・日本商工会議所『商業英語検定試験問題集』(日本商工出版) <p>その他、随時紹介します。</p> </td> </tr> </table>	テキスト	小池直己・杉山晴信『ビジネス英語の基本』(北星堂、1988)	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・藤田仁太郎編、羽田三郎改訂『英和貿易産業辞典』(研究社、1955) ・小池直己・杉山晴信『商業英語検定試験にでる英単語』(南雲堂、1987) ・日本商工会議所『商業英語検定試験問題集』(日本商工出版) <p>その他、随時紹介します。</p>
テキスト	小池直己・杉山晴信『ビジネス英語の基本』(北星堂、1988)				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・藤田仁太郎編、羽田三郎改訂『英和貿易産業辞典』(研究社、1955) ・小池直己・杉山晴信『商業英語検定試験にでる英単語』(南雲堂、1987) ・日本商工会議所『商業英語検定試験問題集』(日本商工出版) <p>その他、随時紹介します。</p>				
評価方法	<p>平常点(出席状況・レポート・授業貢献度等)を第一の尺度として、前期と後期の定期試験の結果を加味して決定します。</p>				
受講者に対する要望など	<p>コンスタントに出席すること、十分な予習と復習をすること、命じられたレポートを必ず提出することを履習の条件とします。特に、就職活動に時間をとられる4年生は注意して下さい。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では1年間の講義計画を説明し、ビジネス英語の意義と概念について講義します。(テキスト：第1部 p. p. 2~3)
2	第2回目の授業では、ビジネスレターの構成要素、句読法、書式、上書き等の外形的な側面について講義します。(テキスト：第1部 p. p. 4~15)
3	第3回目の授業では、ビジネスレターの文体の特徴について講義します。(テキスト：第1部 p. p. 16~18)
4	第4回目の授業では、「取引先の発見」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit1, p. p. 20~22)
5	第5回目の授業では、「取引の申込み」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit2~3, p. p. 23~28)
6	第6回目の授業では、「信用照会」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit4, p. p. 29~31)
7	第7回目の授業では、「引合い」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit5~6, p. p. 32~37)
8	第8回目の授業では、「引合いに対する返事」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit7~8, p. p. 38~43)
9	第9回目の授業では、「オファー」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit9, p. p. 44~46)
10	第10回目の授業では、「カウンター・オファー」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit10, p. p. 47~49)
11	第11回目の授業では、「注文」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit11, p. p. 50~52)
12	第12回目の授業では、「注文の受諾」および「注文の謝絶」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit12~13, p. p. 53~85)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では、「成約」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit14, p. p. 59~61)
2	第2回目の授業では、「信用状督促」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit15, p. p. 62~64)
3	第3回目の授業では、「船積通知」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit16, p. p. 65~67)
4	第4回目の授業では、「船積遅延と信用状訂正」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit17, p. p. 68~70)
5	第5回目の授業では、「クレーム」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit18~19, p. p. 71~76)
6	第6回目の授業では、「クレーム調整」をテーマとするレターの読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit20, p. p. 77~80)
7	第7回目の授業では、テキストで直接取り上げていない Courtesy Letters の代表例として、「人物照会状」の読解と作成の訓練を行います。
8	第8回目の授業では、「人物照会への返信」および「人物推薦状」について読解と作成の訓練を行います。
9	第9回目以降の授業では、現物のビジネスレターを教材に用いて読解力を増強し、アドリブで通信文を作成するという形で演習を行います。
10	上記参照
11	上記参照
12	上記参照
備考	

科目名	ビジネス英語Ⅰ-4 ビジネス英語Ⅰ-4 (旧) 商業英語Ⅰ-4 (旧旧)	担当者名	杉山晴信
-----	--	------	------

講義の目標	<p>ビジネス英語の中核である商業通信文を駆使する実力を身につけるためには、実践的なトレーニングを積むとともに理論的な研究を行うことによって、読解力、表現力、および語彙力を量的にも質的にも向上させなければなりません。本講義では、まず、商業通信文を読解し作成するハードな訓練を行って当該領域独特の英語に慣れてもらい、さらに、英語学諸分野の知識を援用して商業通信文を効果あらしめる研究を行います。前述した量と質の両面から商業通信文の実力養成を目指します。なお、「ビジネス英語Ⅰ-3」とは内容が異なりますので注意して下さい。</p>	
講義概要	<p>前期は、下記のテキスト①を用いて、貿易取引の時系列的な流れに沿って各取引段階における商業通信文を読解し作成するトレーニングを行います。後期は、当方で用意するプリント教材を用いて、意味論、構文、文体、連語関係といった英語学に関連する諸分野から、効果的な商業通信文のあり方について考究します。なお、1年を通じて、毎月の初回の授業時に、下記のテキスト②を出題範囲とする Vocabulary Check (語彙力診断テスト) を実施しますので、履修者は教室外で自主的に語彙力増強に努めなければなりません。また、後期には、3~4回の講義に1回の割合でレポートを提出していただき、知識の定着をはかるとともに講義内容からさらに発展した学習を行うことを義務づけます。</p>	
使用教材	テキスト	<p>①杉山晴信『ビジネス英語21アプローチ』(北星堂) ②小池直己・杉山晴信『商業英語検定試験にできる英単語』(南雲堂)</p>
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・藤田仁太郎編、羽田三郎改訂『英和貿易産業辞典』(研究社) ・勝俣銓吉郎編『新英和活用大辞典』(研究社) ・長野格・野口博一『商業英語文法教本』(大修館) ・則定隆男『ビジネス英語を学ぶ・考える』(英宝社) ・松本安弘・松本アイリン『組立式英文ビジネスレター辞典』(北星堂) <p>その他、随時紹介します。</p>
評価方法	<p>出席状況、レポートの提出状況、Vocabulary Checkの累積得点、授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、前期と後期の定期試験の結果を加味して決定します。</p>	
受講者に対する要望など	<p>コンスタントに出席すること、十分な予習と復習をすること、命じられたレポートを必ず提出することを履修の条件とします。特に、就職活動に時間をとられる4年生は注意して下さい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義計画を説明し、ビジネス英語の概念について講義します。
2	「市況」と「取引先の発見」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行います。 (Unit1~2, p. p. 1~6)
3	「取引の申込み」と「信用照会」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行います。 (Unit3~4, p. p. 7~12)
4	「引合い」と「引合いに対する返事」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行います。 (Unit5~6, p. p. 13~18)
5	「オファー」と「カウンター・オファー」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行います。 (Unit7~8, p. p. 19~26)
6	「注文」と「注文の受諾」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行います。 (Unit9-10, p. p. 27~32)
7	「注文の謝絶」と「成約」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行います。 (Unit11-12, p. p. 33~39)
8	「信用状の開設と訂正」と「海上保険」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行います。 (Unit13~14, p. p. 40~47)
9	「輸出手配」と「船積み」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行います。 (Unit15~16, p. p. 48~55)
10	「輸入手配」と「決済」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行います。 (Unit15~16, p. p. 48~55)
11	「クレーム」と「クレーム調整」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行います。 (Unit10~18, p. p. 56~63)
12	「紹介・推薦・社交文」をテーマとする商業通信文の読解と作成のトレーニングを行うとともに、前期の授業の総括を行います。(Unit21, p. p. 72, 75)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	商業通信文を効果あらしめるための英語学諸分野からのアプローチについて鳥瞰します。
2	意味論からのアプローチとして、商業通信文における言語表現が不明確となりうる「不確かさ」(vagueness)と「曖昧さ」(ambiguity)に関し、豊富な実例を紹介しながら講義します。
3	意味論からのアプローチとして、類義語 (synonyms) と多義語 (polysemic words) が商業通信文に及ぼす危険性について講義します。
4	構文からのアプローチとして、各貿易取引段階の商業通信文を形成しているスケルトン・プランの内容について講義します。
5	構文からのアプローチとして、各々の通信文から定型的な範例構文を抽出する方法について、実例を紹介しながら講義します。
6	文体からのアプローチとして、文の長さを統制する“Readability”と語彙の選択の問題について講義します。
7	文体からのアプローチとして、文の形式を統制する“You-Attitude”の問題について講義します。
8	文体からのアプローチとして、文の構造を統制する各種のパラグラフ構成法について講義します。
9	連語関係からのアプローチとして、商業通信文における連語関係の諸類型および日英両言語の異同について、豊富な実例を紹介しながら講義します。
10	連語関係からのアプローチとして、ひときわ重要性が高い「動詞+名詞 (目的語)」の類型 (Verb-Object Collocation) に焦点をあて、商業通信文における特性を多角的に検討します。
11	連語関係からのアプローチとして、上記以外の類型について、実例を紹介しながら諸特性を検討します。
12	後期の授業の総括を行います。
備考	

科目名	ビジネス英語 I-5 ビジネス英語 I-5 (旧) 商業英語 I-5 (旧)	担当者名	山本孝夫
-----	--	------	------

講義の目標	<p>外国の会社とのビジネスでは、英語のコミュニケーションが不可欠です。これは広くビジネス英語と呼ばれますが、何故重要だと思いますか？まず第一に、ビジネスを促進し、成約するためでしょう。そのためにはビジネスの内容・条件を正確に伝え、交渉し、あとで紛争がおこらないようにはっきり確認し合うことが大切です。ボーダーレスの現代では、英語は国際ビジネスの「標準語」です。国際的な舞台で活躍をめざす若き人々は、日本という地方から世界というビジネスのセンターに上京する以上、「標準語」をマスターするのが資質の条件と考えてみてはどうでしょうか。</p>		
講義概要	<p>クラスでは、国際取引をすすめる上で必要な、本当に基本的な国際取引契約の「英語」「英文による契約条件」について学びます。獨協大学の学生の方々やビジネス現場の新人を思い浮かべて執筆し、1993年5月に刊行された『英文契約書の書き方』（日経文庫）を使いたいと思います。国際取引の基本的な事項、用語や問題についても、学びます。クラスのディスカッションをもとに、大学、新人時代（三井物産）、ミシガン大学英語研修所・Law School (LL.M) 時代の『国際取引・知的財産法の学び方～梁山泊としてのゼミナール (Seminar at Michigan Law School and Coffee Shops) ～』等を『国際商事法務』に1993年11月より連載中です。ケースメソッド、ソクラテスマソッドも試みたいと思います。</p>		
使用教材	テキスト	<p>1. 「プリント」 2. 山本孝夫『英文契約書の書き方』（日本経済新聞社、日経文庫） 3. 『国際取引法』（山田・佐野、有斐閣）</p>	
	参考文献	<p>1. Folsom, Gordon, Spanogle 『International Business Transactions』（West Publishing 社；Course Book 版と Nutshell 版） 2. 山本孝夫『国際取引・知的財産法の学び方』（『国際商事法務』に1994年1月号より毎月連載中） 3. 新堀聡『貿易取引入門』（日本経済新聞社発行） 4. 沢田寿夫『新国際取引ハンドブック』（有斐閣） 5. 山本孝夫『知的財産契約の常識』（CIPIC ジャーナル、1994年3月号より連載中） 6. 『ビジネス英文手紙の書き方』（太田原房子、日経文庫）</p>	
評価方法	<p>前後期2回のレポートとふだんのクラスへの参加を重視します。1993年、1994年の2期はクラスの受講生が熱心だったので、前後期ともレポートとしました。新年度も前期のレポート期限を9月末（テーマ自由、2千字以上）とします。これ迄2年は、熱心な受講生が多くA・B中心の評価でした。</p>		
受講者に対する要望など	<p>私は授業は学生〔受講生〕と教師側が各1対1で意見交換し、協力して作り上げるものだと考えています。一昨年は学生のアドバイザー起用、昨年は出席票代りに毎回、「意見・質問・メッセージ」をB5版メモで提出ねがい、授業方法・テーマに反映させました。質問・意見には（内容により、クラス又は本人に）必ずお答えします。希望・意見をお聞かせ下さい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	(質問) あなたが初めて海外客先に商品の売り込みに成功、大筋商談がまとまりました。契約書の交渉に移ろうとすると相手が言います。「今約束した通り納入してください。契約書は不要。」どうしますか。[『英文契約書の書き方』 pp.16-20]
2	第1週の Business Writing の役割の議論に続き、具体的なケースを中心に「国際取引の国内取引と異なるリスク・特色」をとりあげます。[『国際取引法』 pp.6-8; <i>International Business Transactions</i> (Nutshell pp.1-11)]
3	具体的なケース (1994年はエアバス事故) をとりあげ、「国際取引の種類 (各種取引)」を学びます。例えば売買、リース、サービス、ライセンス契約。[『英文契約書の書き方』 pp.20-23; 『国際取引法』 pp.4-6]
4	Athens の Alpha Company が New York の Santa Claus に Toy を注文します。Alpha 社からの Letter (照会)、Purchase Order を読み、船積・支払条件 (Bill of Lading、信用状) を学びます。[『貿易取引入門』 pp.182-318]
5	第4週 Santa Claus ケースは <i>International Business Transactions (Course Book)</i> の4章 (pp.33-59) です。「国際売買の仕組み」「FOB, CIF 条件」を学びます。[『国際取引法』 pp.69-113; 『貿易取引入門』 pp.121-167]
6	Georgia 州の Sam Silver が英国 Bath の Bill Bones から「Desire Under the Thornbush」を FOB Savannah (Georgia)条件で、Hunt から CIF Bath 条件で100冊宛注文を受け、契約します。一緒に送ることができますか。
7	前週 Silver ケースは <i>International Business Transaction</i> (『コースブック』) の pp.85-87 です。前週に続き、貿易条件 [CIF, FOB 等] を学びます。[『コースブック』 pp.85-101; 『貿易取引入門』 pp.98-173]
8	国際取引の舞台に登場する“Actors”について考えます。Corporation だけではなく、Government はどうでしょう。“M. N. E.”、“Delaware Enterprise”とは何でしょう。[『コースブック』 pp.10-15; 『国際取引法』 pp.35-67]
9	国際的な売買契約に適用される世界共通の法律はあるのでしょうか。国連のウィーン売買条約というのは何でしょう。日本の Aurora Borealis 社とサンフランシスコの Karen View 社が契約したとします。UCC とは何でしょう。
10	第9週に続き、Aurora 社と Karen View 社の契約をめぐる、そのレター形式の確認のし方、フォーマルな契約書のドラフティングを学びます。UCC (米国統一商法典) の基本を学びます。[『英文契約書の書き方』 pp.43-112; 『国際取引・知的財産法の学び方』(1994年5-11月号)]
11	4-5週、6-7週、9-10週は同じテーマを2週とりあげます。末尾の参考テキスト・文献も共通です。今週はこれ迄をふり返り、あなた方一人一人の質問・意見にお答えします。毎回いたよくメモにも返事します。
12	前期のレポート (期限: 9月末) のテーマは国際取引に関する限り、自由課題ですが、翻訳にチャレンジする方への材料としてプリント (数種類) を用意します。レポートテーマも選択の参考として20ほど紹介します。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	レポート提出を受けます。後期のテーマと学び方・方針について紹介します。あなた方の夏休み中の成果・感想を聞いたり、私のすごし方などをお話しします。[昨年は北大での集中講義、コペンハーゲン知的財産執行委員会議印象記 (AIPPI '94.9月号) を紹介しました。]
2	夏休み中のレポートを中心に講評と助言を行います。契約英語、ビジネス英語について紹介します。『英語契約書の書き方』(V. 契約英語のポイント、pp.191-209) の基礎的表現 (May, Shall, Will、時制、数字、期間等) も説明します。
3	「国際技術移転・知的財産取引 (1)」の基本を紹介します。Intellectual Property Rights とは何でしょう。Copyright, Patent, Trademark, Trade Secret とは何でしょう。[『コースブック』 pp.612-621; 『国際取引法』 pp.189-209]
4	「国際技術移転・知的財産取引 (2)」として、具体的なライセンス契約やその契約条件を学びます。[『コースブック』 Problem 9.4 Patent and Knowhow Licensing pp.706-725; 『英文契約書の書き方』 V. 1 知的財産権契約 pp.146-171]
5	「国際知的財産契約」を仮想の主人公 (Karen View と日高氏) で紹介します。[『知的財産契約の常識』 Vol.27~Vol.32 (1994年3-8月号)、Vol.34~Vol.35 (10-11月号)。商標とフランチャイズ中心です。[『コースブック』 pp.675-691]
6	映画・ミュージカル・音楽などいわゆる国際的なエンターテインメント・ビジネスへのその制作、輸入、上演の実際や契約書・条件に重点を置いて案内します。映像・音楽・原作者・複製等 Copyright の大切な世界です。
7	「海外への進出と事業形態・合併事業 (1)」の基礎を紹介します。販売代理店と、支店と現地法人、合併会社ジョイント・ベンチャー・カンパニー) はどう違うのでしょうか。[『国際取引法』 pp.211-220; 『新国際取引ハンドブック』 pp.104-164]
8	「海外への進出と事業形態・合併事業 (2)」のテーマで、関連契約を紹介します。販売代理店は Distributor と Agent に分けます。[『英文契約書の書き方』 pp.181-190]
9	合併契約のポイントは何でしょう。M&A はどのように実行しますか。
10	国際取引に伴う契約から発生する紛争の原因となる重要問題を取り上げます。①製造物責任法 (Product Liability)、② Anti-trust 法 (独占禁止法) を米国のケースで紹介します。[『国際取引法』 pp.168-176; 『コースブック』 pp.1107-1122]
11	WTO (世界貿易機構); 国際税法 (租税条約、移転価格税制、タックスヘイブン); 国際倒産; 反ダンピング法; 環境; 知的財産権侵害問題等国際取引紛争を事例によって学びます。あなたの意見も聞かせてください。
12	国際取引紛争とその解決方法について取り上げます。具体的なケース (日米間の訴訟、仮想例) により、問題と解決方法、予防策を議論したいと思います。[山本孝夫『国際取引紛争と外国弁護士起用上の注意点』(『国際商事法務』1993年11月、12月号)]
備考	まとめとレポートの説明、これまでの質問、意見にお答えします。「ビジネス英語・国際取引」という学問はあなたと共に成長し続けます。あなたが国際的舞台で若い鷹のようにはばたく翼となるよう祈ります。

科目名	ビジネス英語 I-6, 7 ビジネス英語 I-6, 7 (旧) 商業英語 I-6, 7 (旧)	担当者名	横井正利
-----	---	------	------

講義の目標	社会に出て実際に役に立つ様に、現状の貿易の流れと貿易用語を理解してもらいたい。	
講義概要	外国貿易に関する往復英語通信と、実務の概要について解説し、この両方面から、貿易に関する一般的、基礎的な知識・理解の習得をはかること。	
使用教材	テキスト	『英文貿易商務』
	参考文献	『貿易の実務』日経文庫
評価方法	前期のレポート、及び後期の試験によって決定する。出席を重視する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では、図を用いて輸出・輸入の創設までの流れを説明する。(P 8～11)
2	第2回目の授業では、輸入者が輸出者に対して取引希望の申し込みをするまでの過程を説明する。(P 8～11)
3	第3回目の授業では、輸入者の信用状態を調査する方法と、銀行に信用照会を問い合わせる方法を説明する。(P 11, 12)
4	第4回目の授業では、輸出者が銀行から信用照会の回答を受け取り、それに対する謝礼状を出す過程を説明する。(P13～15)
5	第5回目の授業では、取引申込の承諾と、取引条件の協定を結ぶ方法を説明する。(P16～18)
6	第6回目の授業では、一般取引条件協定書について説明する。(P18～19) 第7回目の授業では、取消不能信用状及
7	び決済について説明する。(P20)
8	第8回目の授業では、保険とクレームについて説明する。(P21, 22)
9	第9回目の授業では、取引協定の成立から、売買契約成立までを図を用いて説明する。(P22～26)
10	第10回目の授業では、確定売申込み、反対売り申込み等を説明する。(P27～30)
11	第11回目の授業では、売申込みの承諾、売買契約の成立を説明する。(P31～34)
12	第12回目の授業では、前期の授業のまとめをし、レポートの課題を発表する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では、売買契約の履行の流れを図を用いて説明する。
2	第2回目の授業では、信用状の入手方法及び為替の予約について説明する。(P37, 43～45)
3	第3回目の授業では、船積申込みと保険の申込みの方法について説明する。(P41, 42)
4	第4回目の授業では、商品の発送の流れと船積指図書と本船受取証について説明する。(P48, 49)
5	第5回目の授業では、船荷証券と送り状等について説明する。(P49, 50, 54)
6	第6回目の授業では、荷為替の取組方法と船積書類について説明する。(P53～56)
7	第7回目の授業では、荷為替手形の引受及び支払い書類渡し、引受書類渡しについて説明する。(P55～58)
8	第8回目の授業では、図を用いてはじめてから輸出と輸入の流れを説明する (P209～211)
9	第9回目の授業では、第8回目の授業の続きを説明する。(P212, 213)
10	第10回目の授業では、第9回目の授業の続きを説明する。(P212, 213)
11	第11回目の授業では、第10回目の授業の続きを説明する。(P213, 214)
12	第12回目の授業では、テストを行う。
備考	

科目名	時事英語 I-1, 2 時事英語 I-1, 2 (旧) 時事英語 I-1, 2 (旧旧)	担当者名	新井 妥門
-----	--	------	-------

講義の目標	テレビ・ラジオから録音したニュース等を教材として使い、ディクテーションすることにより音声面のみならず文法的なポイントにもふれ時事英語力の向上を目的とする。	
講義概要	LL 教室を使用して学生中心のディクテーションをする。予習により聞き取りづらい部分を取り上げ、音のみならず語法や文の構造にも注意してその内容を把握していくことにポイントを置く。	
使用教材	テキスト	なし 60分テープ
	参考文献	特になし。
評価方法	定期試験、出席状況	
受講者に対する要望など	例文の多い辞書を持参すること。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	教材のレコーディング
3	ディクテーション 1
4	ディクテーション 2
5	ディクテーション 3
6	ディクテーション 4
7	教材のレコーディング
8	ディクテーション 5
9	ディクテーション 6
10	ディクテーション 7
11	ディクテーション 8
12	テスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	教材のレコーディング
2	ディクテーション 9
3	ディクテーション 10
4	ディクテーション 11
5	ディクテーション 12
6	教材のレコーディング
7	ディクテーション 13
8	ディクテーション 14
9	ディクテーション 15
10	ディクテーション 16
11	まとめ
12	テスト
備考	

科目名	時事英語 I-3 時事英語 I-3 (旧) 時事英語 I-3 (旧旧)	担当者名	金子節也
-----	---	------	------

講義の目標	日米関係、ハイテク、日欧関係、アジア問題等の専門家への英語インタビューを読み、かつ聞きながら、日本の今後の進路、他国との協調を考える。英字新聞などの最新記事をおおいに活用したい。	
講義概要	主テキストのインタビュー集（音声あり）を中心に、日本をとりまく諸情勢を聞きかつ読みながら理解する。必須語い・表現に関しては、自ら運用できるよう努力する。 その後の情勢の展開については、最新の新聞記事、雑誌、TV などにより補足してゆく。	
使用教材	テキスト	金子節也著； <i>I Too, Am a Bit of a Workaholic, but...</i> , こびあん書房、1988ほか
	参考文献	金子節也著『ニッポン・ウォッチング』朝日出版社、1991
評価方法	出席状況、ふだんの授業へのコミットメント、テスト成績の3つを主な評価基準とする。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	キーワードによるオリエンテーション。政治、経済、文化…幅広くキーワードを使って、いまの日本と世界の関係を浮きぼりにする。
2	日米関係—その1、テキストの2、“The Media Plays Up American Pressure”の最初の3分の1。テキスト pp.11-14
3	日米関係—その2、テキスト pp.15-18 その他最新英字紙による補足。アメリカ口語表現の特徴などにもふれる。
4	日米関係—その3、“A Caution to the U.S.-Japan Relationship” (pp.19-22) その他英字紙。
5	日米関係—その4、テキスト pp.23-27 アメリカ人の日本観を最新資料にて補足。
6	日本関係—その5、テキストの4 “How to Influence Big Business and Go Win-Win” (pp.29-33)
7	日米関係—その6、テキスト pp.34-36 アメリカン・ドリームについて、成功者の信念について学ぶ。最新ビジネス用語にもふれる。
8	日英関係—その1、テキスト “I Too, Am a Bit Workaholic, but…” (pp.37-41) 現代イギリス事情にもふれる。
9	日英関係—その2、テキスト pp.38-46 日本がまだ多くのことを英国から学ぶべきこと、等を認識する。英米語のちがいにふれる。
10	ハイテク技術と雇用—その1、テキスト pp.55-59 産業ロボットの導入と労使関係。
11	ハイテク技術と雇用—その2、テキスト pp.60-64
12	イギリス事情—その1、テキスト “The Unions Were Just Too Greedy” (pp.47-51) 日英生産性比較。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	イギリス事情—その2、テキスト pp.52-55
2	ジャーナリズム研究—その1、テキスト “I Must Have a Little Japanese Blood” (pp.1-5)。アメリカのジャーナリズムについて。
3	ジャーナリズム研究—その2、テキスト pp.6-8 検閲制度について。言論・出版の自由について。
4	ジャーナリズム研究—その3、テキスト pp.8-18 編集者の心がけについて。話者の英語の特色にふれる。
5	アジア—その1、テキスト “Japan as a Big Brother” の ‘Help Us Stand on Our Two Feet’ (pp.65-67)
6	アジア—その2、テキスト ‘The Japanese Rather Look West’ (pp.68-70)
7	アジア—その3、テキスト ‘Do More for Our Spiritual Enrichment’ (pp.71-73)
8	ジャパン・バッシング—その1、テキスト <i>Japan Unveiled</i> . “Japan, not Russia, Main Threat” (pp.2-4)
9	ジャパン・バッシング—その2、テキスト “Bashing Japan Isn’t the Answer” (pp.6-8)
10	キャリア・ウーマン—その1、テキスト “OL-She’s Indispensable” (pp.33-34)
11	キャリア・ウーマン—その2、テキスト “Japan’s New Breed of Office Ladies” (pp.36-41)
12	高齢化社会の到来。テキスト Japan’s Aging Population-A Guinea Pig” (pp.72-76)
備考	テキスト <i>Japan Unveiled</i> は購入の必要はない。ほとんど毎時間、新聞等からの補足教材プリント配布・使用。

科目名	時事英語 I-4 時事英語 I-4 (旧) 時事英語 I-4 (旧旧)	担当者名	工藤政司
-----	---	------	------

講義の目標	世界の情勢をリアルタイムで把握することは国際人の必須条件である。従って時事英語 I-4 では英語を通じて海外事情、海外から見た国内事情に通曉し、国際人としての教養を身につけることを目指す。受講者は外国の新聞雑誌に取り上げられた記事を通じて視野が広がったことを実感するだろう。	
講義概要	英文を正しく理解することに重点を置いた授業を行なう。	
使用教材	テキスト	プリント使用。
	参考文献	Time, Newsweek, New York Times Weekly Peview その他内外の英字新聞雑誌
評価方法	前後期の試験各1回の成績及び出席を含む平常点をもって評価する。	
受講者に対する要望など	時事英語は時々刻々と変化する内外事情を扱うので講義予定の順序には変更が生じる場合がある。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業のすすめ方についてのオリエンテーション
2	外から見た日本の政治。
3	同上
4	アメリカの政治
5	同上
6	アメリカの社会問題
7	同上
8	イギリスの政治と経済
9	同上
10	科学の現況
11	中国問題、その経済の発展と将来
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	環太平洋地域の問題。
2	工業の発展と世界の環境問題
3	同上
4	イギリスの政治と経済
5	ドイツの政治と経済
6	フランスの政治情勢を読む。
7	ロシアの現況。
8	New York Times Op ES
9	同上 継続講義。
10	Time の Cover Story を読む。
11	同上
12	同上
備考	

科 目 名	時事英語 I-5 時事英語 I-5 (旧) 時事英語 I-5 (旧旧)	担当者名	篠 田 愛 理
-------	---	------	---------

講 義 の 目 標	<p>学習者が時事英語に慣れ、英字新聞記事が理解できるようになる基本的な読み方を指導。下記の教科書以外に、その時々最新の事件を <i>Time</i>, <i>Newsweek</i> 誌、日本の英字新聞等から適宜に活用。Dictation、語彙学習のチェックの為の小テストも施行、時事英語理解の向上を目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>各トピック（国際、国内問題、政治、外交、経済、産業、社会、文化、科学、教育、宗教、スポーツ、自然現象、女性問題、日本-アジア関係、戦後50周年等も含む）の背景、関連表現、関係語彙学習にも力を入れる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	『英文ニュース入門 (<i>Newspaper English</i>) 1995/1996』 中村憲明編（成美堂、1995年）	
	参 考 文 献	教室で指示。プリントの配布も予定。	
評 価 方 法	<p>前期、後期の二つの期末試験、夏期休暇中のレポート、平生の授業での貢献度、及び出席状況によって決定。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>授業は予め十分に予習してあることを前提にして講義を進行。遅刻せぬこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Orientation : 授業内容、目標、予定の解説、紹介
2	Chapter 1 新聞用語の基礎知識
3	" 2 Brief News
4	" 3 Weather & Earthquakes
5	Current topic 予定
6	Chapter 4 Pray for Peace
7	" 5 Asia
8	" 6 Europe
9	Current topic 予定
10	Chapter 7 Refugees
11	" 8 Environment & Health
12	前期末試験
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期末試験の評価
2	Chapter 9 Nuclear Issues
3	" 10 Space
4	Current topic 予定
5	Chapter 11 Economy
6	" 12 Summit
7	" 13 Politics—Japan
8	Chapter 14 Politics—U. S. A.
9	Current topic 予定
10	" 15 Obituary
11	" 16 Sports
12	後期末試験
備考	

科目名	時事英語 I-6 時事英語 I-6 (旧) 時事英語 I-6 (旧旧)	担当者名	長谷川 倫子
-----	---	------	--------

講義の目標	英語ニュースの的確な把握はもとより、メッセージへのクリティカルなアプローチを可能にするメディアリテラシーの向上を目指す。	
講義概要	TIME, Newsweek, Japan Times 等のプリントメディアを中心として、テキストを読んで行きます。内容を的確に把握し、平易で適切な日本語にうつしかえるだけでなく、そのニュースの社会的背景にまで理解を深めることを目指したいと思います。内外の出来事に関心を持ち、その動向を承知していることが望ましい。また、ビデオ教材も用いる予定です。	
使用教材	テキスト	プリント
	参考文献	講義にて紹介
評価方法	評価は前期・後期1回のテストによる。	
受講者に対する要望など	第1回目の授業に出席しない者の受講を認めない。人数制限有り。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業の内容・目標・進め方の解説。
2	最新のトピックスを解説のうえ読む。
3	同上
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	最初のトピックスを解説のうえ読む。
2	同上
3	同上
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

科 目 名	時事英語 I-7 時事英語 I-7 (旧) 時事英語 I-7 (旧旧)	担当者名	森 永 京 一
-------	---	------	---------

講 義 の 目 標	英字新聞・雑誌やテレビ・ラジオの報道・解説などを自由に理解・活用できるようにするのが目的。あわせて国際問題や外国事情などに対する理解を深めることを目指します。	
講 義 概 要	テキストのほか、最新の新聞・雑誌、ビデオなども使用、時事英語独特の用法などを身に付けるようにします。	
使 用 教 材	テキスト	藤井他 <i>English for Mass Communication</i> 1995 Edition 朝日出版社刊
	参 考 文 献	
評 価 方 法	前後期のテスト	
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ジャーナリズム英語の特異性
3	見出しの用法、略語
4	新聞の英語と放送英語
5	政治の英語（国内）
6	政治の英語（外国）
7	経済の英語
8	経済の英語（続）
9	金融の英語
10	外交の英語
11	国際機構の英語
12	国際問題の英語
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国際問題の英語（続）
2	軍事の英語
3	天気予報などの英語
4	災害・事故の英語
5	犯罪・司法の英語
6	労働関係の英語
7	環境問題の英語
8	科学の英語
9	スポーツの英語
10	芸術の英語
11	映画の英語
12	まとめ
備考	

科目名	時事英語 I - 8 時事英語 I - 8 (旧) 時事英語 I - 8 (旧旧)	担当者名	W. J. Benfield
-----	---	------	----------------

講義の目標	To develop the necessary receptive and productive skills to analyze and discuss current events and trends in world affairs.	
講義概要	We will look at three major topics each semester, devoting at least two classes to each one. In the first class, we will analyze the topic through the medium of articles drawn from a variety of English language publications or video clips. Further research into the topic will be done as homework. Students will be assigned to groups, and in the second class, each group will give a presentation based on the topic. The style of presentation will vary depending on the interests of the group. In addition, we will analyze the language of news reporting, different news styles and there will be regular quizzes on current events and practice in summarization. There will be particular emphasis on looking at the relationship between trends to get a coherent idea of current events.	
使用教材	テキスト	There will be no set text. Material will be drawn from English language newspapers and magazines, and video clips of English language news broadcasts. Topics will be decided at the beginning of each semester to allow for student interest and developing stories.
	参考文献	
評価方法	Assessment will be based on attendance, performance and participation in class and there will be an examination at the end of each term based on the presentation of one topic.	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction of course and student selection based on a short test.
2	Basic overview of course. Group formation. Review of test.
3	Topic 1: reading/viewing and discussion, continued for homework.
4	News quiz. Topic 1: group presentations.
5	Topic 2: reading/viewing and discussion, continued for homework.
6	Summary practice. Topic 2: group presentations.
7	The language of news: comparison of magazines, e. g. Time, Newsweek, The Economist.
8	The language of news, continued: further analysis of magazines.
9	Topic 3: reading/viewing and discussion, continued for homework.
10	News quiz. Topic 3: group presentations.
11	Review of topics 1-3. Examination preparation.
12	Mid-term examination.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Review of first semester. Quiz. Selection of topics for second semester.
2	Topic 4: reading/viewing and discussion, continued for homework.
3	News quiz. Topic 4: group presentations.
4	The language of news: comparison of TV news, e. g. BBC, CNN
5	The language of news, continued: further analysis of TV news.
6	Topic 5: reading and discussion, continued for homework.
7	Summary practice. Topic 5: group presentations.
8	Topic 6: reading/viewing and discussion, continued for homework.
9	News quiz. Topic 6: group presentations.
10	Review of the year's events and trends
11	Examination preparation.
12	Final examination.
備考	

科目名	言語情報処理 I - a, b 言語情報処理 1 (旧)	担当者名	高柳 敏子
-----	---------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>本講義は、初めてコンピュータに接する英語科の学生を対象に、まずキーボードトレーニングから初め、ワードプロセッサ、コンピュータ・コミュニケーション、および表計算ソフトとそのデータベースの取り扱い等コンピュータリテラシの習得から始め、コンピュータの文章解析への応用を目指しその基礎を学習する。</p>	
講義概要	<p>前期は、まずタイピングから始め、MS-Windowsのもとでワープロソフト MS-Word、表計算ソフト MS-Excel を使用しながら、日本語ワープロを中心に簡単な表とグラフを含めた総合的な文書編集の基礎と、英文ワープロの扱い、さらに BITNET によるメールの送受信等を学習する。</p> <p>後期は、MS-Excel による表計算の応用およびデータベースの取扱いを習得しながら、MS-Excel による文章解析の基礎を学習する。また、検索の応用として大学図書館の検索、およびパソコン通信による外部データベースの検索も試みる。</p>	
使用教材	テキスト	未定、必要な資料は随時配布する。
	参考文献	随時紹介する。
評価方法	<p>評価は、定期試験に替わる前・後期各 1 回の実習試験と、同じく前・後期各 2～3 回程度のレポートおよび、出席を加味して行う。</p>	
受講者に対する要望など	<p>実習が中心の授業なので欠席しないこと。年間を通して、実習用にフロッピーディスク (3.5 インチ 2HD) を 3 枚使用するので、講義開始時まで各自用意すること。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	受講者の決定と講義のガイダンス
2	コンピュータ入門(1) : マウスの操作 コンピュータに触れる。
3	コンピュータ入門(2) : キーボードとタイピング タイピングソフトの解説とタイプ練習をする。
4	ワードプロセッサ(1) : キーボードと日本語入力 ワードプロソフト (MS-Word) の起動とローマ字仮名漢字変換を学ぶ。
5	ワードプロセッサ(2) : ディスク、ファイル、文書の内容 ディスクの初期設定および、文書の保存と呼び出しを学ぶ。
6	ワードプロセッサ(3) : カットアンドペースト 文書内および文書間の文書の移動や複写を学ぶ。
7	ワードプロセッサ(4) : 表組み 文書の一部や数字部分の表組を学ぶ。
8	ワードプロセッサ(5) : 段組み 文書の段組を学ぶ。
9	ワードプロセッサ(6) : 英文入力処理。 半角入力、ハイフネーション、スペルチェック等を学ぶ。
10	BITNET(1) : ホストコンピュータ (CMS) のネットワーク CMS の Logon と Logoff および BITNET の利用方法を学ぶ。
11	BITNET(2) : Mail の送受信 文書 (Mail) の送信および受信の仕方を学ぶ。
12	BITNET(3) : File の送受信 文書以外の情報を含んだファイルの送信および受信の仕方を学ぶ。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文章解析(1) : 英文の入力と編集 英文テキストファイルを MS-Excel に入力し、編集する。
2	文章解析(2) : 単語の使用頻度の集計(1) データベースの集計機能を利用し列毎に単語の使用頻度を集計する。
3	文章解析(3) : 単語の使用頻度の集計(2) 列毎の単語の頻度集計をまとめてテキスト全体の使用頻度を集計する。
4	文章解析(4) : 1文内の単語数の分布 列毎の文の終了記号(. 等) の使用頻度をまとめる。
5	文章解析(5) : 単語の使用度数分布 単語の使用頻度数による分布を求める。
6	文章解析(6) : 単語の文字数分布 LEN 関数により各単語の文字数を計算し、文字数分布を求める。
7	文章解析(7) : 文字の使用頻度 データベース関数 DSUM を利用し文字毎の使用頻度を求め、集計する。
8	文章解析(8) : 文章解析のまとめ(1) 単語の文字数分布、文字の使用頻度等をグラフ化する。
9	文章解析(9) : 文章解析のまとめ(2) 文章解析果を Ms-Word を使って編集し、レポートを印刷する。
10	情報検索の応用(1) : 図書館の利用 本学図書館の情報を検索し、個人用の参考資料を作成する。
11	パソコン通信(1) : パソコン通信接続法 パソコン通信とは何か、またそのアクセスの方法等を学ぶ。
12	情報検索の応用(2)、パソコン通信(2) : 外部データベースの利用 パソコン通信を使って、外部データベースから情報を得る。
備考	

科目名	言語情報処理Ⅱ-a, b 言語情報処理2 (旧)	担当者名	前田 功雄
-----	-----------------------------	------	-------

講義の目標	<p>この講義では、言語情報処理Ⅰやコンピュータ概論で学んだワープロ、表計算の技術をもとにこれらのソフトを連携させながら、もっと高度な使いみちを学ぶ。特に、ワード (MS WORD) とエクセル (MS EXCEL) のデータ連携やワードのレイアウト枠機能 (文書内に貼り付ける図形やグラフを任意の位置に好きな大きさに貼り付ける機能) に熟達されたい。また EXCEL は数ある表計算ソフトの中で統計分析に定評がある。この統計分析ツールをマスターすることがこの講義の目標の一つでもある。更に、データベースやCAI (COMPUTER ASSISTED INSTRUCTION) についても学ぶ。</p>	
講義概要	<p>一言でいえば、ウィンドウズを活用した情報処理の実践的な授業である。言語研究や語学教育に適用範囲を合わせたことにより、英語学科の学生に馴染みやすい例題を多く取り入れた。とかく面倒な成績の統計処理もアプリケーション・ソフト (MS EXCEL) を使うことにより、誰でも簡単に必要な統計量 (例えば、平均とかばらつきの度合を示す標準偏差や馴染みのある偏差値等) や説得力のあるグラフが作れるよう指導する。このような実例を通して解り難い統計概念の教育における意味を明らかにする。</p> <p>もう一つの話はCAI (Computer Assisted Instruction) に関するもので、CAI用教材の準備の仕方から学習者の利用方法の工夫について議論する。取り上げるテーマはコンピュータ・ネットワーク上のCAIシステムである。</p>	
使用教材	テキスト	最初の講義時間に紹介する。
	参考文献	講義中随時紹介する。
評価方法	前期、後期のレポート提出と出席回数その他レポート。	
受講者に対する要望など	履修条件があるので「履修の手引」を参照のこと。	

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	コンピュータの仕組みと言語処理
2	ワープロとマルチメディア
3	ワープロとDTP (Desk Top Publishing)
4	ワープロ実習
5	表計算ソフトとは
6	英語教育と表計算ソフト (MS EXCEL)
7	MS EXCEL と文書解析
8	文書解析実習Ⅰ
9	文書解析実習Ⅱ
10	成績処理と MS EXCEL
11	種々の関数を使った統計値の算出
12	前期総合レポートの作成
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	成績データのグラフ表示
2	成績データと基本統計量
3	成績データをヒストグラムに画く
4	2つの項目の統計的関連—相関係数—
5	3つ以上の項目間の統計的関連—相関行列—
6	2つのクラスの成績から見た統計的比較
7	教授法を変えたことによる成績変化の統計的意味
8	成績データ処理に関するレポート作成
9	英語教育とCAI (Computer Assisted Instruction)
10	CAIとコンピュータ・ネットワーク
11	コンピュータ・ネットワーク上のCAI実習
12	総合レポートの作成
備考	

科目名	統語論 a, b 統語論 (旧) 英語文法論 (旧旧)	担当者名	鷲尾龍一
-----	-----------------------------------	------	------

講義の目標	生成文法理論の本質を把握し、言語の比較研究、特に比較統語論研究に必要な一般的知識および分析能力を身につけることを目標とする。	
講義概要	生成統語論の基礎を講義する。言語の多面性およびその反映とも言える研究目標の多様性を再認識することから出発し、生成文法理論の本質、統語論研究の諸問題、特定の統語理論における文構造の具体的分析などを経て、諸言語の文法を比較するための「比較統語論」の方法へと至る、一連の講義を予定している。予備知識は必要としないが、毎回の講義内容を前提として先へ進むため、欠席が重なると理解が難しくなる。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ Washio, Ryuichi. (1995) <i>Interpreting Voice</i>. Kaitakusha. ・ Napoli, Donna. (1993) <i>Syntax</i>. Oxford University Press.
評価方法	前後期各1回の試験（あるいはレポート）と講義への参加状況によって評価する。	
受講者に対する要望など	初回の講義に出席しない学生の受講は認めない。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	言語学の歴史を簡単に振り返るとともに言語研究の現状を概観し、現代言語学における生成文法理論の位置などについて論じる。
2	生成文法理論の本質を、その問題設定の仕方を通して考察する。言語知識の獲得をめぐる認識論的論争や普遍文法・パラメータなどの概念にも触れる。
3	生成文法の下位分野を概観し、その一つである統語論の研究対象を、特に意味論との関連で考察する。
4	普遍文法をめぐる諸問題を取り上げ、言語の普遍性と個別性について論じる。
5	普遍文法をめぐる諸問題を取り上げ、言語の普遍性と個別性についてさらに論じる。
6	言語における「構造」という概念について論じ、日本語と英語に見られる単純な文の構造を分析する。
7	普遍文法のモジュール性および個々のモジュールに関する具体的な仮説について論じる。
8	文の構造に関わる原理について論じ、日本語と英語の文構造を分析・比較する。
9	日本語と英語の文構造をさらに詳しく分析・比較する。
10	文法関係という概念およびその変更を引き起こす原理について論じる。
11	文法関係の変更についてさらに論じ、諸言語の文法を比較する。
12	前期の講義を総括し、後期の講義概要を説明する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期試験（あるいはレポート）の講評を行う。
2	諸言語に見られる移動現象について論じ、その性質を探る。
3	英語に見られる移動現象を検討し、移動に対する制約について論じる。
4	英語以外の言語に見られる移動現象を検討し、移動に対する制約について論じる。
5	移動に対する普遍的な制約およびパラメータについて論じる。
6	普遍的制約およびパラメータについてさらに論じ、諸言語の類似点と相違点を具体的に検討する。
7	主語省略などの現象を取り上げ、諸言語を比較する。
8	日本語および英語における省略現象を分析し、パラメータ理論の観点から検討を加える。
9	パラメータに関する一般理論の可能性について論じ、諸言語の類型化を試みる。
10	最近の普遍文法研究における諸問題を取り上げ、言語の普遍性と個別性について論じる。
11	統語論と他の領域との接点について論じる。統語論の自律性の問題などにも触れる。
12	一年の講義を総括する。
備考	

科目名	意味論 a, b 意味論 (旧) 英語学特殊講義 (意味論) 3 (旧旧)	担当者名	神尾昭雄
-----	---	------	------

講義の目標	<p>言語には、大別して、形式（発音される形）と意味の二大要素がある。そしてこの両者をつなぐものが文法（統語構造）である。いかなる言語もこの3者を欠くことはできない。本講義では、これらのうち最も解明の遅れている意味について、できるだけ体系的かつ理論的に分析を行なう試みについて講義する。意味という実体のつかみ難いものが持つ働きやその複雑な仕組についてできるだけ多くの学生の興味を引くことができるように努める。</p>		
講義概要	<p>本講義で使用する教科書は認知意味論と呼ばれる立場から書かれた本格的な理論書である。これをいかにかみくだいて解りやすく講義するかが担当者に課せられた課題である。教科書が難解であるという声は当然予想されるが、学生諸君が熱意を以て取り組めば必ずある程度の理解が得られるはずである。この教科書を選んだのは、明確な視野と目標の下に一貫した立場で体系的に意味の構造を分析した書として、現在内外にこれに優るものはないと考えたからである。</p>		
使用教材	テキスト	<p>中右 実著『認知意味論の原理』大修館書店 1994 約4500円</p>	
	参考文献	<p>なし なお第1回の講義において上記のテキストを販売するので、受講者は各自必ず4500円程度を用意すること。</p>	
評価方法	<p>前・後期期末試験の他に、1学期に1～2回復習のためのテストを行ない、合計約5回の成績を基に評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>教科書は決してやさしくはないので、毎回必ずわかる範囲内で予習をして授業に臨むこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	教科書の販売。授業のすすめ方。教科書の用い方。その他の注意事項。
2	教科書第2章「階層意味論の構想」を中心に、基本的な点を整理し、説明する（その1）。
3	同上（その2）。
4	教科書第3章「モダリティと命題内容」について解説する。
5	講義第4章「SモダリティとDモダリティ」について解説する。
6	教科書第5章「直説法と定言的断定」および第6章「モダリティと発話内効力」について解説する。
7	復習のためのテスト第1回。
8	教科書第2部「磁場の文法」の各章をわかりやすく解説する。
9	教科書第2部「磁場の文法」の各章をわかりやすく解説する。
10	教科書第2部「磁場の文法」の各章をわかりやすく解説する。
11	教科書第2部「磁場の文法」の各章をわかりやすく解説する。
12	教科書第2部「磁場の文法」の各章をわかりやすく解説する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	教科書第3部「時間の文法」のうちから数章を選んで解説する。
2	教科書第3部「時間の文法」のうちから数章を選んで解説する。
3	教科書第3部「時間の文法」のうちから数章を選んで解説する。
4	教科書第3部「時間の文法」のうちから数章を選んで解説する。
5	教科書第3部「時間の文法」のうちから数章を選んで解説する。
6	復習のためのテスト第2回。
7	教科書第4部「空間の文法」のうちから数章を選んで解説する。
8	教科書第4部「空間の文法」のうちから数章を選んで解説する。
9	教科書第4部「空間の文法」のうちから数章を選んで解説する。
10	教科書第4部「空間の文法」のうちから数章を選んで解説する。
11	教科書第4部「空間の文法」のうちから数章を選んで解説する。
12	教科書第4部「空間の文法」のうちから数章を選んで解説する。
備考	

科目名	音声・音韻論 a, b 音声・音韻論 (旧) 英語学特殊講義 (音声・音韻論) 2 (旧旧)	担当者名	大竹孝司
-----	--	------	------

講義の目標	<p>本講義では、英語音韻論の基礎知識と考え方を中心に講義を考なう。音韻論は音声の文法に相当するもので、音声学が音声そのものを扱うのに対して音韻論は意味を担う音声の機能と構造を扱うものである。今日の国際化の時代になっても英語の発音やリスニングが不得手な人が多いようであるが、その原因の一端は英語音声の文法面の理解が十分でないことに起因しているかもしれない。そこで本講義では、これらの現実の問題点を考慮しつつ、学問的なレベルも保てるような講義としたい。なお、授業は知識の集積ではなく、考え方を身に着けることを重視したい。</p>	
講義概要	<p>英語音声の知識について考えてみると、子音や母音などの単音についての知識が中心となる傾向があったのではないか。本講義では、これらの単音のみならず、英語音声の理解に重要な役割を担うアクセントやリズムなどについても論じる。以下が講義の中心テーマとなる。言語音の特徴、音声の生成の原理、音声学と音韻論の違い、日本語と英語の音声の違い、米語と英語の音声の違い、母音と子音の調音とその記述の方法、音素の概念とその体系、弁別素性の考え方、英語の音節の基礎知識、英語のアクセントの構造、英語のリズムの構造などを扱う。</p> <p>本講義は、英語音韻論の概論に近いものにするつもりであるが、将来、英語学を専攻する人にも役立つよう最新の考え方も紹介して行きたい。</p>	
使用教材	テキスト	窪菌晴夫・溝越彰、『英語の発音と英詩の韻律』英潮社
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ P. Roach ; <i>English Phonetics and Phonology</i>, CPU. ・ C. Kreidler ; <i>The Pronunciation of English : a Course Book in Phonology</i>, Blackwell. ・ H. Giegerich ; <i>English Phonology : an Introduction</i>, CPU.
評価方法	<p>授業は討論を中心とするので授業への貢献度と前期と後期のレポートによって評価する。前期の提出日は後期の第1週目とし、後期は1月28日とする。提出先は教務課。</p>	
受講者に対する要望など	<p>本講義は英語音韻論の概論を想定したもの。生成音韻論の考え方を取り入れた音韻論の考え方を学びたい者は「専門講読2」の受講を勧める。両者を受講することでバランスの取れた知識が得られるであろう。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義概要の説明を行なう。
2	人間が話す言語音の特徴について考える。チンパンジーや鳥などが発する音声と人間の言語音を比較しながら考えてみる。
3	人間の音声の生成のメカニズムについて理解する。日本語と英語の音声を生成の観点から概観し、どのような違いがあるのか実験を行ない、英語らしい音声の生成とは何かを考える。
4	生成された日本語と英語の音声にはどのような違いがあるのかを考える。外国人が生成した日本語、日本人が生成した英語をスペクトログラフを用いてその特徴について考える。
5	音声と音韻論の基本的な違いについて考える。何故、音声の研究に二つの分野が必要となるのか、人間が音声言語を聞かすという行為はどのようなことなのかを考える。
6	英語の子音の特徴について分類と記述の方法を考える（Ⅰ）。英語の子音はどのように分類することができるのか、またその記述はどのように行なうのかを論じる。
7	英語の子音の特徴について分類と記述の方法を考える（Ⅱ）。
8	英語の母音の特徴について分類と記述の方法を考える（Ⅰ）。英語の母音にはどのようなものがあるのか、またその記述はどのように行なうのかを論じる。
9	英語の母音の特徴について分類と記述の方法を考える（Ⅱ）。
10	音素の概念と英語の音素体系について論じる（Ⅰ）。現実には耳にする音とは別に抽象化された音としての音素の必要性和その体系について考える。
11	音素の概念と英語の音素体系について論じる（Ⅱ）。
12	米語と英語の音声の違いについて、音声学と音韻論の観点から明らかにして行く。この両語の音声は明らかにこととなるが、音韻論ではその違いをどのように記述するのかを考える。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	弁別素性の概念について（Ⅰ）。音素を記述する際に更に小さな単位である弁別素性の概念とその必要性について考える。
2	弁別素性の概念について（Ⅱ）。
3	英語の音節の基本知識（Ⅰ）。英語学習をする場合に音節という概念はほとんど触れられないことがない。だが、英語のアクセントやリズムの理解に不可欠な概念である。日本語との違いを含めて考える。
4	英語の音節の基本知識（Ⅱ）。
5	英語のアクセントの基本知識（Ⅰ）。英語がストレスを中心とするアクセントを持つことは周知の通りであるが、英語のアクセントはどのように付与されているのか、その予測性を音節と共に考える。
6	英語のアクセントの基本知識（Ⅱ）。
7	英語のアクセントの基本知識（Ⅲ）。
8	英語のアクセントの基本知識（Ⅳ）。
9	英語のリズムの特徴（Ⅰ）。英語のリズムは強弱を中心とするものであるが、その構造はどのようなものであるのか、日本語とどのように異なるものかを論じる。
10	英語のリズムの特徴（Ⅱ）。
11	英語のリズムの特徴（Ⅲ）。
12	日本語話者が英語学習をする際に直面するリスニングとスピーキングの諸問題を音韻論の観点から総括する。
備考	

科目名	英語史 a, b 英語史 (旧) 英語史概説 (旧旧)	担当者名	須賀川 誠 三
-----	-----------------------------------	------	---------

講義の目標	この講義では、内的歴史に重点をおき、必要最少限、外的歴史に触れる。内容は、印欧語・古期英語・中期英語・近代英語の各時期について音韻・綴字・語形・統語法・語彙・意味変化などを一通り扱い、英語の諸現象を歴史的・言語学的に解明することを主要な目標とする。		
講義概要	英語の1500年の歴史を通観し、英語がどのように変化してきたか、或はまた、どのような特性を保持しているかを中心に述べていきたい。各時代毎の特色を指摘するのはもちろん、現代英語との相違点・類似点を具体的に取上げて論じたい。言語学的法則よりは、むしろ実証的に具体例についての解説を試みたい。		
使用教材	テキスト	H・アレクサンダー著／寛・青木共訳 『英語史概説』 金星堂。 〈副読本〉須賀川・佐藤共著 『チョーサー—その時代・文学・言語—』 成美堂。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・市河・松浪共著 『古英語・中英語初歩』 研究社出版。 ・寺澤・川崎共編 『英語史総合年表』 研究社。 	
評価方法	前期・後期の試験および、小テスト（平常時間に行う）による。試験は主として記述式とする予定。		
受講者に対する要望など	受講希望者は第1回目の授業に出席、必ず登録承認票を受取ること。承認票なしで登録した場合は、登録が無効となるので注意。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	英語史の学び方についてのガイダンス。教科書・副読本の利用法、参考書・辞書・事典などの活用法など。その他予備知識。
2	I 英語史研究の方法とその意義：文献学的研究と言語学的研究との二つの方法について述べる。また英語史研究の意義についても考える。
3	II 歴史的にみた英語の特性：現代英語にも残っている顕著な特性をいくつか取り上げて述べる。
4	III 英語と他の印欧諸語：英語やドイツ語・フランス語などの同族語のルーツである印欧語までさかのぼってそれらの類似点を探る。
5	IV 古期英語の時代と背景：古期英語がブリテン島で使われるようになった歴史的背景について述べる。
6	V 古期英語の綴字と発音：古期英語の発音を現代英語と異なる点について、その概略を述べる。
7	VI 古期英語の文法・語彙：古期英語の語形・統語法・語彙について、それらの特徴をあげ、説明する。
8	☆ビデオ上映（予定）：BBCで放映のビデオ“The Story of English”（OE, ME期）を上映する予定。
9	VII 中期英語の時代と背景：中期英語の時代と歴史的背景について、英語の歴史と特に関連の深い二つの重要な事件について述べる。
10	VIII 中期英語の綴字と発音：中期英語の綴字と発音を古期英語と比べ、その変化について述べる。
11	IX 中期英語の文法・語彙：中期英語の語形・統語法・語彙についてその主要な特徴をあげ解説する。
12	X チョーサーの英語（14世紀の英語）：14世紀の英語をチョーサー（Geoffrey Chaucer, 1340-1400）の英語を中心に述べる。同時にテキストの読み方（発音）を実際に行う。
備考	《注意》ビデオ上映の週は教室の事情により変更になることもある。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	X I 初期近代英語の時代と背景：欽定訳聖書および Shakespeare によって代表される初期近代英語の時代的背景を概観する。
2	X II 初期近代英語の綴字と発音：この時期には英語の母音組織に大きな変化が起こった。また、綴字は固定化の傾向が強まり、発音と綴字の不一致が一層拡大する。
3	X III 初期近代英語の文法・語彙：文法は現代に比べて自由であった。語彙は借入語が増え、拡大の方向に進む。
4	X IV 後期近代英語の時代と背景：科学合理主義の重じられる時代で、英語も更に洗練されたものになる。学校文法はこの頃に起こる。
5	X V 後期近代英語の文法・語彙：文法は、ほぼ現代の用法に近くなる。また、文語と口語と区別する習慣が生ずる。口語についても触れたい。
6	X VI 意味の変化の諸相：意味変化はさまざまな原因で起こるが、ここではその具体例をあげて説明する。
7	X VII アメリカ英語の成立と特徴：アメリカ英語の発達段階、およびその特徴について、綴字・発音・語彙などを取り上げ、概説する。
8	☆発音・統語法についての練習課題：QUIZを課し、学生諸君が自身で考える時間を与える。
9	X VIII 現代英語の傾向：現代英語の発音・文法・語彙などについてその変化の顕著な諸点をあげて、歴史的意義を検討する。
10	X IX 英語の変種：英語を母語、あるいは公用語として使う人口が増大したため、英語にもいろいろな変種が生じた。その実態を具体例で見ていく。
11	X X 現代語の記録と未来の英語：現代英語の地域方言の研究の成果の一端を例示し、現代の変化の傾向を概観する。また、将来の英語についての予測も試みたい。
12	X X I 総まとめ一変わりゆく英語：英語の1500年間にわたる変遷の目立った特徴をいくつかあげ、総まとめとする。
備考	

科目名	英米文学史 a-1, b-1 英米文学史1 (旧) イギリス文学概論 (旧旧)	担当者名	佐藤 勉
-----	---	------	------

講義の目標	<p>この授業は新カリキュラムとなって新たに開設された科目である。この授業ではイギリス文学の歴史を Angol-Saxon の時代から1970年代の現代までを概観するものである。そのために3つの目標を定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イギリス文学の主たる作品の Reading Lists を作成する。 2. 秀れた文学作品がどんな風に作者の人生と思想を反映し、その時代精神とその国の歴史の理想を指し示しているかを学ぶ。 3. イギリス文学がどのような形態を持ち、どのような思潮的發展を遂げてきているかなど批評的な解釈を試みる。
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 時代ごとに簡潔な歴史的社会的状況を梗概しながらその時代の文学の特質との関連を述べる。 2. 秀れた文学の plot とその分析を簡潔に行う。 3. 必須の文学用語 lists を参考に文学の読み方を学ぶ。 4. 授業は指定したテキストにそって読み進める。 5. 読み進めるページをあらかじめ指示するのでその予習をして授業に出席することが必要である。 <p>よい文学を読む楽しみを味わうことができるように、またさらに深く文学を読んでみようという意欲がわくような授業ができるように心掛けるが、受講者自身が積極的に授業に参加することが必要である。</p>
使用教材	<p>テキスト Ifor Evans: <i>A Short History of English Literature</i> (Penguin Bks., 1990). ¥1760.</p> <p>参考文献 日本語による参考文献は各自見付けること。したがって英文のもののみ挙げる。 William J. Long: <i>English Literature</i> (Ginn & Co., 1945), Stephen Coote: <i>The Penguin Short History of English Literature</i> (Penguin Bks., 1993), Andrew Sanders: <i>The Short Oxford History of English Literature</i> (O. U. P., 1994), Pat Rogers (ed): <i>An Outline of English Literature</i> (O. U. P., 1992), Robert Bernard: <i>A Short History of English Literature</i> (Blackwell, 1994).</p>
評価方法	<p>授業への出席と前期および後期の筆記試験によるが、レポートの提出を求めることがある。</p>
受講者に対する要望など	<p>文学に興味があり、作品を読むことに時間を惜しまない学生、および大学院に進学を希望する学生は是非受講して戴きたい。</p>

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	年間の講義概要の詳しい説明と文学とは何か、どう読むかについて考えるとともにテキストについてのsurveyをおこなう。
2	第一章 Before the Conquest についての通読と講義。アングロサクソンから中世までを一気に終える予定である。
3	第二章 English Poetry from Chaucer to Donne までを扱う。Chaucer, Gower, Gawain-Poet, Romances などについての通読と講義。
4	第二章の続き。New Way in English Poetry, Wyatt, Surrey, Sidney, Spenser, Shakespeare を含む Elizabethan Poets までを扱う。
5	第三章 English Poetry from Milton to William Blake についての通読と講義。John Milton, Dryden, Alexander Pope, まで。
6	第三章の続き。Oliver Goldsmith, Thomas Gray, Dr Johnson, William Blake, Robert Burns までを扱う。
7	第四章 The Romantic Poets についての詳細な内容を通読し講義する。主要な詩人たちの時代的思想的背景をその詩人たちとともに概観する。
8	第四章の続き。Wordsworth, Coleridge, Lord Byron, P. B. Shelley、そしてロマン派のきら星、詩人 John Keats までを扱う。
9	第五章 English Poetry from Tennyson を通読し、そのポイントを講義する。Robert Browning, Matthew Arnold, Edward Fitzgerald まで。
10	第五章の続き。D. G. Rossetti, Algernon Charles Swinburne, George Meredith、そして人気のあった Thomas Hardy, Walter de la Mare まで。
11	第五章の続き。T. E. Eliot, Gerard Manley Hopkins, W. B. Yeats, W. H. Auden, C. D. Lewis, Dylan Thomas、までを通読する。
12	前期の講義の補充と反省とまとめを行い、併せてテストの要領について説明する。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	後期の授業の説明を行い、第六章 English Drama to Shakespeare を通読し、演劇の土台としての University Wits について講義する。
2	第六章の続き。演劇の形態、Comedy, Tragedy の伝統——ギリシャにおけるドラマの本質、その主な作品の紹介をする。
3	第七章 Shakespeare に入る。イギリスのルネッサンス時代的背景とその特質を説明する。Shakespeare の伝記を知る。
4	第七章の続き。Shakespeare の作品に関する部分を通読するとともに、彼の四大悲劇について主要なポイントを講義する。
5	第八章 English Drama from Shakespeare to Sheridan を通読しながら、その後のイギリスのドラマの様子を Ben Jonson を中心にみる。
6	第八章の続き。その後の演劇の変貌と衰退を時代の流れと併せながらみる。Beaumont と Fletcher, Wycherley, Congreve, John Gay まで。
7	第九章 English Drama from Sheridan を通読する。この章の中心は G. B. Shaw, T. S. Eliot, Noel Coward, John Osborne, Samuel Beckett である。
8	第十章 English Novel to Defoe を通読する。簡単にイギリスの物語から始まる小説の流れを概観する。
9	第十一章 The English Novel from Richardson to Sir Walter Scott を通読していきながら、その時代のイギリス小説の特質を学ぶ。
10	第十一章の続き。Henry Fielding, Laurence Sterne, Jane Austen, Sir Walter Scott までをその主要な作品で解説する。
11	第十二章 The English Novel from Dickens を通読する。Charles Dickens の小説の代表的なものについて論じる。
12	第十二章の続き。Brontë 姉妹、Henry James, H. G. Wells, John Galsworthy, Joseph Conrad, W. S. Maugham, E. M. Forster など。
備考	

科目名	英米文学史 a-2, b-2 英米文学史 2 (旧) アメリカ文学概論 (旧旧)	担当者名	鈴木重吉(前期) 秋山武夫(後期)
-----	--	------	----------------------

前期

講義の目標	主として米文学史について、植民地時代から19世紀後半までの社会及び文学の思潮と、主な文筆家(作家)と作品との関わりについて考察することを目標とする。		
講義概要	植民以前の南部と北部の探検と移住の相違がやがて19世紀後半の南北戦争に繋がる歴史と文学、また独立戦争とその前後の思想と文学、英文学と米文学との関係など、歴史と文学の二つの視点から、広義の米文学の流れを作家と作品に即して考察し度い。英文を読み努めて演習形式を使用し度い。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・Norman H. Pearson; <i>The History of American Literature</i> (英宝社) ・N・ホーゾン『緋文字』鈴木訳(新潮文庫) 	
	参考文献	必要に応じて示す。	
評価方法	出席、平生点、レポート、筆記試験等を総合して評価する。		
受講者に対する要望など	出席と予習を重視する。		

後期

講義の目標	19世紀後半から1940年代までの主要作家の代表作を概説し、その問題点を時代背景をふまえて講義し、アメリカ文学への展望を得てもらおうつもり。		
講義概要	アメリカ文学がヨーロッパ、イギリスの文学から独立して、アメリカ独自の文学を形成していく過程を作品に即して論じていく。資本主義の形成、労使の対立、自然主義、手工業から工場生産、第一次大戦後の「失われた世代」、南北戦争後の南部などを背景として登場する作家について講義をする。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	・ジャック・カポー、寺門他訳『失われた大草原』太陽社	
評価方法	試験、提出物。出席はとらない。		
受講者に対する要望など	講義した作品を数多く読んでほしい。		

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	・履修上のオリエンテーション ・文学史は学問として成立しうるか? ・米文学史上の三つの盛期
2	初期の散文 南部…Capt. John Smithの探険旅行記とPocahontas伝説 北部 (New England) …Pilgrim Fathersの一人William Bradfordの史書
3	同上 New Englandの散文…John Winthrop(初代総督) ・Mary Rowlandson (インディアンに捕われ、Bostonに戻るまでの記録) ・Cotton Mather
4	初期 New Englandの詩/Michael Wigglesworthの宗教詩、Mrs. Anne Bradstreetの家庭を描く詩 Edward Taylorの形而上詩
5	18世紀 ・南部の史書、旅行記 ・New Englandと中部アトランティック沿岸地方の散文 ・Jonathan EdwardsとBenjamin Franklin ・Charles B. Brown
6	・Michel G. J. de Crèvecoeurの <i>Letters from an American Farmer</i> ・(独立戦争前後) Political Writing…… Thomas Paine等
7	19世紀 ・Washington Irving (随筆、歴史、お伽話) ・James Fenimore Cooper (小説) ・William C. Bryant (詩)
8	American Renaissance ・Edgar A. Poe (アメリカ最初の現代詩、短篇小説、推理小説) ・R. W. Emerson (Transcendentalism、哲学、詩) H. D. Thoreau (Non-violent resistance, 生き方の記録及び詩)
9	[・John G. Whittier (詩)] ・Nathaniel Hawthorne
10	・Nathaniel Hawthorne (Poeと並ぶ短篇小説の創始者, American Romance—長篇小説) (Notebooks—創作メモ)
11	・Harman Melville (小説) ・Mark Twain (ユーモア小説—暗い小説、長篇小説)
12	・Emily Dickinson (鋭く底深い短篇詩) ・Walt Whitman (民主主義の詩人— <i>Leaves of Grass</i>)
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	マーク・トゥエーンはアメリカを代表する国民作家であり、ユーモア作家と言われているが、そのユーモアとはいかなるものであったか。『ハックル・ベリイフィンの冒険』、『不思議な少年』等を中心に論じる。
2	ヘンリー・ジェイムズは「師」と呼ばれ、小説技法を練りに練った巨匠であるが、その技法、テーマを語りたい。『ある婦の肖像』を中心に、中短篇をいくつかとりあげたい。
3	エミリー・ディキンソンは生涯独身、後半生25年は家から出ず、自然と瞑想の生活を送り、1775の詩を残していた。「私の人生は二度閉じた、その終りが来る前に」などと歌う詩人です。
4	「大いなる貴婦人」と呼ばれたエディス・ウォートンを語ります。『無垢の時代』など最近ではよく論じられている。哀切をきわめる『イーサン・フロム』、『歓楽の家』のリリー・バートの可憐な姿を伝えたい。
5	現実主義文学を提唱したハウエルズの『サイラス・ラバムの向上』を紹介し、彼の弟子でありながら反発したクレインとノリスの文学を比較する。若い作家が主張した自然主義とはどんな文学だったかを考える。
6	1945年に死去した時、あまりに大きな穴が空いたと追悼されたドライサーの自然主義を述べる。世間知らずの少女が大女優となる『シスター・キャリイ』、深刻な問題作『アメリカの悲劇』をとりあげる。
7	手工業から大工業へ移り変わる時期にとり残されていく人々を意識の流れと性を通して描いたアンダーソンの『ワインズバーグ・オハオ』とネブラスカの雄々しい開拓民や華麗な人々の変容を描くキャザーの小説を論述。
8	第一次大戦後の「ジャズ時代」を時代の化身のように生きたフィッツジェラルドの『偉大なるギャッピイ』を中心に、戦争で深い心の傷を受けた若者たちの幻滅を語る『失われた世代』の作家像を紹介する。
9	「歴史の建築家」と自称したドス・パソスの実験小説『USA』を詳説し彼が捕えた20世紀前半のアメリカを調べてみたい。『三人の兵士』、『マンハッタン乗換駅』にもふれる。
10	『陽はまた昇る』、『武器よさらば』、『誰がために鐘は鳴る』、『老人と海』、『キリマンジャロの雪』など周知の作品を通してヘミングウェイの文学を味わってみたい。
11	徹底して南部を描いたフォークナーを『響きと怒り』、『八月の光』等の長編小説、「黒衣の道化師」、「ウォッソ」、「くまつづらの香り」等にふれつつ、論じる。
12	『怒りのぶどう』によってスタインベックの本質を探ったのち、1960年のはじめに愛犬のブードル「チャーリー」と共にトラック「ロジナンテ」でアメリカ一周をした旅行記『チャーリーとの旅』の特異性を述べたい。
備考	

科目名	英米の小説 a, b 英米の小説 (旧) イギリス文学各論 (旧旧)	担当者名	北澤 滋久
-----	--	------	-------

講義の目標	<p>—モダニズム小説論—</p> <p>破綻の目に見えてきた現代物質文明下に生きることの意義を、時代を先駆けた仕事をなして新時代の風土を築いた作家たちの作品と思想のなかに観てゆきたい。20世紀末のいま、今世紀の主潮は那邊に在ったのか、その片鱗を文学に窺うことによって、受講者の人生の指標にいくばくか役立つところがあればと願っている。</p>	
講義概要	<p>モダニズムとはもともと曖昧広義の呼称であるが、ここでは、栄華を誇った西欧の近代文明によろやく亀裂が生じ、そこより新たなものが生まれ出でようとする過渡期の風潮、と一応定義する。また時期としては1910年代をピークとして、絵画、演劇、文学はいうに及ばず、風俗を含めた文化全域にわたる事柄でもあろうが、本講義では英語圏の文学、主としてイギリスの小説のなかのモダニズムを、その先駆的作家たちより始めて、後期においてはそれを J. ジョイス、D. H. ロレンスに収斂させてやや詳細に分析してゆこうと考えている。</p>	
使用教材	テキスト	<p>テキストは特に定めない。参考文献はその都度紹介するが、担当者執筆の Lawrence と Joyce に関する主要文献のみを、本講義選択の参考までに列記しておく。</p>
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『D・H・ロレンス：その文学と人生』（墨水書房） ・「ロレンス、雪月花」（『獨協大学創立二十周年記念論文集』） ・「ロレンス、再生の構図」（『獨協大学英語研究 創立三十周年記念号』） ・『ジョイスからジョイスへ』（東京堂出版、共著） ・『ジャコモ・ジョイス』（下井草書房、翻訳・註） ・「話法から意識の流れへ」（『獨協大学外国語教育研究 創刊号』）他
評価方法	<p>夏休み直後提出の小論文と後期試験において評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>講義科目であるから講師の論述が主体となるが、受講者の積極的な質問を歓迎して、理解しやすいように極力努めるつもりである。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	はじめに
2	I モダニズム前夜 William Blake のまなざし
3	Edgar Allan Poe の芸術観
4	Edgar Allan Poe の小説
5	II モダニズムの曙1：イギリスにおける芸術至上主義 Walter Pater のまなざし
6	Oscar Wilde の耽美主義
7	Oscar Wilde の小説
8	III モダニズムの土壌 Darwin, Nietzsche, Frazer, Freud の仕事
9	IV モダニズムの曙2：モダニズムを導いた作家たち Henry James, THE TURN OF THE SCREW をめぐって
10	Joseph Conrad, HEART OF DARKNESS をめぐって
11	Virginia Woolf のまなざし
12	前期の総括、質疑応答
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	V James Joyce の文学 DUBLINERS をめぐって
2	A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN をめぐって
3	GIACOMO JOYCE をめぐって
4	ULYSSES をめぐって
5	FINNEGANS WAKE をめぐって
6	VI D. H. Lawrence の文学 SONS AND LOVERS をめぐって
7	THE RAINBOW をめぐって
8	WOMEN IN LOVE をめぐって
9	THE LADYBIRD をめぐって
10	THE MAN WHO DIED をめぐって
11	LADY CHATTERLEY'S LOVETR をめぐって
12	後期の総括、質疑応答
備考	

科目名	英米の詩 a, b 英米の詩 (旧) 英米文学特殊講義 2 (旧旧)	担当者名	原 成吉 (前期) 白鳥正孝 (後期)
-----	--	------	------------------------

前期

講義の目標	まず、詩を楽しむことから始め、アメリカという異文化の鏡をつかって、わたしたちが生きている時代を今までとは別の視点から考える。		
講義概要	カウンター・カルチャの時代、そしてポスト・ベトナム時代の「もう一つのアメリカ現代詩」から始め、19世紀の Emily Dickinson, Walt Whitman から20世紀のモダニスト詩人—— Ezra Pound, T. S. Eliot, William Carlos Williams, Wallace Stevens, H. D., Marianne Moore, e. e. cummings——、そして「ビート派」、「告白派」「フェミニスト」の詩人たちの作品を紹介する。文学史的な知識ではなく、個々の作品を「わたしたちの時代」というコンテキストから論じる。		
使用教材	テキスト	<i>Sixteen Modern American Poets</i> , Edited by Norman Holmes Pearson and Hisao Kanaseki (Eichosha)	
	参考文献	David Perkins, <i>A History of Modernism and After</i> (Vol. I & II)	
評価方法	授業への参加度とレポート (4,000字程度 [ワープロ B5 横書き]) の作品論、または詩人論) で決める。		
受講者に対する要望など			

後期

講義の目標	ブラウニング (R. Browning) の「春の朝」やワーズワス (W. Wordsworth) の「虹」などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身に付けることを目標とする。		
講義概要	初めは、導入として、詩形や易しい詩について講ずる。ついで、現代を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェイクスピアについて講ずる。2 回位 video も鑑賞するつもりである。		
使用教材	テキスト	プリント	
	参考文献	教室でそのつど指示する。	
評価方法	テストを課す。詳細は教室にて指示する。		
受講者に対する要望など	受身でなく自ら参加する気持で臨んでほしい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	アメリカの詩概説——詩の起源（ネイティブ・アメリカンの口承詩）について
2	もう一つのアメリカ現代詩（ロック・ミュージックのリリックにみる1960年代(1)
3	もう一つのアメリカ現代詩（ロック・ミュージックのリリックにみるポスト・ヴェトナムの時代(2)
4	デモクラシーをうたう『草の葉』の詩人 Walt Whitman がみたアメリカのヴィジョン
5	女性詩人の“voice”を聞く Emily Dickinson の私的世界——マイクロコスモスの中にあるマクロコスモス
6	モダニズムの起源を探る（Imagins にみるイメージの詩学） Ezra Pound と東洋
7	詩に描かれた現代人の苦悩 T. S. Eliot の“The Love Song of J. Alfred Prufrock”を読む
8	“here and now”のアメリカ詩学 William Carlos Williams と Wallace Stevens——日常の「再発見」
9	“typography”と“meaning”との関係について e. e. cummings と Marianne Moore の詩
10	“Confessional Poets”と呼ばれる詩人たち Robert Lowell と Sylvia Plath
11	古くて新しい詩の流通手段——ポエトリ・リーディング Allen Ginsberg と Gary Snyder の場合
12	フェミニズムと女性詩人 Adrienne Rich の“Re-Vision”
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「詩形について」 英詩を学ぶ場合には、ある程度詩形について学んでおいた方が理解しやすい。但し、脇役なのであって深入りは禁物。
2	「易しい詩」 1～2連からなる易しい詩を主に「韻律調べ」の観点から読んでいく。
3	「マザーグース」 伝承童謡について学ぶ。メロディーのあるものが多く歌詞の趣が大であるが、中には下手な詩顔負けのものもある。
4	「現代英詩アラカルト」 S. Sasson (1886-1967)、P. Larkin (1913-1985) T. Hughes (1915-), Seamus Heaney (1939-) らの小品を各一篇ずつ読む。
5	「ロマン派の曙」 W. Blake (1757-1827) と R. Burns (1759-1796) らの小品を読む。
6	「ロマン派の詩」Ⅰ W. Wordsworth (1770-1850) の代表的小品を幾つか読む。
7	「ロマン派の詩」Ⅱ S. T. Coleridge (1772-1834), G. G. Byron (1788-1824) の小品を読む。
8	「ロマン派の詩」Ⅲ P. B. Shelley (1792-1822), J. Keats (1795-1821) の小品を読む。
9	「ロマン派の詩」Ⅳ Video 鑑賞。ロマン派の詩人に関するシリーズを2本鑑賞する（各30分）。
10	「古典詩」Ⅰ T. Gray (1716-1771) の代表的な詩“Elegy Written in a Country Churchyard”（1751）を中心に講ずる。
11	「古典詩」Ⅱ J. Milton (1608-1674) 『失樂園』（1667）のさわり、ソネット23について講じた後、video 鑑賞。
12	「古典詩」Ⅲ W. Shakespeare (1564-1616) の詩を Golden Treasury (ed. F. T. Palgrave) から若干取り挙げて講ずる。
備考	

科目名	英米の演劇 a, b 英米の戯曲 (旧) イギリス文学各論 (戯曲) 2 (旧旧)	担当者名	長谷部 加寿子
-----	---	------	---------

講義の目標	シェイクスピアの劇作品を中心に、イギリス・ルネッサンスの演劇風土と思想を考える。更に各時代がシェイクスピアを如何に受容してきたかを考察する。役者、舞台、演出の変容等を探求した後、現代のシェイクスピア劇の上演、特に東京の舞台にも言及する。		
講義概要	16世紀のヨーロッパの精神風土と劇の成立課程を考察した後、シェイクスピア劇の全体像を概観する。更に前期にシェイクスピア劇の歴史劇、喜劇、後期には悲劇、問題劇、ロマンス劇等を具体的に研究した後、現代との結びつきや演出史・批評史等も考察する。		
使用教材	テキスト	長谷部加寿子：「シェイクスピアに於る人間群像」高文堂出版社	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント ・その都度、授業中に言及する。 	
評価方法	年二回の定期試験期間中の筆記試験と、年一回の観劇レポート提出が課せられる。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イギリス・ルネッサンスの時代精神について概説する。エリザベス女王一世を中心とした宮廷人達、外国との関係、特にスペイン無敵艦隊を敗った事の意義などについて述べる。
2	エリザベス朝時代の宇宙観と人間観との関連、秩序と存在するものとの結びつき、天体と人間との関係を考察した後、中世劇（神秘劇、奇蹟劇、道徳劇、仮面劇）とのかかわり方を研究する。
3	テキスト中の別表を中心に、1485年から1623年までの歴史的事実及び思潮、シェイクスピア及び同時代劇作家達の作品を概観する。
4	シェイクスピア及び他の劇作家達の劇作品の分類、執筆上演年代の一覧（プリント配布）、シェイクスピア劇作品を4期に分け、各時代の芸術的展開及び特徴を具体的に考察する。
5	歴史劇全般の概観とテーマの解説、特徴などについて述べる。第1の4部作の中、「ヘンリー6世」1部、2部、3部を具体的なせりふを通じて見ていく。
6	「リチャード3世」について述べる。「リチャード3世」の上演、演出と批評の変容、及び名優達のリチャード3世の演技についても言及する。
7	第2の4部作の中「リチャード2世」「ヘンリー4世」1部、2部を見ていく。詩人王であるリチャード2世や、フォルスタッフについては語る事が多い。
8	「ヘンリー5世」について述べる。2つの4部作に流れる歴史劇の視点を探る。喜劇全般の概観とテーマの解説、特徴などについて述べる。
9	初期の喜劇「間違いの喜劇」「ジャジャ馬ならし」について述べる。2組の双児の兄弟を見間違える事に起因する喜劇的状况、及び内と外との相違などについても考察する。
10	「ヴェローナの二紳士」「恋の骨折り損」「真夏の夜の夢」の演出の変遷についても触れたい。
11	中期の喜劇「ヴェニスの商人」「ウインザーの陽気な女房たち」「むだ騒ぎ」について述べる。中期になると、暗い人物が喜劇に配されるようになり、シャイロックの批評史の変容は各時代の反映となっている。
12	「お気に召すまま」「十二夜」について述べる。変装を伴って複雑でダイナミックな劇展開をする事で、円熟した喜劇の様相を示している事を考察する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	悲劇全般の概観とテーマの解説、特徴などについて述べる。テキスト中の「愛の諸相」を参考に「ロミオとジュリエット」「アントニオとクレオパトラ」について述べる。
2	「ハムレット」について述べる。「ハムレット」解釈の歴史、演出の変遷、実際の舞台、映画などについても述べることになろう。
3	「オセロー」について述べる。イアゴの解釈の変化や名優達のイアゴの演技にも触れる。
4	「マクベス」について述べる。様々な舞台や映画の「マクベス」について触れる。精神分析的症状の好例として研究されているマクベス夫人の夢遊病についても考察する。
5	「リヤ王」について述べる。リヤの苦悩は、小宇宙としての人間が直面する悲劇であり、当時の自然観、人間観を表わすと同時に、何時の時代にも共通する人間の深い怒りと悲しみを映し出している。
6	ローマ悲劇、問題劇、暗い喜劇と呼ばれている作品群について述べる。
7	ロマンス劇全体の概観とテーマの解説、特徴などについて述べる。「ペリクリーズ」について述べる。14年に渡るペリクリーズの放浪は、娘セイザとの再会で俵せに終る。
8	「シンペリン」について述べる。イモウジエンの受ける試練は、外なるものに騙されながらも、ポスツエマスとの愛を貫こうとする彼女の強い意志によって最後には勝つ。
9	「冬物語」について述べる。王レオンティーズの嫉妬が16年という冬の季節をもたらすが、彫像の形をとった王妃の復活と一族再会は、若い世代によって接木され、来るべき春を予告する。
10	「嵐」について述べる。プロスペローの魔法の杖は、様々な不思議を現出する。復讐を乗り越え、娘ミランダの為に彼は、も一度「新世界」へ戻る決意をする。
11	シェイクスピア劇作品全体を振り返り、どのような展開を示してきたのか、又各時代はどのような受容と変遷を経てきているのかを考察する。
12	現代とシェイクスピアを、私の立場から述べる。独自性と普遍性をあわせもつシェイクスピア劇の魅力と柔軟性と強靱さを、具体的な例をあげながら考察する。
備考	

科目名	英米の社会と思想 a, b 英米の社会と思想 (旧) 英米の哲学 (旧旧)	担当者名	萩間 寅男
-----	---	------	-------

講義の目標	<p>宗教改革・科学革命・市民革命・産業革命と近代西欧を精神・物質世界の両面において先導してきたアングロ・サクソン思想の特質を、その起源から歴史的に展望することにより、分ち難く結びついた英米の社会と思想との一層の理解をはかるとともに、そこに潜む古典への憧憬の根底を検討したい。</p>	
講義概要		
使用教材	テキスト	使用せず。ただし、資料をプリントし配布する。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ウイリー『十八世紀の自然思想』みすず書房 ・マッキンタイア『美徳なき時代』みすず書房 ・ブルーム『アメリカン・マインドの終焉』みすず書房 ・吉田健一『英国に就て』ちくま文庫
評価方法	指定した図書についてのレポートを基本とする。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	英米思想と西欧精神
2	西欧精神の源流(1)—ギリシア思想
3	西欧精神の源流(1)—ヘブライ思想
4	先住民とローマ人
5	キリスト教の渡来と普及
6	イギリスのスコラ主義
7	ルネッサンスと宗教改革
8	モアと北方ルネッサンス
9	フランシス・ベーコンと科学革命
10	トマス・ホッブス
11	ジョン・ロック
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ニュートンと王立協会
2	ヒュームとスミス
3	功利主義と産業革命
4	18-9世紀の宗教運動
5	実証主義と進化論
6	唯美主義とブルームズベリ
7	大衆社会と分析哲学
8	トクヴィルと民主主義の逆説
9	制度学派と根本主義
10	プラグマティズム
11	亡命知識人
12	まとめ
備考	

科目名	英米の政治と経済 a, b 英米の政治と経済 (旧) 英米の経済 (旧旧)	担当者名	宮川 淑
-----	---	------	------

講義の目標	<p>科目名は「英米の政治と経済」だが、本講義では、近代化の始まる16世紀から現代までのイギリスの政治と経済が対象となる。</p> <p>アメリカを重点に受講を希望する学生は、佐藤唯行先生の「英米の歴史」をとるとよい。</p>	
講義概要	<p>1、近代化の始期、2、市民革命の時代、3、市民社会、4、産業革命当時の政治と経済、5、労働党政権の時代、6、サッチャー政権以後の順に講義する。</p>	
使用教材	テキスト	<p>特定のテキストは使用せず、資料集を使う。</p>
	参考文献	<p>世界歴史体系『イギリス史』2、3、山川出版社 (1990,1991) 中村英勝『イギリス議会史』有斐閣 (1968) 宮川淑『西洋経済史』法学書院 (1983)</p>
評価方法	<p>前・後期の2度の定期試験に平常の出席状況を加味して評価する。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	今日までのイギリスは、数度の転換期を経ている。最初にその全過程の概略を説明する。
2	第1章 近代化の始期、ジェントルマンの台頭、英国国教会の成立、チューダー朝までの議会などを扱い、中央集権国家体制の成立について。
3	第2週の後半部分を扱う。
4	重商主義について、16、17、18世紀の貿易中心の重金主義、貿易差額主義、産業保護主義の3段階の説明。
5	エンクロウジャーについて、その意義、進展状況、世論の反応等。次週へ継続する。
6	先週からの継続で、エンクロウジャーに対する農民の対応、政府のエンクロウジャー対策について。
7	近代化過程のうち工業部門の説明に入る。具体的にはイギリスの国民産業となる毛織物工業の成立過程と政府の統制政策について説明する。
8	マニュファクチャー（工場制手工業）の特徴と16～17世紀当時のイギリス経済全般について。
9	第2章 市民革命の時代。国家主権をめぐる内乱、前期スチュアート朝と議会。
10	政体論争—混合王制か議会主権かの論争、インディペンデントとレヴェラーズの選挙権論争について。
11	市民革命期の経済問題を扱う。私有財産制の成立、営業の自由の原則成立等。
12	先週からの継続。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第3章 市民社会。トマス・ホッブズ、ジョン・ロックの市民社会論について説明する。
2	アダム・スミスの経済学の解説。
3	イギリス領アメリカ植民地の独立が、本国イギリスにとってもつ政治的・経済的意味を考える。
4	イギリス議会の改革とエドマンド・バークの政治思想について。
5	第4章 産業革命当時の経済と政治。民衆の生活状態、労働者階級の対応等。
6	労働組合の成立、工場法による労働者保護等の説明。
7	政治改革としてのチャーティスト運動、女性参政権要求運動、小選挙区制と政治腐敗防止法の成立等。
8	先週からの継続。
9	第5章 労働党政権の時代。産業国有化と福祉国家政策の展開、イギリス病の分析。
10	第6章 サッチャー政権以後。第一期（1979～83）の説明。
11	サッチャー政権第二期（1983～87）の説明。
12	サッチャー政権第三期（1987～90）および現在のメイジャー政権について。
備考	

科目名	英米の歴史 a, b 英米の歴史 (旧) 英米の歴史 (旧旧)	担当者名	佐藤唯行
-----	---------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>(前期) 多人種・多民族社会アメリカに生きる代表的なエスニック集団の歴史について個別的に勉強します。具体的には黒人、ヒスパニック系、中国系、日系人、インディアン、ユダヤ人などが扱われます。</p> <p>(後期) ユダヤ人と英国社会との最初の出会いから現代に至る英国史の文脈の中で、英国人との共生を目指し続けたユダヤ人の歩みを辿る。彼等ユダヤ人の足跡に光を照射する事により、これまでの英国史研究 (多数派英国人側に視点を置いた英国史研究) の中では、見落とされてきた英国社会の新たな特質を解明する。</p>		
講義概要	<p>前期のテーマは、「多人種・多民族社会アメリカのエスニック・ヒストリー」 後期のテーマは、「ユダヤ人問題の視点からイギリス史を見なおす。」 前期は毎回、文章化されたレジメを配布予定。後期は下記「テキスト」にそって授業を行います。</p>		
使用教材	テキスト	『大英帝国のユダヤ人』 佐藤唯行 (1995年6月刊行予定) 講談社選書 1500円	
	参考文献	『アメリカ社会史の世界』 本田創造編 (1989年) 三省堂 3500円	
評価方法	評価は前後期各1回の筆記試験によって決定する。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストのみ持ち込み可。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	(ちびくろサンボ論争をめぐる)「サンボ」ということばがアメリカ社会の中で引きずってきた意味を明らかにし、人種関係にどのような機能を果たしてきたのかを明らかにする。
2	(日本の大衆文化の中にみられる黒人イメージ)日本人の黒人観の変遷を歴史的に辿る。
3	(黒人奴隷の意識の世界)南部のプランテーションに生きた黒人奴隷達が何を考え、何を願ったのか、彼等の意識の内面をスレイブ・ナラティブをもとに掘り起こす。
4	(差別体制下の黒人奴隷)19世紀末から20世紀前半のアメリカ黒人史上、所謂差別体制下に、黒人解放の道筋を展望した指導者達の思想と活動に迫る。
5	(公民権闘争とブラックナショナリズムの台頭)M・LキングとアルコムXの思想と活動を中心に
6	(黒人・ユダヤ人の関係史)公民権闘争期の南部で明らかとなったユダヤ人と黒人の特殊な関係、「苦くて甘い出会い」といわれる両者の関係史の形成過程を19世紀に遡り歴史的に展望。
7	(合衆国内の反ユダヤ主義)「民主主義の国アメリカ」も反ユダヤ主義とは決して無縁でなかった。ヨーロッパとの比喩の視座から、合衆国における反ユダヤ主義の特色とその形成メカニズムを考察。
8	(ヒスパニック・アメリカンの世界)彼等の歴史と現状をとりわけ、黒人社会とのエスニック・コンフリクトの視点から明らかにする。
9	(中国系アメリカ人)ゴールドラッシュ直後のカリフォルニアにおける中国系移民労働者の導入から、近年の「山の手中国人」の形成過程まで。
10	(日系アメリカ人の歴史Ⅰ)1890年代における移民の本格化から、1920年代のハワイにおける民族の違いを乗り越えた労働者階級の統一実現迄を学ぶ。
11	(日系アメリカ人の歴史Ⅱ)第二次大戦後の日系人の「サクセス・ストーリー」の光と影、1970年代末以後の日米貿易摩擦のきしみの中で高まる反日系人感情について考える。
12	(インディアンと白人の関係史)白人との毛皮交易がインディアン社会にもたらした文化的変容から、今日の保留地インディアンを取りまく状況について概観する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	(儀式殺人告発の神話)キリスト教ヨーロッパ世界最古の儀式殺人告発である1144年のノーリッジで発生した「聖ウイリアムの殉教」を検証し、中世英国ユダヤ人史を研究する意味を確認する。
2	(中世英国のユダヤ人社会)ノルマン征服後、英国に成立したユダヤ人社会の特質を同時代の大陸との比較の中で明らかにする。当時の反ユダヤ主義的筆致の絵画史料も解説する。
3	(ユダヤ人と非ユダヤ人の関係史)中世英国の主要な社会集団である諸侯・騎士、教会、都市とユダヤ人との個別の関係を探る。
4	(ユダヤ人金融の潜在的機能)中世英国ユダヤ人の最大の経済活動である金融業が英国封建王政の基盤を切り崩す機能を果たしてきた事を史料的に解明し、1290年に行なわれたユダヤ人追放の歴史的意義を探る。
5	(英国ユダヤ人史の中間時代)1290年の全面的ユダヤ人追放から1656年に再入国が許される迄の366年間、法的に入国を許されていなかったはずのユダヤ人の足跡を追い、「隠れユダヤ教徒」という特異な存在の姿を解明する。
6	(千年王国思想とユダヤ人再入国)ピューリタン内部のセクト、独立派、第五王国派の中心的思想であった千年王国思想が Cromwell 政権下の1656年に「ユダヤ人再入国」を実現する上で果たした役割を検証する。
7	(17世紀英国のユダヤ人社会)17世紀後半から始まる経済史上の所謂「商業革命」の展開過程の中で、ユダヤ人商業資本が英国の外国貿易全体の中で如何なる位置を占めたのか、また彼等の法的地位の国際比較も行なう。
8	(18世紀英国のユダヤ人社会)上層、中流上層のユダヤ人の間で18世紀後半に顕著に進展した英国人地主貴族社会への同化現象を検討し、当時のヨーロッパで比類の無い開放性を示した近代英国地主貴族社会の特質を解明。
9	(19世紀英国のユダヤ人社会)ドイツ系ユダヤ人移民の大量流入によって18世紀末から19世紀初めにかけて首都ロンドンで深刻化した貧民問題の打開をめざした移民独自の主体的とりくみについて明らかにする。
10	(世紀転換期のユダヤ人社会)1880年代から始まる推定30万人もの貧しい東欧系ユダヤ人移民の英国流入という未曾有の危機の中で発生した移民排斥論、反ユダヤ暴動のメカニズムを解明。
11	(20世紀前半のユダヤ人社会)両大戦間期の英国で反ユダヤ主義を標榜した黒シャツ団などの英国ファシスト勢力との緊張関係、ナチス政権下からの亡命ユダヤ人の受け入れ政策(特にキンダー・トランスポート)を解明。
12	(現代英国のユダヤ人社会)ヨーロッパで三番目に大きなユダヤ人社会に成長した現代英国ユダヤ人社会が抱える今日的諸問題について検討する。
備考	

科目名	英米事情 a, b 英米事情 (旧) 英米事情 (旧旧)	担当者名	E. Carney(前期) J. J. Duggan(後期)
-----	------------------------------------	------	-----------------------------------

前期

講義の目標	This series of lectures aims to offer as much background cultural material to the British and their way of life as is possible in the time provided.		
講義概要	History, religion, geographical and climatic factors, are some of the things that will introduce this course. We will go on to look at the law system, education, the Irish peace initiatives, the character of the individual, humour, sport, and the legacies of history (Empire and the Victorian Period). We shall also check the modern situation of youth, drugs, and unemployment.		
使用教材	テキスト	The very Bloody History of Britain. John Farman. Red Fox(1993)	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ The Very Bloody History of Britain. John Farman. Red Fox(1993) ・ Background to Britain \ Britain today \ HMSO Britain \ Related prints. 	
評価方法	Grading will be in the form of quizzes and a final term test(2). 1st Term test : last class before summer		
受講者に対する要望など			

後期

講義の目標	The purpose of this course is to introduce students to some facets of the culture and society of the United States, and in doing so, to develop a better understanding of the American way of life.		
講義概要	In this course we will look at some of the culture and society of the United States, such as the American family, courtship and marriage, religion, work and work organizations, leisure and recreation, universities and university life, women in American society, the automobile culture, and ethnicity. The format of the course will be lecture (in English) centered around outline handouts of the lecture material. You must be prepared to attend class and take notes.		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	Grade assessment will be based on a final exam.		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introductory lecture to explain procedures and scheduling. A list of books and recommended reading will be given.
2	Geographical coverage of the British Isles. Weather and its related effects on life and character. Plant and animal life...comparisons with Japan.
3	Historical outlines from early Britain to Norman Conquest. Racial mixings and the movements of ethnic groups. Romans, Vikings, Saxons, and the French.
4	The Middle Ages and the beginnings of religious change. The Knight, the gentleman, and the highwayman. Empire and the legacies; fame and notoriety.
5	Education and the legacy of a class culture. The new system and the old in conflict. Success and failure of the comprehensive schools. Snobbery.
6	Language and dialect. The power of Cockney dialect in song and humour. The sustaining of dialect in spite of the mass media influence. Standard English?
7	Humour and the British character. Making all of life's problems a focus for laughter and how this is done. The media's use of humour as a counterbalance.
8	The law and its workings. British law courts and the summons. The use of the jury system. Some comparison with the American system.
9	Religion today. The failure of churches to survive. The success of some religious groups using "Billy Graham" methods. Superstition and modern thought.
10	Daily life, leisure, sport and entertainment. The British on holiday at home and abroad. The hotel system and the take-over power of the syndicates.
11	Youth and the trends in music and the drug culture. The ghettos and the problems of police control. Options for work and school.
12	Final coverage of the modern scene; money, property, decline. Final testing preparation and execution.
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction; Some American characteristics
2	Life in the American family
3	Courtship and marriage
4	Religion in America
5	Work and work organizations
6	America at rest: Leisure and recreation
7	Universities and university life
8	Women in American society
9	The Automobile culture
10	Ethnicity in America
11	Summary
12	Review
備考	

科目名	国際政治論 a-1, b-2 国際政治論 1, 2 (旧) 国際関係論特殊講義 (国際政治論) 2, 3 (旧旧)	担当者名	有賀 貞
-----	---	------	------

講義の目標	国際政治論 a (竹田いさみ担当) とともに、現代の国際関係を理解するための基本的知識と考え方の枠組みを提供する。	
講義概要	I 西洋的国際社会の形成と世界への拡大、II 国際関係の中の戦争と外交、III 経済発展・社会変動と国際政治、IV 現代国際関係の特色について、それぞれ何回かに分けて、講義する。	
使用教材	テキスト	資料集として細谷千博・丸山直起編『国際政治ハンドブック』(有信堂)。
	参考文献	学年のはじめに紹介する。
評価方法	学年はじめまでに決める。おそらく試験 2 回とレポート 1 回、または試験 1 回とレポート 2 回。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	西洋における近代国際社会の形成（より詳しいシラバスは授業の際に配布する）
2	非西洋世界の国際関係
3	西洋国際システムの世界化
4	西洋的国際社会への日本の参入
5	近代国際関係の中の外交
6	近代国際関係の中の戦争
7	国際政治学と国際経済
8	社会変動と国際政治
9	国際機構の形成と発展
10	植民地帝国の解消と新興国の政治
11	社会主義世界の変化と解体
12	世界資本主義時代の国際関係
備 考	

注意) ここに表記されている科目は通年で履修する科目です。
今年度は2コマ開設されており、半年ごとに担当教員が入れかわります。

ここでは、半年分の内容を掲載しています。履修の検討にあたっては、組み合わさるもう一方の教員のシラバスも参照してください。

履修登録の際は、授業時間割表を参照し、下記の科目名で登録してください。

記

対象学生	科 目 名	担当教員名	備 考
新カリ生	国際政治論 a-1	有賀 貞	必ず組み合わせて履修登録して下さい
	国際政治論 b-1	竹田 いさみ	
	国際政治論 a-2	竹田 いさみ	必ず組み合わせて履修登録して下さい
	国際政治論 b-2	有賀 貞	
旧カリ生	国際政治論 1	有賀 貞 (前期) 竹田 いさみ (後期)	
	国際政治論 2	竹田 いさみ (前期) 有賀 貞 (後期)	
旧旧カリ生	国際関係論特殊講義 2	有賀 貞 (前期) 竹田 いさみ (後期)	
	国際関係論特殊講義 3	竹田 いさみ (前期) 有賀 貞 (後期)	

科目名	国際政治論 b-1, a-2 国際政治論 1, 2 (旧) 国際関係論特殊講義 (国際政治論) 2, 3 (旧旧)	担当者名	竹田 いさみ
-----	---	------	--------

講義の目標	<p>本講義では、「冷戦後」の新しい国際関係に注目し、現代の国際関係を分析する道具として、理論・モデル・基本用語の解説が行われます。国際問題を料理にあとえれば、材料（国際問題）をどうやって料理（分析）するかを学ぶことになります。本講義における第1の目標は、国際関係を具体的に見る眼を養うことです。第2の目標は、現実主義、多元主義、グローバリズムと呼ばれる国際政治学の代表的な理論・モデル・アプローチを理解することで、これら料理の方法（分析枠組み）に相当します。</p>	
講義概要	<p>本講義では参考文献、指定資料集、ビデオなどを適宜使用しながら、現代国際関係の特色を国際政治学の分野から理解していきます。「国際関係」の「変化」に着目し、歴史を現代に引き寄せて国際関係を分析することになります。「情報」のフローよりストックを重視し、単に表面的な現象に目をとられているのではなく、その下に潜む「構造的要因」に関心を払うことになります。その際、とりわけ重要とされる視点は政治的発想や政治的利害調整で、政治の役割が強調されます。近代ヨーロッパ社会に原点をもつ国際関係の基本的性格や原則を理解することによって、現代の国際関係を分析する道具を身につけることになります。</p> <p>講義の順番は部分的に変更することがあります。</p>	
使用教材	テキスト	講義用資料集
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・有賀貞他編著『講座国際政治』全5巻（東京大学出版会、1989） ・猪口孝『国際政治経済の構図』（有斐閣、1982） ・衛藤藩吉他『国際関係論』（東京大学出版会、1982） ・川田侃『国際関係の政治経済学』（日本放送出版協会、1980） ・高坂正亮『国際政治：恐怖と希望』（中央公論社、1966） ・P・ピオティ、M・カピ『国際関係論』（彩流社、1993） ・細谷・白井編『国際政治の世界』（有信堂、1993） ・蠟山道雄編『激動期の国際政治を読み解く本』（学陽書房、1992）
評価方法	<p>評価はレポートするか試験にするかは、授業の進み方を検討して決めます。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	①国際関係を見る眼：木・林・森 ②国際関係の世界：戦争と平和（伝統問題）繁栄と貧困（南北問題） 世界経済ネットワーク、開発・環境・生存
2	①国際関係の理論・モデルとは何か：物理学・経済学・政治学・文学（ハレー彗星・ケインズ・キッシンジャー） ②政治とはなにか：有限の世界、無限の欲望（利害の調整）
3	政治過程：権力+正統性=権威 ②人間・政治・権力—グロティウス・ホッブス、カント
4	国際関係：研修作業
5	国際関係：3つのイメージ：現実主義・多元主義・グローバリズム—意味・単位・構造・過程
6	現実主義・パワー論① precursor：トゥキディデス～E.H.カー 2つの世界観：E.H.カー：ユートピアニズム VS リアリズム 勢力均衡論：古典的リアリスト VS ウォルツ流ネオリアリスト
7	現実主義・パワー論② 勢力均衡論：ヨーロッパ古典外交の特色 ウィーン会議：「会議は踊る」「会議はなぜ踊ったのか」 メッテルニヒ、タレーラン、カースルリー
8	現実主義・パワー論③ ビデオ教材「会議は踊る」
9	多元主義・相互依存論—EU（欧州連合）の出現・パワー論の補完・トランスナショナルリズム
10	グローバリズム・従属論—反欧米思想・南の主張・世界システム
11	国際政治と利害調整メカニズム
12	まとめ
備考	

注意) ここに表記されている科目は通年で履修する科目です。
今年度は2コマ開設されており、半年ごとに担当教員が入れかわります。

ここでは、半年分の内容を掲載しています。履修の検討にあたっては、組み合わせるもう一方の教員のシラバスも参照してください。

履修登録の際は、授業時間割表を参照し、下記の科目名で登録してください。

記

対象学生	科 目 名	担当教員名	備 考
新カリ生	国際政治論 a-1	有賀 貞	必ず組み合わせて履修登録して下さい
	国際政治論 b-1	竹田 いさみ	
	国際政治論 a-2	竹田 いさみ	必ず組み合わせて履修登録して下さい
	国際政治論 b-2	有賀 貞	
旧カリ生	国際政治論 1	有賀 貞（前期） 竹田 いさみ（後期）	
	国際政治論 2	竹田 いさみ（前期） 有賀 貞（後期）	
旧旧カリ生	国際関係論特殊講義 2	有賀 貞（前期） 竹田 いさみ（後期）	
	国際関係論特殊講義 3	竹田 いさみ（前期） 有賀 貞（後期）	

科目名	国際関係史 a, b 国際関係史 (旧) 国際関係論特殊講義 (国際関係史) 1 (旧旧)	担当者名	有賀 貞
-----	---	------	------

講義の目標	今年度はアメリカ合衆国の対外関係を中心に、主として20世紀の国際関係史について講義する。アメリカが20世紀の国際関係にどのような影響を及ぼしてきたかの議論が中心になるが、同時にアメリカ国内の経済・社会・政治の変化と国際関係全体の構造の変化についても説明する。		
講義概要	Ⅰアメリカの独立と18世紀の世界Ⅱイギリス優位の世界の中での発展、Ⅲ第一次世界大戦と戦後世河、Ⅳ世界政治の混乱とアメリカの対応、Ⅴ冷戦時代のアメリカ、Ⅵアメリカと冷戦後の世界について講義する。『アメリカ政治外交史教材』は講義の際に参照する。レポートの課題もこの教材に関連するものになる。		
使用教材	テキスト	齋藤眞編『アメリカ政治外交史教材』(東京大学出版会)	
	参考文献	有賀貞『アメリカ政治史』(福村出版)	
評価方法	学年の始まりまでに決めるが、おそらく試験2回、レポート2回によって評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	17・18世紀の西洋世界
2	アメリカの独立と連邦共和国の形成
3	西部への発展とアジアへの関心
4	南北戦争とヨーロッパ諸国
5	工業化するアメリカと移民の流入
6	19世紀末・20世紀初頭の世界とアメリカ
7	第1次大戦の勃発とアメリカの参戦
8	戦後国際秩序の再建とアメリカ
9	大不況の到来と国際政治の混乱
10	第2次大戦の勃発とアメリカの対応
11	太平洋戦争に至る日米の対立
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	戦時のアメリカと戦時外交
2	戦争の終結と冷戦への移行
3	冷戦時代の東アジア
4	「偉大な社会」とベトナム戦争
5	ニクソン＝キッシンジャー外交とカーター外交
6	「新冷戦」から冷戦の終結へ
7	「新世界秩序」と湾岸戦争
8	冷戦終了後のヨーロッパとアジア
9	多民族化・多文化化するアメリカと世界
10	アメリカ資本主義の世界化
11	日米関係の過去と現在
12	まとめ
備考	

科目名	国際開発協力論 a, b 国際開発協力論 (旧) 国際関係論特殊講義 (国際開発協力論) 4 (旧旧)	担当者名	竹田 いさみ
-----	---	------	--------

講義の目標	<p>アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダなど英語圏の国際関係を、国際開発と国際協力という分野から考察していきます。具体的な政策領域は、開発援助 (ODA)、移民・難民問題、地域協力システムなどです。本講義における第1の目標は、先進諸国の国際協力政策や国際貢献を具体的に見る眼を養うことです。第2の目標は、これらの政策課題を材料に欧米諸国の発想・常識・歴史と、日本の発想・常識・歴史を比較検討することによって、国際関係を理解する上で、より客観的な視点を獲得することです。</p>	
講義概要	<p>本講義では指定テキスト、ビデオ、スライドなどを適宜使用しながら、欧米先進国と途上国との関係を、欧米先進国の外交戦略、外交政策、途上国協力政策という局面から分析します。例えば欧米諸国における対外援助は、軍事援助と経済援助の組み合わせで出発したものであり、発想の原点はすぐれて政治・戦略的なものです。一方、日本は敗戦国として出発したため、対外援助の原点はアジア諸国に対する賠償 (償い) であり、欧米諸国とは反対に政治・戦略性を除去したものです。このように、世界のODAの大国・日本の援助は、政策の組み立て方において非政治性を強調したものであり、欧米先進国にみられる政治・戦略的援助とまったく異なる発想と歴史を持つことが理解できます。講義の順番は部分的に変更することがあります。</p>	
使用教材	テキスト	竹田いさみ『移民・難民・援助の政治学』勁草書房
	参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	<p>評価は前期・後期各1回のレポートにするか、それとも試験を実施するかは、授業の進み方を検討して決めます。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の全体像——国際開発と国際協力（序章：1-10頁）
2	ODA ①スライドで見る現場：国際援助競争の最前線「ベトナム」「ハノイに行くならハトヤ」
3	ODA ②援助とは何か：3つの目的、援助政策の概念図（第3章：118-119、145-148、152-158頁）
4	ODA ③研修作業
5	ODA ④縦割りの国際援助：冷戦下の東南アジア援助 ドキュメント：冷戦期のアメリカ・自由主義の旗手（第3章：120-127頁）
6	ODA ⑤縦割りの国際援助：EU（欧州連合）とロメ協定（第4章：173-174頁）
7	ODA ⑥スライドで見る現場：国際援助最前線「南太平洋」——バナナ・パイア・カツオ・マグロの世界——
8	ODA ⑦開発援助の特色、地理的配分、援助地域の階層化（第3章：130-139、149、158-162）
9	ODA ⑧ビデオ：開発援助をめぐる諸問題
10	ODA まとめ
11	地域協力の国際比較① 地域協力政策のモデル：南太平洋 歴史性・地域性・構造的・特殊性（第4章：166-176頁）
12	地域協力の国際比較② ASEAN（東南アジア諸国連合）とARF（ASEAN地域フォーラム）——東南アジア地域の国際圧力団体——
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	地域協力の国際比較③ 分類法：単一目的と多目的、機能、レベル—ARF, ASEAN, APEC, EU, NAFTA
2	地域協力の国際比較④ EU（欧州連合）：マーシャルプランからマーストリヒト
3	国境を越える人々 ① 移民・難民・外国人労働者（第1章：12-14、34-39頁） immigrant/emigrant/refugee/guest worker/illegal stayer
4	国境を越える人々 ② ビデオ教材：EUへ向かう人々
5	国境を越える人々 ③ 移民と難民の相違：難民とは何か（第2章：56-64頁）
6	国境を越える人々 ④ 研修作業
7	国境を越える人々 ⑤ 難問の世界史：ユグノー、東欧、ウガンダ、チモール、インドシナ（第2章：64-82頁）
8	国境を越える人々 ⑥ スライドで見る現場：シドニー郊外のベトナム
9	国境を越える人々 ⑦ ビデオ教材：人口爆発
10	国境を越える人々 ⑧ 受け入れ政策の政治性（第2章：83-112頁）
11	国境を越える人々 ⑨ 受け入れ政策の政治性（第2章：83-112頁）
12	まとめ
備考	

科目名	異文化間コミュニケーション論 a-1, b-1 異文化間コミュニケーション論 1 (旧) コミュニケーション論特殊講義(異文化間コミュニケーション論)1(旧旧)	担当者名	石井 敏
-----	--	------	------

講義の目標	<p>本講義は、国際社会における日本人が日々直面している異文化の人達とのコミュニケーション即ち異文化間コミュニケーションに関する諸問題を多面的に認識し、解決策を学際的に講ずることを目標とする。異文化間コミュニケーション活動においては、当該の外国語の発音・語彙・文法・文字に関する言語的知識と技能に加えて、自分と相手の文化の特性を相互に理解し、相互に適したコミュニケーション行動をすることが不可欠である。そこで、人間・文化・コミュニケーションの相関関係を理論と実際の両面から体系的に明らかにすることを旨とする。</p>	
講義概要	<p>最初に、異文化間コミュニケーション研究・教育の現代的意義を確認し、コミュニケーションと文化の定義、構成要素、両者の相関関係等を考察する。次に、文化コンテキストとの関連で言語メッセージ、非言語メッセージ、自己概念と自己開示、異文化に対するイメージと態度等の問題を扱う。続いて異文化間コミュニケーションの実践的な問題として、対人間関係とコミュニケーション、組織におけるコミュニケーション、説得のためのレトリック、異文化間交渉、カルチャー・ショックと異文化適応等の問題について解説する。最後に、異文化間コミュニケーションと外国語の研究・教育の今後のあり方と課題を提示する。</p>	
使用教材	テキスト	石井敏、岡部朗一、久米昭元『異文化コミュニケーション』有斐閣
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・石井敏他『異文化コミュニケーション・キーワード』有斐閣 ・Klopf, D. & Ishii, S. ; <i>Communicating Effectively Across Cultures</i>, 南雲堂
評価方法	<p>多数の受講者が予想されるので、前期末と後期末の試験の成績による。</p>	
受講者に対する要望など	<p>内容と用語がかなり専門的になるので、教科書の指定の箇所を十分に読み、テーマについて予備知識を得てから授業に出席すること。万一欠席をする場合には、友人の協力を得て、欠けた部分を早目に補っておくこと。</p>	

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	受講上の一般的注意。国際社会における異文化相互理解とそれに必要な異文化間コミュニケーション研究・教育の意義と必要性。外国語学習・教育の位置づけ (テキスト2~13頁)。
2	コミュニケーション研究・教育の動向 (テキスト16~23頁)。コミュニケーションの類型と基本前提 (30~38頁)。
3	コミュニケーションの定義と概念、モデル、過程、構成要素とそれぞれの機能 (テキスト23~30頁)。
4	文明との比較の視点からの文化の定義と概念、構成要素、人間との相関関係 (テキスト40~45頁)。
5	価値の定義と概念、文化の価値前提、世界観の定義と概念、価値と世界観がコミュニケーションに与える影響。コンテキストの定義と概念、文化コンテキストとコミュニケーションの関係 (テキスト45~59頁)。
6	異文化間コミュニケーションの定義と概念、特に「国際」、「異人種」、「異民族」等の用語との比較及び区別 (テキスト62~72頁)。
7	異文化間コミュニケーション研究・教育の基本的性格、動向及び視点、主な領域 (テキスト72~80頁)。
8	メッセージの定義と概念、コミュニケーションの構成要素としてのメッセージの機能。言語メッセージの特徴、意味の問題、言語と文化の関係、サピア・ウオーフの仮説と言語決定論 (テキスト82~91頁)。
9	コミュニケーション活動における非言語メッセージの重要性、非言語メッセージの定義と概念。非言語メッセージの普遍性と文化的特性、主な分類法と種類 (テキスト91~94頁)。
10	文化的コンテキストにおける身体メッセージ、音声メッセージ、物品メッセージ。非言語メッセージとしての空間と時間の認識及び使い方 (テキスト95~100頁)。
11	コミュニケーション活動のレベル上の分類。個人内コミュニケーションの定義と概念、モデル、構成要素と機能。個人内コミュニケーションにおける自己と自己概念、自己開示の問題 (テキスト102~111頁)。
12	異文化間コミュニケーションにおける知覚・認知・意味付与。ステレオタイプ・イメージと偏見、自民族優越ないし中心主義と文化相対主義 (テキスト112~120頁)。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	対人関係においてコミュニケーションが果たす役割。対人関係の定義と概念、モデルと構成要素。対人関係の段階的变化とコミュニケーションの関係 (テキスト122~132頁)。
2	小集団の構造と機能、文化コンテキストにおける小集団内部の対人関係。日本的対人関係とコミュニケーションの特徴、異文化間コミュニケーション上の問題 (テキスト133~140頁)。
3	組織と組織コミュニケーションの定義及び概念。文化コンテキストにおける組織コミュニケーション、モチベーション、集団の規範力、結合力と忠誠心 (テキスト142~148頁)。
4	文化コンテキストにおける組織内コミュニケーションと組織間コミュニケーション。組織におけるリーダーシップと意思決定の文化的特性 (テキスト148~162頁)。
5	レトリックの定義と概念、モデルと構成要素。説得の定義と概念、文化コンテキストにおける説得の特徴。デジタル型レトリックとアナログ型レトリック (テキスト164~172頁)。
6	文化コンテキストにおける話し手中心のレトリックと聞き手中心のレトリック。異文化間レトリックにおけるエトス、ロゴス、そしてパトスの機能上の特徴 (テキスト173~183頁)。
7	国際会議における異文化間コミュニケーションと日本型コミュニケーションの問題。外交と国際ビジネス交渉における異文化間コミュニケーションに関する諸問題 (テキスト186~206頁)。
8	カルチャー・ショックの定義と概念、メカニズムと心理的及び生理的兆候 (テキスト208~212頁)。カルチャー・ショックの段階的变化と異文化適応の問題 (224~225頁)。
9	海外在留日本人のカルチャー・ショックと自文化復帰ショックの心理的及び生理的特徴。在日外国人のカルチャー・ショックと日本人側の対応上の問題 (テキスト212~224頁)。
10	異文化間コミュニケーションにおけるマス・メディアの役割、文化の伝播、イメージ形成の問題 (テキスト230~249)。
11	異文化相互理解と異文化コミュニケーション教育の重要性。教育と訓練の目標と認知・情意・行動の3局面。これからの外国語学習・教育と国際ないし異文化間交流のあり方 (テキスト252~278頁)。
12	第1回から前回迄の講義の総復習とまとめ。異文化間コミュニケーション研究・教育の今後の課題。
備考	

科目名	異文化間コミュニケーション論 a-2, b-2 異文化間コミュニケーション論 2 (旧) コミュニケーション論特殊講義 (異文化間コミュニケーション論) 4 (旧)	担当者名	町田 喜義
-----	--	------	-------

講義の目標	異文化間コミュニケーション・プロセスに関わる複雑な要因の連鎖を理解し、自文化（あるいは自己）と異文化（あるいは他者）を客観的・相対的に分析し、説明できる能力を養い、各自のコミュニケーション行動の客観的指標の確立を図る。		
講義概要	本コースでは、新カリキュラム（1994年度入学生）の「異文化間コミュニケーション論（a・b）」、旧カリキュラム（1993年度入学生）の「コミュニケーション論特殊講義（異文化間コミュニケーション論）」、そして旧カリキュラム（1992年度以前入学生）の「コミュニケーション論特殊講義」の履修生が同時履修する。そこで今年度はカリキュラムの改正の骨子に則り、内容を前期・後期の2本立てにしたい。即ち、前期は『異文化間コミュニケーション論入門』とし、1960年代以降の異文化間コミュニケーション研究をマクロに考察する。主として、文化とコミュニケーション—そこから派生する様々な概念とその連鎖を取り上げ、後期は『異文化間コミュニケーション論特殊講義』とし、非言語コミュニケーションに焦点をあてる。		
使用教材	テキスト	印刷物、ビデオ、その他を使用	
	参考文献	開講時に別紙配布する	
評価方法	試験（前期）：20% グループ・リサーチ・ペーパー（前期）：30% グループ・リサーチ・プレゼンテーション（後期）：20% グループ・リサーチ・ペーパー（後期）：30%		
受講者に対する要望など	☆遅刻は認めない（担当者の入室と同時にドアの鍵をかける）。 ☆受講生数によって後期の計画を変更することがある。 ☆グループ活動には各自の責任と義務が要求される。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	プロローグ：担当者自己紹介、講義概要の説明（シラバス参照） 討議：「異文化間コミュニケーション」とは何かを考える＝受講生の「異文化」体験の発表など。
2	グループ討議の為の班編成、および討議（トピックはヒ・ミ・ツ?）
3	「文化」、「異文化」、「コミュニケーション」の概念
4	ビデオ映画：'Gung Ho'
5	討議：日・米文化のコミュニケーション・ギャップについて
6	異文化間コミュニケーションの基礎概念
7	対人コミュニケーション
8	組織コミュニケーション
9	異文化理解教育：カナダの事例
10	言語と非言語(1)：ゲーム?、および討議
11	言語情報と意味：ゲーム?、および討議
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	コミュニケーション能力：Cross-Culturally Communicative とは？
2	言語と非言語(2)：関連性の理解
3	非言語コミュニケーションの概念
4	動作学
5	空間・時間学
6	準言語
7	接触学
8	グループ・リサーチ・プレゼンテーション
9	グループ・リサーチ・プレゼンテーション
10	グループ・リサーチ・プレゼンテーション
11	グループ・リサーチ・プレゼンテーション
12	エピローグ・今後のコミュニケーション行動について
備考	

科目名	マス・コミュニケーション論 a, b マス・コミュニケーション論 (旧) コミュニケーション論特殊講義(マス・コミュニケーション論)3(旧旧)	担当者名	佐々木 輝 美
-----	---	------	---------

講義の目標	マス・コミュニケーションに関する基本用語、概念などを説明することができ、且つ、これらの用語を使って具体的なマス・コミュニケーション現象を分析できるようになる事を目標とする。		
講義概要	本講義への導入として、先ずコミュニケーションの基礎について説明する。次の数週間で、マス・コミュニケーションの効果およびモデルについて解説し、マス・コミュニケーションの全体像を捉えてもらう。その後、前期の後半はマスコミと教育の問題を、こして後期は、マス・コミュニケーションの影響研究を中心に講義を行う予定。影響研究については、特に「テレビ暴力の視聴者への影響」について時間をかける予定。		
使用教材	テキスト	毎回プリントを配布する予定	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・岡崎篤郎他編著 1992 『マス・コミュニケーション効果研究の展開』 北樹出版 ・H. J.アイゼンク他著 1982 岩脇三良訳 『性 暴力 メディア』 新曜社 ・山根常男他編 1977 『テキストブック社会学(6)―マスコミュニケーション―』 有斐閣ブックス 	
評価方法	定期試験、レポート又は発表、平常点の総合評価を行う。		
受講者に対する要望など	具体的なマス・コミュニケーション状況を分析する力を養うために、授業ではグループ発表やディスカッションも行い、学生諸君の授業参加を重視する。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	マス・コミュニケーションとは
2	コミュニケーションについての基礎知識① —プロセスの概念について—
3	コミュニケーションについての基礎知識② —意味はどこに存在するか?—
4	コミュニケーションについての基礎知識③ —メディア接触について—
5	マス・コミュニケーションのモデルについて① —モデルの長所と短所—
6	マス・コミュニケーションのモデルについて② —マス・コミュニケーションの要因—
7	ビデオ視聴&解説 (レポート課題発表) (レポートはB5サイズの400字詰め原稿用紙×3枚以内、又はワープロでB5サイズの内紙(40字×30行)×1枚にまとめる。)
8	マスコミ効果の概念について① —効果とは—
9	マスコミ効果の概念について② —順機能と逆機能— (レポート提出締切り)
10	マス・コミュニケーションと教育①
11	マス・コミュニケーションと教育②
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	マスコミの影響研究について① —弾丸パラダイム—
2	マスコミの影響研究について② —限定効果パラダイムから適度効果パラダイムへ—
3	マスコミの影響研究について③ —強力効果パラダイム—
4	テレビ暴力研究について① —カタルシス理論—
5	テレビ暴力研究について② —観察学習理論—
6	テレビ暴力研究について③ —脱感作理論—
7	テレビ暴力研究について④ —教化理論—
8	4理論のまとめ —番組のタイプとの関係—
9	ビデオ視聴&解説 (レポート課題発表)
10	グループ発表①
11	グループ発表② (レポートはB5サイズの400字詰め原稿用紙×3枚以内、又はワープロでB5サイズの内紙(40字×30行)×1枚にまとめる。)
12	まとめ
備考	

科目名	スピーチ・コミュニケーション論a, b スピーチ・コミュニケーション論(旧) コミュニケーション論特殊講義(スピーチ・コミュニケーション論)2(旧旧)	担当者名	石井 敏
-----	---	------	------

講義の目標	<p>本講義は、異文化の人達との英語によるコミュニケーションを効果的なものにすることを目標とする。目標を達成するためには、英語の発音・語彙・文法という言語的要素の特徴を理解し、英語会話を学習するだけでは、極めて不十分である。日本人の立場に立ち、欧米型レトリック理論に基づいた英語スピーチ・コミュニケーションの理論を理解し、実践的訓練をすることが不可欠である。本講義は、そのようなコミュニケーション活動を実際に展開することのできる人材の育成を目指す。</p>	
講義概要	<p>英語による効果的なコミュニケーション活動を実際に展開するためには、長い伝統を持つ欧米のレトリック理論に基づくスピーチ・コミュニケーションの理論と実践的スキルを学習することが大切である。そこで本講義では、最初にスピーチ・コミュニケーション研究の意義、主な研究領域、レトリック理論の歴史的背景等を解説する。次に、英語スピーチ・コミュニケーションのレベル、目的と形式による分類等について説明する。続いて、スピーチ・コミュニケーションの代表的な形式であるオーラル・インタープリテーション、ディスカッション、スピーチ、そしてディベートの理論と実践を扱う。講義の多くは英語で行なわれる。</p>	
使用教材	テキスト	Klopf, D. & Ishii, S.; <i>Effective Oral Communication</i> , 英宝社。その他コピー。
	参考文献	・橋本満弘、石井敏編『英語コミュニケーションの理論と実際』桐原書店。
評価方法	<p>評価は、出席状況及び授業活動への参加状況、発表活動と提出物、後期末の筆記試験の成績等による。授業回数数の3分の1以上欠席した者は不合格となる。</p>	
受講者に対する要望など	<p>受講者は、必ず予習及び準備をしてから出席をし、授業活動や発表活動に積極的に参加すること。課題提出や発表活動が遅れた場合には、理由を明らかにすること。</p>	

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	スピーチ・コミュニケーションの主要研究領域の紹介（コピー配布）と現代日本社会における研究の意義についての解説（教科書3～12頁）。
2	欧米のスピーチ・コミュニケーション研究を理論的に体系化した古代ギリシャと古代ローマのレトリック理論の解説（コピー配布）。
3	スピーチ・コミュニケーションの一般概念、展開過程及び主要構成要素の機能上の特徴、構成要素間の相関関係等についての考察（教科書12～22頁）。
4	スピーチ・コミュニケーションのレベルと形式上の分類、各形式の概念と主な目的及び特徴についての解説（教科書22～35頁）。
5	オーラル・インタープリテーションの概念と展開過程の主な特徴、発表用作品の分類と選択に関する解説（教科書104～111頁）。
6	オーラル・インタープリテーションにおける作品の分析と解釈、発表のための準備練習に関する注意（教科書111～117頁）。
7	オーラル・インタープリテーションにおける作品解釈と感情移入、音声及び身体メッセージの機能と活用についての説明（教科書117～128頁）。
8	オーラル・インタープリテーションの発表と評価（その1）。
9	オーラル・インタープリテーションの発表と評価（その2）。
10	ディスカッションの概念と形式上の分類、リーダーの役割、問題の主な特徴と問題設定上の留意点に関する解説（教科書40～46頁）。
11	ディスカッションにおける問題の種類と設定方法、ダイバートの論題との相違、問題解決の方法と展開過程に関する考察（教科書46～54頁）。
12	ディスカッションの展開練習、展開記録の作成及び提出。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	スピーチ（public speaking）の概念と特徴（教科書55～56頁）、題材の選択と分析、参考資料の活用法等に関する解説（教科書63～68頁）。
2	スピーチの構成方法、序論・本論・結論の各目的と主な特徴、論旨の展開方法の分類等に関する考察（教科書68～76頁）。
3	スピーチの発表用アウトラインの作成方法、発表の形式上の分類と主な特徴等に関する解説（教科書76～82頁、コピー配布）。
4	スピーチの発表と評価、アウトラインの準備及び提出（その1）。
5	スピーチの発表と評価、アウトラインの準備及び提出（その2）。
6	ダイバートの概念と主な特徴、形式上の分類、ディスカッションとの目的及び展開上の相違等に関する解説（教科書83～86頁）。
7	ダイバートの論題の種類と特徴、論題の設定方法（教科書86～87頁）、参考資料の調べ方と記録方法等に関する解説（教科書92～93頁）。
8	ダイバートの三段論証の方法、各段階の機能及び特徴等に関する思考法上の考察（教科書93～95頁）。
9	ダイバートにおける反論方法、スピーチの種類と主な特徴、ダイバートの展開方法等に関する解説（教科書97～103頁）。
10	ダイバートの展開練習、スピーチの発表と評価（その1）。
11	ダイバートの展開練習、スピーチの発表と評価（その2）。
12	1学年間の全講義の総復習とまとめ。
備考	

科目名	翻訳Ⅱ(旧) 英作文(翻訳Ⅱ)19(旧旧)	担当者名	林 節 雄
-----	--------------------------	------	-------

講義の目標	翻訳Ⅰ－２(英作文18)(林)を見よ。	
講義概要	参考文献の最初にあげた２つが論じているいくつかのトピックの内容を紹介し、翻訳経験者としての私の考えを述べる。実習の材料には「翻訳Ⅰ－２」と同じく <i>Time, Newsweek</i> , 日本文広告等を主に使用するが比較的むずかしいものを選ぶ。	
使用教材	テキスト	特に使用せず、講義ノートによる。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・中村保男『現代翻訳考』(1992) ジャパンタイムズ ・中村保男『翻訳の技術』(1989) 中公新書 ・中野道雄『翻訳を考える』(1994) 三省堂
評価方法	実習のたびに提出する各自の翻訳文の添削結果を総合して評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「翻訳家への道」というトピックについて話し、手始めにごく軽い原文（英語・日本語）の翻訳実習を行う。
2	「翻訳家への道」（続）について話し、実習。
3	「翻訳家への道」（続）についてと、実習。
4	「翻訳とはなにか」について話し、実習。
5	「翻訳とはなにか」（続）についてと、実習。
6	「翻訳とはなにか」（続）についてと、実習。
7	「超訳は翻訳か」について話し、実習。
8	「超訳は翻訳か」（続）についてと、実習。
9	「超訳は翻訳か」（続）についてと、実習。
10	「誤訳だらけの本」について話し、実習。
11	「誤訳だらけの本」（続）についてと、実習。
12	「誤訳だらけの本（続）についてと、実習。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「原文修正は許されるか」について話し、実習。
2	「原文修正は許されるか」（続）についてと、実習。
3	「原文修正は許されるか」（続）についてと、実習。
4	「熟した自然な訳文」について話し、実習。
5	「熟した自然な訳文」（続）について話し、実習。
6	「熟した自然な訳文」（続）についてと、実習。
7	英文記事と日本文広告の翻訳実習。
8	実習。
9	実習。
10	実習。
11	実習。
12	実習。
備考	

科目名	通訳Ⅱ（旧） 英会話（Highly Advanced：通訳）9（旧旧）	担当者名	鍋倉健悦
-----	--	------	------

講義の目標	日常会話の英語ではなく、国際会議、スピーチ、ニュース等で使われる英語を理解し、それを素早く的確な日本語で表現できるようになる事を目標とする。		
講義概要	通訳は日常会話ではなく、高度な内容の話を別の言語に置き換えていく作業である。先ず如何にしたらそれが出来るようになるかを、基礎的な方法から訓練していく。そこで、シャドウイング、サイト・トランスレーション、音読サイトラ等の練習をしながら、言語の置き換えがいかなるプロセスで行なわれるのかを体験として学習していく。		
使用教材	テキスト	テキストは使用せず、実際の国際会議、著名人のスピーチ、あるいはニュース等のテープを使用する。	
	参考文献	英語の通訳（サイマル出版）。英語メディアを使いこなす（講談社）。だから英語は面白い（サイマル出版）	
評価方法	平常の授業で決定する。		
受講者に対する要望など	<p>かならず十分の予習が出来る学生。英会話よりも英語で読むことの方に興味を持つ学生。</p> <p>また英語そのものよりも、世の中の出来事に関心を持つ学生。</p> <p>とにかく知的好奇心の強い学生を求む。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	英語で、国際政治、経済、社会問題等のテーマのテープを聴きながら通訳を試み、通訳とは何かを体験してみる。
2	英語で、外国人の国際会議通訳者による通訳訓練法の話聴き、日本語で要点をまとめる。
3	通訳の勉強法・訓練法を、デモンストレーションで示しながら講義。
4	英語による対談（内容未定）のテープを使って、シャドウイングの練習。
5	同内容を使ってサイト・トランスレーションの練習による、ロジカル・アナリシスの訓練。
6	同内容を使って、音読サイトラによる、リテンションの訓練。
7	ワン・センテンスずつの通訳練習。
8	ノート・テイキング（通訳メモ）の取り方の講義。
9	英語によるスピーチのテープを使い、ノート・テイキングの実習。
10	経済問題をトピックに取り上げ、逐次通訳の実習。（実際の国際会議で収録されたテープを使用）
11	同上
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国際政治をトピックに取り上げ、逐次通訳の練習。（実際の国際会議で収録されたテープを使用）
2	同上
3	同上
4	同上
5	グローバルな問題、または社会問題をトピックに取り上げ、逐次と同時通訳の練習。（著名人の行ったスピーチの生テープを使用）
6	同上
7	同上
8	同上
9	英語によるニュースを使い、放送通訳の練習。（FEN, CNN のニュースを利用する）
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

科目名	ビジネス英語Ⅱ-1 (旧) 商業英語Ⅱ-1 (旧旧)	担当者名	杉山晴信
-----	-------------------------------	------	------

講義の目標	<p>日本商工会議所主催の商業英語検定試験A・Bクラスの実務部門に合格できるレベルに目標を設定して、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。商業英語検定試験の受験対策にのみ終始せず、貿易取引の全体にわたって満遍なく講義するつもりですので、貿易や国際物流に興味のある人、貿易商社への就職を希望する人、通関士国家試験を目指す人などに極めて有益な情報を提供できるものと自負しています。</p>		
講義概要	<p>前期は貿易取引の流れを、主に輸出者の視点から、時系列的に6つのステージに区分してマクロ的に鳥瞰します。後期はミクロ的に、貿易形態、市場調査と信用調査、オファー、一般取引条件、インボイス、船荷証券、海上保険、信用状といった専門事項 (technicalities) について講義します。本講義で使用するテキストは英文ですが、履修者はあらかじめ所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、講義はテキストの内容を補助プリントを用いて敷衍する形で行います。また、教師側からの一方的な情報伝達に偏することのないよう配慮し、履修者にも頻繁に発言や説明を求めるつもりですので、積極的な授業参加を強く要望いたします。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・栗林定次郎・岩根典夫『英文貿易商務』四訂版 (同文館、1992) ・配布プリント 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・石田貞夫『貿易の実務』(日本経済新聞社、1965) ・小林甫『現代貿易商務論』(泉文堂、1985) ・藤田栄一『貿易取引の実務』(勁草書房、1986) ・神田善弘『実践貿易実務』(JETRO、1988) ・桐谷芳和『貿易取引と信用状』(経済法令研究会、1987) ・杉若雄次『貿易取引と貿易金融』(経済法令研究会、1986) その他、随時紹介します。 	
評価方法	<p>出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、前期と後期の定期試験の結果を加味して決定します。</p>		
受講者に対する要望など	<p>コンスタントな出席と十分な予習・復習を強く要望します。特に、就職活動に時間をとられる4年生は注意して下さい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では、1年間の講義計画を説明するとともに、貿易という営みが国際社会に果たす役割について考えます。(テキスト：p.p.3～7)
2	第2回目の授業では、貿易実務の遂行手順を時系列的に概観し、貿易マーケティングの段階について講義します。(配布プリントを使用)
3	第3回目の授業では、取引関係創設の段階のうち、取引先の選定、取引の申込み、信用照会までを取り上げて講義します。(テキスト：p.p.8～16)
4	第4回目の授業では、貿易取引の成約段階のうち、一般取引条件で取り決めるべき諸条項を詳細に検討します。(テキスト：p.p.27～35)
5	第5回目の授業では、貿易取引の成約段階のうち、オファーから受注にいたるまでの過程を講義します。(テキスト：p.p.27～35)
6	第6回目の授業では、貿易取引の履行段階のうち、約定品の調達から船積の手配までの過程を講義します。(テキスト：p.p.35～43)
7	第7回目の授業では、貿易取引の履行段階のうち、為替の予約、海上保険の付保、輸出通関までを取り上げて講義します。(テキスト：p.p.43～53)
8	第8回目の授業では、貿易決済の段階のうち、船積み書類の整備から荷為替手形の取組までの過程を講義します。(テキスト：p.p.53～62)
9	第9回目の授業では、貿易決済の段階における各種の決済方法の特色を考察し、さらに為替リスクの回避方法を検討します。(配布プリント使用)
10	第10回目の授業では、貿易クレームおよびクレーム調整の段階につき、特に国際商事紛争の解決手段をテーマに講義します。(配布プリント使用)
11	第11回目の授業では、第10回目の授業までに学んできた貿易実務の遂行手順を輸入者の視点からとらえ直して復習します。(テキスト：p.p.63～91)
12	第12回目の授業では、第11回目の授業に引き続き、貿易実務の遂行手順を輸入者の視点からとらえ直して復習します。(テキスト：p.p.92～118)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では、種々の貿易形態について講義し、とりわけ直接貿易と間接貿易の長所と短所を比較検討します。(テキスト：p.p.119～124)
2	第2回目の授業では、市場調査と信用調査について講義し、市場調査項目、商業興信所、信用照会事項などを学びます。(テキスト：p.p.124～128)
3	第3回目の授業では、オファーとアクセプタンスについて講義し、特にオファーの法的性格と種類を詳しく学習します。(テキスト：p.p.128～133)
4	第4回目の授業では、一般取引条件の中の価格条件について講義し、各々の条件における当事者の危険負担等を学びます。(テキスト：p.p.139～145)
5	第5回目の授業では、一般取引条件の中の決済条件について講義し、両当事者からみた各決済方法の有利・不利を検討します。(テキスト：p.p.145～153)
6	第6回目の授業では、一般取引条件の中の品質条件、数量条件および船積条件について、その各々の構成内容を講義します。(テキスト：p.p.145～153)
7	第7回目の授業では、インボイスについて講義し、各種のインボイスの内容と目的を学びます。(テキスト：p.p.168～173)
8	第8回目の授業では、船荷証券について講義し、船荷証券の定義、法的性質、記載事項、種類などを学びます。(テキスト：p.p.173～181)
9	第9回目の授業では、海上保険について講義し、特に各保険条件の填補範囲および免責事項を学習します。(テキスト：p.p.181～190)
10	第10回目の授業では、信用状について講義し、特に信用状の意義、当事者、分類と種類などを学びます。(テキスト：p.p.190～203)
11	第11回目の授業では、第10回目の授業に引き続いて信用状について講義し、信用状の形式および信用状統一規則を学びます。(テキスト：p.p.203～巻末)
12	第12回目の授業では、後期の授業を総復習するとともに、疑問点や不明な点につき質疑応答を行う予定です。
備考	

科目名	ビジネス英語Ⅱ-2 (旧) 商業英語Ⅱ-2 (旧旧)	担当者名	横井正利
-----	-------------------------------	------	------

講義の目標	貿易に関する専門用語とその種類、また貿易の流れを理解する。	
講義概要	外国貿易に関する往復英語通信と、実務の概要について解説し、この両方面から、貿易に関する一般的、基礎的な知識・理解の習得をはかること。	
使用教材	テキスト	『英文貿易商務』
	参考文献	『貿易の実務』日経文庫
評価方法	前期のレポート、及び後期の試験によって決める。出席を重視する。	
受講者に対する要望など	履習者は、商業英語Ⅰをすでに履習した者に限る。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では、海外取引の直接貿易と間接貿易について説明する。(P119~124)
2	第2回目の授業では、市場調査と信用調査について説明する。(P124~127)
3	第3回目の授業では、売申込みとその承諾について、及び売申込みの種類について説明する。(P128~133)
4	第4回目の授業では、取引条件とインコタームズ(FOBの種類やCIFの種類など)について説明する(P139~144)
5	第5回目の授業では、4回目の授業の続きを説明する。
6	第6回目の授業では、5回目の授業の続きを説明する。
7	第7回目の授業では、支払い条件について説明する。(P145~147)
8	第8回目の授業では、荷為替手形、及び為替手形について説明する。(P147~151)
9	第9回目の授業では、品質条件について説明する。(P153~156)
10	第10回目の授業では、数量条件について説明する。(P156~159)
11	第11回目の授業では、船積条件について説明する。(P159~163)
12	第12回目の授業では、前期のまとめをし、レポートの提出について発表する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では、送り状について説明する。(P168~171)
2	第2回目の授業では、原産地証明書、及びCredit Notes, Debit Notesについて説明する。(P171~173)
3	第3回目の授業では、船荷証券とその種類について説明する。(P173~181)
4	第4回目の授業では、3回目のつづきを説明する。(Order and Straight B/L)
5	第5回目の授業では、海上保険(全損・共同海損・単独海損など)について説明する。(P181~189)
6	第6回目の授業では、5回目の授業のつづきを説明する。
7	第7回目の授業では、信用状・保障状などについて説明する。(P190~192)
8	第8回目の授業では、信用状の種類(取引不能/可能・確認/無確認など)について説明する。(P192~196)
9	第9回目の授業では、商業信用状の流木について説明する。(P198~201)
10	第10回目の授業では、保証状・保障状について説明する。
11	第11回目の授業では、7~10回目のまとめをする。
12	第12回目の授業では、テストをする。
備考	

科目名	時事英語Ⅱ-1 (旧) 時事英語Ⅱ-1 (旧旧)	担当者名	新井 妥門
-----	-----------------------------	------	-------

講義の目標	テレビ・ラジオから録音したニュース等を教材として使い、ディクテーションすることにより音声面のみならず文法的なポイントにもふれ時事英語力の向上を目的とする。	
講義概要	LL 教室を使用して学生中心のディクテーションをする。予習により聞き取りづらい部分を取り上げ、音のみならず語法や文の構造にも注意してその内容を把握していくことにポイントを置く。	
使用教材	テキスト	なし 60分テープ
	参考文献	特になし。
評価方法	定期試験、出席状況	
受講者に対する要望など	例文の多い辞書を持参すること。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	教材のレコーディング
3	ディクテーション 1
4	ディクテーション 2
5	ディクテーション 3
6	ディクテーション 4
7	教材のレコーディング
8	ディクテーション 5
9	ディクテーション 6
10	ディクテーション 7
11	ディクテーション 8
12	テスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	教材のレコーディング
2	ディクテーション 9
3	ディクテーション 10
4	ディクテーション 11
5	ディクテーション 12
6	教材のレコーディング
7	ディクテーション 13
8	ディクテーション 14
9	ディクテーション 15
10	ディクテーション 16
11	まとめ
12	テスト
備考	

科目名	時事英語Ⅱ-2 (旧) 時事英語Ⅱ-2 (旧旧)	担当者名	長谷川 倫子
-----	-----------------------------	------	--------

講義の目標	<p>マスメディアの内容を正しく把握し、その文化的な背景にまでさかのぼり理解し、クリティカルな評価を行ない、それに対する自分の考えも表現出来るようになる。</p>	
講義概要	<p>ここでは、CBS 60 MIN. NEWS, CNN等の視聴覚教材と、プリント教材を併用し、授業を進めて行きます。情報の国際化、グローバル化が一段と進み、TV 英語ニュースは私達の日常生活にもリアルタイムで入ってくるのが現状ですが、ニュースを速く、正確に目と耳から理解出来ることを目指したいと思います。発表や討論の機会では、ニュースの背景まで理解し、それに対する意見も交換出来るよう授業を行ないます。</p>	
使用教材	テキスト	プリント
	参考文献	TIME, Newsweek, Japan Times, CBS, 60 MIN. NEWS, CNN等アカデミックライティングマニュアル (オリジナル・プリント)
評価方法	<p>前期—ニュースサマリーのレポート。 後期—各自が選んだテーマで英文のペーパー。 出席と授業への積極的参加も評価に加えます。</p>	
受講者に対する要望など	<p>第1回目の授業に出席しない者の受講を認めない。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業内容・すすめ方の解説
2	1994年1年間のCBS 60 MIN. NEWSの紹介とトピックの選択
3	最新の時事問題を取りあげ討論。
4	同上
5	同上
6	学生が各自選択したCBS 60 MIN. NEWSのトピックの解説と討論。
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の課題であるニュースサマリーの解説と討論
2	同上
3	同上
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	最新の時事問題を取りあげ討論
9	同上
10	英文レポートの書き方—アカデミックライティングとは？
11	同上
12	授業のまとめ
備考	

科目名	時事英語Ⅱ-3 (旧) 時事英語Ⅱ-3 (旧旧)	担当者名	森 永 京 一
-----	-----------------------------	------	---------

講義の目標	英語資料活用能力強化を図るとともに、時事問題、国際問題への理解をさらに向上させるのが目的。ホットなテーマを選ぶことで学生諸君の関心を一層高めたいので、以下の順序には必ずしも準拠しません。	
講義概要	講義の時点での最新のニュースや問題を積極的に採り上げていきたいと考えています。テキストのほか、最新の教材を使い、できる限り受講学生諸君の要望やニーズに合わせた形で進行させたいと考えています。	
使用教材	テキスト	浅野雅巳ほか <i>WORLD EVENTS '95</i> 金星堂刊
	参考文献	
評価方法	レポート	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	政治記事の翻訳演習
3	経済記事の翻訳演習
4	金融記事の翻訳演習
5	国際関係の翻訳演習
6	社会記事の翻訳演習
7	スポーツ記事の翻訳演習
8	コラムを読む
9	コラムを読む (続)
10	海外の日本関係記事を読む
11	海外の日本関係記事を読む (続)
12	英語資料と国内資料の比較
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	英文記事の書き方
2	英文記事の書き方 (続)
3	英字時事週刊誌について
4	「タイム」を読む
5	「タイム」を読む (続)
6	「ビジネスウィーク」を読む
7	米英の新聞を読む
8	米英の新聞を読む (続)
9	英字広告のついて
10	テレビ報道特集番組
11	テレビ報道特集番組 (続)
12	まとめ
備考	

科目名	英語音声学 (旧) 英語音声学 (旧旧)	担当者名	大西雅行
-----	-------------------------	------	------

講義の目標	英語の音声構造と音声の諸変化を講義し、英語音声の実相を教授する。	
講義概要	<p>音声の知識を有することは発音する場合、聞く場合に大いに役立つ。しかし、音声は音波で瞬時に姿を消してしまう。それを保持するために発音記号が考案され、微妙な音特徴を表記するがそれにも限界がある。あるいは、音声を理論的に理解するには読書という方法もあるが、慣れないと音の再生は容易ではない。音声は生身からの生成で、生身からの直接指導が一番分かりやすく、正確である。授業は平易で、丁寧な説明を進めるが、同時に履修者は遅刻せず出席することを希望する。英語の音声と日本語の音声との違い、英語音と米語音の相違、音の生成、音の構造、音の変化などの規則性を解説し、実際音の習得に努める。</p>	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	
評価方法	前期、後期の期末テストによる。	
受講者に対する要望など	欠席しないこと。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	音声学概説、英語の標準語と標準音、イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリアの英語
2	発音器官とその機能
3	音声構造の基本、音の表記法
4	母音の分類と表記
5	英語の単母音-①
6	英語の単母音-②
7	英語の二重母音
8	子音の分類
9	英語の子音-①
10	英語の子音-②
11	英語の子音-③
12	英語の子音-④
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	音質変化 同化-① /
2	同化-②
3	音の置換
4	音の省略
5	音の添加、音の転置
6	弱化
7	音量変化
8	アクセント①
9	アクセント②
10	リズム
11	イントネーション①
12	イントネーション②
備考	

科目名	英語学特殊講義 (旧) 英語学特殊講義 (統語論) 1 (旧旧)	担当者名	井川 美代子
-----	-------------------------------------	------	--------

講義の目標	<p>移動現象を中心に日英語の統語構造の比較を生成文法の枠組の中で考察していく。英語の主な統語現象に関する最近の標準的分析を学ぶとともに日英語の表面上の違いを一般原理から導き出している主な論文を理解することを目標とする。</p>		
講義概要	<p>先づ Freiden (1992) で英語その他の言語の事実を説明する上で必要な原理及びパラメーターを概観する。その後受動文・話題化・かきまぜ規則・疑問文などに関する日英語比較統語論の論文を詳しく読んでいく。講義形式であるが、受講者には自分の母国語に対する直観を使って積極的にディスカッションに参加してもらいたい。</p>		
使用教材	テキスト	年間講義予定を参照のこと	
	参考文献		
評価方法	<p>Freidin (1992) 以外の論文の中から1つを選び、その内容をまとめ批判を加えレポートとして年度末に提出してもらおう。授業中のディスカッションへの参加度も評価の対象とする。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義概要の説明
2	Freidin (1992) <u>Foundations of Generative Syntax</u> (MIT Press) Chapter 1: The Study of Syntax 統語論研究とは何か
3	Freidin (1992) <u>Foundations of Generative Syntax</u> (MIT Press) Chapter 2: Introduction to Formal Grammar 句構造規則について
4	Freidin (1992) <u>Foundations of Generative Syntax</u> (MIT Press) Chapter 2: Introduction to Formal Grammar 語彙挿入について
5	Freidin (1992) <u>Foundations of Generative Syntax</u> (MIT Press) Chapter 2: Introduction to Formal Grammar X-バー理論について
6	Freidin (1992) <u>Foundations of Generative Syntax</u> (MIT Press) Chapter 2: Introduction to Formal Grammar X-バー理論について
7	Freidin (1992) <u>Foundations of Generative Syntax</u> (MIT Press) Chapter 2: Introduction to Formal Grammar 格付与について
8	Freidin (1992) <u>Foundations of Generative Syntax</u> (MIT Press) Chapter 2: Introduction to Formal Grammar 格付与について (続き)
9	日英語の受動文に対する標準的分析について (特にプリントはなし)
10	Kuroda (1992) "On Japanese Passives" <u>Japanese Syntax and Semantics</u> (Kluwer) pp.183-221
11	Kuroda (1992) (続き)
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Freidin (1992) <u>Foundations of Generative Syntax</u> Chapter 3: Recursion, Movement and Bounding Wh-句移動一般について
2	Freidin (1992) <u>Foundations of Generative Syntax</u> Chapter 3: Recursion, Movement and Bounding Wh-句移動が許される統語的環境について
3	Freidin (1992) <u>Foundations of Generative Syntax</u> Chapter 3: Recursion, Movement and Bounding Wh-句移動に関する言語間の違いについて
4	Freidin (1992) <u>Foundations of Generative Syntax</u> Chapter 3: Recursion, Movement and Bounding 下接条件 (Subjacency) について
5	Freidin (1992) <u>Foundations of Generative Syntax</u> Chapter 3: Recursion, Movement and Bounding 空範疇原理 (The Empty Category Principle) について
6	Saito (1987) "Three notes on syntactic movement in Japanese." T. Imai and M. Saito (eds.) <u>Issues in Japanese Linguistics</u> (Foris) pp 301-350
7	Saito (1987) (続き)
8	Nishigauchi (1990) <u>Quantification in the Theory of Grammar</u> Chapters I and II (Kluwer)
9	Nishigauchi (1990) (続き)
10	Fukui (1988) "Deriving the differences between English and Japanese: a case study in parametric syntax" <u>English Linguistics</u> 5, 249-270
11	Fukui (1988) (続き)
12	まとめ
備考	

科目名	英語圏文学特殊講義 (旧) 英米文学特殊講義 (イギリスの詩論) 1 (旧旧)	担当者名	園部明彦
-----	--	------	------

講義の目標	言葉の問題を、今世紀の代表的詩人、イエイツとエリオットの作品を通して考えて見ることにする。		
講義概要	前期は、イマジズムの詩運動を生み、エリオットをはじめ現代文学に多大な影響を及ぼした T. E. Hulme の <i>Speculations</i> (1924) を読み、言葉に関するさまざまな問題点を考察する。後期は、イエイツとエリオットの後期の作品から、この問題をさらに具体的にとりあげていく。		
使用教材	テキスト	T. E. Hulme : <i>Speculations</i> , T. S. Eliot : <i>Four Quartets</i> , W. B. Yeats : <i>The Tower</i> , 他。	
	参考文献		
評価方法	レポート、他。		
受講者に対する要望など	遅刻ほど講義に水をさすものはない。よい講義を期待するなら、最低限の決まりだけは守って欲しい。水準に満たないレポートは、再度書き替えを要求することになる。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	<i>Speculations</i> より <i>Bergson's Theory of Art</i> の1)、2)、3)について。〈芸術の自発性〉、〈美的直感〉とは。
2	同書 4)、5)、6)、7)について。〈しなやかな実在〉とは。
3	同書 8)、9)について。ショーペンハウアーの〈芸術による盲目意志からの解脱〉とは。
4	同書 10)、11)について。芸術家にとっての〈発見〉とは。
5	同書 12)、13)、14)について。ヒュームの言う〈counter〉とは。
6	同書 15)について。〈直覚の型〉とは。
7	同書 16)、17)、18)について。〈生硬な抽象〉とは。
8	同書 19)、20)、21)について。〈言葉を映像化する〉とは。
9	同書 22)、23)、24)について。〈イメージの創造〉とは。
10	同書 25)、26)、27)について。〈諸情緒の最小公分母〉とは。
11	同書 28)、29)について。〈実在との接触〉とは。
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	<i>Four Quartets</i> より <i>Burnt Norton</i> I, II.
2	<i>Burnt Norton</i> III, IV, V.
3	<i>Four Quartets</i> より <i>East Coker</i> I, II.
4	<i>East Coker</i> III, IV, V.
5	<i>Four Quartets</i> より <i>The Dry Salvages</i> I, II.
6	<i>The Dry Salvages</i> III, IV, V.
7	<i>Four Quartets</i> より <i>Little Gidding</i> , I, II.
8	<i>Little Gidding</i> III, IV, V.
9	W. B. Yeats の詩集 <i>The Tower</i> (1928) から。
10	詩集 <i>The Winding Stair and Other Poems</i> (1933) から。
11	詩集 <i>Last Poems</i> (1936-39) から。
12	まとめ
備考	

科目名	英米の地誌 (旧) 英米の地誌 (旧旧)	担当者名	山本正三
-----	-------------------------	------	------

講義の目標	近代文化発祥の地の一つとして、栄光と伝統を誇るイギリス、広大な国土と豊かな資源に恵まれ、急速な発展をとげたアメリカ合衆国、この2国の自然環境、資源と産業、都市と村落、国内諸地域の地理的特性などを分析し、英米文化の基盤を考察する。そのため適宜プリントを用意し、理解の参考にしてもらうつもりである。		
講義概要	前期6週はイギリスの地理的特質および地方誌について講義する。その後、後期を通して、アメリカ合衆国について同様の講義を行う。		
使用教材	テキスト	・山鹿誠次『イギリスとアメリカ』大明堂	
	参考文献	・K. B. Stephenson『イギリス、その国土と人々』帝国書院 ・正井泰史『アメリカとカナダ、人と風土』二宮書店	
評価方法	前期はレポートを提出させる。課題と参考文献については、適宜指示する。後期は期末に主としてアメリカ合衆国について試験を行う。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イギリスの土地と人 自然的基礎—位置、面積 地形地質—産業と土地利用の基盤 気候の南北、東西の差異
2	住民と産業 人口移動とイギリスの形成、産業の発展、鉱工業、農牧業の地域的展開
3	イギリスの諸地域 スコットランド イングランド北部
4	イギリスの諸地域 イングランド中部および東部
5	イギリスの諸地域 イングランド南部とロンドン地域
6	イギリスの諸地域 ウェールズと北アイルランド
7	アメリカ合衆国の地理的特質 位置・面積—広大な国土 雄大な地形—地形とその特色 多様性に富む気候
8	住民 先住民 開拓の進展と移民
9	合衆国の農牧業 世界の食料倉庫 農業の地域的多様性
10	豊かな資源と巨大な工業生産 発達する交通網—巨大な空間の克服
11	アメリカ型都市文明の発達 都市問題
12	合衆国の地域区分
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	東部大西洋海岸—メガロポリスとニューイングランド
2	中央部の大農業地域—コーンベルト、 ^{グレートプレーンズ} 大平原の穀作・牧畜
3	五大湖地方の工業—合衆国工業地域の心臓部
4	南部諸州 綿作の発展、サンベルトの発展、石油と宇宙産業
5	フロリダ半島と西部山地
6	カリフォルニア(1) ゴールドラッシュとカリフォルニアの開発、日系人 灌漑農業の発展
7	カリフォルニア(2) 先端産業と伝統、ロサンゼルスとサンフランシスコ
8	太平洋岸北東部 森林資源の開発、灌漑と内陸砂漠の発展、シアトルとボーイング
9	アラスカとハワイ諸島 極北の新天地、南国の楽園
10	アメリカ合衆国の地域性と地域構造
11	アメリカ合衆国と日本との関連および対比
12	
備考	

科目名	英米の法律（旧） 英米の法律（旧旧）	担当者名	早坂禧子
-----	-----------------------	------	------

講義の目標	<p>英米法は、日本のような大陸法とは異なる点が多いうえ、英米法のなかでも現代では、イギリス法とアメリカ法とでは違っている。本講義では、まず、英米法の形成の歴史を通観することで英米法の背景についての基礎知識を得たうえで、とりわけアメリカ法に重点をおき、法源制度、制定法と裁判（訴訟手続と救済制度等）の仕組みを理解することを目標とする。このような知識を基にして、異なる法文化を比較検討し相互理解を深める力を培って欲しい。</p>		
講義概要	<p>現代では、英米法でも大陸法でも判例が注目されているが、英米では判例のもつ法的意味が日本とは基本的に異なるし、法律も、英米では日本のような体系化された法典はないといえるから、法律の探し方にも戸惑うことがある。さらに連邦制をとるアメリカ合衆国では、連邦制定法と州制定法が混在し、他州の判決を別の州ではどう扱うかという問題も抱える。また、陪審や証拠収集という英米に固有の制度もある。講義は、このような問題毎に章に分けて口述する形で進める。随時法律、判例に当たることになるが簡便な六法は存在しないので関係条文、判例の抜粋をその都度配布する。</p>		
使用教材	テキスト	特に指定しない。	
	参考文献	『BASIC 英米法辞典』田中英夫編（1993）東京大学出版会（合衆国憲法典は本書末尾掲載のものを使用する。また、英米法の法律用語については本書を用いて説明することがある）	
評価方法	学年末の定期試験の成績で評価する。前期試験は実施しない。追試もしない。		
受講者に対する要望など	法学入門程度の日本法の基礎知識があることが望ましい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の進め方について 参考書等の紹介 アメリカの判例の読み方
2	I 英米法概観
3	II イギリス法の形成 1 コモンローの形成と特色
4	2 エクイティの形成と特色
5	3 コモンローとエクイティの融合
6	4 近代法の形成
7	III アメリカ法の形成 1 イギリス法の継受
8	2 アメリカ合衆国憲法典の制定
9	3 Civil Rights Act (基本的人権法)
10	IV 法源 1 判例法主義の特色 2 判例の読み方——裁判規範の特定
11	V 違憲審査制 1 違憲審査制の確立
12	2 訴訟要件と違憲審査
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	VI アメリカ法の仕組み：制定法 1 連邦の立法権 2 州際通商規制権限
2	3 反トラスト法
3	4 州の立法権
4	5 連邦の専占と州制定法
5	6 連邦条約と連邦制定法と州制定法
6	VII アメリカ法の仕組み：裁判 1 連邦の裁判
7	2 州の裁判 jurisdiction—minimum contact—formu nonconvenience
8	3 州の裁判 full faith and credit
9	VIII アメリカ民事訴訟手続き 1 discovery 2 jury
10	K アメリカ刑事訴訟手続き
11	X 救済制度 1 損害賠償 2 差止め 3 違法宣言 4 制度改革訴訟
12	X アメリカの判例を読む
備考	

科目名	英語圏文化特殊講義（旧） 英米文化特殊講義（旧旧）	担当者名	福井嘉彦
-----	------------------------------	------	------

講義の目標	キリスト教との出会いによって形成された欧米文化の基本を理解する。	
講義概要	キリスト教以前のヨーロッパ文化の基本的様相から、キリスト教世界を形成した中世の文化的基本を考え、その文化が宗教改革を経験し、カトリック文化圏とプロテスタント文化圏を成し、特に英米ではピューリタニズムによる社会を形成して近代社会に入って行った様相に焦点を当てていく。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出席のあり方及び授業への積極的参加。レポート提出物の内容・及び筆記試験の結果等による。一定以上の欠席は不合格とする。	
受講者に対する要望など	必ず第一回目の授業に出席し、その際の注意事項にのっとり、その時要求されたレポートを提出しなければ履修者とは認められない。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	概要説明と注意等。レポート提出のテーマ。
2	異教の神々。
3	女性神と男性神。
4	女性神の原理と男性神の原理。
5	ヨーロッパのキリスト教化。
6	イングランドへのキリスト教の布教。
7	王権と教権。
8	教会改革。
9	イングランドの教会改革。
10	中世の異端・バルド派。
11	中世の異端・カタリ派。
12	中世期末の風景
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	千年王国 (I)
2	千年王国 (II)
3	教皇位について
4	十字軍の理念
5	教会批判
6	ルター主義
7	カルヴィニズムと労働倫理
8	ヘンリー八世のイングランド教会
9	エリザベス一世のヴァリア・メディア
10	ピューリタン達
11	ピューリタニズムについて
12	総集篇
備考	

科目名	国際関係論特殊講義 (旧) 国際関係論特殊講義 (日米関係論) 5 (旧旧)	担当者名	吉原 欽一
-----	---	------	-------

講義の目標	<p>1990年代の日米関係は95年を境に大きく変化する可能性がある。95年から96年にかけては国連50周年、核不拡散条約の再延長、日米地位協定の再改正、防衛大綱の見直し等、といった注目すべき政策案件がある。また96年には米国の90年代後半を担う次期大統領が決まる年でもある。そこで本稿では、日米の政策決定過程、とりわけ両国の議会の動向に注目しつつ、21世紀に向けての「あるべき」日米関係像を模索していきたい。</p>	
講義概要	<p>本稿では第一に、中間選挙後の政治状況の変化を検証する。その際両院において40年ぶりに過半数を制した共和党議会の動向に着目する。その上で米国の「保守回帰」現象がどういった意味を持つのか、そしてそれによって何が変わろうとしているのかを、特に政策決定レベルで考察する。次に55年体制から村山連立政権に至までの「政策決定方式」に焦点を絞り、今後「連立政権の時代」を迎えるであろう日本政治の中で、「政治」の意志がどのように決定されていくようになるのか、という点を研究する。さらに、日本の政策決定過程において米国の「外圧」が、連立政権という新しい政治状況の中でどのように変化していくのか、という点を中心にして日米関係の将来像を展望していきたい。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・有賀 貞『アメリカ政治史』福村出版 ・阿部 斎 編『アメリカの政治—内政のしくみと外交関係』
評価方法	<p>評価は、前期レポート及び後期試験によって決定する。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義開講にあたって。
2	戦後日米関係の概観—政治・経済。
3	戦後日米関係の概観—安全保障。
4	クリントン大統領はなぜ中間選挙で敗北したのか。(1)
5	クリントン大統領はなぜ中間選挙で敗北したのか。(2)
6	アメリカ大統領と議会。(1)
7	アメリカ大統領と議会。(2)
8	アメリカ大統領と議会。(3)
9	「55年体制」の崩壊と日本政治。
10	「55年体制」の崩壊とアメリカ。
11	日本の総選挙を展望する。
12	予備日
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	連合政権の検証(1)
2	連合政権の検証(2)
3	アジア・太平洋地域におけるアメリカの基本戦略と国益
4	アジア・太平洋地域における日本の基本戦略と国益
5	APEC 総会日本開催に向けて—日米の協力関係は—
6	「55年体制」下における「外圧」の検証
7	連合政権下における「外圧」の検証
8	日米同盟のあり方と日米協力。
9	「共和党議会」の一年を振り返って
10	次期大統領選挙を展望する。
11	講座閉講にあたって
12	予備日
備考	

科目名	ドイツ語Ⅲ (旧) ドイツ語Ⅲ (旧旧)	担当者名	山路朝彦
-----	-------------------------	------	------

講義の目標	1・2年の間に身につけた基礎力を、読む・聞く・書く・話すという4つの技能についてバランス良く伸して行きたい。前期で、独検ならば3級・後期に2級程度の実力がつくように指導できればと思う。		
講義概要	最初に下記のテキストを使い、短い文章（投書文・物語り・クイズ・ジョーク・記事・論文・アフォリズム・インタビューなど）を読み内容を素早く、大きくつかむ練習を行う。次に聞き取りや作文の練習を行なう。		
使用教材	テキスト	W. Schlecht, 三室次雄著：『ドイツ語テキスト11』（2） 三修社。その他はプリントで配布する。	
	参考文献		
評価方法	出席・前・後期試験。ただし学年度中に独検等の検定試験に合格すれば評価に加える。		
受講者に対する要望など			

科目名	フランス語Ⅲ-1 (旧) フランス語Ⅲ-1 (旧旧)	担当者名	鈴木 隆
-----	-------------------------------	------	------

講義の目標	フランス語文献の講読を通して、フランス語の修得に努めると同時に、フランスの文化や社会に関して学びかつ考える。		
講義概要	フランスの都市や住宅に関する文献を読む。学生は予め割あてられたところを予習し、授業中に発表する。その後、講義担当者が発表についてのコメントおよび補足説明等を行う。		
使用教材	テキスト	コピーして配布する	
	参考文献	特になし。希望があれば、随時、相談を受ける。	
評価方法	前、後期に試験を行い、それによって評価する。平常授業での発表の有無も考慮する。		
受講者に対する要望など			

科目名	フランス語Ⅲ-2 (旧) フランス語Ⅲ-2 (旧旧)	担当者名	山内宏之
-----	-------------------------------	------	------

講義の目標			
講義概要	講義の進め方、テキスト、参考文献、評価方法などの詳細は、四月開講時に説明する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法			
受講者に対する要望など			

科目名	スペイン語Ⅲ-1 (旧) スペイン語Ⅲ-1 (旧旧)	担当者名	假名垣 宏
-----	-------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語の基礎を学んだ学生を対象とする。叙事的な表現と軽妙な対話がうまく組み合わせられているので、これまで学んできたものの延長線上にある小説と言ってよい。従って、生きたスペイン語を修得し、ある程度速読できるようにしたい。</p>		
講義概要	<p>あらかじめ学生に割り当てておいて、教室で訳してもらおう。テキストにそって、できるだけくわしく文法的な解説を行っていききたい。1年で読み通せるほどの小冊子で、テキストは当方で準備する。</p>		
使用教材	テキスト	Dolores Soler-Espiauba 著 <i>Ladrón de Guante Negro</i>	
	参考文献		
評価方法	<p>前期、後期にそれぞれ定期試験を行う。テキストから2題、応用問題1題で、辞書持込みで実施する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>割り当てられた人は責任をもって義務を果たすこと。当たっていない人も、やはり予習を怠らず、できるだけ授業に参加してもらいたい。</p>		

科目名	スペイン語Ⅲ-2 (旧) スペイン語Ⅲ-2 (旧旧)	担当者名	清水 透
-----	-------------------------------	------	------

講義の目標	スペイン語Ⅰ、Ⅱで身につけた基礎的な知識を、文法体系に沿って整理しなおし、同時に、読解力の基礎を固める。	
講義概要	ラテンアメリカを舞台とする民話・童話を読解しつつ、文法体系の復習・整理をおこなう。	
使用教材	テキスト	講義初日にプリントを配布する。
	参考文献	
評価方法	日常点。 前・後期末テスト	
受講者に対する要望など	予習しないで出席しても意味がありません。 特に止むを得ない事情がない限り、再試等は実施しません。 時間的・単位修得上余裕のない4年生は、極力聴講を御遠慮下さい。	

科目名	ドイツ語会話 I-1 (旧) ドイツ語会話 I-1 (旧旧)	担当者名	M. 鮎 貝
-----	-----------------------------------	------	--------

講義の目標	LERNZIELE : Aktive alltagsprachliche Kommunikation. Dabei ist die Übung und Verbesserung der sprachlichen Ausdrucksfähigkeit ebenso wichtig wie der zu behandelnde Inhalt dieser sprachlichen Übungen.		
講義概要	Zunächst in einfachen Satzmustern, dann in entsprechend erweiterten Satzgefügen, damit die Natürlichkeit der Sprache erhalten bleibt, behandeln wir das Hauptthema BERLIN UND TOKIO, im Zusammenhang mit dem in diesem Jahr unterzeichneten Vertrag der freundschaftlichen Beziehungen zwischen den zwei Metropolen.		
使用教材	テキスト	BERLIN UND TOKIO. ZWEI METROPOLEN von Gudrun Wassidlo, Hans-Günther Krauth, Yuji Nakajima im ASAHI VERLAG	
	参考文献	im ASAHI VERLAG	
評価方法	In mehreren kurzen Zwischentests wird überprüft, ob die gegebenen Informationen, der neue Wortschatz, die neuen Satzmuster ausreichend verstanden wurden. Dieses Verfahren ist zugleich Grundlage der Beurteilung am Ende des Jahres.		
受講者に対する要望など			

科目名	ドイツ語会話 I-2 (旧) ドイツ語会話 I-2 (旧旧)	担当者名	K. O. Beißwenger
-----	-----------------------------------	------	------------------

講義の目標	Die wichtigsten Sprachstrukturen für eine einfache Kommunikation im täglichen Leben sollen erlernt werden.	
講義概要	Einfache Übungen zum Sprechverständnis, Hör- und Leseverständnis bilden den Schwerpunkt des Unterrichts. Auf Grammatikübungen kann in dieser Lernphase nicht verzichtet werden.	
使用教材	テキスト	Themen neu I, Hueber-Verlag : München
	参考文献	
評価方法	Test am Ende der beiden Semester.	
受講者に対する要望など	Regelmäßige, aktive Teilnahme	

科目名	ドイツ語会話 I-3 (旧) ドイツ語会話 I-3 (旧旧)	担当者名	B. Ebert
-----	-----------------------------------	------	----------

講義の目標	<p>Das Ziel dieser Lehrveranstaltung ist, neben der Korrektur von Aussprache und Intonation, einfache Strukturen des Alltagsgesprächs im Deutschen zu üben.</p> <p>Die systematische Erweiterung des Wortschatzes ist ein weiteres wichtiges Lehrziel.</p>		
講義概要	<p>In Partner- und Gruppenarbeit sollen Gespräche und Dialoge geübt werden. Mit zum Lehrbuch gehörenden Kassetten wird auch das Hörverstehen systematisch trainiert.</p>		
使用教材	テキスト	<p>; <i>THEMEN NEU I</i>, ; <i>KURSRUCH</i>,</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>Neben der laufenden Bewertung der Mitarbeit findet am Semesterende ein schriftlicher Test statt.</p>		
受講者に対する要望など	<p>Regelmäßige Teilnahme sowie aktive Mitarbeit im Unterricht sind die Voraussetzungen für einen positiven Abschluß dieser Lehrveranstaltung.</p>		

科目名	ドイツ語会話Ⅰ-4 (旧) ドイツ語会話Ⅰ-4 (旧旧)	担当者名	C. Jobst
-----	---------------------------------	------	----------

講義の目標	一年間でドイツ語の基礎（発音，語彙，文法）を身につけることが目標になります。	
講義概要	<p>とにかく繰り返して発音の練習をすることから始めましょう。口語での練習を中心にし，文法等の説明は必要最小限にしたいと思います。そしていっしょにやさしく，かつスリリングなテキストを読んでいきましょう。テキストは第二次対戦末期に行方不明となったロシア＝プロシアの財宝『琥珀の部屋』をめぐるサスペンス物語ですので，興味をもって読み進むことができることでしょう。</p> <p>進度に関しては参加者のレベルを考慮して決めたいと思いますので「早すぎないだろうか……」などと心配する必要はありません。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	<p>教材：琥珀の部屋 著者：岡村三郎 / Joachim Weiland 発行所：朝日出版社</p>
評価方法	平常点及び年末試験	
受講者に対する要望など	耳からそして口からドイツ語を覚えたいと考えていらっしゃる方はどなたも大歓迎です。	

科目名	ドイツ語会話 I-5 (旧) ドイツ語会話 I-5 (旧旧)	担当者名	N.Meisemann
-----	-----------------------------------	------	-------------

講義の目標	Unterrichtsziel ist, die Sprech- und Diskussionsfähigkeit der Studentinnen und Studenten mit der Fremdsprache Deutsch zu fördern und zu vertiefen.		
講義概要	Themenschwerpunkte, wie Reisen, Lieblingslektüre, der Vergleich von Schul- und Erziehungssystemen, sowie anderen kulturellen Unterschieden usw., bilden den Ausgangspunkt für die systematische Erweiterung der lexikalischen und grammatischen Mittel, die es erlauben, erfolgreich zu diskutieren und zu einem Thema, pro oder contra, Stellung zu beziehen.		
使用教材	テキスト	Eigene Materialien, mit für Diskussionen besonders geeigneten Themenschwerpunkten, werden den Studentinnen und Studenten beim Unterrichtsbeginn in Form von Kopien zur Verfügung gestellt.	
	参考文献	Die regelmäßige Teilnahme am und im Unterricht, sowie die Hausaufgaben und die schriftliche Beantwortung von Verständnisfragen nach jedem Themenschwerpunkt, werden mit jeweils 25% bewertet.	
評価方法	Nur wer regelmäßig am und im Unterricht teilnimmt, sowie seine Hausaufgaben fristgerecht macht, wird den Kurs erfolgreich abschließen können. Anstelle der beiden Semesterendtests, sind nach jedem Themenschwerpunkt schriftlich Verständnisfragen zu beantworten.		
受講者に対する要望など			

科目名	ドイツ語会話 I-6 (旧) ドイツ語会話 I-6 (旧旧)	担当者名	H. J. Troll
-----	-----------------------------------	------	-------------

講義の目標	<ul style="list-style-type: none"> —Einfaches Deutsch im praktischen Ausdruck —Hören und Verstehen —Einfache Sprechübungen 	
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> —Am Anfang : Wiederholungen —Lehrbuch als Grundlage —Zusätzliches Material zu Sprechanlässen —Viele Übungen 	
使用教材	テキスト	Wie einfach ist doch Deutsch! (Fukuda / Troll) Daisan Shobo
	参考文献	
評価方法	Sommersemester- und Wintersemester-Test Aktive Unterrichtsteilnahme	
受講者に対する要望など	Regelmäßiges Kommen	

科目名	フランス語会話 I-1 (旧) フランス語会話 I-1 (旧旧)	担当者名	H. Derieppe
-----	-------------------------------------	------	-------------

講義の目標	L'objectif de mon cours sera de permettre aux étudiants de s'exprimer sans crainte dans des situations de communication diverses.		
講義概要	Le cours se déroulera en suivant la progression du Nouveau Sans Frontières 1 en mettant bien sûr l'accent sur les exercices oraux. Des exercices et documents complémentaires seront ajoutés en fonction des besoins.		
使用教材	テキスト	Le Nouveau Sans Frontières 1	
	参考文献		
評価方法	La notation se fera sur contrôle ou dossier à rendre, point à décider avec les étudiants en début d'année scolaire.		
受講者に対する要望など	Une participation <i>active</i> aux cours sera nécessaire à l'obtention de l'unité de valeur.		

科目名	フランス語会話 I-2 (旧) フランス語会話 I-2 (旧旧)	担当者名	J. F. Doppia
-----	-------------------------------------	------	--------------

講義の目標	<p>AVEC LES IMAGES, LE FOND DE VOCABULAIRE FRANÇAIS QUE L' ANGLAIS POSSÈDE, ESSAYER D'ACCÉLÉRER AU MAXIMUM L' ENTREE DANS LE FRANÇAIS (NOTAMMENT ORALE ET AUDITIVE).</p>		
講義概要	<p>LE TRAVAIL SE FAIT SUR MANUEL AVEC EVENTUELLEMENT DES FILMS OU DES TEXTES AUTOUR IL Y AURA EGALEMENT DES EXPLICATIONS LINGUISTIQUES COMPARATIVES PAR EXEMPLE LES DÉSINENCES VERBALES DES PASSÉS EN "U" —L' ANGLAIS "RECEIVED"—ET LA RÉSURGENCE A CERTAINS MOMENTS DE "CONTRACTION" DU MORPHÈME INDO-EUROPÉEN,</p>		
使用教材	テキスト	AVEC PLAISIR 2	
	参考文献		
評価方法	SOUS FORME DE 作文 A LA FIN DE CHAQUE SEMESTRE.		
受講者に対する要望など			

科目名	フランス語会話Ⅰ-3 (旧) フランス語会話Ⅰ-3 (旧旧)	担当者名	R. Floirac
-----	-----------------------------------	------	------------

講義の目標	<p>この本は、「フランス語が使えるようになりたい」「読んで理解するだけでなく、いろいろなことができるようになりたい」と思っている人のために作られています。つまり、フランス語でコミュニケーションをするための総合的な基礎能力を養おうとするものです。やさしいところから始めたい人のために使ってみたいと思います。読んでテーマの中から会話の教材となるのを探し、学生に質問し、できるだけ学生と会話できるようにしたいと思います。</p>	
講義概要		
使用教材	テキスト	MARINA SALA, KOISHI SATORU : <i>J'AIME</i> VOL. 1, INSTITUT FRANCO-JAPONAIS TOKYO
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語会話 I-4 (旧) フランス語会話 I-4 (旧旧)	担当者名	S. Giunta
-----	-------------------------------------	------	-----------

講義の目標			
講義概要	フランスで役に立つ初級会話、オーディオ・ビジュアル (L.L.) を使用し、文章のリピートや必要な言い回しを覚え、基礎会話を身につけます。		
使用教材	テキスト	高橋秀雄他『ク・ドゥ・クール』第三書房	
	参考文献		
評価方法			
受講者に対する要望など			

科 目 名	フランス語会話 I-5 (旧) フランス語会話 I-5 (旧旧)	担当者名	Ch. Pelissero
-------	-------------------------------------	------	---------------

講 義 の 目 標	<p>NOUS ETUDIERONS DANS CE COURS LES SITUATIONS DE COMMUNICATION DE BASE TELLES QUE : INVITER, DONNER SON AVIS, ETC</p> <p>CHAQUE SITUATION SERA VUE À TRAVERS UN PROBLÈME GRAMMATICAL (TEMPS, VERBE, DETERMINANTS, ETC...).</p>		
講 義 概 要	<p>NOUS PRENDRONS COMME POINT DE DÉPART DES ENREGISTREMENTS AUDIO ET VIDÉO MAIS AUSSI DES TEXTES. C'EST À PARTIR DE CEUX-CI QUE NOUS TRAVAILLERONS LA GRAMMAIRE ET LA COMMUNICATION.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	AUCUN LIVRE NE SERA UTILISÉ	
	参 考 文 献	<p>JE VOUS CONSEILLE DE CONSULTER OU D'ACHETER :</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>GUIDE PRATIQUE DE LA COMMUNICATION</i> (ED. DIDIER) • UNE GRAMMAIRE "JAPONAIS-FRANÇAIS" 	
評 価 方 法	<p>EXAMENS ORAUX EXCLUSIVEMENT (LES DATES NE SONT PAS FIXÉES).</p> <p>UN TRAVAIL PAR SEMAINE (EXERCICE) À FAIRE CHEZ VOUS.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科目名	スペイン語会話Ⅰ-1, 2 (旧) スペイン語会話Ⅰ-1, 2 (旧旧)	担当者名	霞 洋子 J. L. Velasco
-----	---	------	-----------------------

講義の目標	教養部の外国語科目西Ⅱの継続の授業である。スペイン語を学んでから三年目以上の学生を対象として、Modern Spanish を継続してテキストとして使いスペイン語会話力の一層の向上を目標にする授業である。新しい文法項目についても、会話を通して学ぶことになる。	
講義概要	Modern Spanish をテキストに、Unit 13以降、6課以上進みたいと思う。随時、既出事項の復習もおこなう。	
使用教材	テキスト	Modern Spanish (Harcourt Brace)
	参考文献	
評価方法	授業への積極的参加と、年二回のテスト。小テストをおこなうこともある。	
受講者に対する要望など	この授業の進度にあわせて、練習を中心におこなうLLの授業が用意されているので（スペイン語会話Ⅱ（L））、ぜひ同時履修をお願いしたい。	

科目名	スペイン語会話Ⅱ(L)(旧) スペイン語会話Ⅱ(L)(旧旧)	担当者名	霞 洋子
-----	-----------------------------------	------	------

講義の目標	<p>スペイン語会話Ⅰを補うLLの授業である。教養部の外国語科目西Ⅱの既修者を対象にして、スペイン語会話Ⅰの進度に合わせてより高度なスペイン語会話力（聞き取りと話す能力）を養うことを目的とする。</p>		
講義概要	<p>西Ⅱと同じテキスト、およびそれに準拠したテープ教材を用い、スペイン語会話Ⅰの進度にあわせて口頭練習をおこなう。文法についての解説などはスペイン語会話Ⅰで主におこない、この授業では練習を中心にする。また随時別のビデオ・スペインニュース等を通して生きたスペイン語の世界に触れ、聞き取りの練習に役立つ。進度については、スペイン語会話Ⅰのシラバスを参照のこと。</p>		
使用教材	テキスト	Modern Spanish (Harcourt Brace)	
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、授業への積極的参加、および年2回の定期試験によって評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>スペイン語会話Ⅰとの同時受講。または、スペイン語会話Ⅰの既修者であること。</p>		

科目名	ドイツ語会話Ⅱ (旧旧)	担当者名	R. Sandrock
-----	--------------	------	-------------

講義の目標	<p>1) MOKUHYO-PURPOSE HOERVERSTEHEN, SPRECHEN UND VARIIEREN VON DIALOGEN IN ALLTAGSSITUATIONEN IM DEUTSCHEN SPRACHRAUM. ERWERBEN VON DEUTSCHLANDKENNTNISSEN.</p>	
講義概要	<p>2) GAIYO-OUTLINE AKTUELLE THEMEN BESTIMMT NACH ABSPRACHE MIT STUDENTEN. LERNZIELE: INFORMATIONEN ERFRAGEN, AUSDRUECKEN DER EIGENEN MEINUNG, DISKUSSION.</p>	
使用教材	テキスト	<p>3 A) TEXT MATERIAL IN FORM VON KOPIEN, DIE DER LEHRER MITBRINGT.</p>
	参考文献	<p>3 B) REFERENCE MATERIAL ABHAENGIG VON DER THEMENWAHL.</p>
評価方法	<p>4) HYOKO HOHO-EVALUATION METHOD REGELMAESSIGE, AKTIVE TEILNAHME AM UNTERRICHT, ZWISCHENTESTS, REFERATE, SEMESTERABSCHLUSSTESTS.</p>	
受講者に対する要望など	<p>5) JIGYO O TORU GAKUSEI-REQUEST TO STUDENTS INTENSIVE MITARBEIT WIRD ERWARTET.</p>	

科目名	フランス話会話Ⅱ (旧)	担当者名	Ch. Kessler
-----	--------------	------	-------------

講義の目標	DONNER AUX ETUDIANTS LES ÉLÉMENTS DE BASE (NOTAMMENT EN CE QUI CONCERNE LE VOCABULAIRE ET LA SYNTAXE) QUI LEUR PERMETTRONT DE PROGRESSER A PARTIR DE BASES SOLIDES.	
講義概要	LE NOUVEAU SANS FRONTIÈRES I SERA LE MANUEL DE BASE. A PARTIR DES TEXTES, LES ETUDIANTS ELARGIRONT LEUR CONNAISSANCE DU VOCABULAIRE FONDAMENTAL, CE QUI LEUR PERMETTRA DE RECRÉER DES SITUATIONS SUR LE MODÈLE PROPOSÉ ET DE S'EXPRIMER A LEUR TOUR.	
使用教材	テキスト	LE NOUVEAU SANS FRONTIÈRES I.
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など	NOUS SOUHAITONS TRAVAILLER AVEC UN GROUPE D'ÉTUDIANTS SÉRIEUX ET DYNAMIQUES.	

科目名	スペイン語Ⅳ (旧Ⅲ)	担当者名	清水 透
-----	-------------	------	------

講義の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語専攻課程の3年次程度の語学力を身につけること。 ・スペイン語の世界の価値観に接すること。 ・翻訳技術の向上をはかる。 	
講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・長文のテキストの精読。 ・ラテンアメリカ文化にかかわる文献を使用。 ・毎回、分担を決め、担当者は全訳を準備し、全員で検討する。 	
使用教材	テキスト	講義初日にテキストを配布する。
	参考文献	
評価方法	<p>日常点を重視。</p> <p>必要に応じて筆記試験を課すこともあり得る。</p>	
受講者に対する要望など		

科目名	スペイン語会話Ⅱ(会)(旧旧)	担当者名	霞 洋子
-----	-----------------	------	------

講義の目標	<p>スペイン語会話Ⅰの継続の授業である。スペイン語最終年次にふさわしい、より高度な表現法の習得を目指すことに加え、作文力の向上についても重視したい。</p>	
講義概要	<p>Modern Spanish を教科書にし、スペイン語会話Ⅰの継続として19課以降について授業をおこなう。しかし、スペイン語の最終年次にあたるので、改めて基本文型を含めた全体の復習も随時おこなう。また、スペイン語の日常会話には不可欠な接続法の用法についても、練習をおこなう。</p>	
使用教材	テキスト	Modern Spanish (Harcourt Brace)
	参考文献	
評価方法	<p>授業への積極的参加と年2回のテストなどにより評価する。</p>	
受講者に対する要望など		